

大田区子どもの生活実態に関するアンケート調査報告書

令和3年3月

大田区福祉部福祉管理課

目 次

調査の背景と調査設計	1
(1) 調査の背景	3
(2) 調査の目的	3
(3) 調査設計	3
(4) 報告書の構成	4
第1部 子どもの生活実態調査	5
1. 調査の概要	7
(1) 実施状況	7
(2) 回収状況	7
(3) 集計結果の表示方法	8
(4) 生活困難層の定義	9
2. 調査結果（保護者票）	10
(1) 回答者の属性・世帯のこと	10
(2) 就業のこと	14
(3) 子どもの成長・教育のこと	20
(4) 健康・医療に関すること	23
(5) 子育ての費用・家計の状況に関すること	32
(6) 子どもとの関わりに関すること	39
(7) 生活の様子に関すること	53
(8) 過去の経験に関すること	81
(9) 公的支援の利用に関すること	86
3. 調査結果（子ども票）	125
(1) 属性・家庭環境に関すること	125
(2) 友だちとの関係に関すること	136
(3) 放課後の過ごし方など普段の生活のこと	140
(4) 食事や健康に関すること	173
(5) 学校のことや勉強のこと	179
(6) 将来の夢に関すること	196
(7) 普段考えていること	198
(8) 自由記述について	223

第2部	ひとり親家庭の生活実態に関する調査	229
1.	調査の概要	231
(1)	実施状況	231
(2)	回収状況	231
(3)	集計結果の表示方法	231
2.	調査結果	232
(1)	回答者の属性・世帯に関すること	232
(2)	子ども・子育てのこと	238
(3)	就業に関すること	243
(4)	健康に関すること	247
(5)	資格に関すること	250
(6)	子どものこと	253
(7)	悩み事・相談相手等に関すること	262
(8)	家庭の経済状況に関すること	268
(9)	保護者の過去の経験等に関すること	279
(10)	各種支援制度に関すること	283
第3部	おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査	293
1.	調査の概要	295
(1)	実施状況	295
(2)	回収状況	295
(3)	集計結果の表示方法	295
2.	調査結果	296
(1)	おおた 子どもの生活応援プランに関すること	296
(2)	団体情報	299
(3)	活動・取組のテーマ・領域	301
(4)	子どもの生活応援に関連する活動個票	303
(5)	子どもの生活応援などに関する活動状況	312
(6)	子どもの生活応援に関する検討状況	314
(7)	自由記述について	315

参考資料	319
1. 調査票	321
(1) 子どもの生活実態調査（保護者票）	323
(2) 子どもの生活実態調査（子ども票）	339
(3) ひとり親家庭の生活実態に関する調査	351
(4) おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査	367
2. 集計表	379
(1) 子どもの生活実態調査（保護者票）	381
(2) 子どもの生活実態調査（子ども票）	410
(3) ひとり親家庭の生活実態に関する調査	431
(4) おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査	458
3. おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査個票	467

調査の背景と調査設計

調査の背景と調査設計

(1)調査の背景

国の「2019年国民生活基礎調査」によると、子どもの貧困率は13.5%（2018年の所得）となっており、日本全国の子どもの約7人に1人が貧困状態にあると推計されている。国では、「いわゆる貧困の連鎖によって、子供たちの将来が閉ざされることは決してあってはならないとの決意」の下、平成25年6月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」（平成25年法律第64号）が成立し、平成26年8月に「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定された。

さらに、令和元年6月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」（令和元年法律第41号）が成立した。改正後の法律では、目的として、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、子どもの「将来」だけでなく「現在」の生活等に向けても子どもの貧困対策を総合的に推進することが明記されるとともに、基本理念として、子どもの最善の利益が優先考慮されること、貧困の背景に様々な社会的要因があること等が明記された。また、市区町村が子どもの貧困対策についての計画を定めるよう努める旨が規定された。これを受け、子どもの貧困対策を総合的に推進するために、令和元年11月に新たな「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定された。

大田区においては、子どもの貧困に関するこれらの状況を受け止め、平成29年3月に「おおた 子どもの生活応援プラン（大田区子どもの貧困対策に関する計画）」を策定し、「経験・学力」「生活・健康」「居場所・包摂」の3つの柱に基づく様々な取組を推進してきた。

(2)調査の目的

「おおた 子どもの生活応援プラン（大田区子どもの貧困対策に関する計画）」は、令和4年3月に計画期間が終了することから、次期の計画策定に向けた基礎資料として、区の子どもの貧困対策に関する現状を把握するための実態調査・分析をすることが本調査の第一の目的である。

なお、調査を実施した令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大という社会的背景があり、「子どもの貧困」の状況や、子ども本人およびその養育環境に対して大きな影響を及ぼしていることが想定されたことから、区における新型コロナウイルス感染症拡大による子どもへの影響を即時的に把握することを第二の目的として、関連する質問項目を設定した。

(3)調査設計

本調査では、以下の①～③に示す3種類の調査を、令和2年9月から10月にかけて実施した。なお、本調査の実施は、株式会社浜銀総合研究所に委託し、阿部彩氏（東京都立大学教授兼子ども・若者貧困研究センター長）の監修のもと実施した。

① 子どもの生活実態調査

「子どもの生活実態調査」は、平成28年度に実施した子どもの生活実態調査との経年比較が可能となるよう、大田区内の区立小学校（59校）に在籍する小学5年生の児童（子ども自身の自記式調査を行

うための最小年齢と考えられる小学校高学年のうち、他自治体と比較可能な学年)とその保護者を対象とした。

② ひとり親家庭の生活実態に関する調査

「ひとり親家庭の生活実態に関する調査」は、厚生労働省の国民生活基礎調査において、子どもがいる現役世帯のうち大人が1人の世帯について相対的貧困率が高いことを踏まえ、ひとり親家庭の子どもの状況をより詳細に把握するために実施した。調査の対象は、児童育成手当の受給世帯のうち無作為に抽出した2,000世帯とした。児童育成手当の受給世帯全体が対象であるため、0歳から18歳までの子どもが少なくとも一人いる世帯が対象であるが、それ以外の年齢の子どもがいる場合も含まれている。また、子どもの年齢が幅広いため、子どもの自記式とはせず、保護者による記入とした。

③ おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査

「おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査」は、「おおた 子どもの生活応援プラン」が子どもの貧困を地域共通の課題と捉え区民との連携を推進しているため、子どもの貧困対策の視点から区民活動に関する状況を把握することを目的とする。調査対象を、大田区区民活動情報サイト登録団体(自治会・町会を除く)、大田区社会福祉法人協議会参加法人とした。

(4)報告書の構成

本報告書は、第1部、第2部、第3部から構成されている。第1部では、子どもの生活実態調査について、保護者票・子ども票の調査票の設問順に報告する。第2部では、ひとり親家庭の生活実態に関する調査の集計結果を調査票設問順に報告する。第3部では、おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査の集計結果を報告する。

なお、報告書の末尾に参考資料として、各調査の調査票と、調査票全設問の単純集計表、子どもの生活実態調査の生活困難層・非生活困難層別のクロス集計表、おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査の活動個票を掲載した。

第1部 子どもの生活実態調査

第1部 子どもの生活実態調査

1. 調査の概要

(1)実施状況

アンケート調査は、令和2年4月1日現在で、区立小学校に在籍する小学5年生（特別支援学級含む）及びその保護者を対象にして以下のとおり実施した。

図表 1-1-1 子どもの生活実態調査（保護者票）の実施概要

項目	概要
実施時期	令和2年9月16日（水）～10月16日（金） ※調査期間後に回収した調査票についても、できる限り結果に反映した。
調査対象	区立小学校の小学5年生の保護者（児童1名につき1票 4,853人）
実施方法	学校を通じて配布及び回収
調査項目	家庭の経済状況、就労状況、生活状況、子育ての状況、公的支援の利用状況、新型コロナウイルスの流行による影響 など

図表 1-1-2 子どもの生活実態調査（子ども票）の実施概要

項目	概要
実施時期	令和2年9月16日（水）～10月16日（金） ※調査期間後に回収した調査票についても、できる限り結果に反映した。
調査対象	区立小学校の小学5年生（4,853人）
実施方法	学校を通じて配布及び回収
調査項目	学習の状況や放課後の過ごし方など生活の様子、健康状態、新型コロナウイルスの流行による影響 など

(2)回収状況

回収状況は以下のとおりである。

図表 1-1-3 子どもの生活実態調査 調査票の回収状況

	配布数	実回答数・回答率	有効回答数・回答率
子どもの生活実態調査(保護者票)	4,853件	4,203件 (86.6%)	4,095件 (84.4%)
子どもの生活実態調査(子ども票)	4,853件	4,197件 (86.5%)	4,176件 (86.0%)
(参考) 前回調査 保護者票	4,544件	3,466件 (76.3%)	3,325件 (73.2%)
子ども票	4,544件	3,464件 (76.2%)	3,447件 (75.9%)

(3)集計結果の表示方法

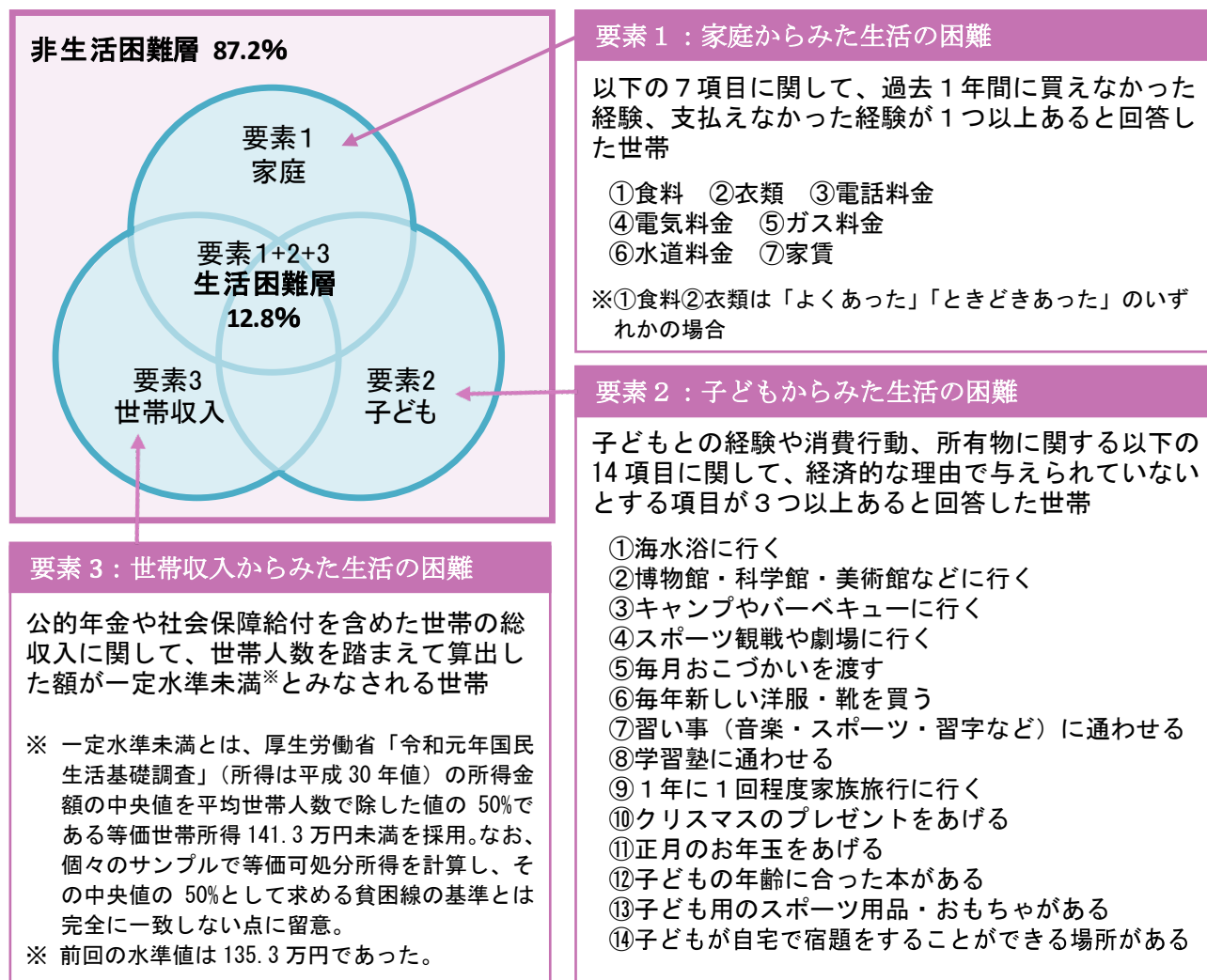
- 本報告書では、調査票の設問順に集計結果を掲載している。
- 文章中および図表内の「n=〇〇」はその設問についての有効回答数、「SA」は単一回答形式(Single Answer)、「MA」は複数回答形式(Multiple Answer)、「I」は数値記入形式を示している。
- 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。
- 単一回答の設問について、複数の選択肢の回答割合の合計に言及する場合は、小数点以下第2位を四捨五入した値を合計している。
- 生活困難層／非生活困難層を定義するための要素として使用した設問への回答数(3,269件)と、全体の有効回答数(保護者票4,095件、子ども票4,176件)は異なるため、図表中のn値は「生活困難層＋非生活困難層＝全体数」とはならない。
- 集計結果の掲載方法について、全体の回答比率(%)に関してはすべての設問において言及しているほか、生活困難層／非生活困難層の間の回答状況の分布の違いが1%水準で統計的に有意である(カイ2乗検定による検証)場合には、生活困難層／非生活困難層それぞれの回答比率(%)にも適宜言及し、有意でない場合にはすべて脚注にてその旨言及している。
- 平成28年度に実施した子どもの生活実態調査(以下、「前回調査」とする)で尋ねた設問項目のうち、今回実施した調査で同様の設問があるものについては、適宜前回調査の結果を引用し比較することがある。なお、比較するにあたっては、両者の間に統計的に有意な差があるかどうかをカイ2乗検定により検証している(有意水準1%)。
- 前回調査結果と比較をしている設問について、今回の調査結果のグラフにある「無回答」の項目は、前回調査結果のグラフにある「無効回答(無回答・重複回答)」の項目と同義であり、比較を可能にするため集計上のデータ処理方法は変えていない。

(4)生活困難層の定義

本報告書では、「家庭」「子ども」「世帯収入」の3つの要素から「生活困難」を定義している。この「生活困難」の定義は、前回調査と同一の基準を採用した。具体的には、保護者票の回答結果を基に、上述の3つの要素のうち、いずれか1つ以上に該当する場合を「生活困難層」、いずれの要素にも該当しない場合を「非生活困難層」と分類した。その結果、12.8%が「生活困難層」に該当した。

本報告書では、保護者票・子ども票の調査結果について、「全体」「生活困難層」「非生活困難層」の3つの分類ごとに示した。

図表 1-1-4 「生活困難層」の定義のイメージ図



2. 調査結果(保護者票)

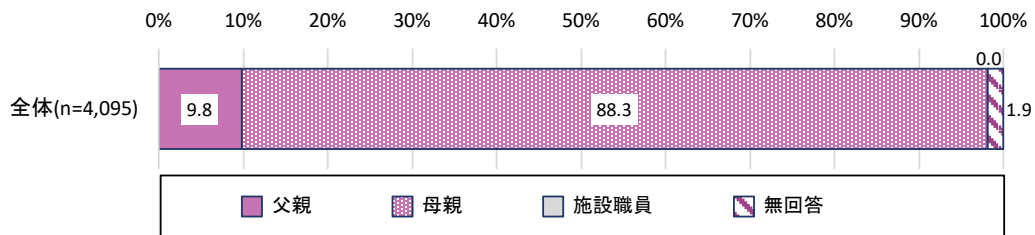
(1)回答者の属性・世帯のこと

①回答者の属性

子どもから見た回答者の立場は、「父親」が9.8%、「母親」が88.3%であった¹。

設問1 お子さんとあなた（回答者）との関係は、以下のどれになりますか。（SA）

図表 1-2-1-1 回答者の属性



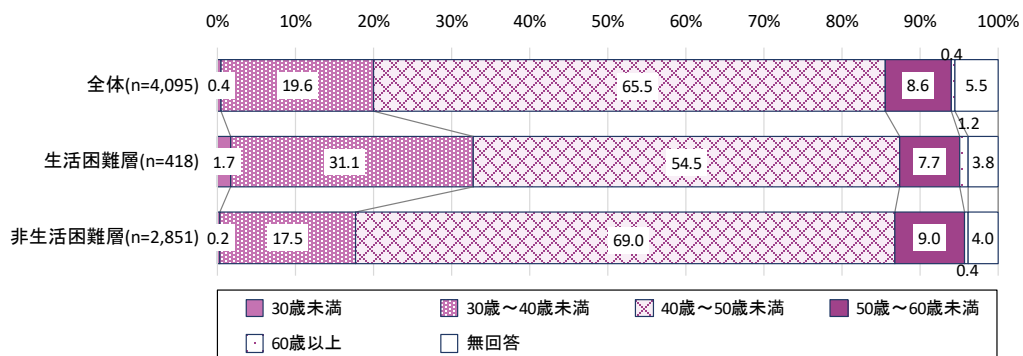
②回答者の年齢

回答者の年齢は、全体では「30歳～40歳未満」が19.6%、「40歳～50歳未満」が65.5%であった。特に「30歳～40歳未満」の回答割合についてみると、生活困難層では31.1%、非生活困難層では17.5%であった。

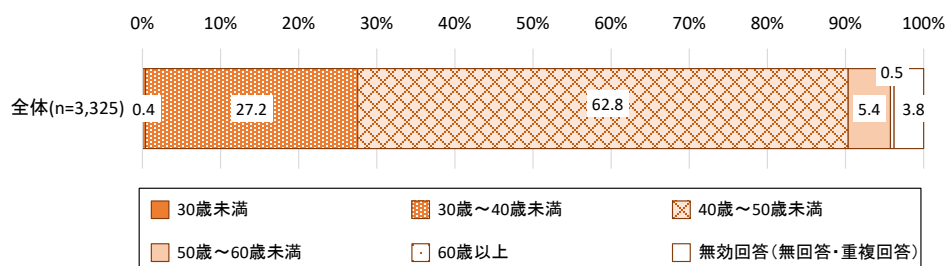
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「30歳～40歳未満」の回答割合が低くなっていた。

設問2 あなたの年齢を教えてください。（I）

図表 1-2-1-2 回答者の年齢



(参考) 前回調査結果



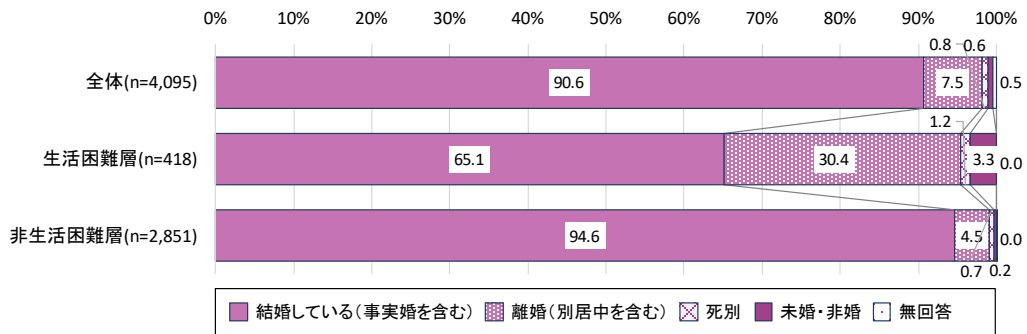
¹ 「祖父」「祖母」「兄弟姉妹」「その他」という選択肢も設けていたが、回答者が0人であったため省略した。

③回答者の婚姻状況

回答者の婚姻状況を尋ねた設問に対して、「離婚（別居中を含む）」「死別」「未婚・非婚」と回答した割合を合わせると、全体では8.9%、生活困難層では34.9%、非生活困難層では5.4%であった。特に「離婚（別居中を含む）」と回答した割合は、生活困難層では30.4%、非生活困難層では4.5%であった。

設問3 現在の婚姻状況を教えてください。(SA)

図表 1-2-1-3 婚姻状況

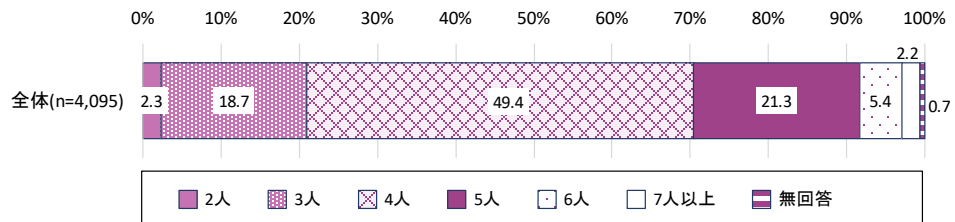


④同居家族の人数

同居家族の人数²は、「2人」が2.3%、「3人」が18.7%、「4人」が49.4%、「5人」が21.3%、「6人」が5.4%、「7人以上」が2.2%であった。

設問4 お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください。あなたとお子さんも含まれます。(I)

図表 1-2-1-4 同居家族の人数



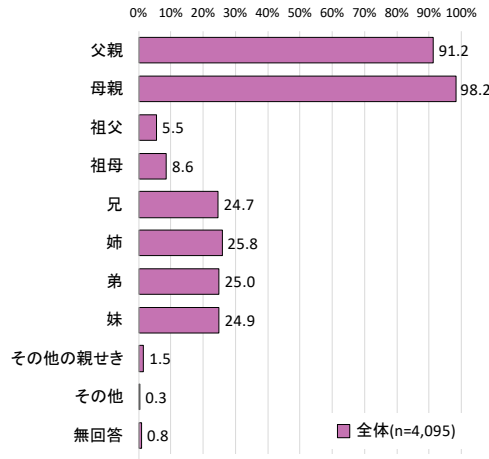
² 単身赴任をしている家族も含んだ人数を回答いただいた。

⑤同居家族の構成

同居家族の構成を尋ねた設問³に対して、「父親」は91.2%、「母親」は98.2%、「祖父」は5.5%、「祖母」は8.6%であった。

設問 5 お子さんと同居しているご家族の方は、どなたですか。(MA)

図表 1-2-1-5 同居家族の構成



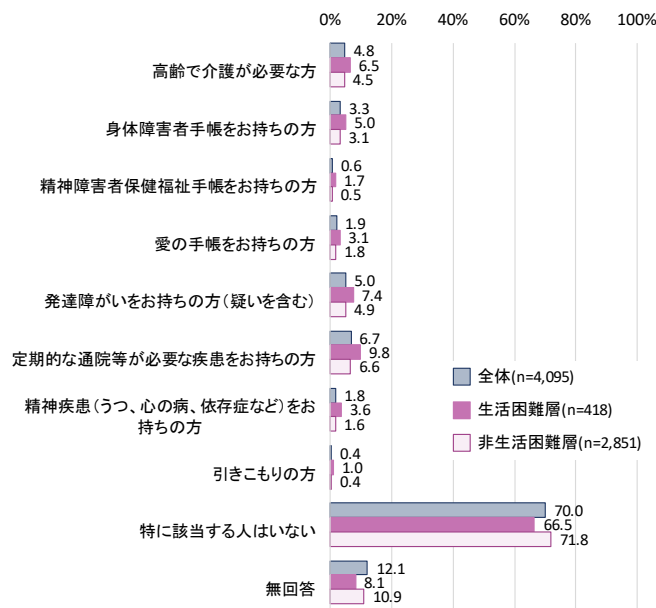
⑥要介護者等の有無

家族の中に要介護者等がいるかを尋ねた設問に対して、全体では「定期的な通院等が必要な疾患をお持ちの方」の回答割合が6.7%、「発達障がいをお持ちの方(疑いを含む)」が5.0%、「高齢で介護が必要な方」が4.8%であった。生活困難層別にみると、生活困難層の「特に該当する人はいない」の回答割合は非生活困難層と比べて低くなっていた。また、生活困難層では「精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方」と「精神疾患(うつ、心の病、依存症など)をお持ちの方」の回答割合は非生活困難層と比べて高くなっていた⁴。

設問 6 あなたのご家族の中に、あなたが主に世話をしている人で、以下のような方はいますか。

同居していないご家族についても含めてお考えください。(MA)

図表 1-2-1-6 要介護者等の有無



³ 単身赴任をしている家族も含めて回答いただいた。

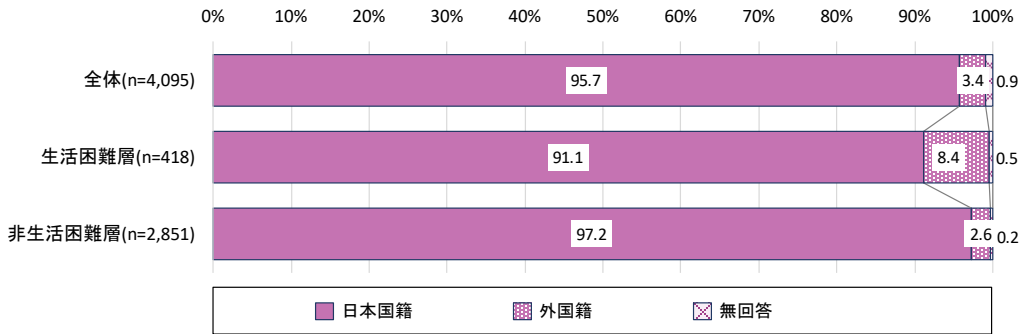
⁴ これら以外の回答には、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

⑦保護者の国籍

保護者の国籍を尋ねた設問に対して、母親の国籍が「外国籍」であるという回答は生活困難層で8.4%、非生活困難層で2.6%であった。父親の国籍が「外国籍」であるという回答は生活困難層で6.7%、非生活困難層で2.1%であった。

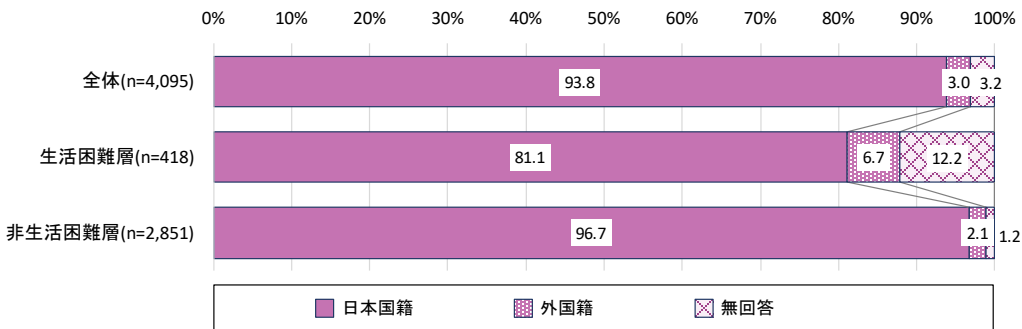
設問 7-①(新設) お子さんのお母さまの国籍について教えてください。(SA)

図表 1-2-1-7 母親の国籍



設問 7-②(新設) お子さんのお父さまの国籍について教えてください。(SA)

図表 1-2-1-8 父親の国籍

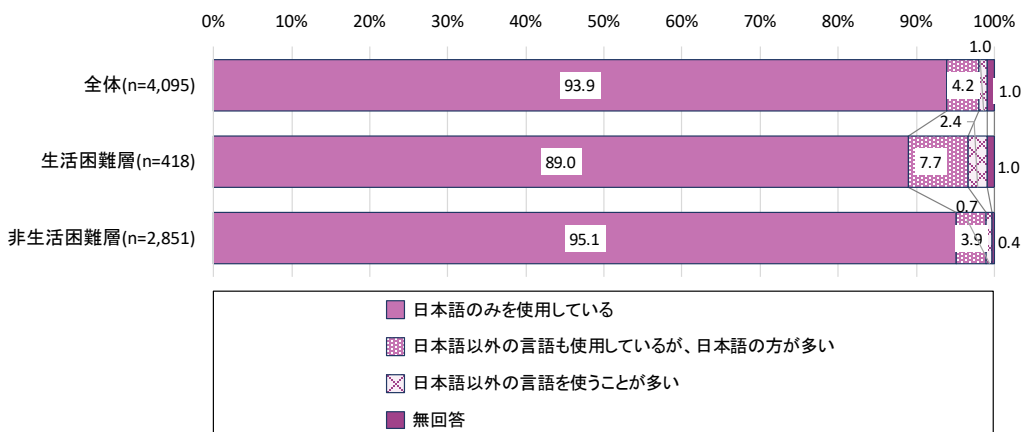


⑧家庭内の使用言語

家庭内の使用言語を尋ねた設問に対して、「日本語以外の言語を使用しているが、日本語の方が多い」と「日本語以外の言語を使うことが多い」という回答を合わせた割合は、全体では5.2%、生活困難層では10.1%、非生活困難層では4.6%であった。

設問 8(新設) あなたのご家庭ではふだんどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(SA)

図表 1-2-1-9 家庭内の使用言語



(2)就業のこと

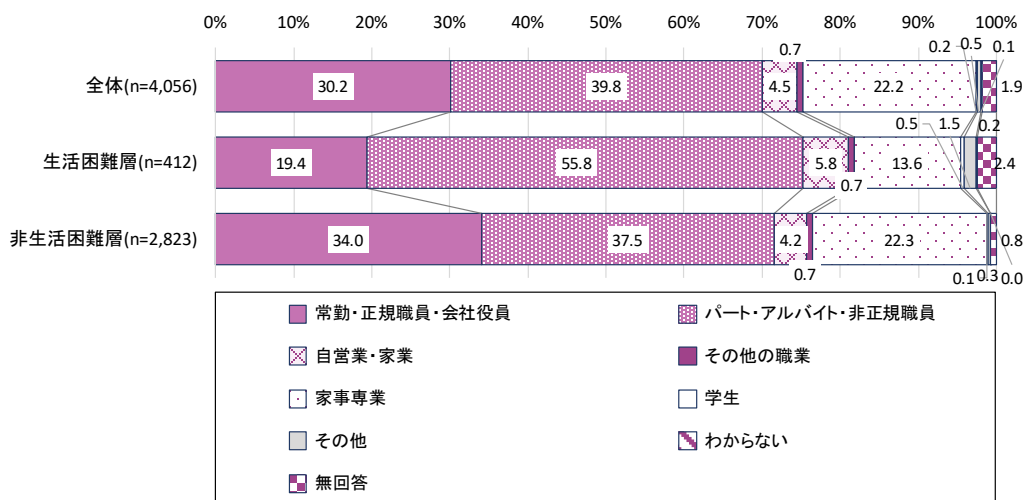
①母親の就業の有無・形態

新型コロナウイルス感染症拡大前（2020年2月頃）の母親の職業に関する設問に対して、「常勤・正規職員・会社役員」と回答した割合は、全体では30.2%、生活困難層では19.4%、非生活困難層では34.0%であった。また、「パート・アルバイト・非正規職員」と回答した割合は、全体では39.8%、生活困難層では55.8%、非生活困難層では37.5%であった。

母親の現在の職業に関する設問に対して、「常勤・正規職員・会社役員」と回答した割合は全体では30.4%、生活困難層で19.7%、非生活困難層で34.1%であった。また、「パート・アルバイト・非正規職員」と回答した割合は、全体では37.4%、生活困難層では52.7%、非生活困難層では35.2%であった。

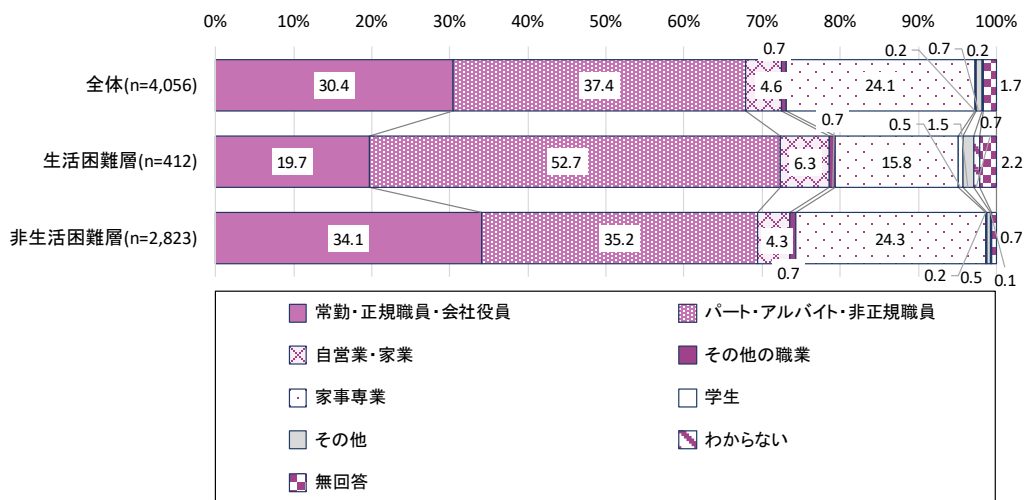
設問 9-①-(A) お子さんのお母さまの（A）新型コロナウイルス感染症拡大前（2020年2月頃）のご職業について、以下の選択肢から最も近いものをお選びください。（SA）

図表 1-2-2-1 新型コロナウイルス感染症拡大前の母親の職業



設問 9-①-(B) お子さんのお母さまの（B）現在のご職業について、以下の選択肢から最も近いものをお選びください。（SA）

図表 1-2-2-2 現在の母親の職業



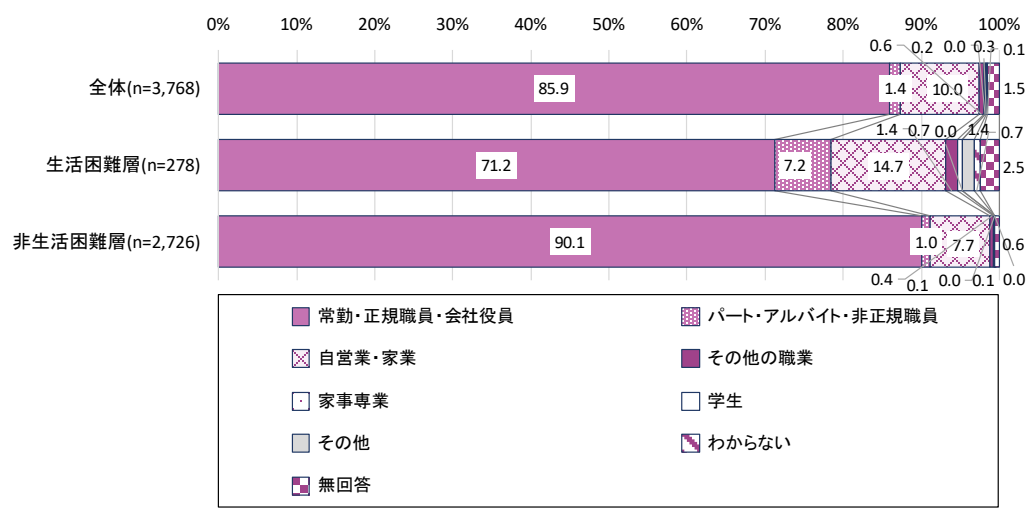
②父親の就業の有無・形態

新型コロナウイルス感染症拡大前（2020年2月頃）の父親の職業に関する設問に対して、「常勤・正規職員・会社役員」と回答した割合は、全体で85.9%、生活困難層で71.2%、非生活困難層で90.1%であった。また、「パート・アルバイト・非正規職員」と回答した割合は、全体では1.4%、生活困難層では7.2%、非生活困難層では1.0%であった。

父親の現在の職業に関する設問に対して、「常勤・正規職員・会社役員」と回答した割合は、全体で85.6%、生活困難層で72.3%、非生活困難層で89.5%であった。また、「パート・アルバイト・非正規職員」と回答した割合は、全体では1.6%、生活困難層では6.8%、非生活困難層では1.1%であった。

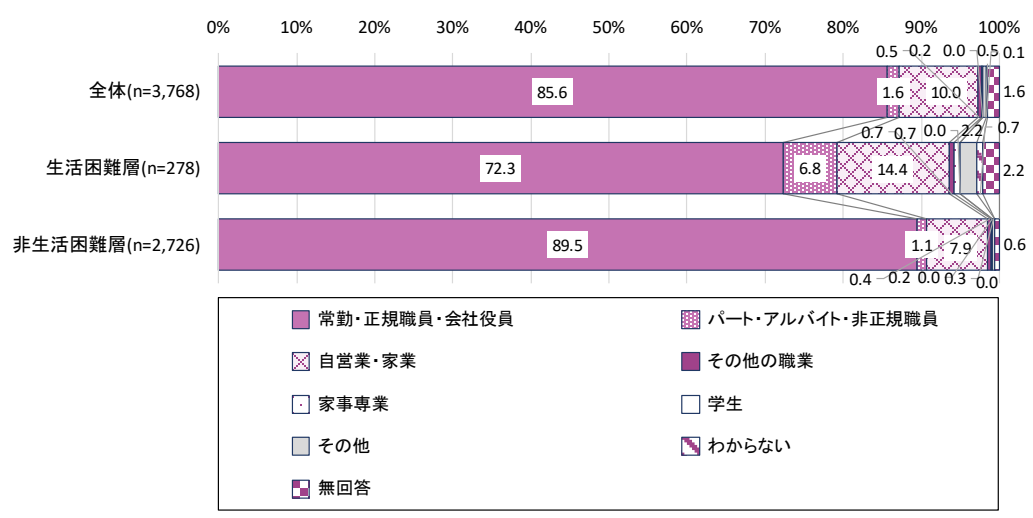
設問 9-②-(A) お子さんのお父さまの（A）新型コロナウイルス感染症拡大前（2020年2月頃）のご職業について、以下の選択肢から最も近いものをお選びください。（SA）

図表 1-2-2-3 新型コロナウイルス感染症拡大前の父親の職業



設問 9-②-(B) お子さんのお父さまの（B）現在のご職業について、以下の選択肢から最も近いものをお選びください。（SA）

図表 1-2-2-4 現在の父親の職業



③母親の平日の日中以外の勤務

母親が働いている場合に、平日の日中以外の勤務もあるかを尋ねた設問に対して、「平日の日中以外の勤務はない」の回答割合は、全体では54.0%、生活困難層では41.0%、非生活困難層では56.9%であった。また、生活困難層では「早朝勤務（5～8時）」「深夜勤務（22時～5時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」の回答割合が、非生活困難層よりも高くなっていた⁵。

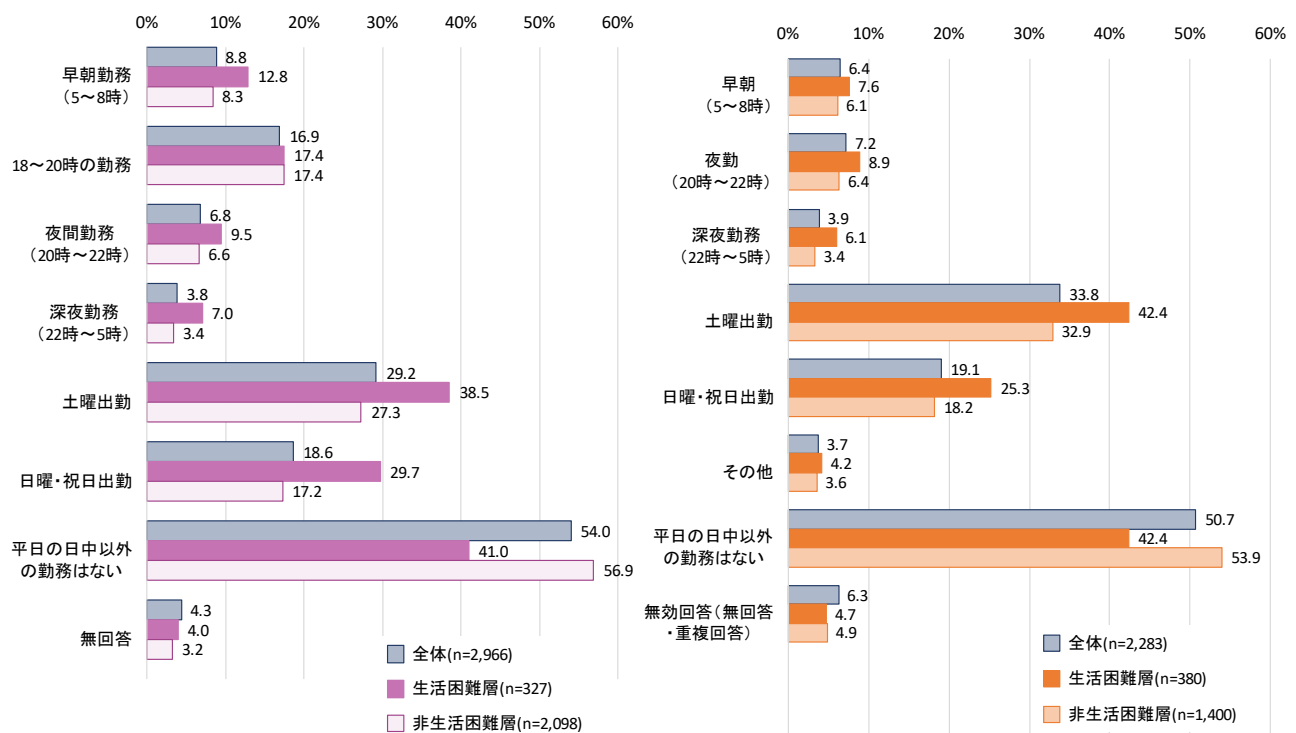
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「早朝勤務（5～8時）」「平日の日中以外の勤務はない」の回答割合が高く、「土曜出勤」の回答割合は低くなっていた。

設問 9-1-① お子さんのお母さまは、平日の日中以外の勤務もありますか。

通勤時間も含めてお考えください。（MA）

図表 1-2-2-5 母親の平日の日中以外の勤務の状況

（参考）前回調査結果



⁵ 「18～20時の勤務」「夜間勤務（20時～22時）」の回答には、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

④父親の平日の日中以外の勤務

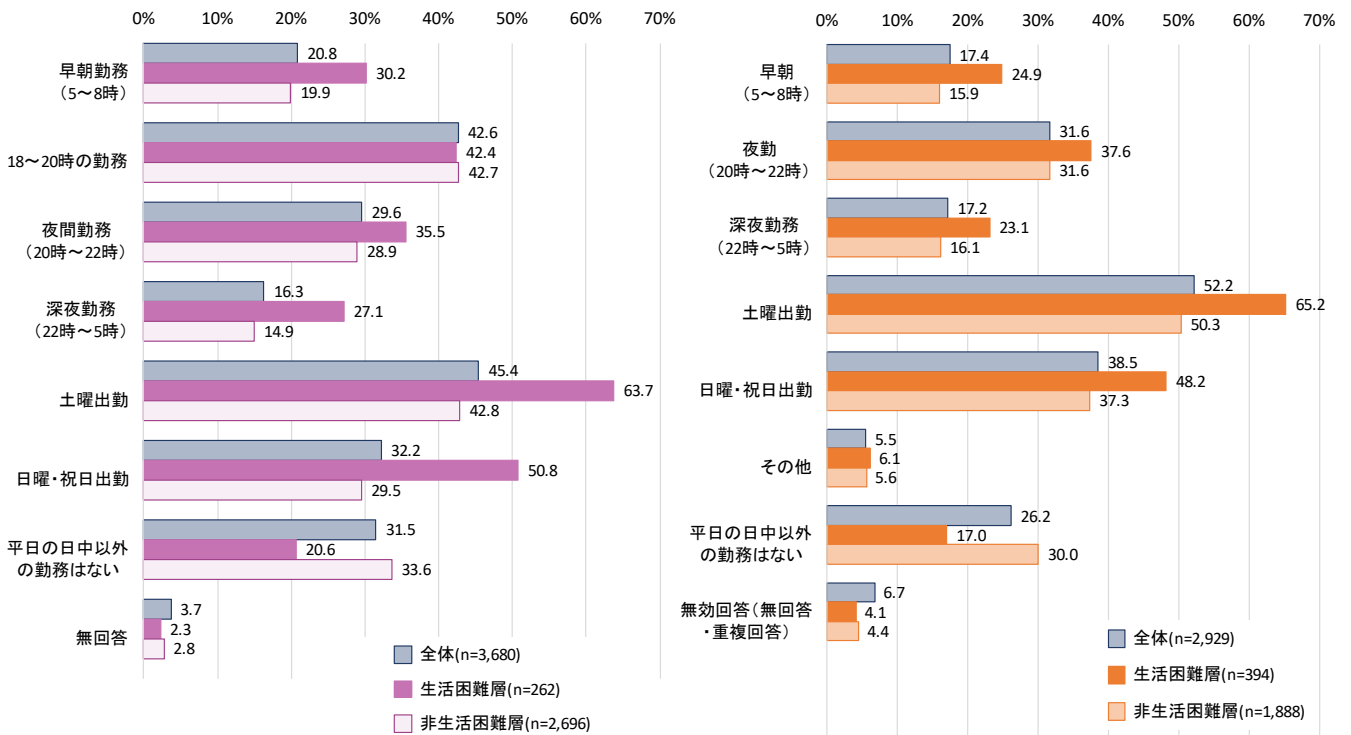
父親が働いている場合に、平日の日中以外の勤務もあるかを尋ねた設問に対して、「平日の日中以外の勤務はない」の回答割合は、全体では31.5%、生活困難層では20.6%、非生活困難層では33.6%であった。また、生活困難層では「早朝勤務（5～8時）」「深夜勤務（22時～5時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」の回答割合が、非生活困難層よりも高くなっていた⁶。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「早朝勤務（5～8時）」「平日・日中以外の勤務はない」の回答割合は高く、「夜間勤務（20時～22時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」の回答割合は低くなっていた。

設問 9-1-② お子さんのお父さまは、平日の日中以外の勤務もありますか。
通勤時間も含めてお考えください。（MA）

図表 1-2-2-6 父親の平日の日中以外の勤務の状況

（参考） 前回調査結果



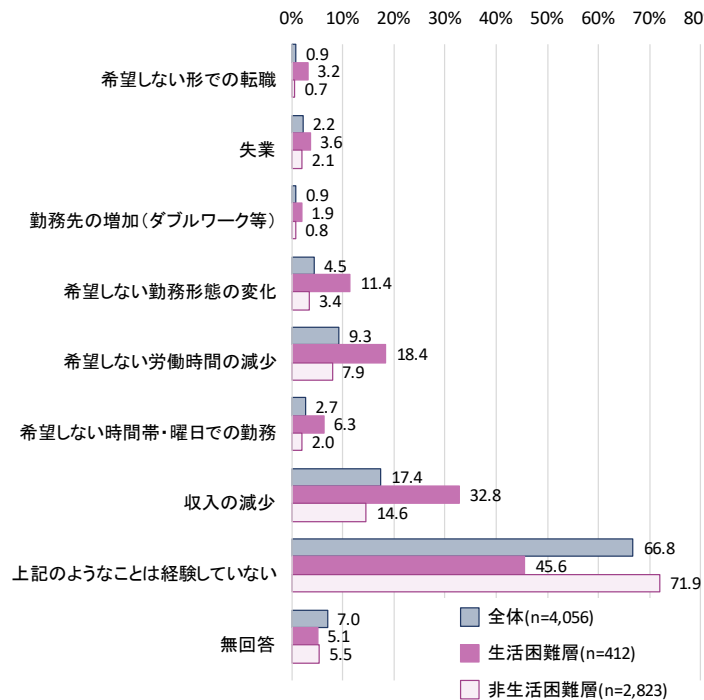
⁶ 「18～20時の勤務」「夜間勤務（20時～22時）」の回答には、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

⑤母親の就業への新型コロナウイルス感染症拡大の影響

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で母親が経験した就業への影響を尋ねた設問に対して、全体の回答割合では「収入の減少」が17.4%、「希望しない労働時間の減少」が9.3%であった。また、生活困難層では、「希望しない形での転職」の回答割合が3.2%、「希望しない勤務形態の変化」の回答割合が11.4%、「希望しない労働時間の減少」の回答割合が18.4%、「希望しない時間帯・曜日での勤務」の回答割合が6.3%、「収入の減少」の回答割合が32.8%であり、非生活困難層と比べて高くなっていた。

設問 10-①(新設) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、お子さんのお母さまは、以下のようなことを経験しましたか。(MA)

図表 1-2-2-7 母親の就業への新型コロナウイルス感染症拡大の影響



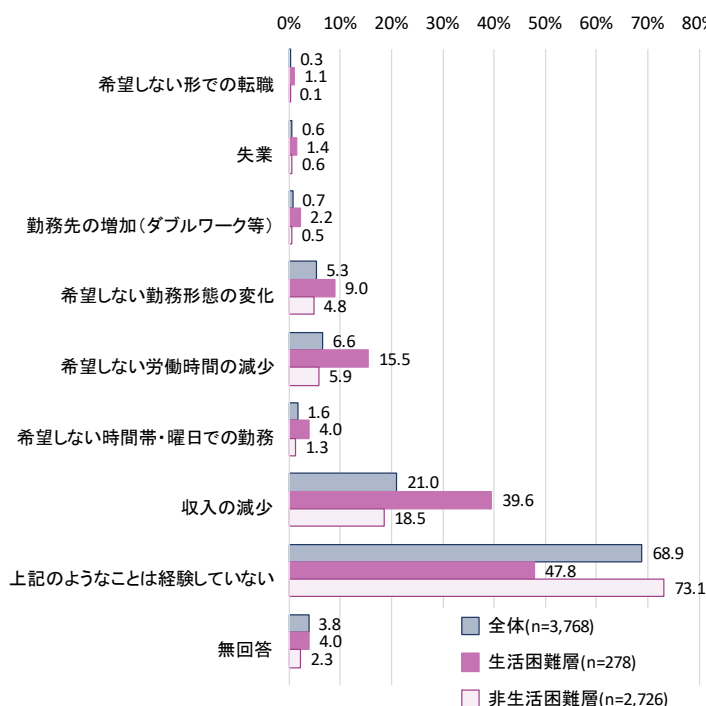
⁷ 「失業」「勤務先の増加(ダブルワーク等)」の回答には、生活困難層と非生活困難層とで統計的に有意差は見られなかった。

⑥父親の就業への新型コロナウイルス感染症拡大の影響

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で父親が経験した就業への影響を尋ねた設問に対して、全体の回答割合では「収入の減少」が21.0%、「希望しない労働時間の減少」が6.6%であった。また、生活困難層では、「希望しない形での転職」の回答割合が1.1%、「勤務先の増加（ダブルワーク等）」の回答割合が2.2%、「希望しない勤務形態の変化」の回答割合が9.0%、「希望しない労働時間の減少」の回答割合が15.5%、「希望しない時間帯・曜日での勤務」の回答割合が4.0%、「収入の減少」の回答割合が39.6%であり、非生活困難層と比べて高くなっていた⁸。

設問 10-②(新設) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、お子さんのお父さまは、以下のようなことを経験しましたか。(MA)

図表 1-2-2-8 父親の就業への新型コロナウイルス感染症拡大の影響



⁸ 「失業」の回答には、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

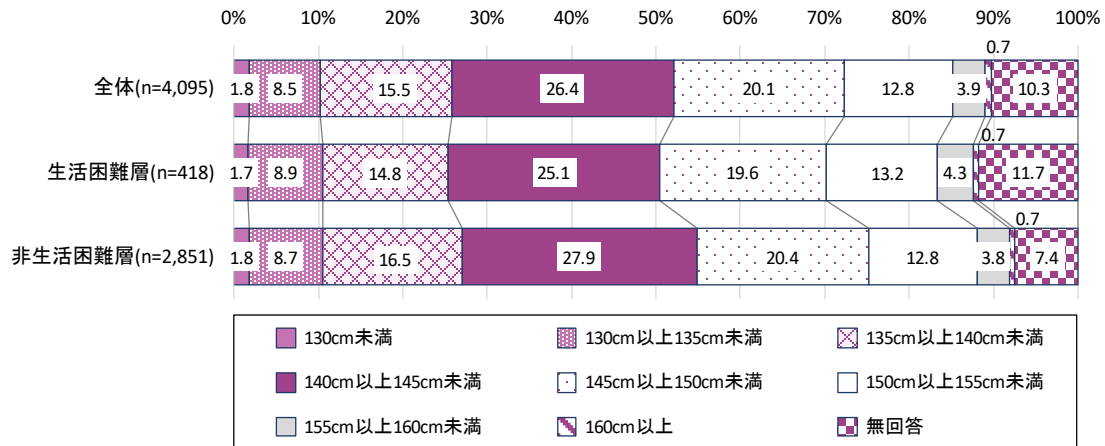
(3)子どもの成長・教育のこと

①子どもの身長

子どもの身長を尋ねた設問に対して、全体の回答割合では「140cm～145cm 未満」が 26.4%、「145cm～150cm 未満」が 20.1%であった⁹。

設問 11 お子さんの身長・体重を教えてください。(I)

図表 1-2-3-1 子どもの身長

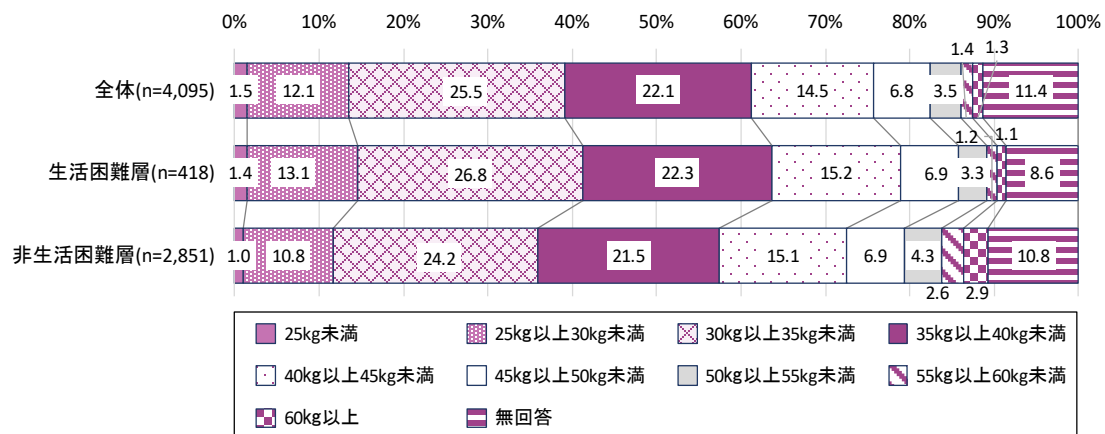


②子どもの体重

子どもの体重を尋ねた設問に対して、全体の回答割合では「30kg～35kg 未満」が 25.5%、「35kg～40kg 未満」が 22.1%であった¹⁰。

設問 11 お子さんの身長・体重を教えてください。(I)

図表 1-2-3-2 子どもの体重



⁹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

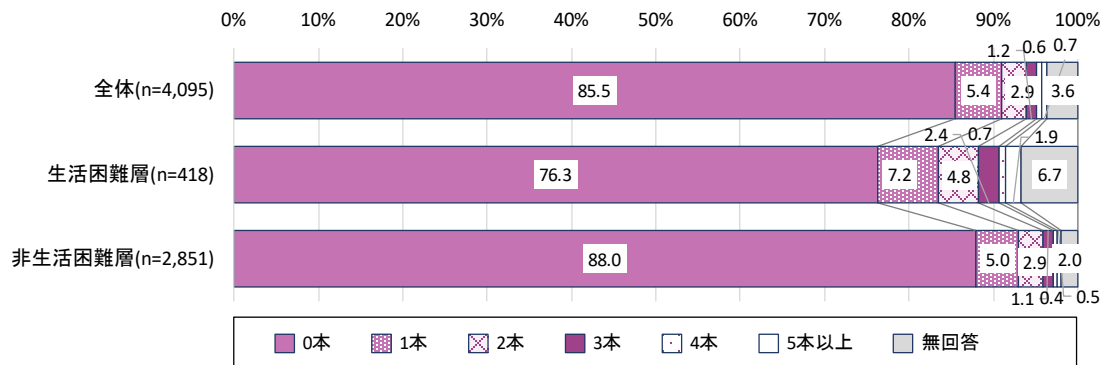
¹⁰ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

③子どもの虫歯の本数

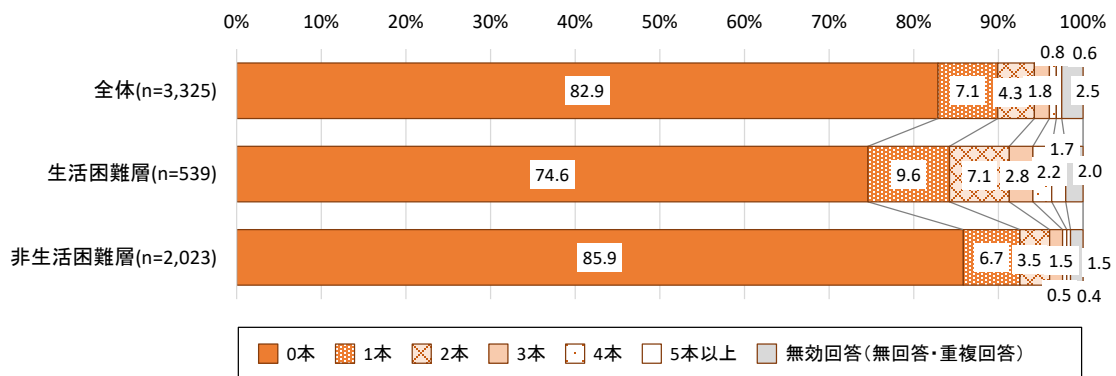
子どもの虫歯の本数を尋ねた設問に対して、1本以上の回答割合は、全体では10.8%、生活困難層では17.0%、非生活困難層では9.9%であった。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「0本」の回答割合が高くなっていた。

設問 12 お子さんは、今、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。治療中のものも含みます。（I）

図表 1-2-3-3 子どもの虫歯の本数



(参考) 前回調査結果



④子どもへの進学期待

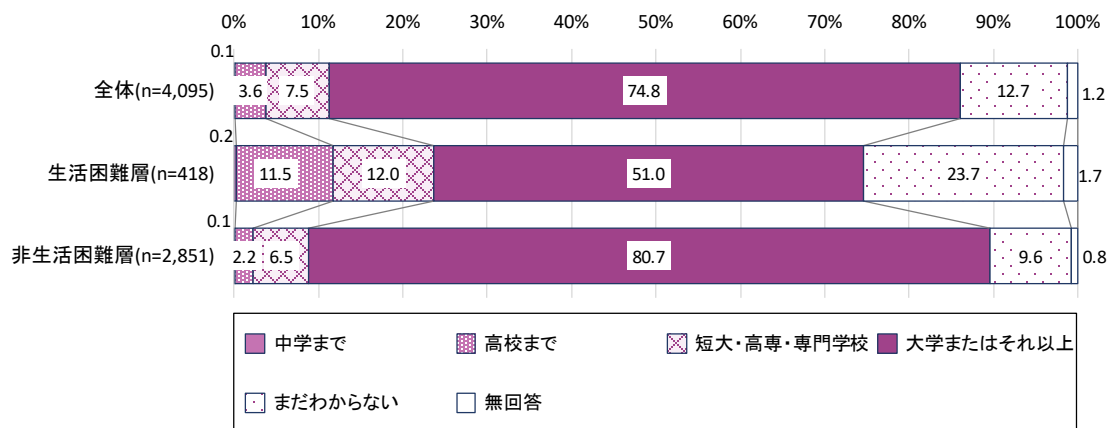
「お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか」という設問に対して、「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では74.8%、生活困難層では51.0%、非生活困難層では80.7%であった。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「高校まで」「短大・高専・専門学校」の回答割合が低く、「大学またはそれ以上」の回答割合が高くなっていた。また、「まだわからない」の回答割合も高くなっていた。

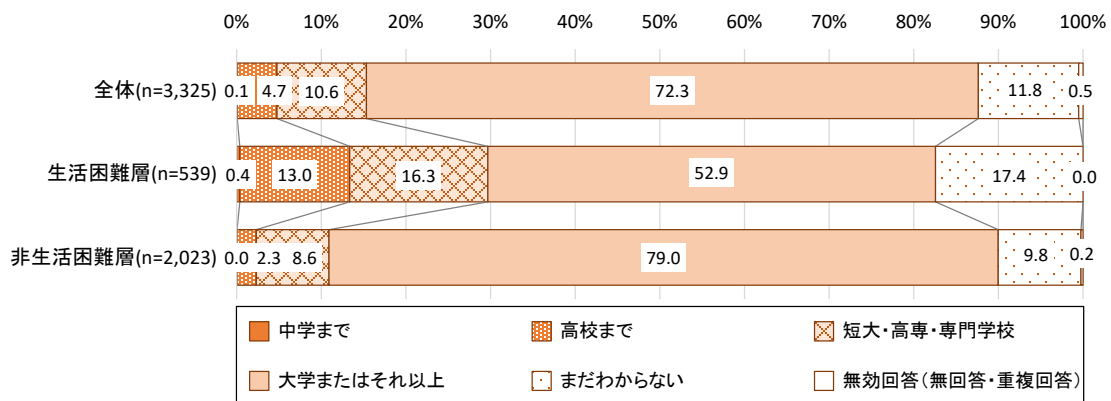
設問 13 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。

あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。（SA）

図表 1-2-3-4 子どもへの進学期待



(参考) 前回調査結果



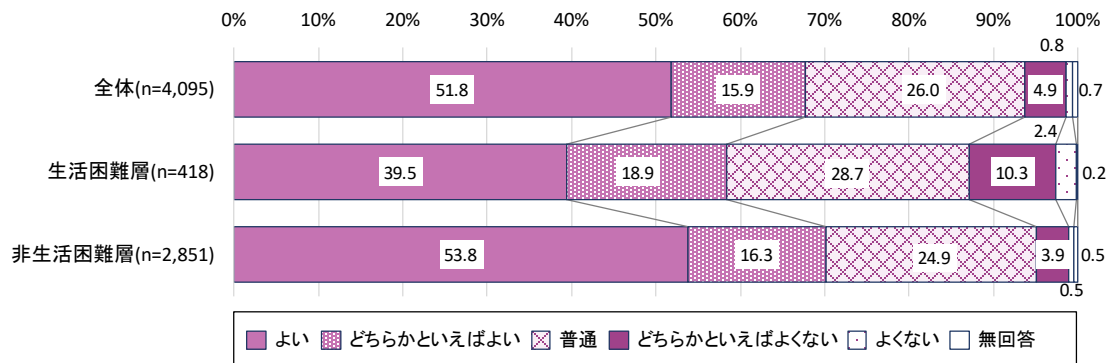
(4)健康・医療に関すること

①回答者（保護者自身）健康状態

回答者（子どもの保護者）の健康状態を尋ねた設問に対して、「よい」「どちらかといえばよい」と回答した割合を合わせると、全体では67.7%、生活困難層では58.4%、非生活困難層では70.1%であった。

設問 14 あなたの健康状態について、最も近いものを教えてください。（SA）

図表 1-2-4-1 回答者の健康状態



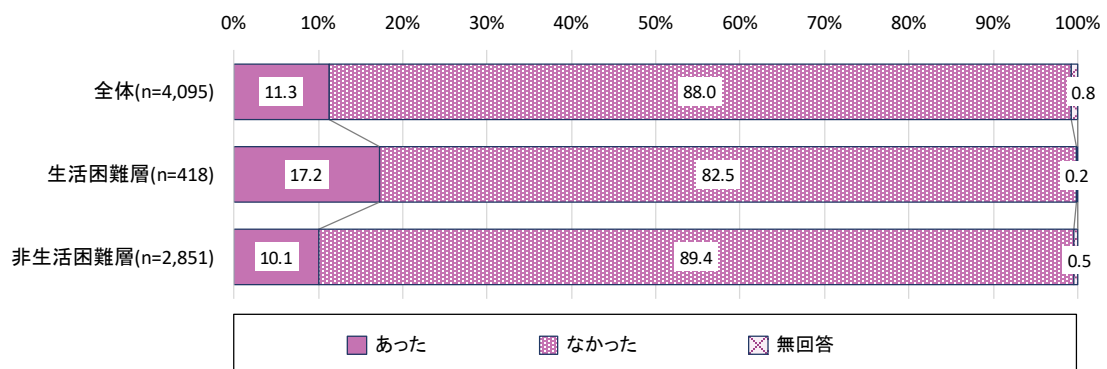
②医療機関の受診

「過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか」という設問に対して、受診させなかったことが「あった」と回答した割合は、全体では11.3%、生活困難層では17.2%、非生活困難層では10.1%であった。

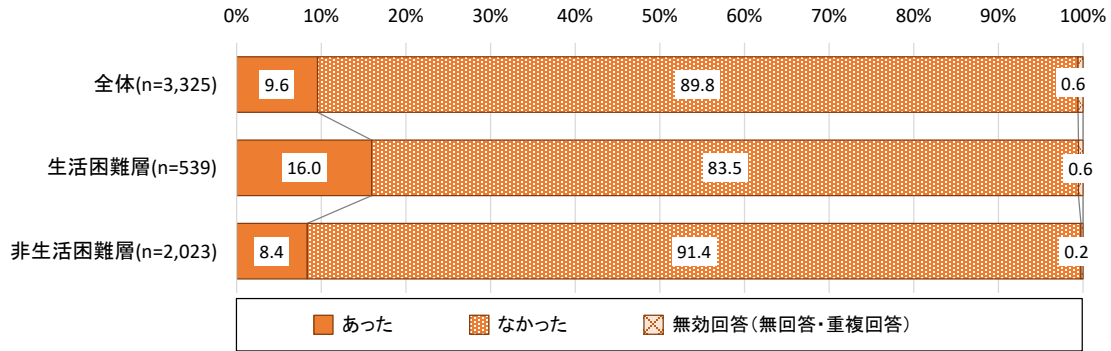
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、受診させなかったことが「あった」の回答割合が高くなっていた。

設問 15 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。（SA）

図表 1-2-4-2 受診抑制の経験



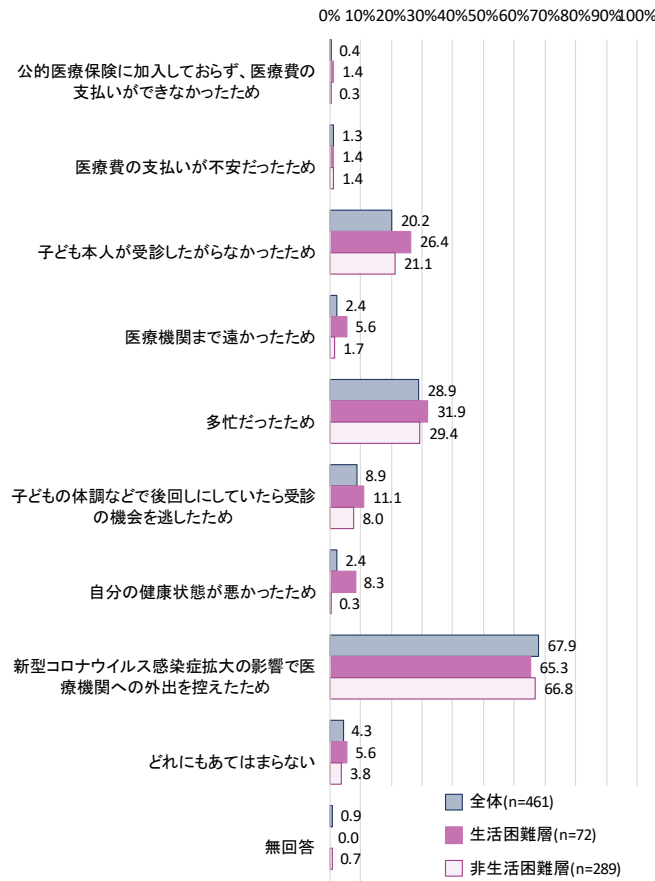
(参考) 前回調査結果



また、その理由を尋ねた設問に対しては、「自分の健康状態が悪かったため」の回答割合が、全体では2.4%、生活困難層では8.3%、非生活困難層では0.3%であった。なお、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で医療機関への外出を控えたため」の回答割合は、全体で67.9%であった¹¹。

設問 15-1 (受診させなかったことが「あった」と回答した方に) その理由は、何ですか。(MA)

図表 1-2-4-3 受診させなかった理由



¹¹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

③日常における意識

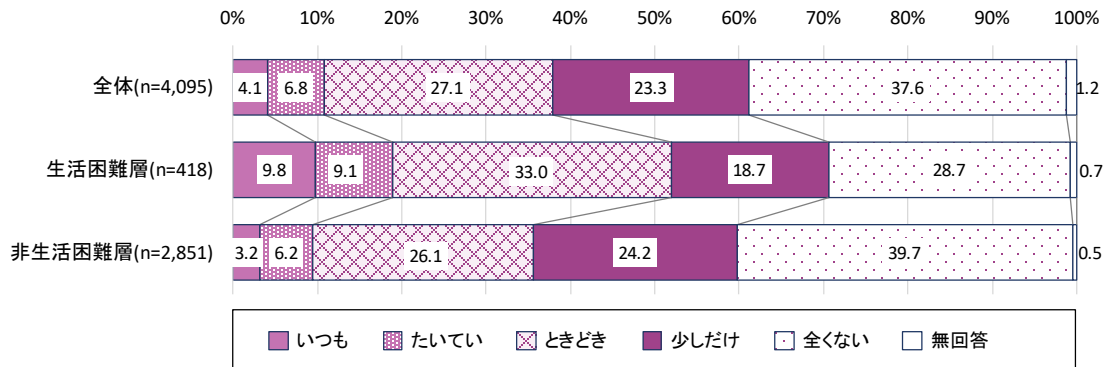
A 自分が神経過敏になっていると感じましたか

「自分が神経過敏になっていると感じましたか」と尋ねた設問に対して、「いつも」「たいてい」「ときどき」と回答した割合を合わせると、全体では 38.0%、生活困難層では 51.9%、非生活困難層では 35.5%であった。

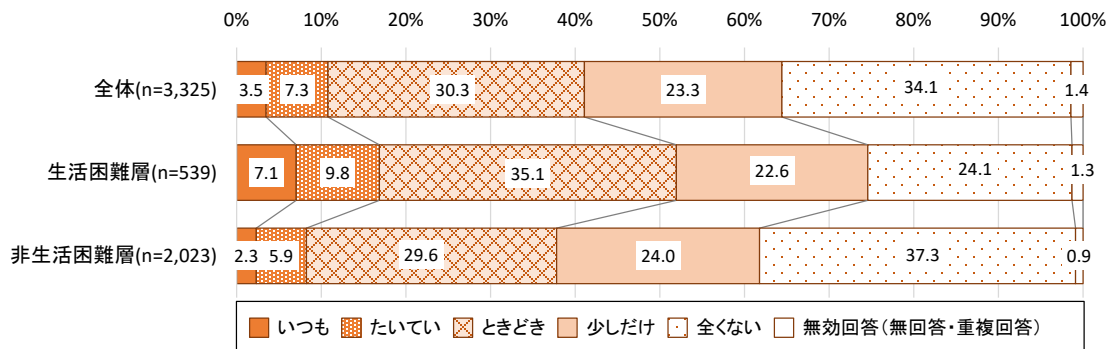
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「全くない」の回答割合が高くなっていた。

設問 16A 次のそれぞれの質問について、あなたは、過去 1 か月の間にどのように感じましたか。（SA）

図表 1-2-4-4 自分が神経過敏になっていると感じた



(参考) 前回調査結果

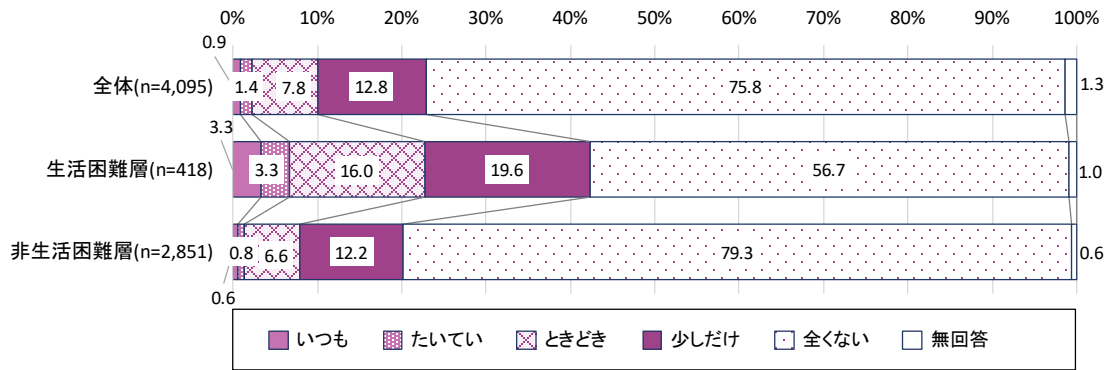


B 絶望的だと感じましたか

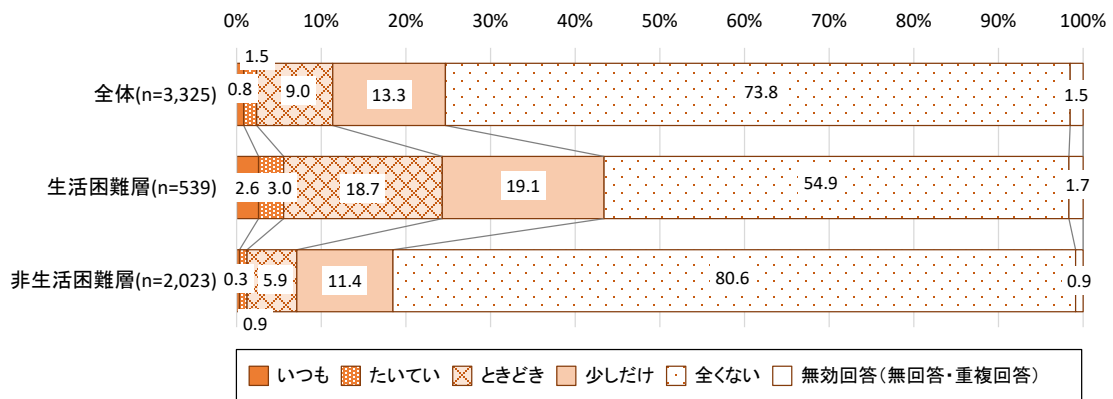
「絶望的だと感じましたか」と尋ねた設問に対して、「いつも」「たいてい」「ときどき」と回答した割合を合わせると、全体では10.1%、生活困難層では22.6%、非生活困難層では8.0%であった。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「全くない」の回答割合が高くなっていた。

設問 16B 次のそれぞれの質問について、あなたは、過去1か月の間にどのように感じましたか。（SA）

図表 1-2-4-5 絶望的だと感じた



(参考) 前回調査結果

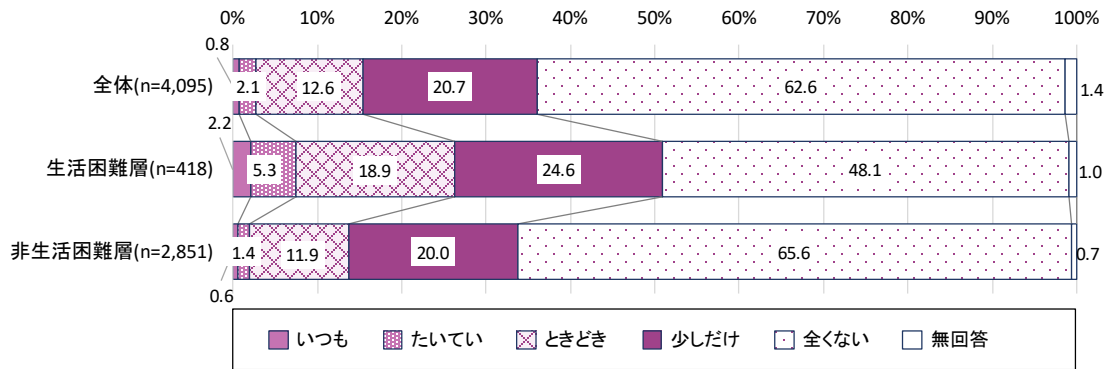


C そわそわしたり、落ちつきなく感じたりしましたか

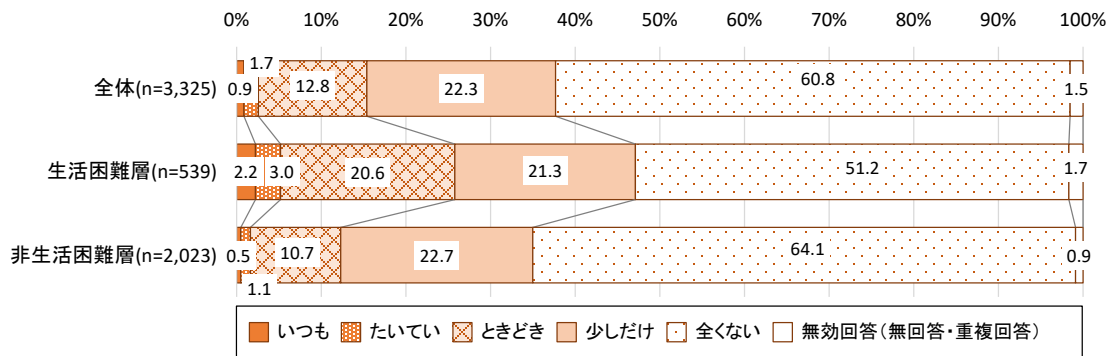
「そわそわしたり、落ちつきなく感じたりしましたか」と尋ねた設問に対して、「いつも」「たいてい」「ときどき」と回答した割合を合わせると、全体では 15.5%、生活困難層では 26.4%、非生活困難層では 13.9%であった。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「全くない」の回答割合が高くなっていった。

設問 16C 次のそれぞれの質問について、あなたは、過去 1 か月の間にどのように感じましたか。（SA）

図表 1-2-4-6 そわそわしたり、落ちつきなく感じたりした



(参考) 前回調査結果

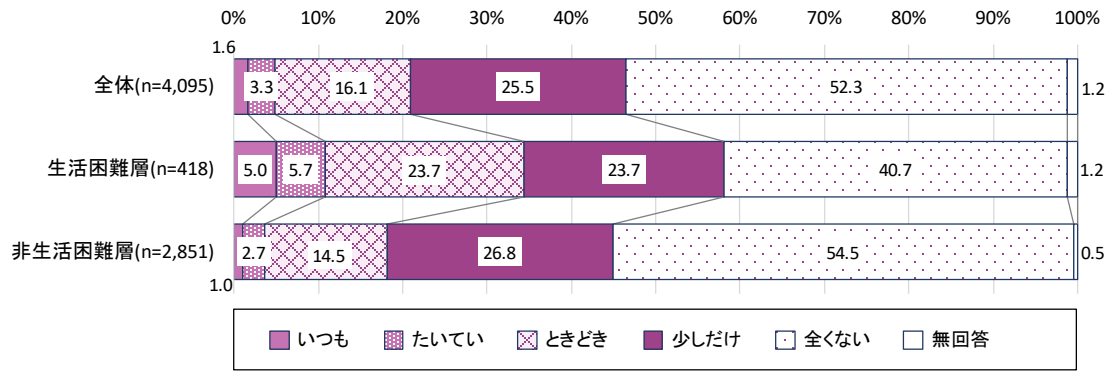


D 気分が沈みこんで、何が起ころっても気が晴れないように感じましたか

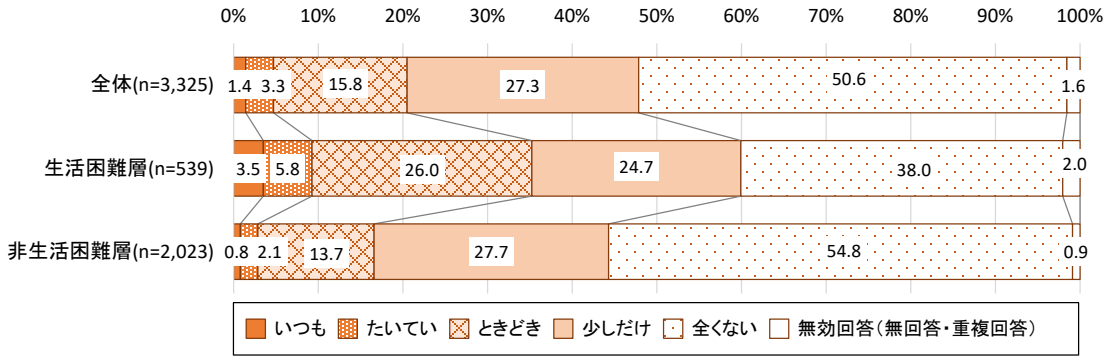
「気分が沈みこんで、何が起ころっても気が晴れないように感じましたか」と尋ねた設問に対して、「いつも」「たいてい」「ときどき」と回答した割合を合わせると、全体では 21.0%、生活困難層では 34.4%、非生活困難層では 18.2%であった。
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「全くない」の回答割合が高くなっていた。

設問 16D 次のそれぞれの質問について、あなたは、過去 1 か月の間にどのように感じましたか。（SA）

図表 1-2-4-7 気分が沈みこんで、何が起ころっても気が晴れないように感じた



(参考) 前回調査結果



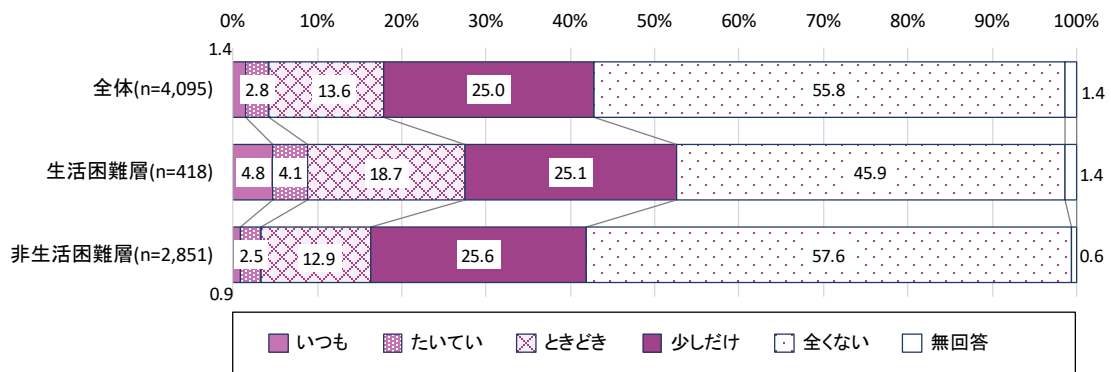
E 何をするのも骨折りと感じましたか

「何をするのも骨折りと感じましたか」と尋ねた設問に対して、「いつも」「たいてい」「ときどき」と回答した割合を合わせると、全体では17.8%、生活困難層では27.6%、非生活困難層では16.3%であった。

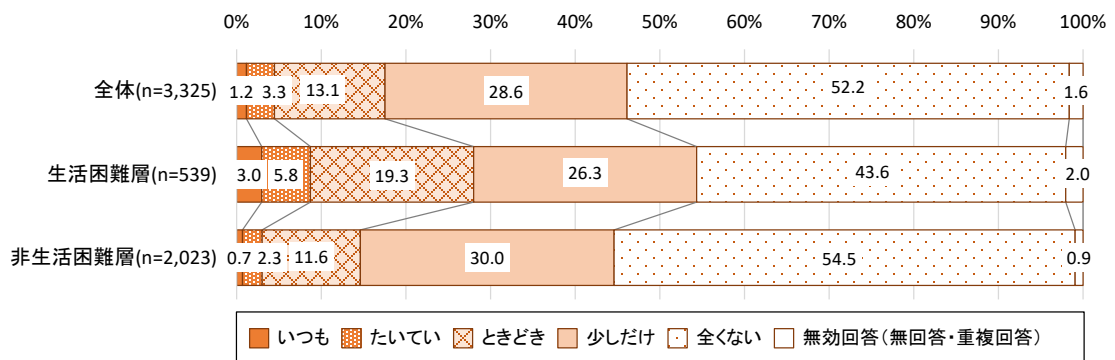
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「全くない」の回答割合が高くなっていった。

設問 16E 次のそれぞれの質問について、あなたは、過去1か月の間にどのように感じましたか。（SA）

図表 1-2-4-8 何をするのも骨折りと感じた



(参考) 前回調査結果



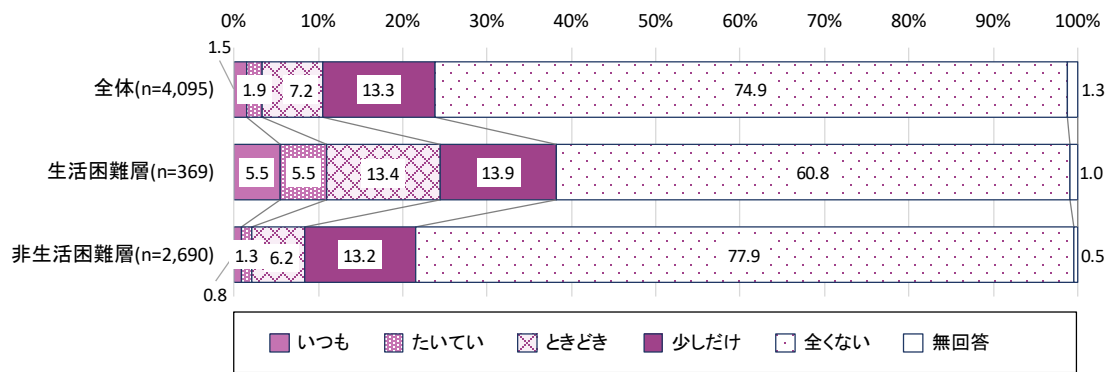
F 自分は価値のない人間だと感じましたか

「自分は価値のない人間だと感じましたか」と尋ねた設問に対して、「いつも」「たいてい」「ときどき」と回答した割合を合わせると、全体では 10.6%、生活困難層では 24.4%、非生活困難層では 8.3% であった。

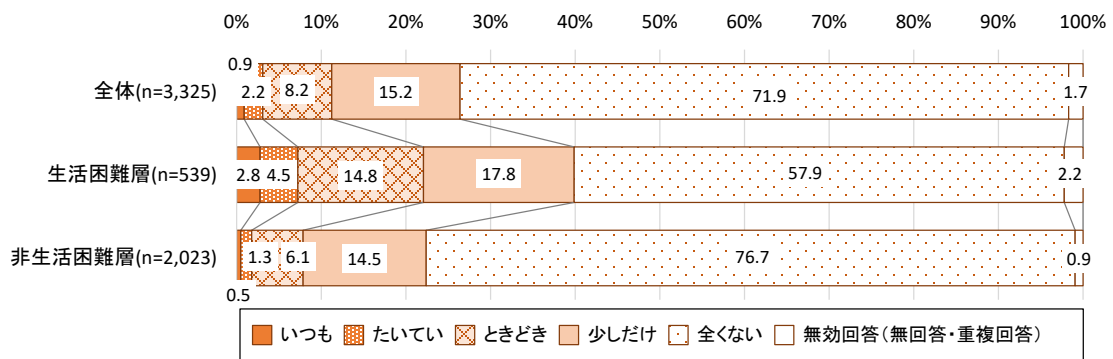
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「全くない」の回答割合が高くなっていた。

設問 16F 次のそれぞれの質問について、あなたは、過去 1 か月の間にどのように感じましたか。（SA）

図表 1-2-4-9 自分は価値のない人間だと感じた

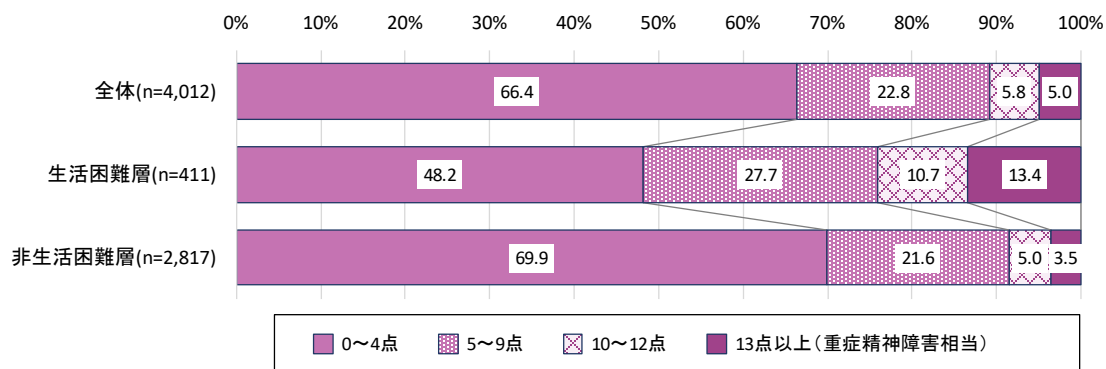


(参考) 前回調査結果



「自分が神経過敏になっていると感じましたか」から「自分は価値のない人間だと感じましたか」までの6つの項目から回答者のうつ傾向を測る指標（K6¹²）を算出したところ、全体では「10～12点」が5.8%、「13点以上（重症精神障害相当）」が5.0%であった。また、生活困難層では「10～12点」が10.7%、「13点以上（重症精神障害相当）」が13.4%、非生活困難層では「10～12点」が5.0%、「13点以上（重症精神障害相当）」が3.5%であった^{13,14}。

図表 1-2-4-10 うつ傾向指標（K6）の分布（小学5年生保護者）



¹² 厚生労働省「国民生活基礎調査」の用語集によれば、「K6は米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。（中略）合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性がある」とされている。(https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21-yougo_2019.pdf、2021年3月19日最終閲覧)

¹³ 「自分が神経過敏になっていると感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわしたり、落ちつきなく感じたりしましたか」「気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」の6項目それぞれについて、「まったくない」を0点、「少しだけ」を1点、「ときどき」を2点、「たいてい」を3点、「いつも」を4点とし、すべてを足し上げて0から24点の指標を作成した。また、6項目すべてに回答があった票のみを集計している。なお、K6の作成方法および点数区分については、東京都健康福祉局(2017)『東京都子供の生活実態調査報告書【小中高生等調査】』第5部 子供の健康と自己肯定感(p.141)を参照した。

¹⁴ 脚注12で挙げた東京都調査では、5点以上を「心理的ストレス反応相当」、9点以上および10点以上を「気分・不安障害相当」、13点以上を「重症精神障害相当」とされている。この区分に従って今回調査結果を集計すると、全体では、5点以上が33.6%、9点以上が13.8%、10点以上が10.8%であった。また、生活困難層では5点以上が51.8%、9点以上が27.7%、10点以上が24.1%、非生活困難層では5点以上が30.1%、9点以上が11.3%、10点以上が8.5%であった。

(5)子育ての費用・家計の状況に関すること

①子どもにかかる生活費や学費¹⁵

A 塾など、学校外でかかる教育費

「塾など、学校外でかかる教育費」の毎月の支出額を尋ねた設問に対して、「0円」の回答割合は、全体では17.1%、生活困難層では32.3%、非生活困難層では14.9%であった。

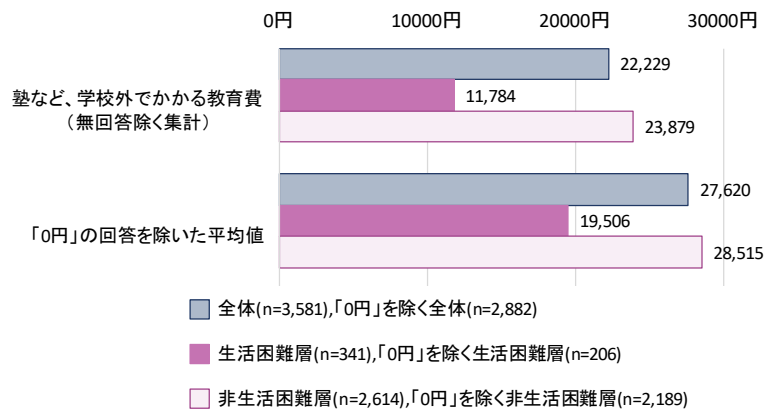
支出額の平均値は、全体では22,229円、生活困難層では11,784円、非生活困難層では23,879円であった。また、「0円」の回答を除いた平均値は、全体では27,620円、生活困難層では19,506円、非生活困難層では28,515円であった。

設問 17A この調査票を持ち帰ったお子さんの生活費や学費について、お聞きします。

次のA～Cの費用は、毎月いくらくらいかかっていますか。

おおよその平均的な金額を教えてください。(I)

図表 1-2-5-1 塾など、学校外でかかる教育費



¹⁵ それぞれの支出に関して、無回答であったものは除いて集計している。「0円」の回答の割合として示した値も、無回答を除いた上での集計によるものである。

B 習い事・スポーツクラブ・クラブ活動費

「習い事（スポーツクラブなど以外）」の毎月の支出額を尋ねた設問に対して、「0円」の回答割合は、全体では17.0%、生活困難層では31.1%、非生活困難層では15.0%であった。

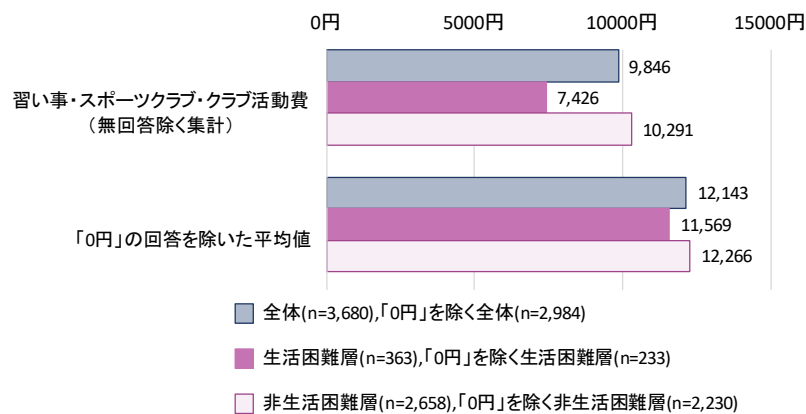
支出額の平均値は、全体では9,846円、生活困難層では7,426円、非生活困難層では10,291円であった。また、「0円」の回答を除いた平均値は、全体では12,143円、生活困難層では11,569円、非生活困難層では12,266円であった。

設問 17B この調査票を持ち帰ったお子さんの生活費や学費について、お聞きします。

次のA～Cの費用は、毎月いくらくらいかかっていますか。

おおよその平均的な金額を教えてください。（I）

図表 1-2-5-2 習い事・スポーツクラブ・クラブ活動費



C 携帯・スマートフォンの代金

「(このお子さんの) 携帯・スマートフォンの代金」の毎月の支出額を尋ねた設問に対して、「0円」の回答割合は、全体では29.9%、生活困難層では33.3%、非生活困難層では29.8%であった。

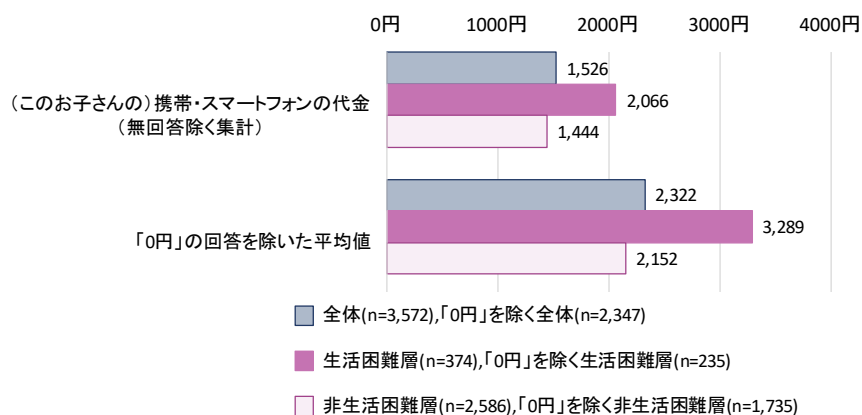
支出額の平均値は、全体では1,526円、生活困難層では2,066円、非生活困難層では1,444円であった。また、「0円」の回答を除いた平均値は、全体では2,322円、生活困難層では3,289円、非生活困難層では2,152円であった。

設問 17C この調査票を持ち帰ったお子さんの生活費や学費について、お聞きします。

次のA～Cの費用は、毎月いくらくらいかかっていますか。

おおよその平均的な金額を教えてください。（I）

図表 1-2-5-3 携帯・スマートフォンの代金



②公的年金・社会保障給付金等の支給額

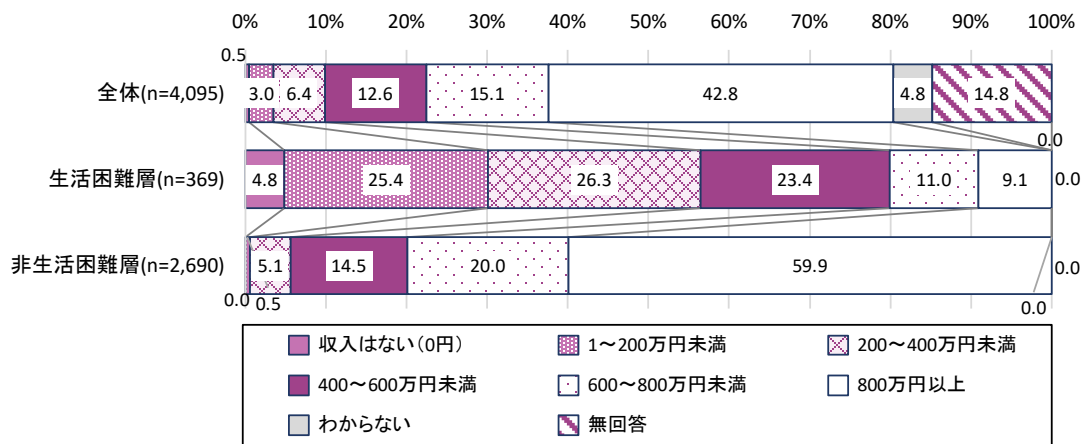
「児童手当」「児童育成手当」「児童扶養手当」「特別児童扶養手当」「年金」「生活保護費」について、それぞれ1回あたり受給額を尋ねた。回答の集計結果については、巻末の集計表を参照のこと。

③世帯収入

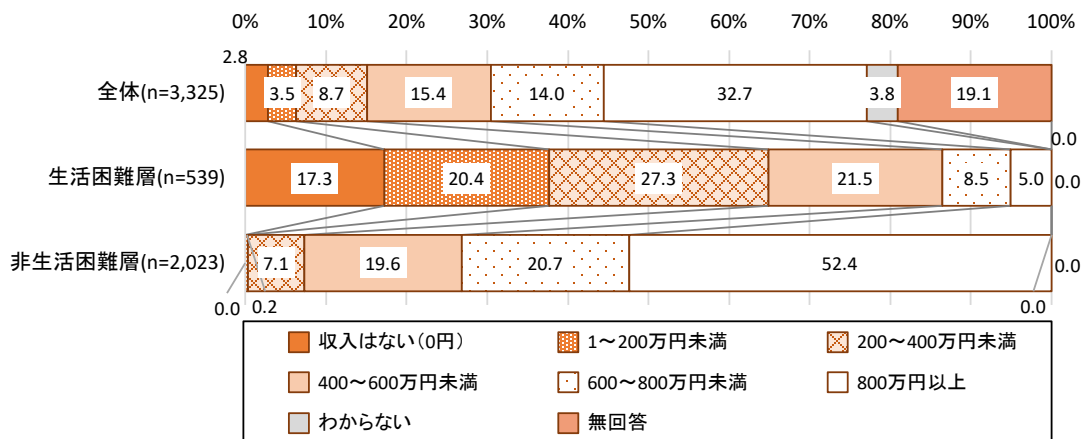
世帯の昨年の年間収入（税込）を尋ねた設問¹⁶に対して、「800万円以上」の回答割合は全体で42.8%であった。また、200万円未満の回答割合は全体で3.5%であった。
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「800万円以上」の回答割合が高くなっていった。

設問 19 お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、公的年金と社会保障給付金以外の昨年（2019年1月～12月）のおおよその年間収入（税込）はいくらですか。（SA）

図表 1-2-5-4 世帯収入



(参考) 前回調査結果



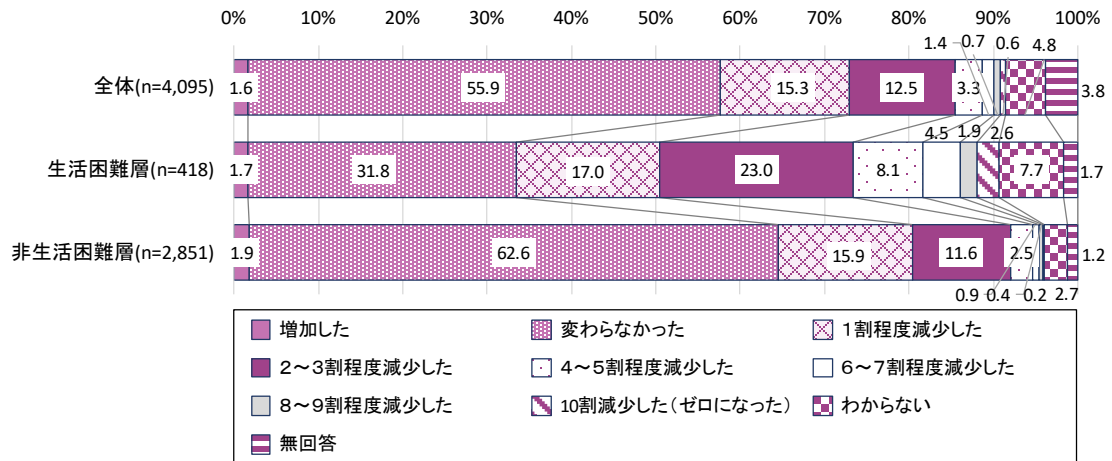
¹⁶ 世帯の年間収入は生活困難層を定義するための要素のひとつであるため、200万円未満の回答割合が必然的に生活困難層において高くなり、非生活困難層では低くなっている。

④新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令の前後で世帯の月間収入が最大でどれくらい変わったかを尋ねた設問に対して、「減少した」という回答の割合を合わせると、全体では33.8%、生活困難層では57.1%、非生活困難層では31.5%であった。

設問 20(新設) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令前と、緊急事態宣言発令後とを比べて、お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、月間収入（税込）の合計は、最大でどれくらい変わりましたか。（SA）

図表 1-2-5-5 新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化



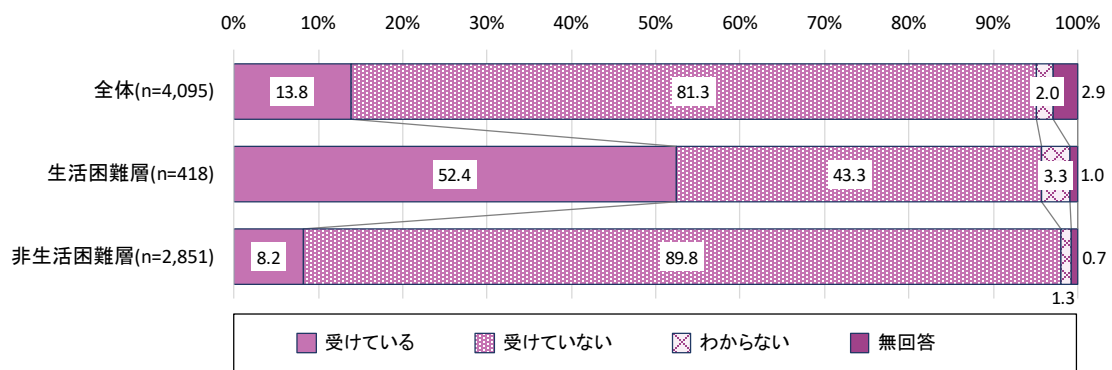
⑤就学援助費の受給

就学援助費を受けているかを尋ねた設問に対して、「受けている」の回答割合は、全体では13.8%、生活困難層では52.4%、非生活困難層では8.2%であった。

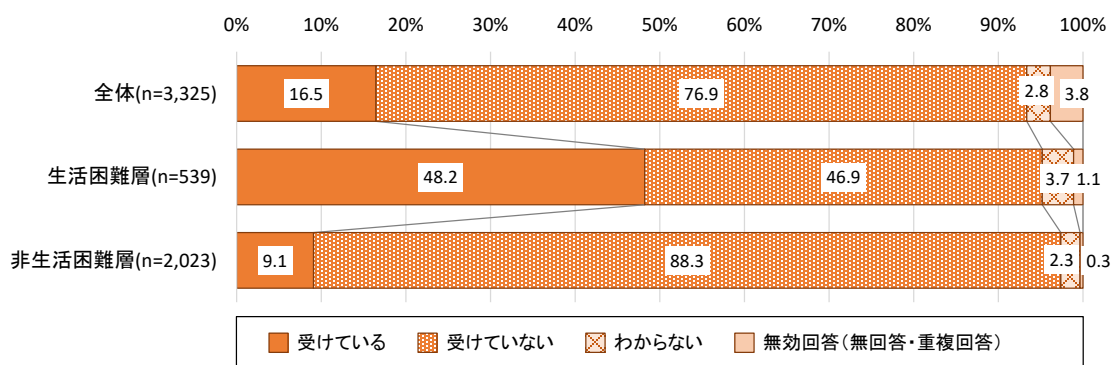
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、就学援助費を「受けている」の回答割合が低くなっていった。

設問 21 あなたの家庭では、就学援助費を受けていますか。（SA）

図表 1-2-5-6 就学援助費の受給



(参考) 前回調査結果



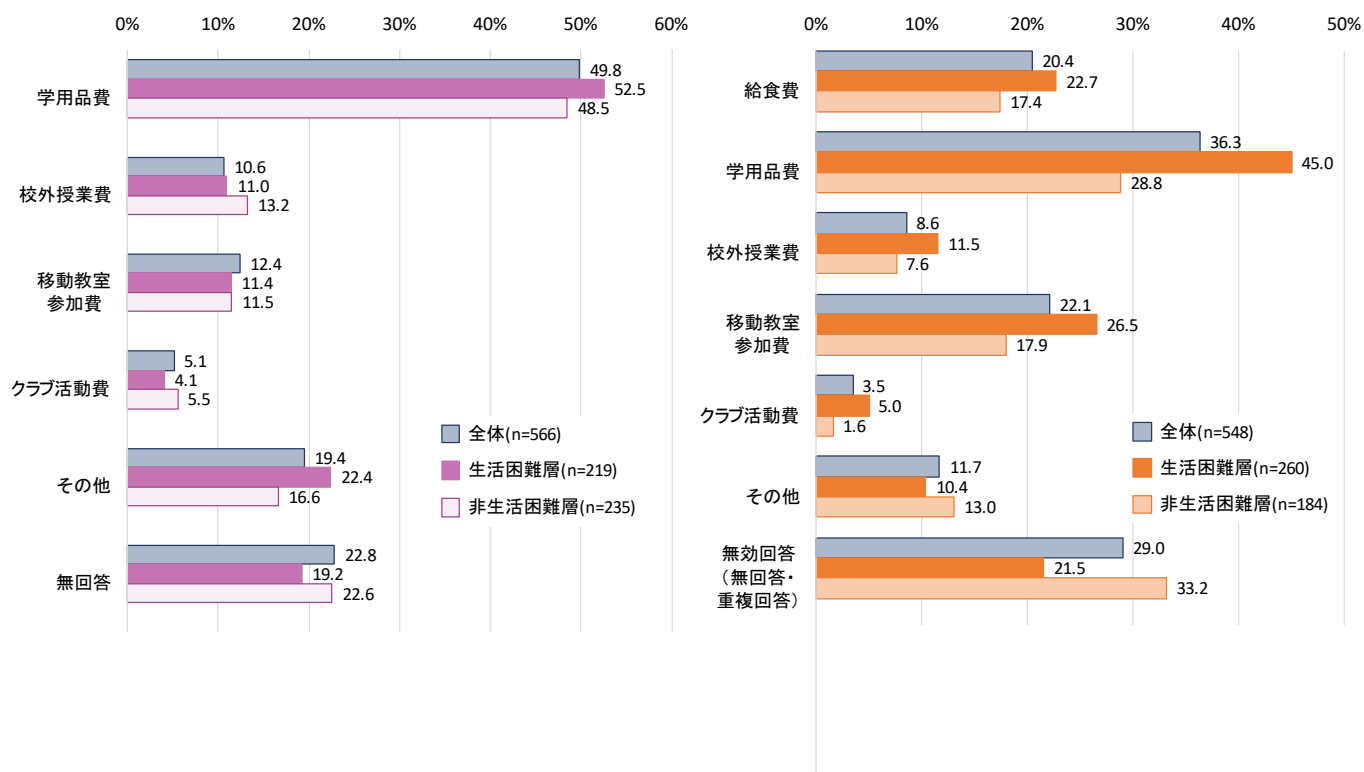
また、就学援助費を受けている場合に「就学援助で支給されている額と実際にかかった額とで、差が大きいものは何の経費ですか」と尋ねた設問に対して¹⁷、「学用品費」との回答割合は、全体では49.8%であった。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「学用品費」「その他」の回答割合が高く、「移動教室参加費」が低くなっていた。

設問 21-1（就学援助費を「受けている」と回答した方に）就学援助で支給されている額と実際にかかった額とで、差が大きいものは何の経費ですか。（MA）

図表 1-2-5-7 就学援助費と実際の支出との乖離

（参考）前回調査結果



¹⁷ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

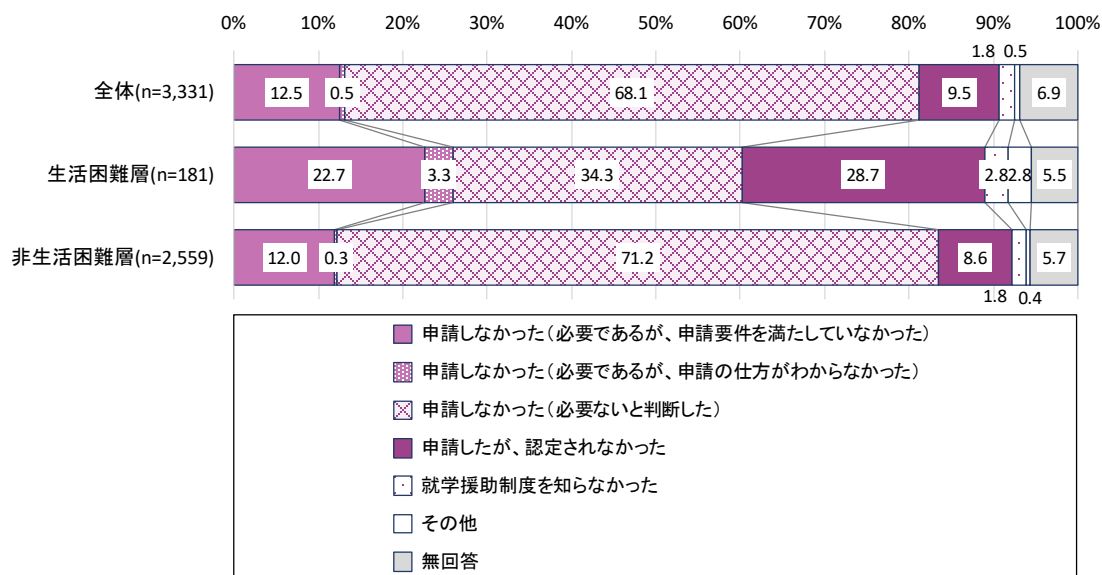
就学援助費を受けていない場合に、受けていない理由を尋ねた設問に対して、全体の回答割合では「申請しなかった（必要ないと判断した）」が68.1%、「申請しなかった（必要であるが、申請要件を満たしていなかった）」が12.5%であった。

生活困難層の回答割合は、「申請しなかった（必要ないと判断した）」が34.3%、「申請したが、認定されなかった」が28.7%であった。また、「申請しなかった（必要であるが、申請要件を満たしていなかった）」が22.7%、「申請しなかった（必要であるが、申請の仕方がわからなかった）」が3.3%であった。非生活困難層の回答割合は、「申請しなかった（必要ないと判断した）」が71.2%、「申請しなかった（必要であるが、申請要件を満たしていなかった）」が12.0%であった。

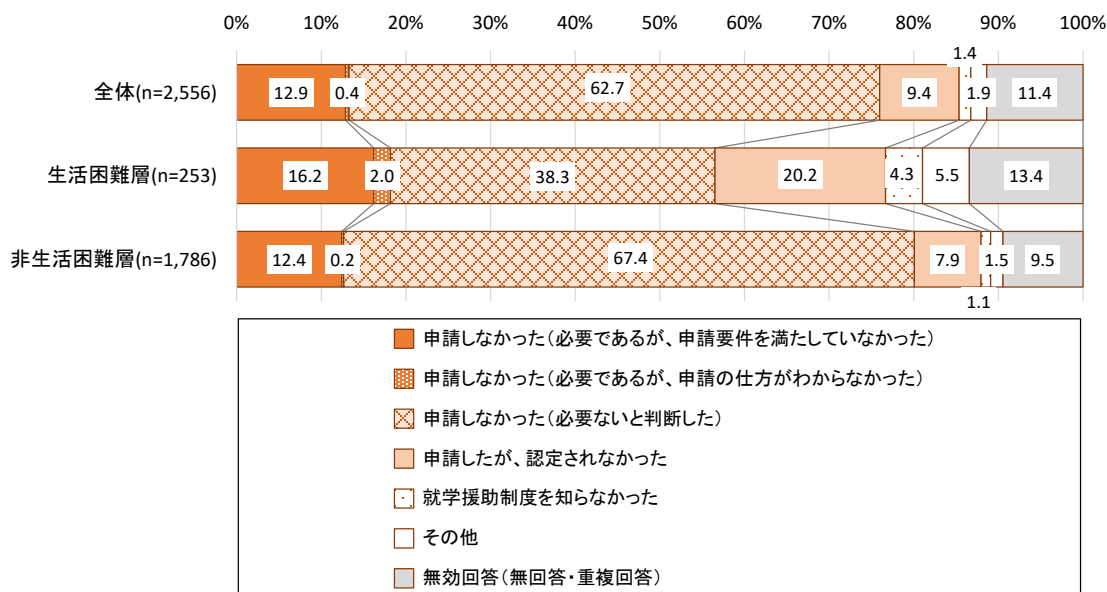
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「申請しなかった（必要ないと判断した）」の回答割合が高くなっていった。

設問 21-2 （就学援助費を「受けていない」と回答した方に）受けていない理由は、何ですか。（SA）

図表 1-2-5-8 就学援助費を受けていない理由



（参考） 前回調査結果



(6)子どもとの関わりに関すること

①子どもとの関わり場面

A お子さんの勉強をみる

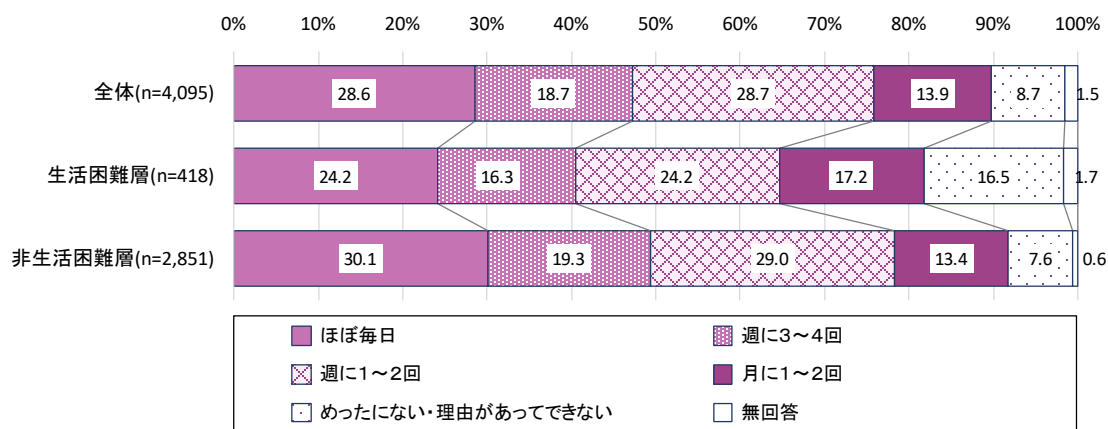
家庭で「お子さんの勉強をみる」ことがどの程度あるかを尋ねた設問に対して、「ほぼ毎日」の回答割合は、全体では28.6%、生活困難層では24.2%、非生活困難層では30.1%であった。

また、「めったにない・理由があってできない」の回答割合は、全体では8.7%、生活困難層では16.5%、非生活困難層では7.6%であった。

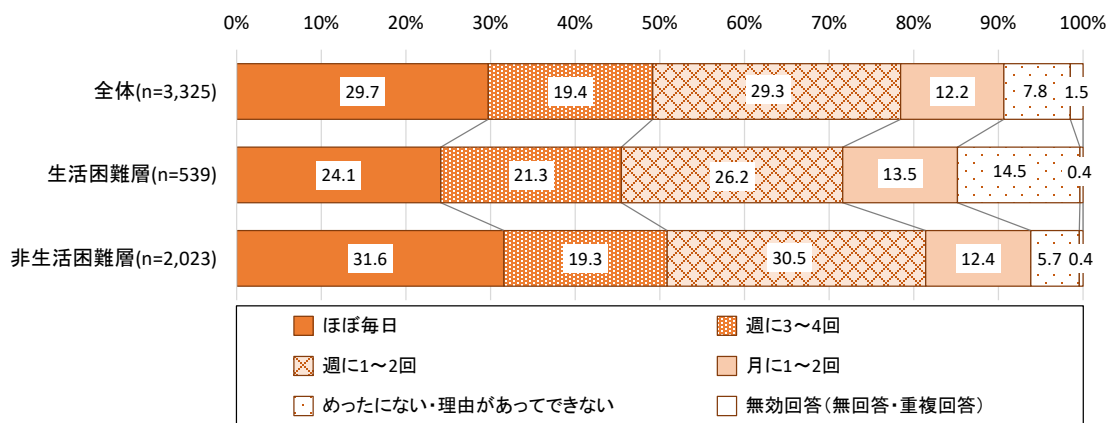
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「月に1～2回」「めったにない・理由があってできない」の回答割合が高くなっていた。

設問 22A あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることができますか。（SA）

図表 1-2-6-1 お子さんの勉強をみる



(参考) 前回調査結果



B お子さんとからだを動かして遊ぶ

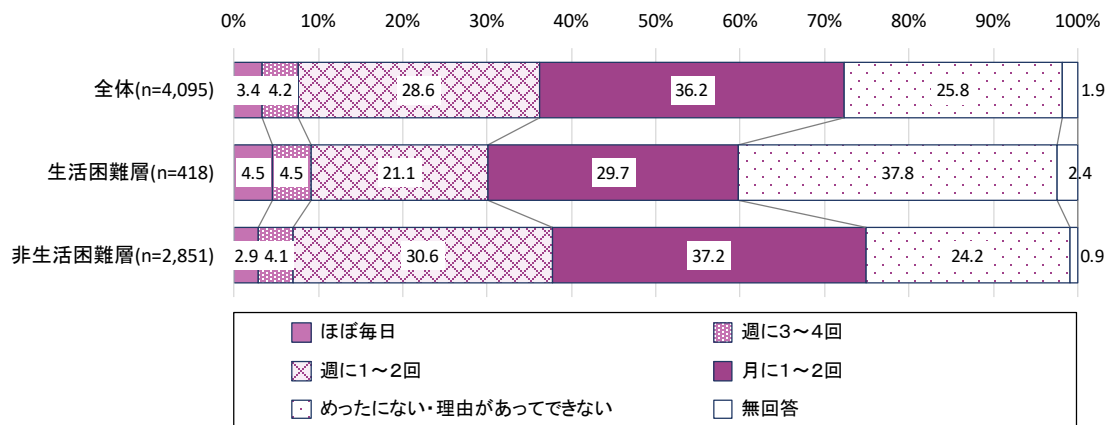
家庭で「お子さんとからだを動かして遊ぶ」ことがどの程度あるかを尋ねた設問に対して、「ほぼ毎日」の回答割合は、全体では3.4%、生活困難層では4.5%、非生活困難層では2.9%であった。

また、「めったにない・理由があってできない」の回答割合は、全体では25.8%、生活困難層では37.8%、非生活困難層では24.2%であった。

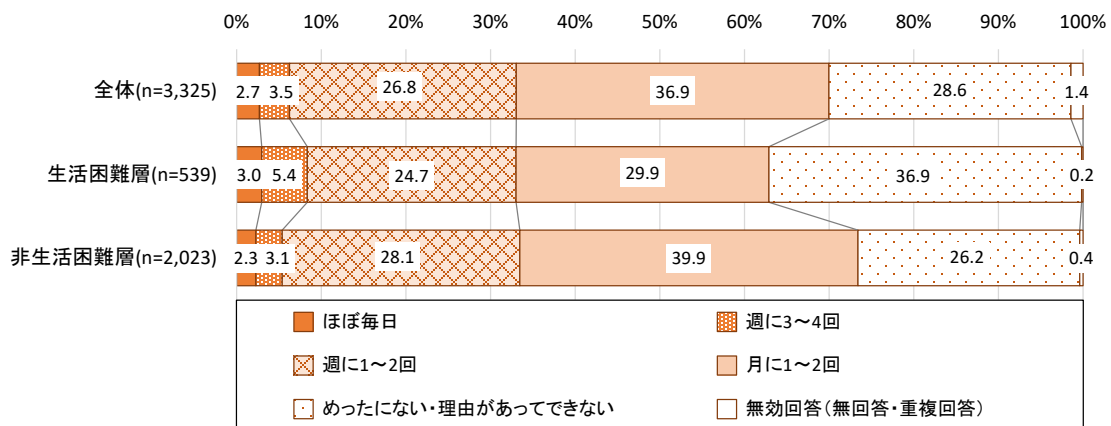
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「ほぼ毎日」「週に3～4回」「週に1～2回」の回答割合が高くなっていった。

設問 22B あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることができますか。（SA）

図表 1-2-6-2 お子さんとからだを動かして遊ぶ



(参考) 前回調査結果



C お子さんと学校生活の話をする

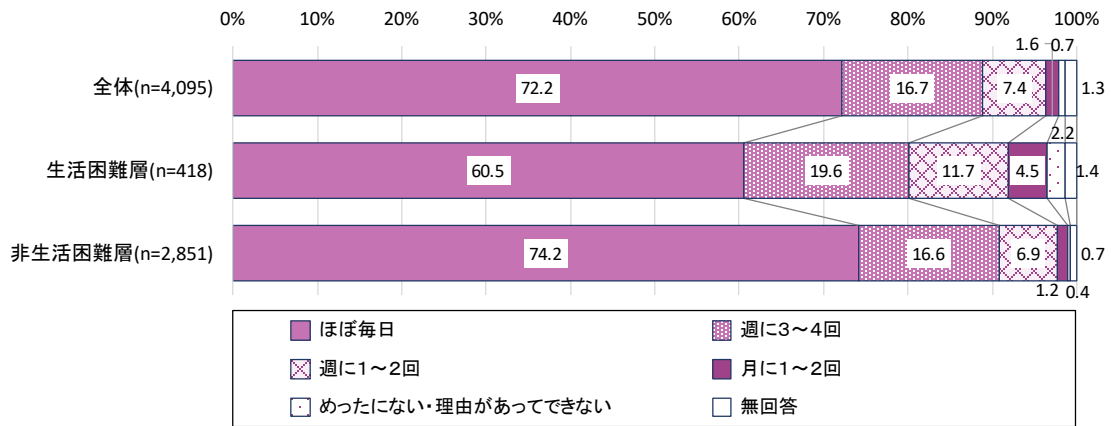
家庭で「お子さんと学校生活の話をする」ことがどの程度あるかを尋ねた設問に対して、「ほぼ毎日」の回答割合は、全体では72.2%、生活困難層では60.5%、非生活困難層では74.2%であった。

また、「めったにない・理由があってできない」の回答割合は、全体では0.7%、生活困難層では2.2%、非生活困難層では0.4%であった。

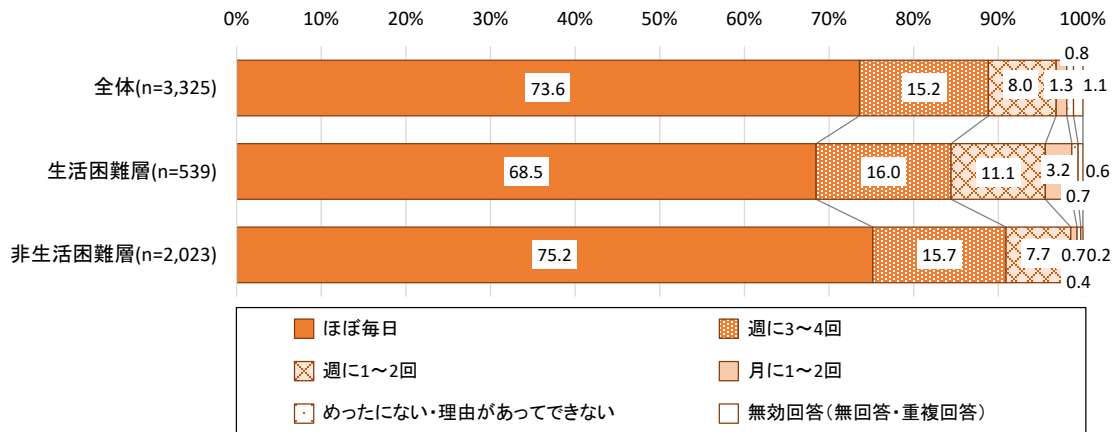
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「ほぼ毎日」「週に1～2回」の回答割合は低く、「週に3～4回」の回答割合は高くなっていった。

設問 22C あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることができますか。（SA）

図表 1-2-6-3 お子さんと学校生活の話をする



(参考) 前回調査結果



②体験活動の状況¹⁸

A 海水浴に行く

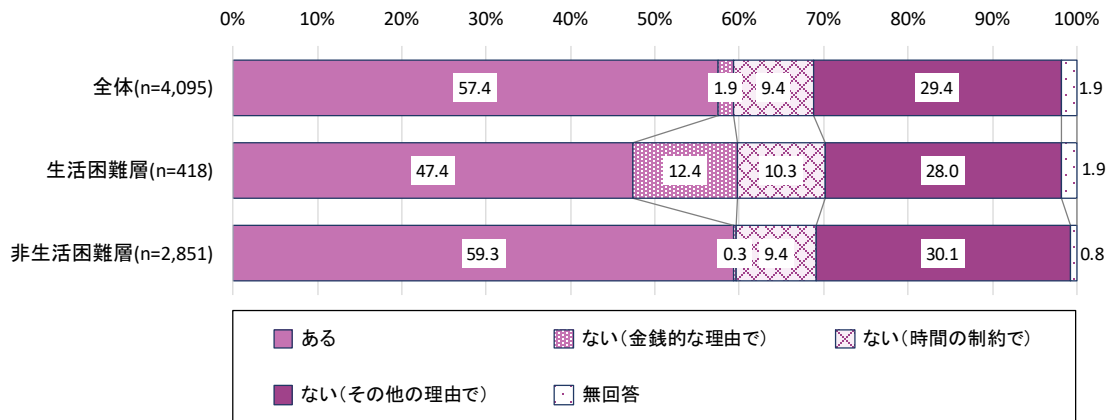
家庭で「海水浴に行く」ことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」の回答割合は、全体では57.4%、生活困難層では47.4%、非生活困難層では59.3%であった。

また、「ない（金銭的な理由で）」の回答割合は、全体では1.9%、生活困難層では12.4%、非生活困難層では0.3%であった。

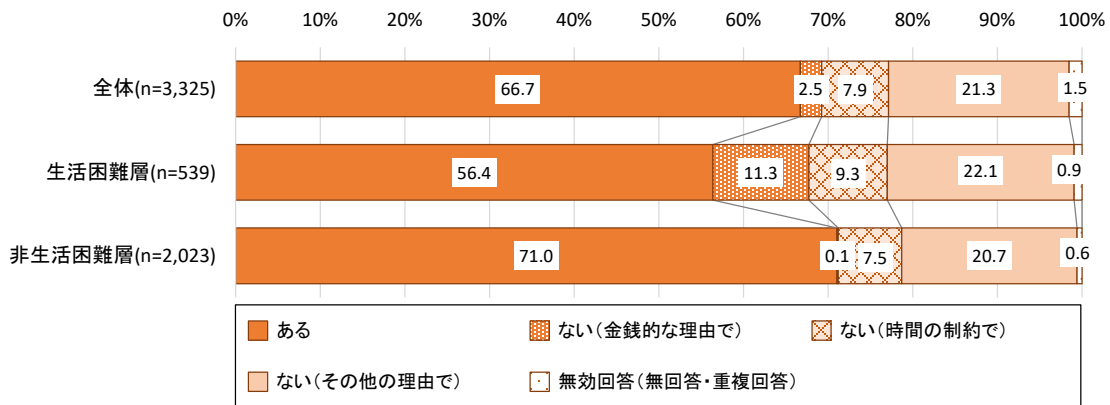
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「ある」の回答割合が低く、「ない（その他の理由で）」の回答割合が高くなっていった。

設問 23A あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をすることができますか。（SA）

図表 1-2-6-4 海水浴に行く



(参考) 前回調査結果



¹⁸ 「海水浴に行く」「博物館・科学館・美術館などに行く」「キャンプやバーベキューに行く」「スポーツ観戦や劇場に行く」は、生活困難層を定義するための要素のひとつであるため、各項目において「ない（金銭的な理由で）」の回答割合は必然的に生活困難層において高く、非生活困難層では低くなっている。

B 博物館・科学館・美術館などに行く

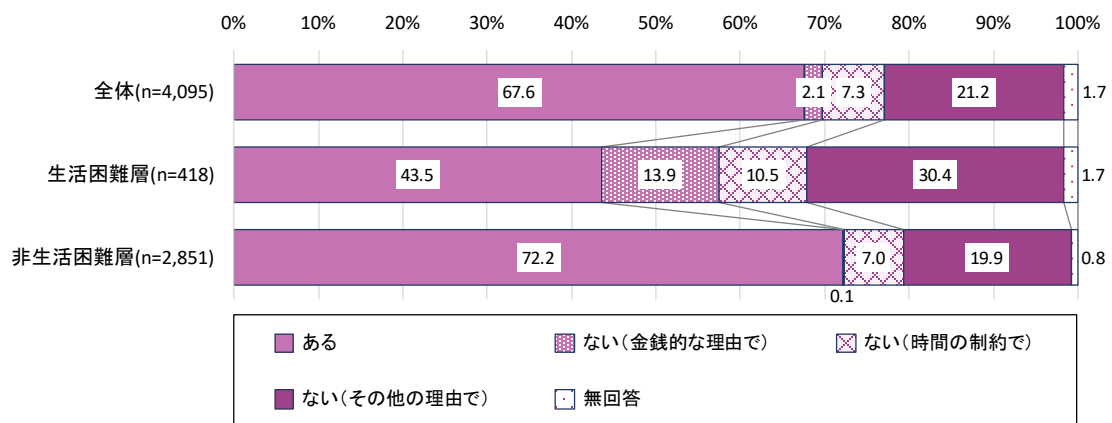
家庭で「博物館・科学館・美術館などに行く」ことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」の回答割合は、全体では67.6%、生活困難層では43.5%、非生活困難層では72.2%であった。

また、「ない（金銭的な理由で）」の回答割合は、全体では2.1%、生活困難層では13.9%、非生活困難層では0.1%であった。

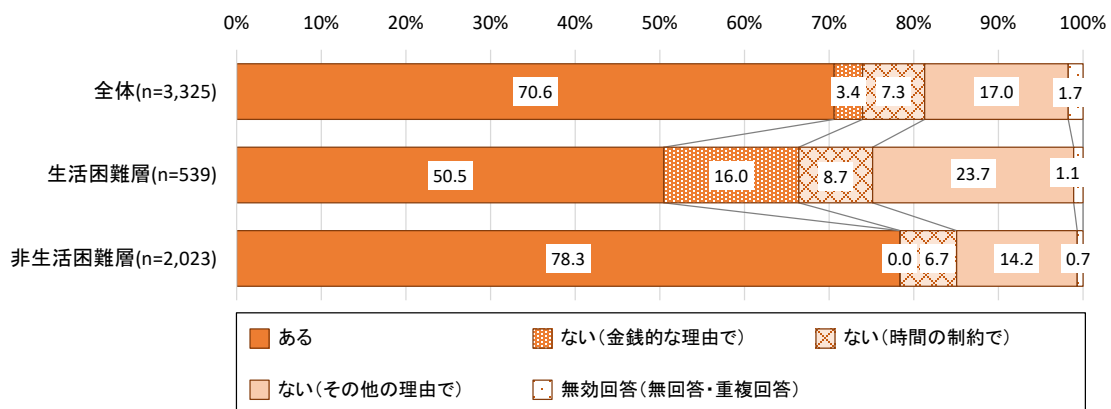
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「ある」の回答割合が低く、「ない（その他の理由で）」の回答割合が高くなっていった。また、「ない（金銭的な理由で）」の回答割合は低くなっていった。

設問 23B あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をすることがありますか。（SA）

図表 1-2-6-5 博物館・科学館・美術館などに行く



(参考) 前回調査結果



C キャンプやバーベキューに行く

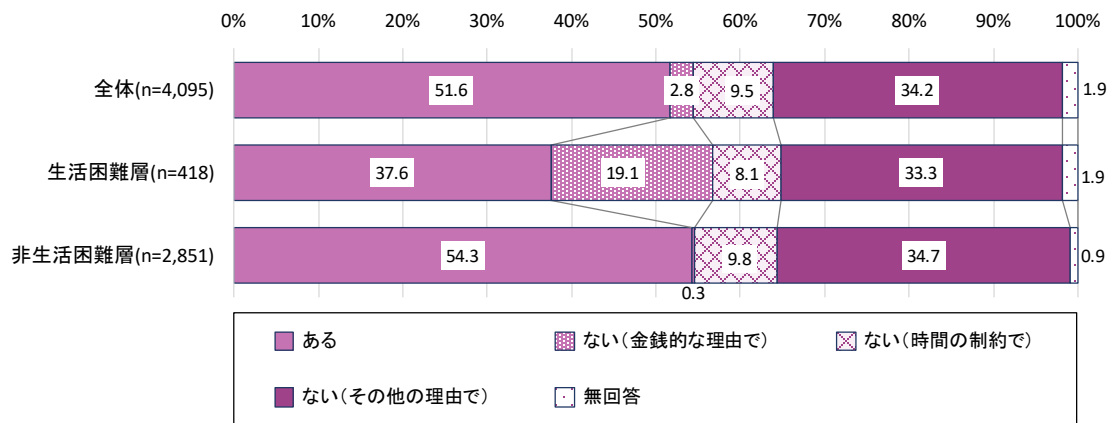
家庭で「キャンプやバーベキューに行く」ことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」の回答割合は、全体では51.6%、生活困難層では37.6%、非生活困難層では54.3%であった。

また、「ない（金銭的な理由で）」の回答割合は、全体では2.8%、生活困難層では19.1%、非生活困難層では0.3%であった。

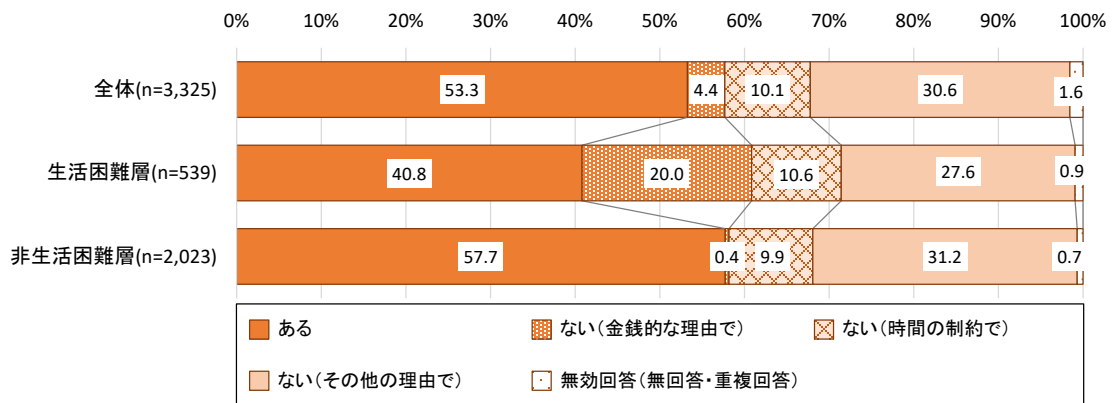
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「ある」の回答割合が低く、「ない（その他の理由で）」の回答割合が高くなっていった。また、「ない（金銭的な理由で）」の回答割合は低くなっていった。

設問 23C あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をすることがありますか。（SA）

図表 1-2-6-6 キャンプやバーベキューに行く



(参考) 前回調査結果



D スポーツ観戦や劇場に行く

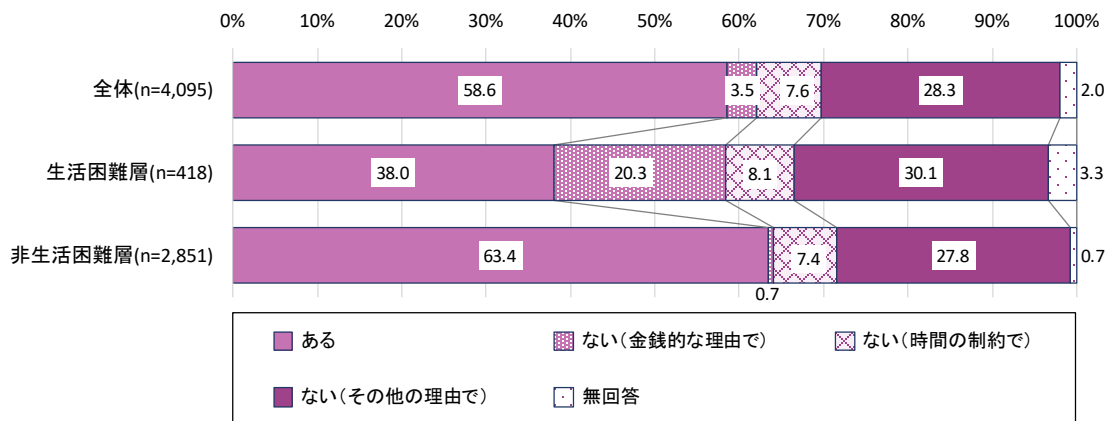
家庭で「スポーツ観戦や劇場に行く」ことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」の回答割合は、全体では58.6%、生活困難層では38.0%、非生活困難層では63.4%であった。

また、「ない（金銭的な理由で）」の回答割合は、全体では3.5%、生活困難層では20.3%、非生活困難層では0.7%であった。

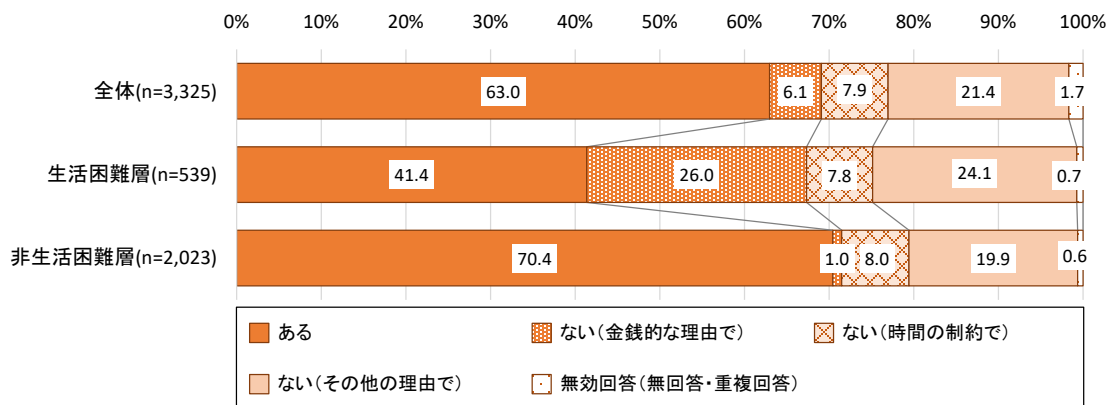
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「ある」の回答割合が低く、「ない（その他の理由で）」の回答割合が高くなっていった。また、「ない（金銭的な理由で）」の回答割合は低くなっていった。

設問 23D あなたの家庭では、お子さんと次のような体験をすることができますか。（SA）

図表 1-2-6-7 スポーツ観戦や劇場に行く



(参考) 前回調査結果



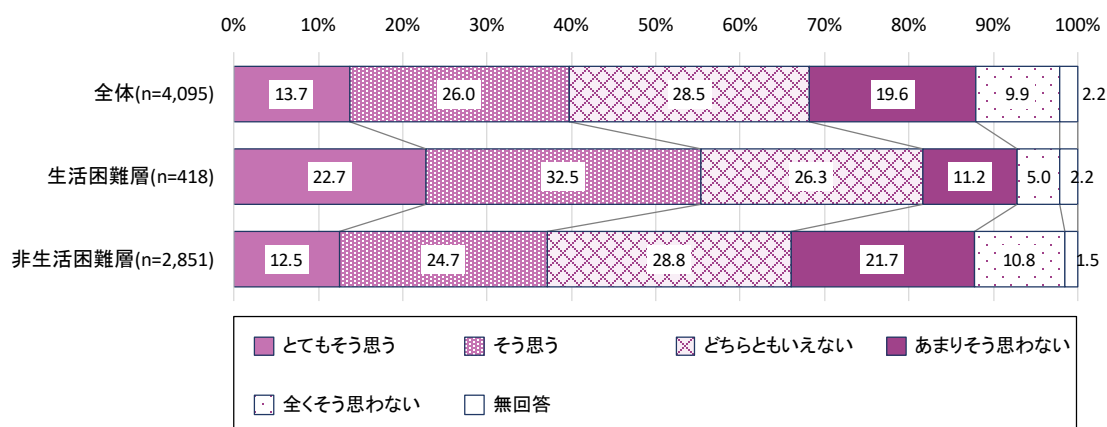
③新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によるお子さんへの影響

A お子さんの学力が低下した

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんの学力が低下した」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では39.7%、生活困難層では55.2%、非生活困難層では37.2%であった。

設問 24 A (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-8 お子さんの学力が低下した

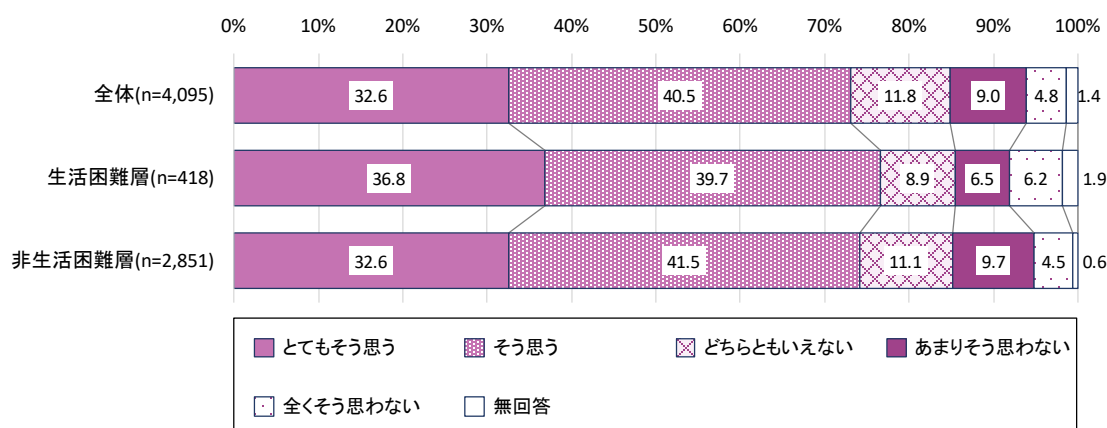


B お子さんの体力が低下した

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんの体力が低下した」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では73.1%であった¹⁹。

設問 24 B (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-9 お子さんの体力が低下した



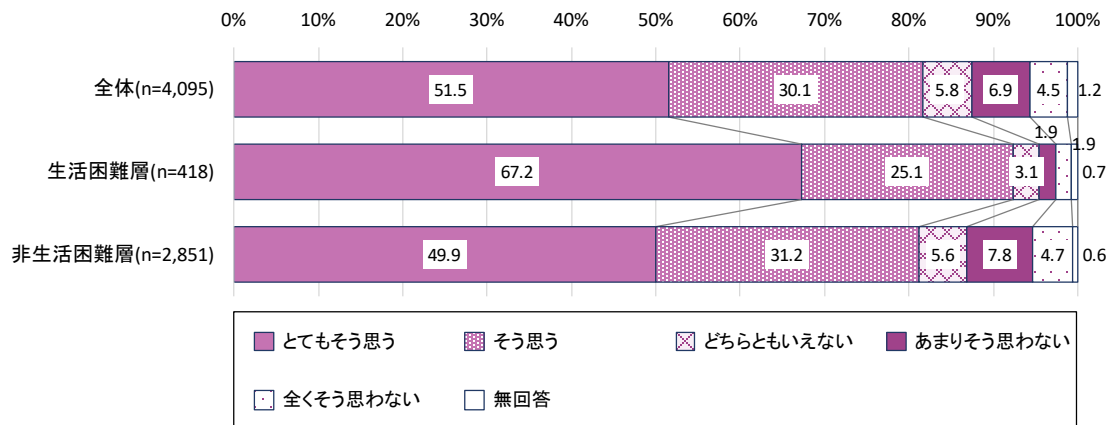
¹⁹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

C お子さんがゲームやスマホをみる時間が増えた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんがゲームやスマホをみる時間が増えた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では81.6%、生活困難層では92.3%、非生活困難層では81.1%であった。

設問 24C (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-10 お子さんがゲームやスマホをみる時間が増えた

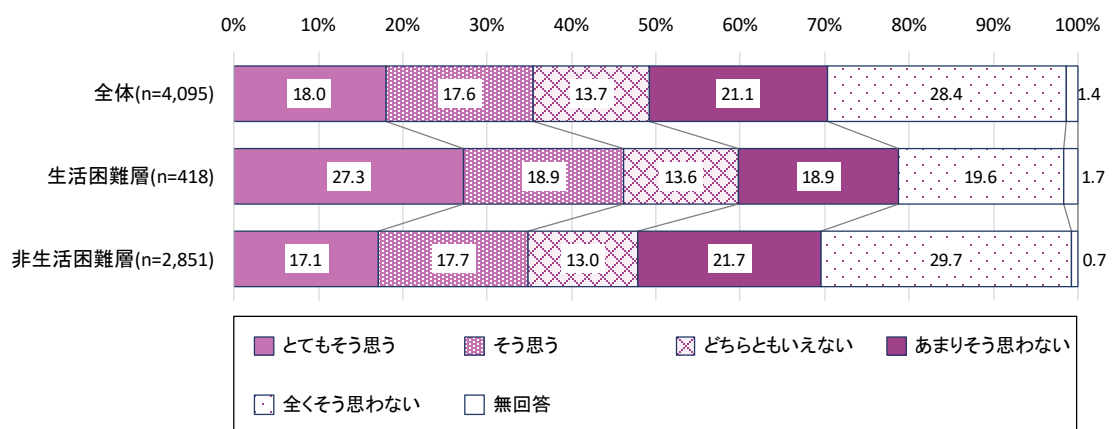


D お子さんが一人でいる時間が多すぎた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんが一人でいる時間が多すぎた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では35.6%、生活困難層では46.2%、非生活困難層では34.8%であった。

設問 24D (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-11 お子さんが一人でいる時間が多すぎた

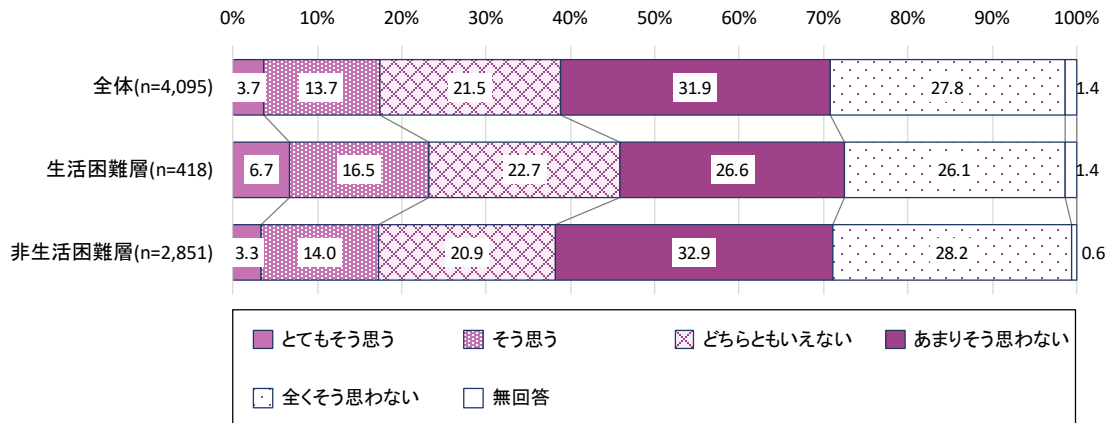


E お子さんが落ち込んだ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんが落ち込んだ」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では17.4%、生活困難層では23.2%、非生活困難層では17.3%であった。

設問 24 E (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-12 お子さんが落ち込んだ

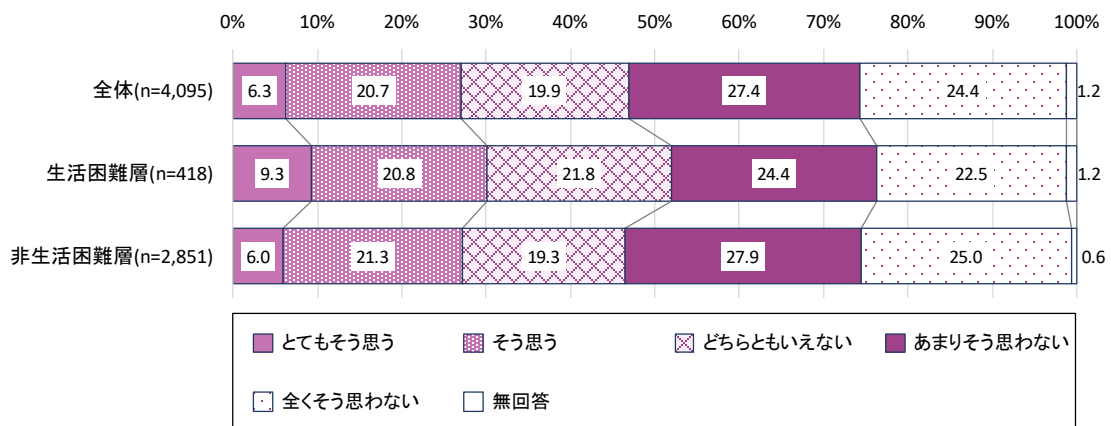


F お子さんが不安を感じていた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんが不安を感じていた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では27.0%であった²⁰。

設問 24 F (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-13 お子さんが不安を感じていた



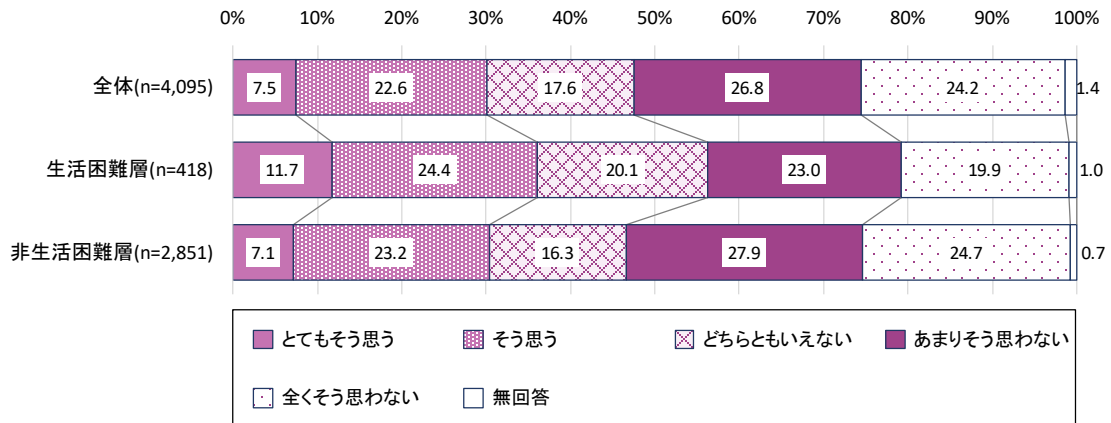
²⁰ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

G お子さんが寂しそうだった

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんが寂しそうだった」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では30.1%、生活困難層では36.1%、非生活困難層では30.3%であった。

設問 24G (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-14 お子さんが寂しそうだった

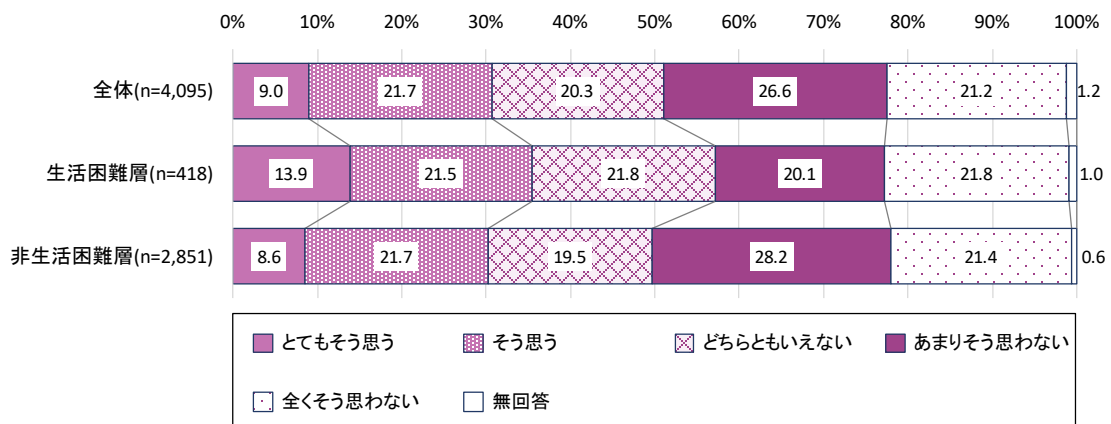


H お子さんがイライラしていた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんがイライラしていた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では30.7%、生活困難層では35.4%、非生活困難層では30.3%であった。

設問 24H (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-15 お子さんがイライラしていた

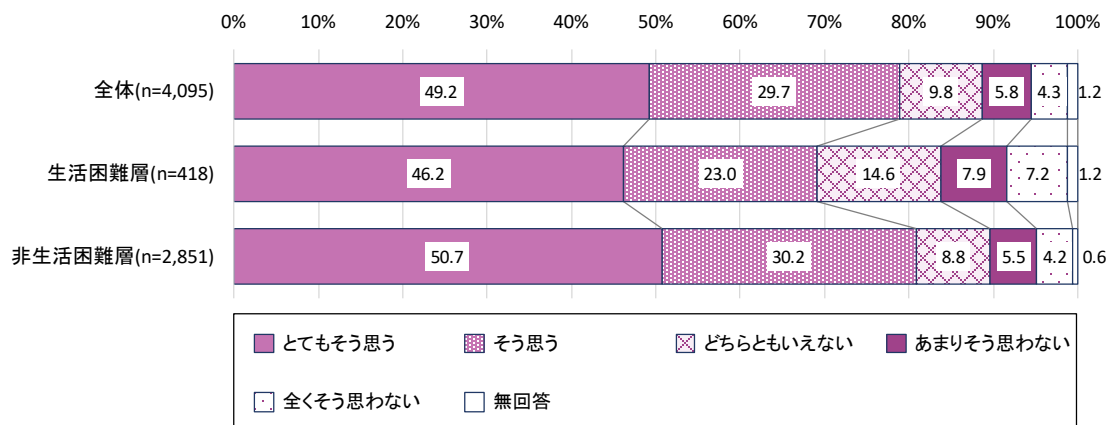


I お子さんと過ごす時間が増えた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんと過ごす時間が増えた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では78.9%、生活困難層では69.2%、非生活困難層では80.9%であった。

設問 24 I (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-16 お子さんと過ごす時間が増えた

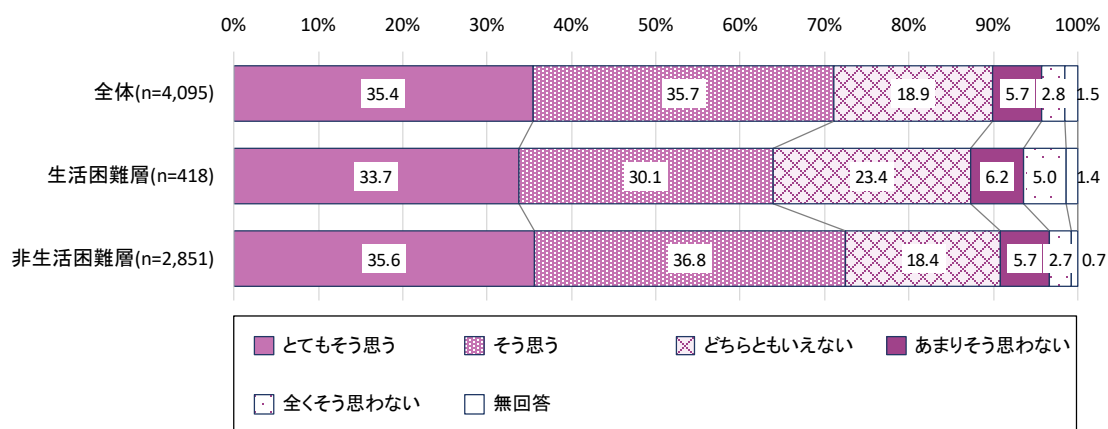


J お子さんと話す時間が増えた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんと話す時間が増えた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では71.1%、生活困難層では63.8%、非生活困難層では72.4%であった。

設問 24 J (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-17 お子さんと話す時間が増えた

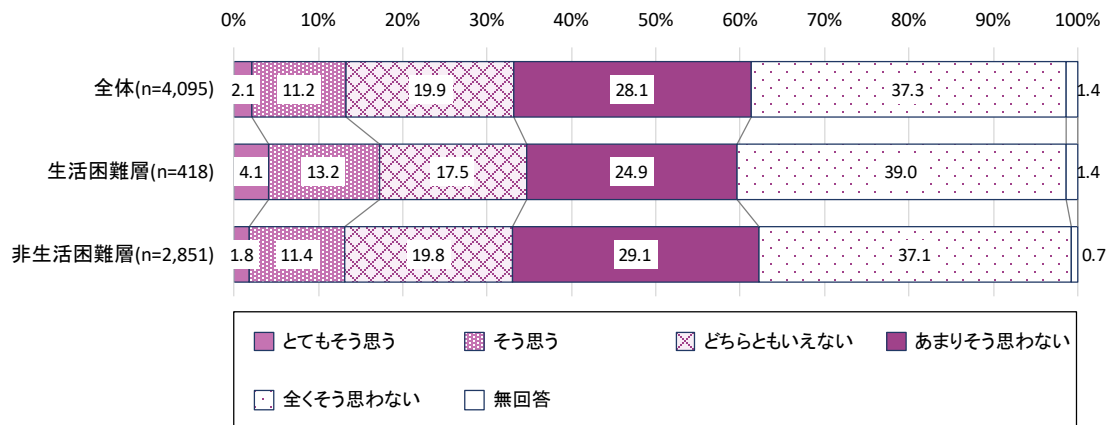


K お子さんに手をあげたり、きつくしかったりした

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんに手をあげたり、きつくしかったりした」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では13.3%、生活困難層では17.3%、非生活困難層では13.2%であった。

設問 24K (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-18 お子さんに手をあげたり、きつくしかったりした

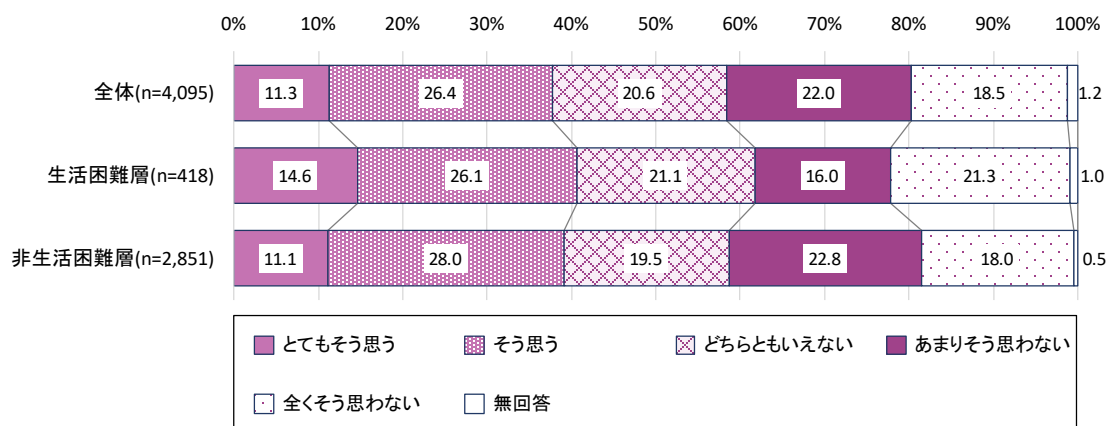


L 家庭内でのストレスが高まった

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「家庭内でのストレスが高まった」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では37.7%、生活困難層では40.7%、非生活困難層では39.1%であった。

設問 24L (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-19 家庭内でのストレスが高まった

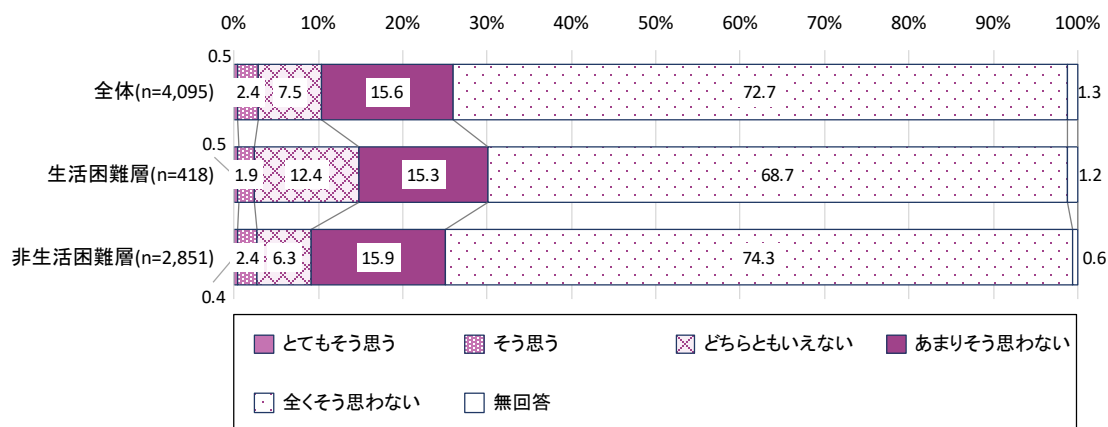


M 家庭内で暴力が増えた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「家庭内で暴力が増えた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では2.9%、生活困難層では2.4%、非生活困難層では2.8%であった。また、「全くそう思わない」の回答割合は、全体では72.7%、生活困難層では68.7%、非生活困難層では74.3%であった。

設問 24M(新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、公立小学校は臨時休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 1-2-6-20 家庭内で暴力が増えた



(7)生活の様子に関すること

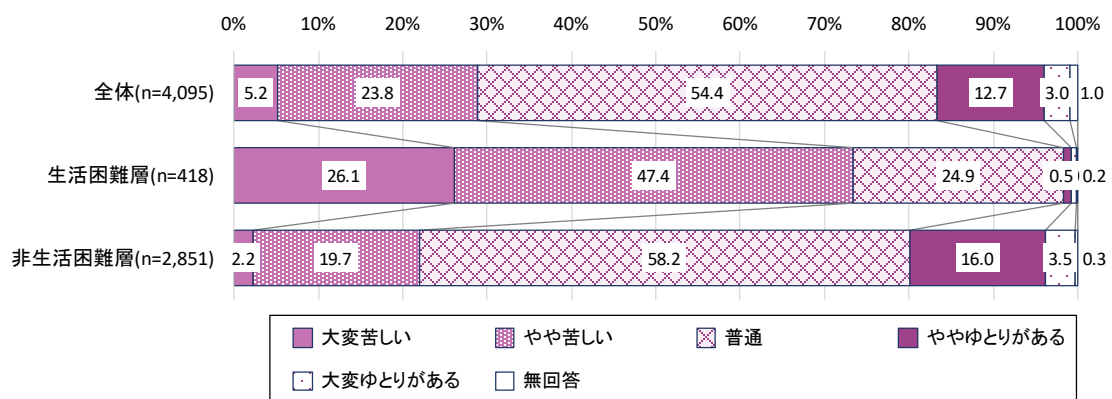
①現在の暮らしの状況に関する認識

「現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか」という設問に対して、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた回答割合は、全体では29.0%、生活困難層では73.5%、非生活困難層では21.9%であった。

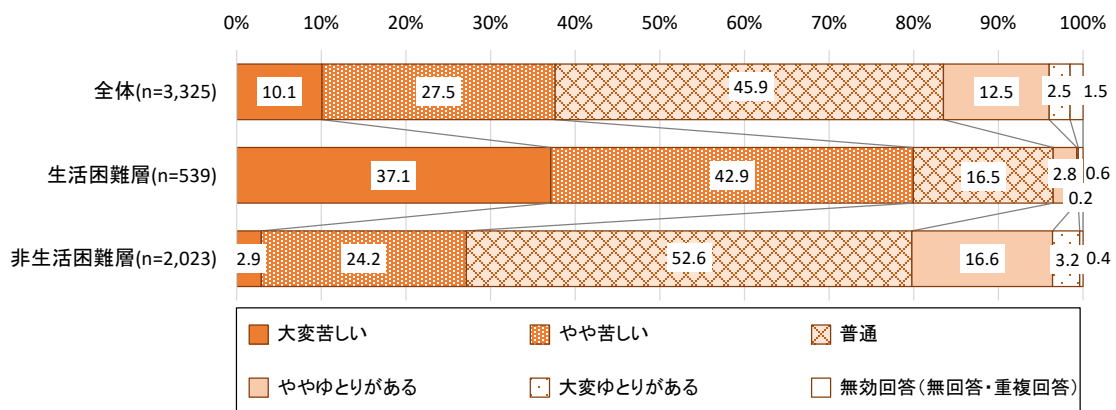
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「大変苦しい」「やや苦しい」の回答割合が低くなっていった。

設問 25 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。（SA）

図表 1-2-7-1 暮らし向きに対する認識



(参考) 前回調査結果



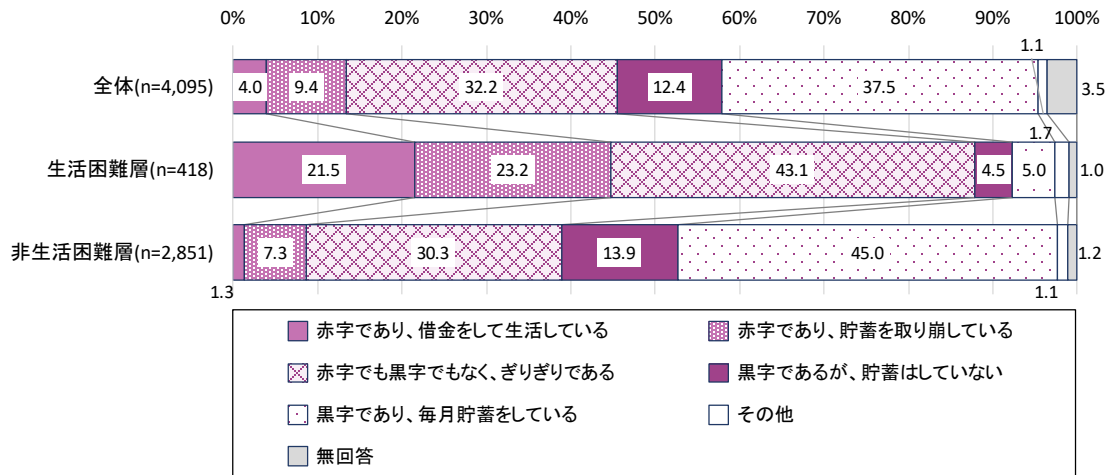
②家計の状況

家計の状況について尋ねた設問に対して、「赤字であり、借金をして生活している」と「赤字であり、貯蓄を取り崩している」を合わせた回答割合は、全体では13.4%、生活困難層では44.7%、非生活困難層では8.6%であった。

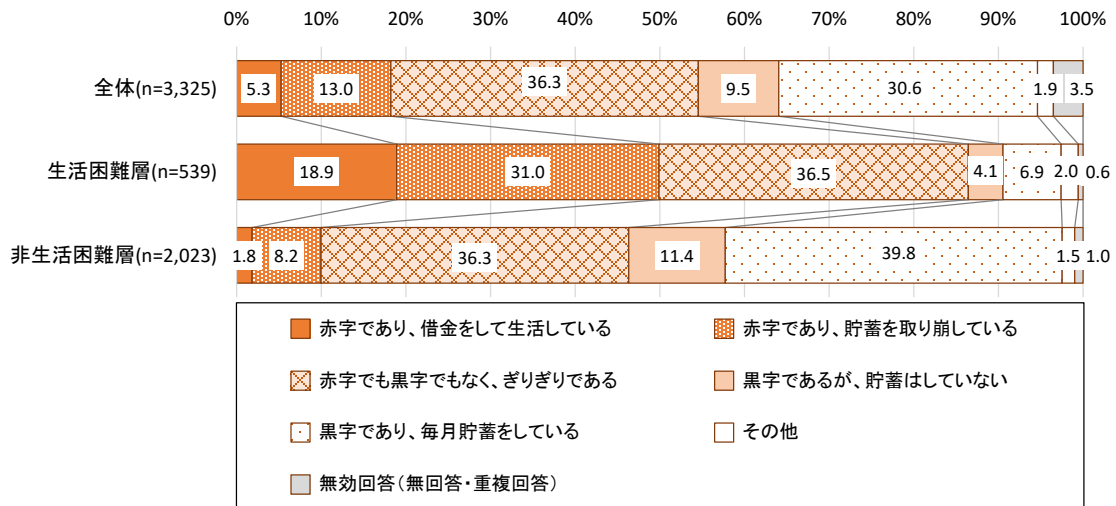
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「黒字であるが、貯蓄はしていない」「黒字であり、毎月貯蓄をしている」の回答割合が高くなっていった。

設問 26 ご家庭の家計について、もっとも近いものをお答えください。（SA）

図表 1-2-7-2 家計の状況



(参考) 前回調査結果



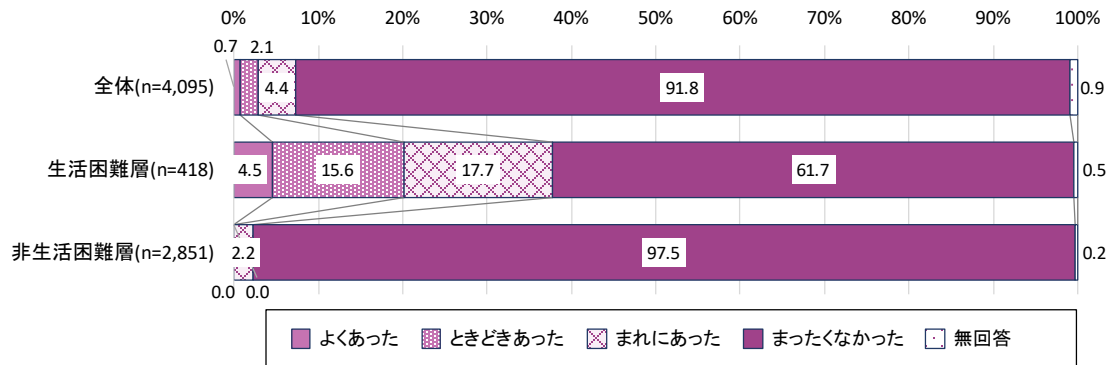
③食料が買えなかった経験²¹

「過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか」という設問について、「よくあった」「ときどきあった」という回答の割合を合わせると、全体では2.8%、生活困難層では20.1%であった。

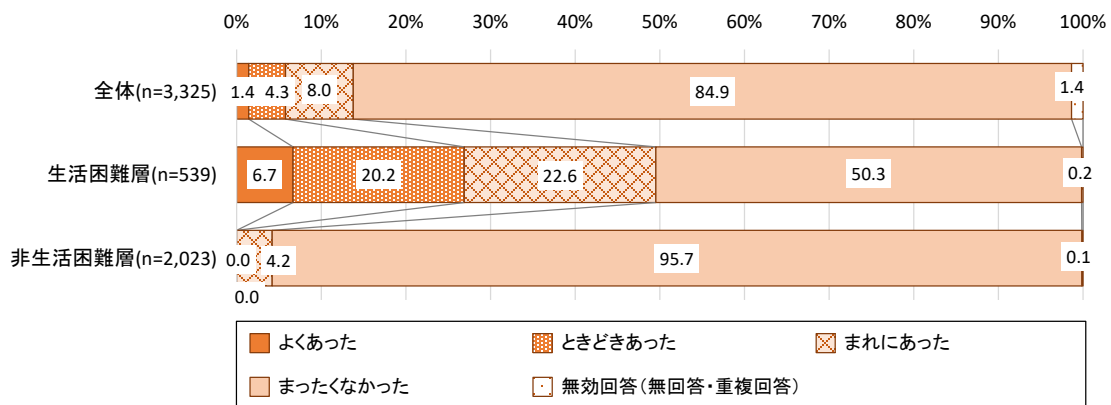
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「まったくなかった」の回答割合が高くなっていった。

設問 27 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。（SA）

図表 1-2-7-3 食料が買えなかった経験の有無



(参考) 前回調査結果



²¹ 食料が買えなかった経験は、生活困難層を定義するための要素のひとつであるため、「よくあった」「ときどきあった」の回答割合は、必然的に生活困難層において高くなり、非生活困難層では0%になっている。

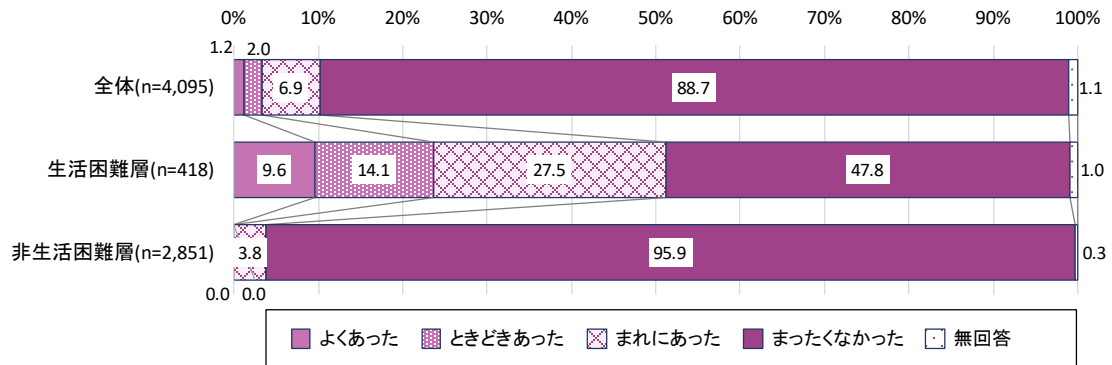
④衣類が買えなかった経験²²

「過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類が買えないことがありましたか」という設問について、「よくあった」「ときどきあった」という回答の割合を合わせると、全体では3.2%、生活困難層では23.7%であった。

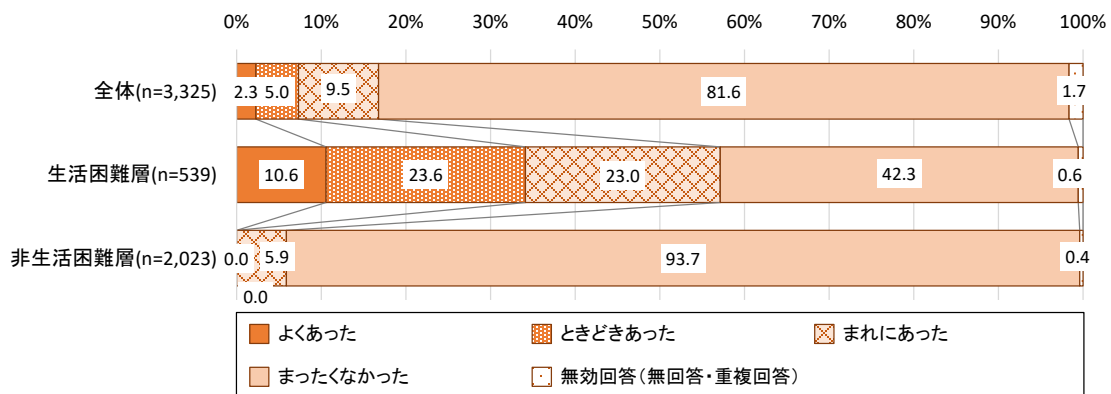
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「まったくなかった」の回答割合が高くなっていった。

設問 28 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類が買えないことがありましたか。（SA）

図表 1-2-7-4 衣類が買えなかった経験の有無



(参考) 前回調査結果



²² 衣類が買えなかった経験は、生活困難層を定義するための要素のひとつであるため、「よくあった」「ときどきあった」の回答割合は、必然的に生活困難層において高くなり、非生活困難層では0%になっている。

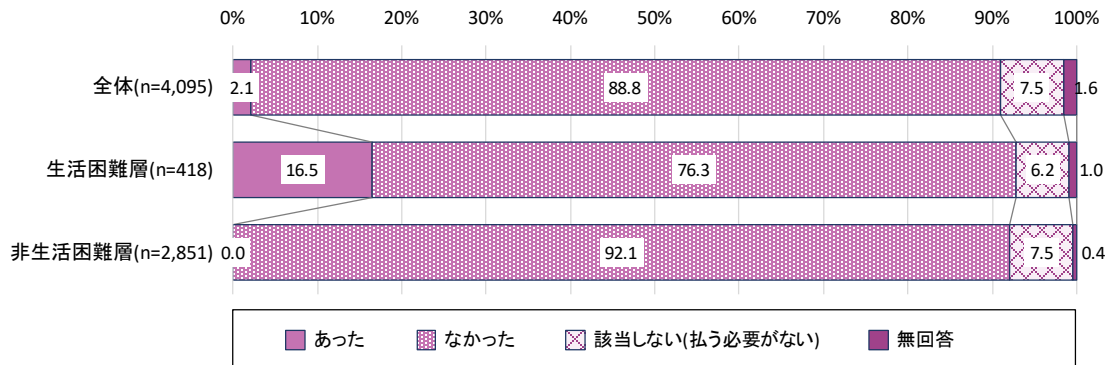
⑤公共料金等不払いの経験²³

A 電話料金

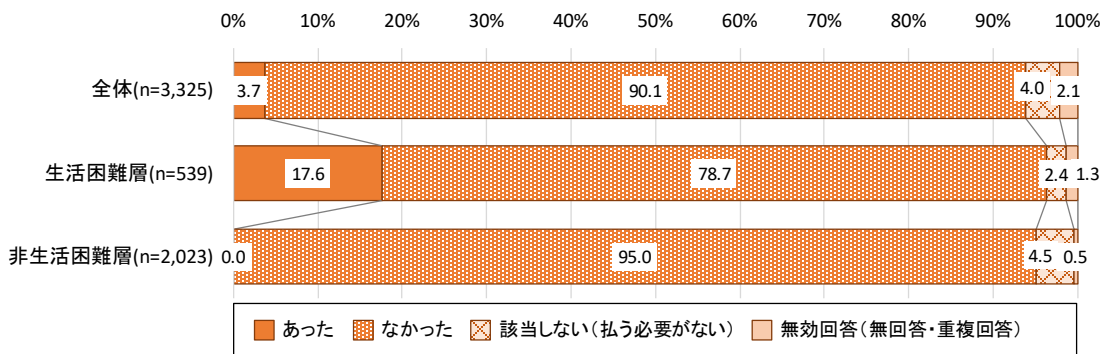
公共料金等の不払いの経験を尋ねた設問に対して、過去1年間に、経済的な理由により「電話料金」が払えなかったことが「あった」という回答割合は、全体では2.1%、生活困難層では16.5%であった。全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あった」の回答割合が低くなっていた。

設問 29A あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Gを支払えないことがありましたか。（SA）

図表 1-2-7-5 電話料金



(参考) 前回調査結果



²³ 「電話料金」「電気料金」「ガス料金」「水道料金」「家賃」については、生活困難層を定義するための要素のひとつとして、それぞれ「あった」の回答割合は、必然的に生活困難層において高く、非生活困難層では0%になっている。

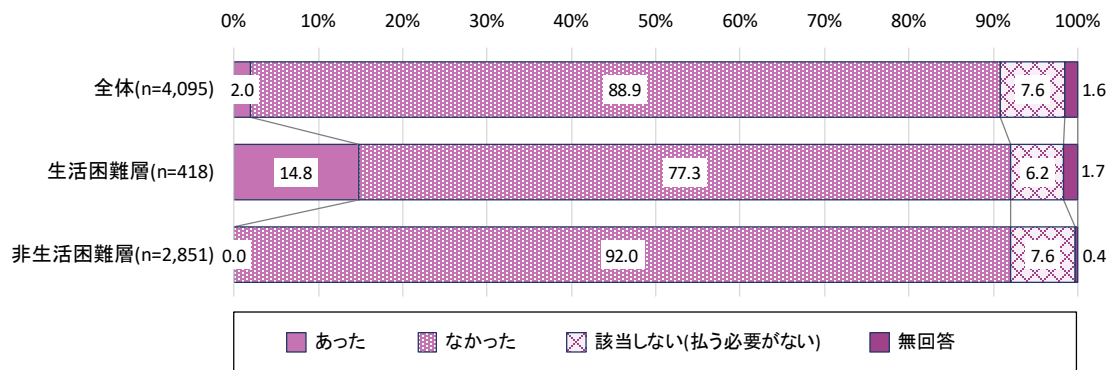
B 電気料金

公共料金等の不払いの経験を尋ねた設問に対して、過去1年間に、経済的な理由により「電気料金」が払えなかったことが「あった」という回答割合は、全体では2.0%、生活困難層では14.8%であった。

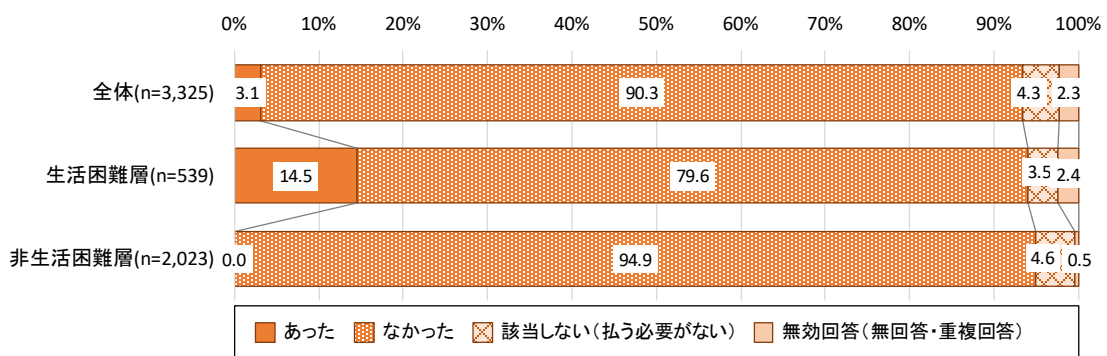
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あった」の回答割合が低くなっていた。

設問 29B あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Gを支払えないことがありましたか。（SA）

図表 1-2-7-6 電気料金



(参考) 前回調査結果



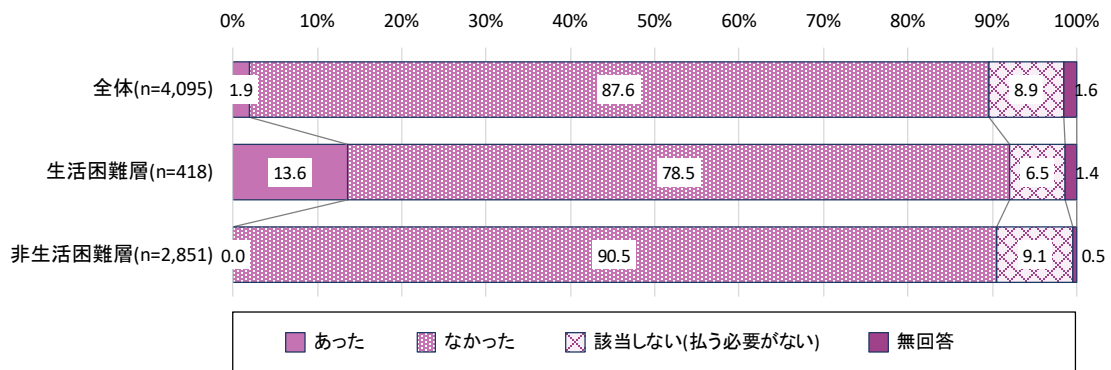
C ガス料金

公共料金等の不払いの経験を尋ねた設問に対して、過去1年間に、経済的な理由により「ガス料金」が払えなかったことが「あった」という回答割合は、全体では1.9%、生活困難層では13.6%であった。

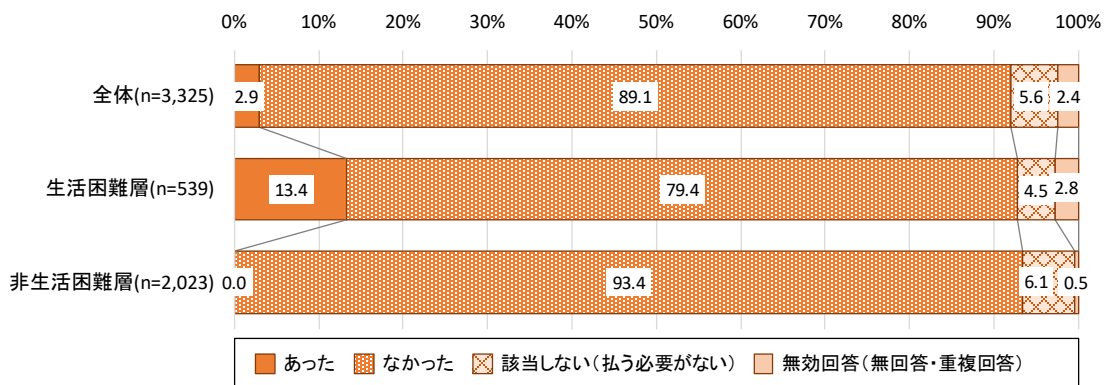
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あった」の回答割合が低くなっていた。

設問 29C あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Gを支払えないことがありましたか。（SA）

図表 1-2-7-7 ガス料金



(参考) 前回調査結果



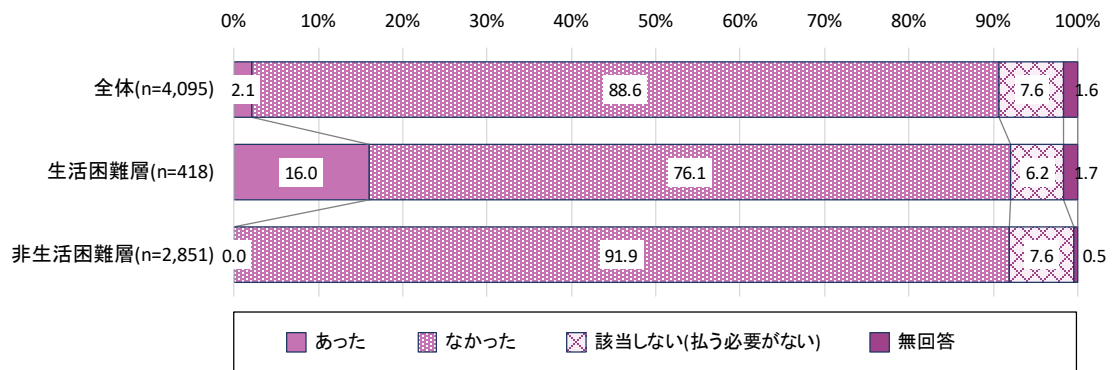
D 水道料金

公共料金等の不払いの経験を尋ねた設問に対して、過去1年間に、経済的な理由により「水道料金」が払えなかったことが「あった」という回答割合は、全体では2.1%、生活困難層では16.0%であった。

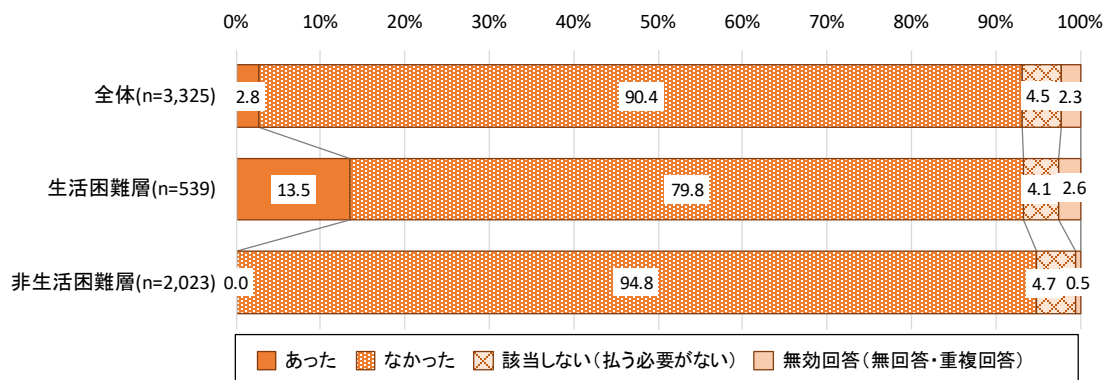
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あった」の回答割合が低くなっていた。

設問 29D あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Gを支払えないことがありましたか。（SA）

図表 1-2-7-8 水道料金



(参考) 前回調査結果

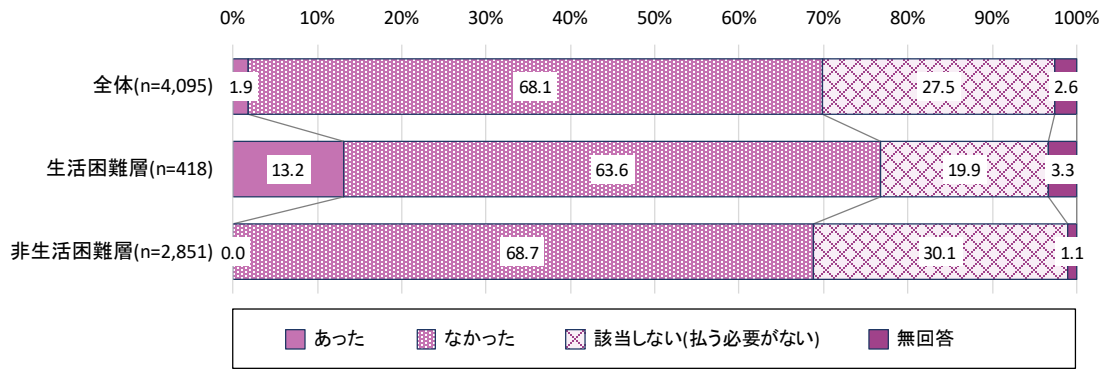


E 家賃

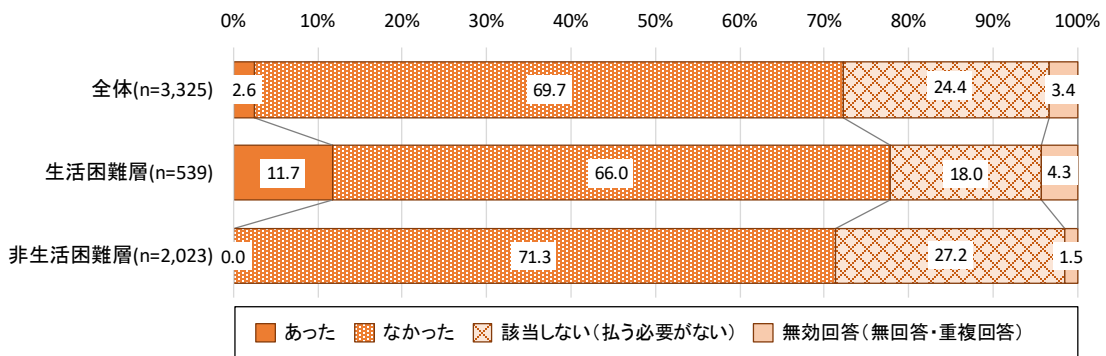
公共料金等の不払いの経験を尋ねた設問に対して、過去1年間に、経済的な理由により「家賃」が払えなかったことが「あった」という回答割合は、全体では1.9%、生活困難層では13.2%であった。全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あった」の回答割合が低くなっていた。

設問 29E あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Gを支払えないことがありましたか。（SA）

図表 1-2-7-9 家賃



(参考) 前回調査結果



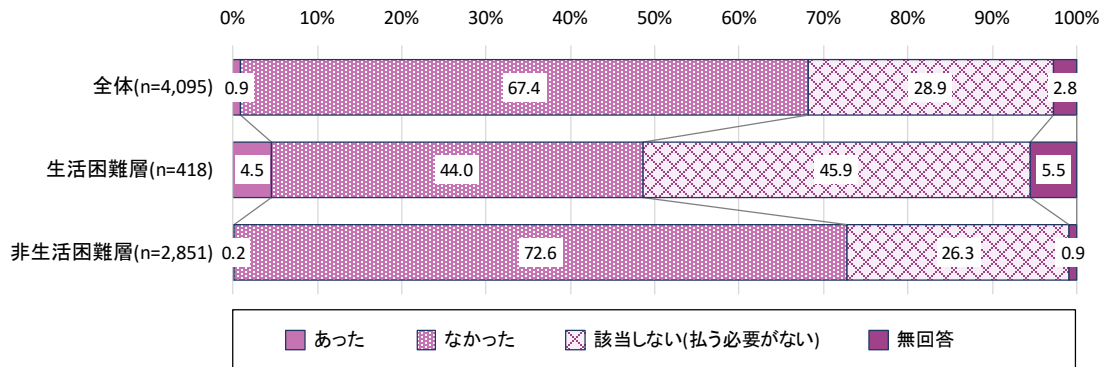
F 住宅ローン

公共料金等の不払いの経験を尋ねた設問に対して、過去1年間に、経済的な理由により「住宅ローン」が払えなかったことが「あった」という回答割合は、全体では0.9%、生活困難層では4.5%、非生活困難層では0.2%であった。

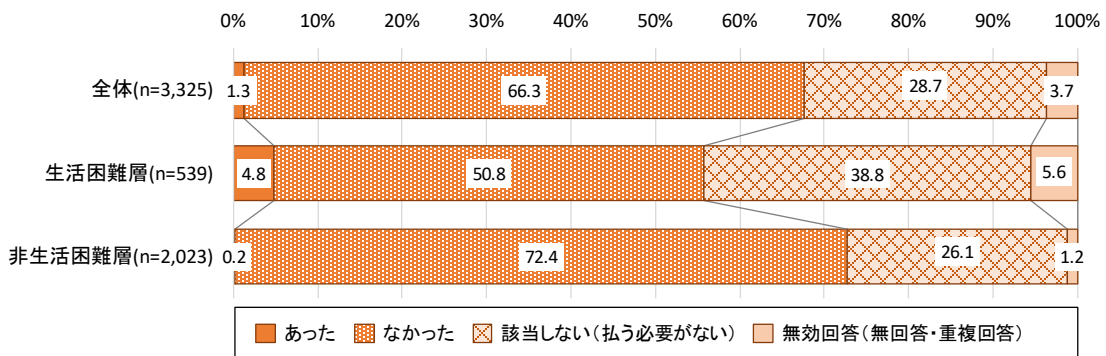
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あった」の回答割合が低くなっていた。

設問 29 F あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Gを支払えないことがありましたか。（SA）

図表 1-2-7-10 住宅ローン



(参考) 前回調査結果



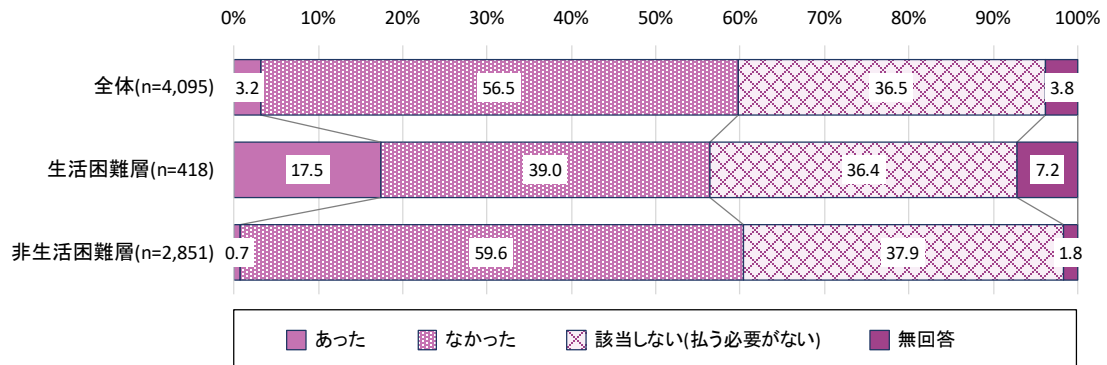
G その他の債務

公共料金等の不払いの経験を尋ねた設問に対して、過去1年間に、経済的な理由により「その他の債務」が払えなかったことが「あった」という回答割合は、全体では3.2%、生活困難層では17.5%、非生活困難層では0.7%であった。

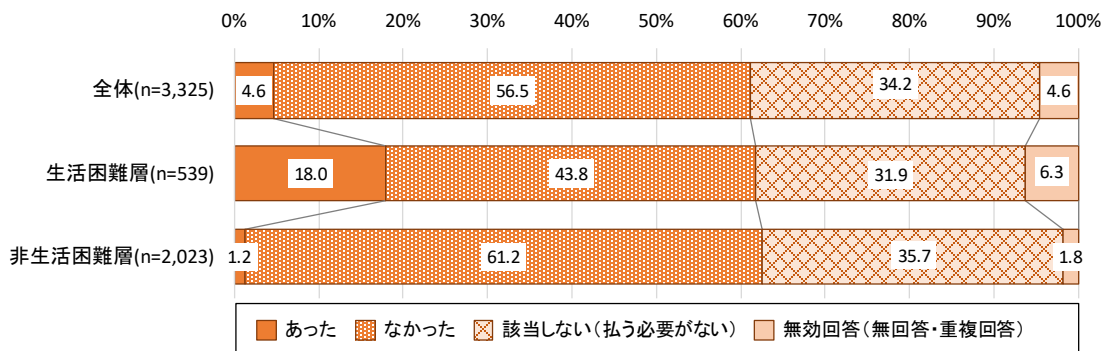
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あった」の回答割合が低くなっていた。

設問 29G あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Gを支払えないことがありましたか。（SA）

図表 1-2-7-11 その他の債務



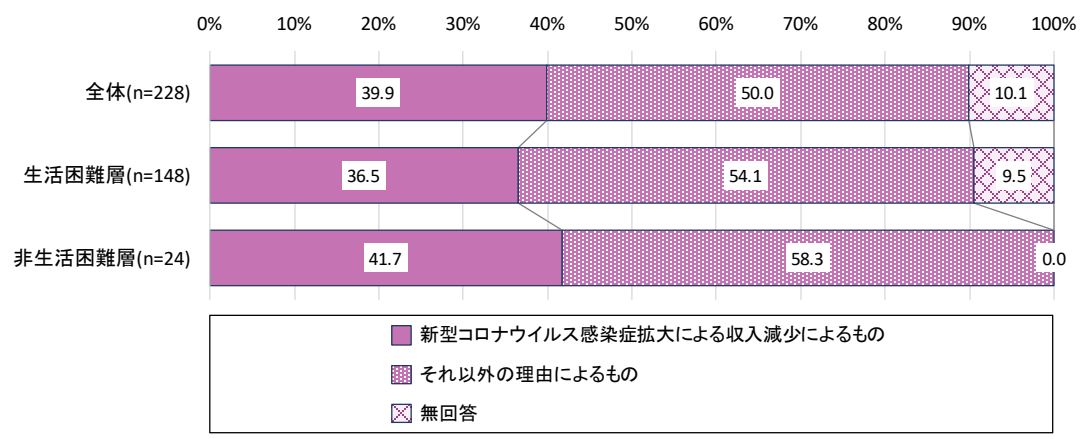
(参考) 前回調査結果



上記のような公共料金等について過去1年間に経済的な理由で支払えないことがあったと回答した方に、その理由を尋ねた設問に対して、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う収入減少によるもの」という回答割合は、全体で39.9%であった²⁴。

設問 29-1(新設) 上記のような料金等が支払えないことがあったのは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う収入減少によるものですか。(SA)

図表 1-2-7-12 公共料金等不払いの理由



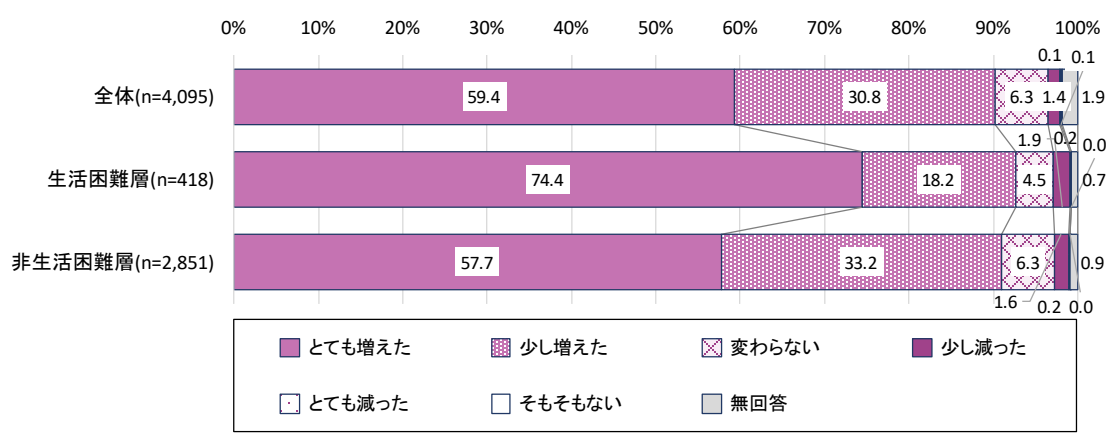
⑥新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化

A 食費

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化のうち、「食費」の増減について尋ねたところ、「とても増えた」と「少し増えた」という回答を合わせた割合は、全体では90.2%であった。また、「とても増えた」という回答の割合は、生活困難層では74.4%、非生活困難層では57.7%であった。

設問 30A 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によるあなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-2-7-13 食費



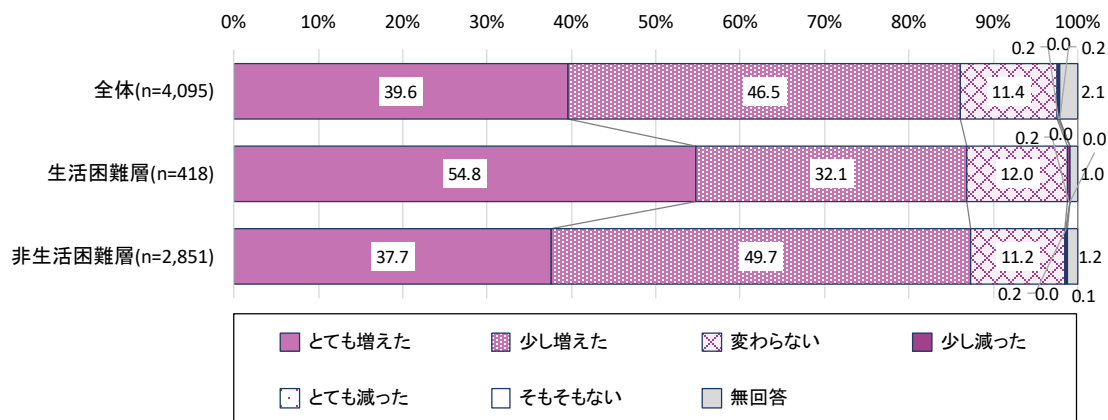
²⁴ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

B 水道光熱費

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化のうち、「水道光熱費」の増減を尋ねたところ、「とても増えた」と「少し増えた」という回答を合わせた割合は、全体では86.1%であった。また、「とても増えた」という回答の割合は、生活困難層では54.8%、非生活困難層では37.7%であった。

設問 30B 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によるあなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-2-7-14 水道光熱費

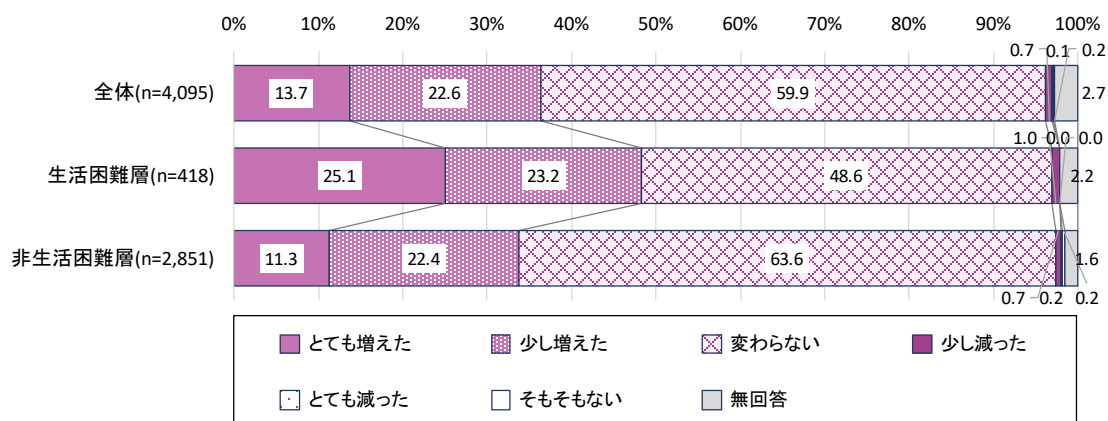


C 通信費

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化のうち、「通信費」の増減を尋ねたところ、「とても増えた」と「少し増えた」という回答を合わせた割合は、全体では36.3%、生活困難層では48.3%、非生活困難層では33.7%であった。

設問 30C 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によるあなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-2-7-15 通信費

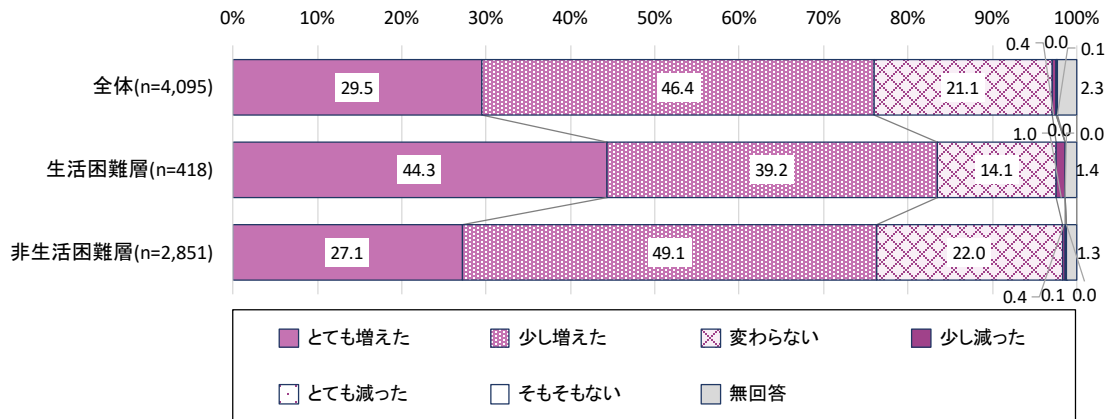


D 日用品費（衛生用品含む）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化のうち、「日用品費（衛生用品含む）」の増減を尋ねたところ、「とても増えた」と「少し増えた」という回答を合わせた割合は、全体では75.9%であった。また、「とても増えた」という回答の割合は、生活困難層では44.3%、非生活困難層では27.1%であった。

設問 30D 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による
あなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。（SA）

図表 1-2-7-16 日用品費（衛生用品含む）

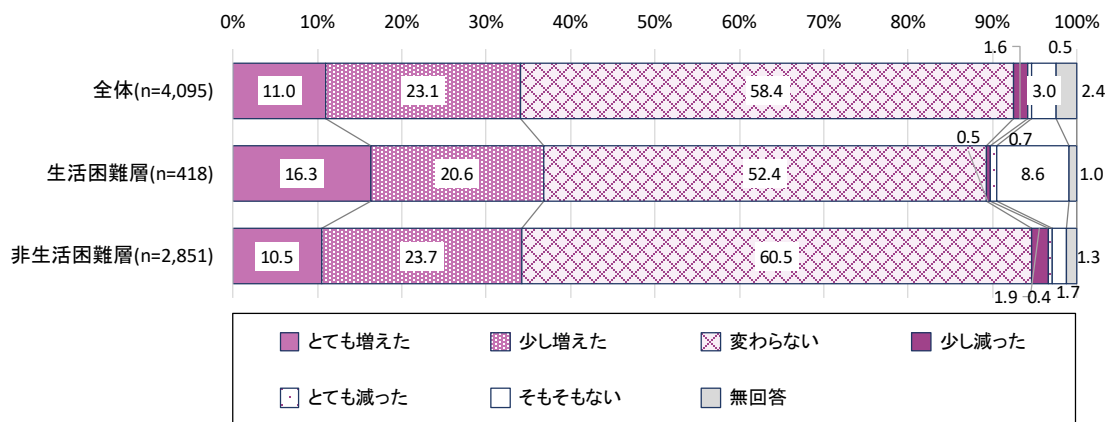


E 子どもの教材費（オンライン教材含む）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化のうち、「子どもの教材費（オンライン教材含む）」の増減を尋ねたところ、「とても増えた」と「少し増えた」という回答を合わせた割合は、全体では24.1%であった。また、「とても増えた」という回答の割合は、生活困難層では16.3%、非生活困難層では10.5%であった。

設問 30E 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による
あなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。（SA）

図表 1-2-7-17 子どもの教材費（オンライン教材含む）

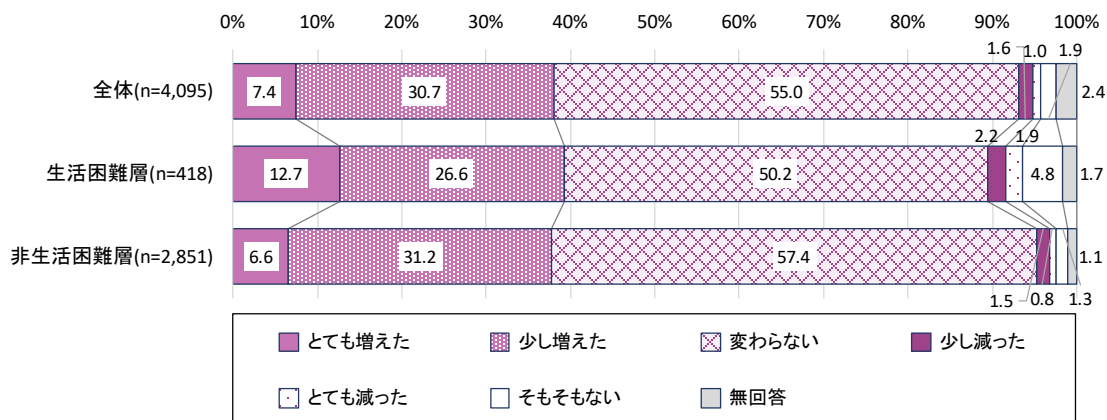


F 子どもの遊具費

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化のうち、「子どもの遊具費」の増減を尋ねたところ、「とても増えた」と「少し増えた」という回答を合わせた割合は、全体では38.1%であった。また、「とても増えた」という回答の割合は、生活困難層では12.7%、非生活困難層では6.6%であった。

設問 30F 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によるあなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-2-7-18 子どもの遊具費

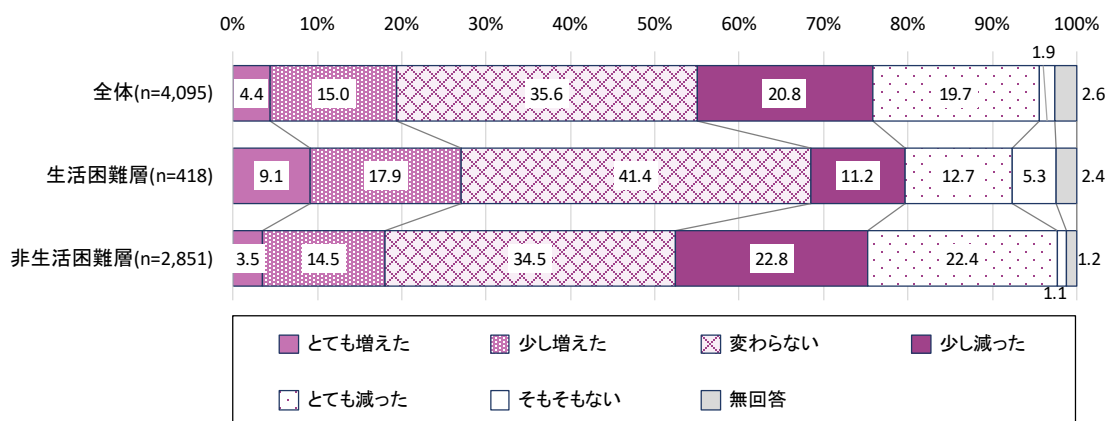


G 娯楽費

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化のうち、「娯楽費」の増減を尋ねたところ、「とても増えた」と「少し増えた」という回答を合わせた割合は、全体では19.4%、生活困難層では27.0%、非生活困難層では18.0%であった。

設問 30G 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によるあなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-2-7-19 娯楽費

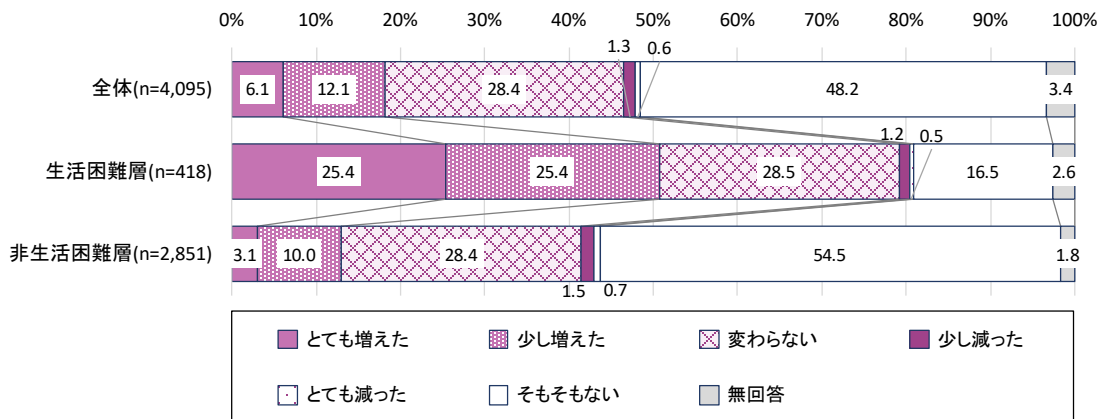


H 赤字

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化のうち、「赤字」の増減を尋ねたところ、「とても増えた」と「少し増えた」という回答を合わせた割合は、全体では18.2%、生活困難層では50.8%、非生活困難層では13.1%であった。

設問 30 H 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によるあなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-2-7-20 赤字

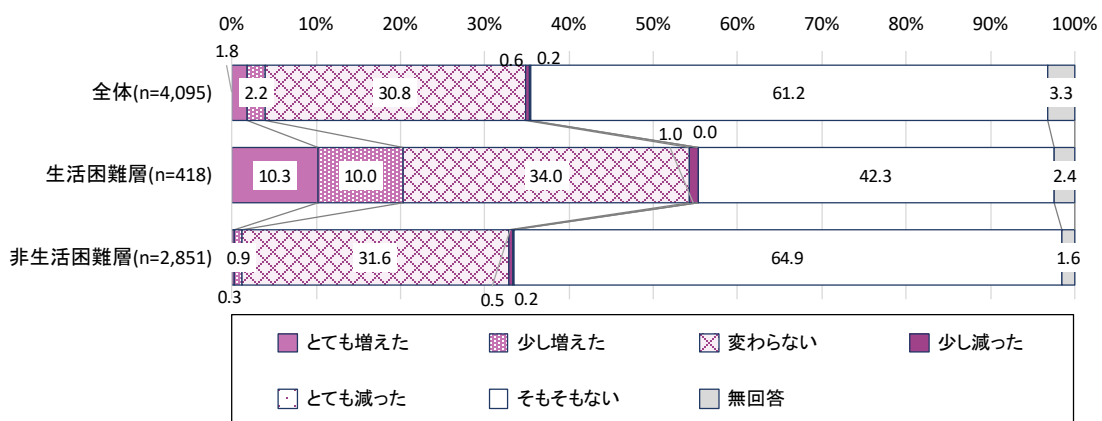


I 借金

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業による家計の変化のうち、「借金」の増減を尋ねたところ、「とても増えた」と「少し増えた」という回答を合わせた割合は、全体では4.0%、生活困難層では20.3%、非生活困難層では1.2%であった。

設問 30 I 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によるあなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-2-7-21 借金



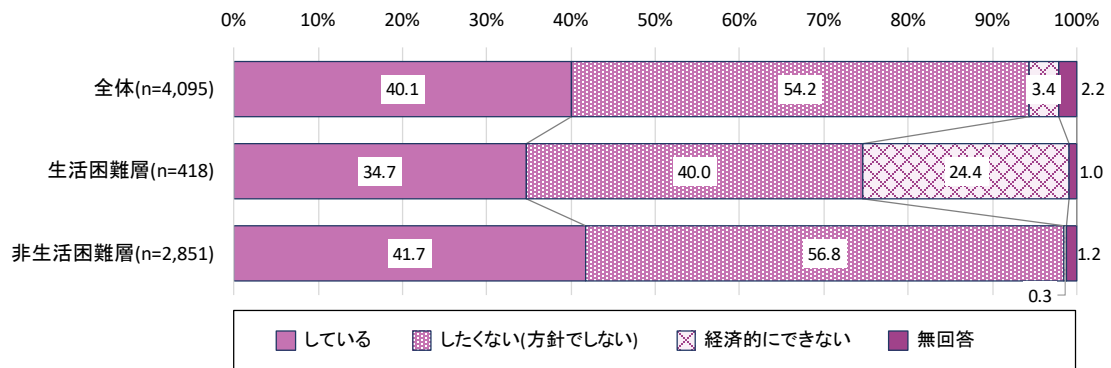
⑥子どもに関する消費²⁵

A 毎月おこづかいを渡す

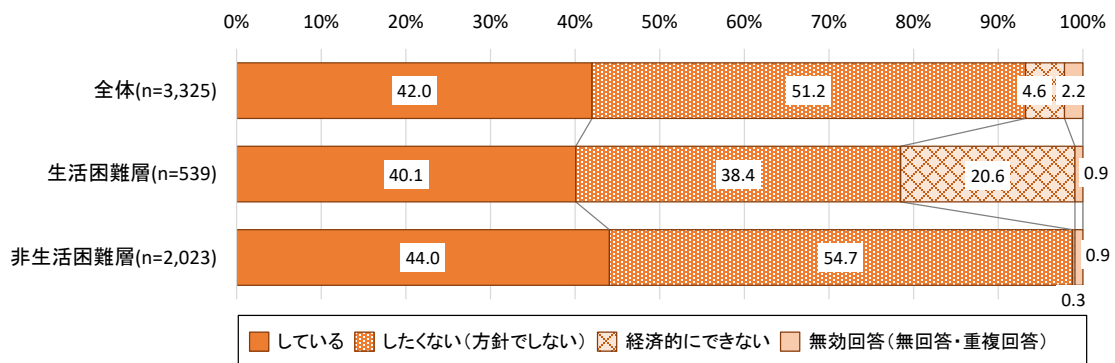
子どもに「毎月のおこづかいを渡す」ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、全体では3.4%、生活困難層では24.4%、非生活困難層では0.3%であった。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「経済的にできない」の回答割合が低くなっていた。

設問 31A あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。（SA）

図表 1-2-7-22 毎月おこづかいを渡す



(参考) 前回調査結果



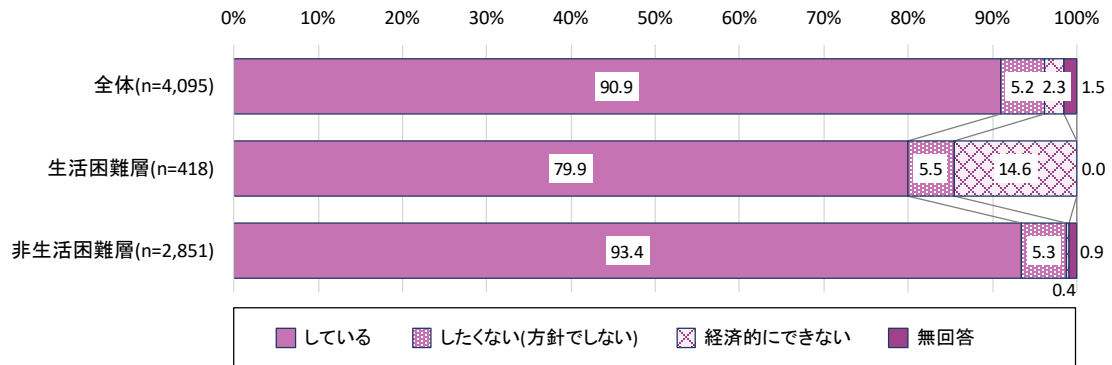
²⁵ 「毎月おこづかいを渡す」「毎年新しい洋服・靴を買う」「習い事（音楽・スポーツ・習字など）に通わせる」「学習塾に通わせる」「1年に1回程度家族旅行に行く」「クリスマスのプレゼントをあげる」「正月のお年玉をあげる」については、生活困難層を定義するための構成要素であるため、各項目において「経済的にできない」の回答割合が必然的に生活困難層において高く、非生活困難層では低くなっている。

B 毎年新しい洋服・靴を買う

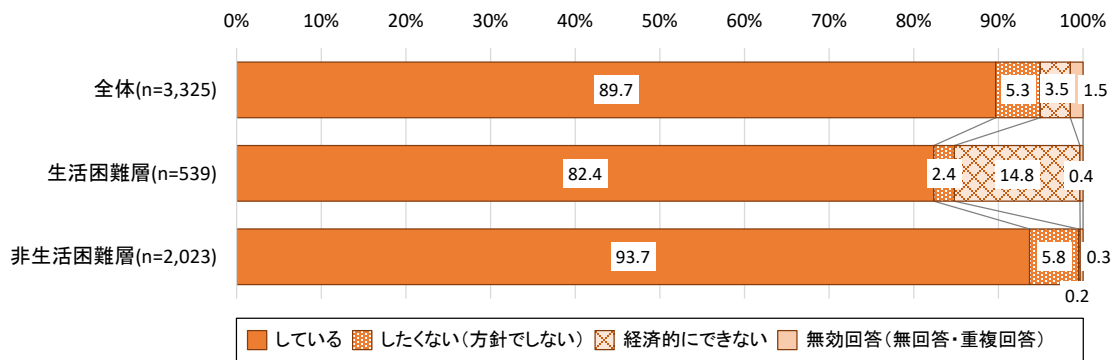
子どもに「毎年新しい洋服・靴を買う」ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、全体では2.3%、生活困難層では14.6%、非生活困難層では0.4%であった。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「経済的にできない」の回答割合が低くなっていた。

設問 31B あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。（SA）

図表 1-2-7-23 毎年新しい洋服・靴を買う



(参考) 前回調査結果

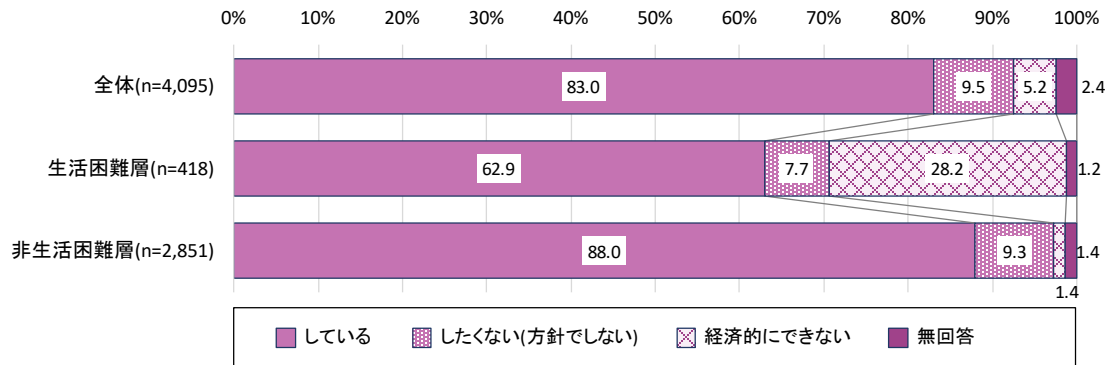


C 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる

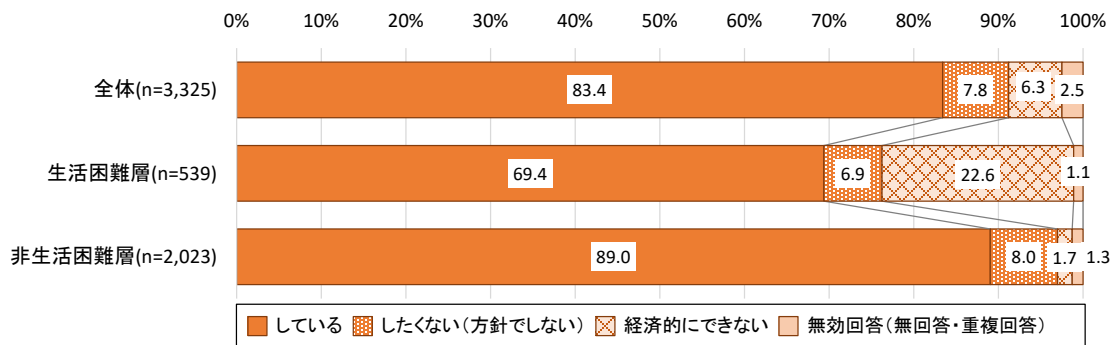
子どもに「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる」ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、全体では5.2%、生活困難層では28.2%、非生活困難層では1.4%であった。
 全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「経済的にできない」の回答割合が低くなっていた。

設問 31C あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(SA)

図表 1-2-7-24 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる



(参考) 前回調査結果



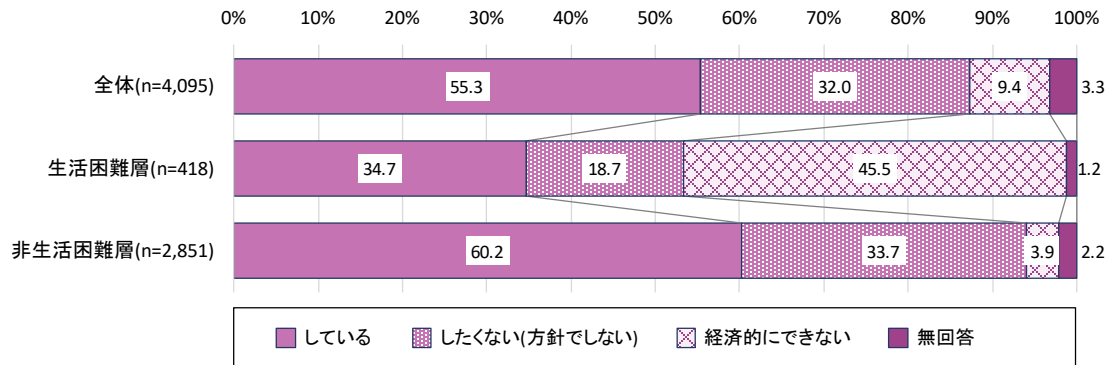
D 学習塾に通わせる

子どもに「学習塾に通わせる」ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、全体では9.4%、生活困難層では45.5%、非生活困難層では3.9%であった。

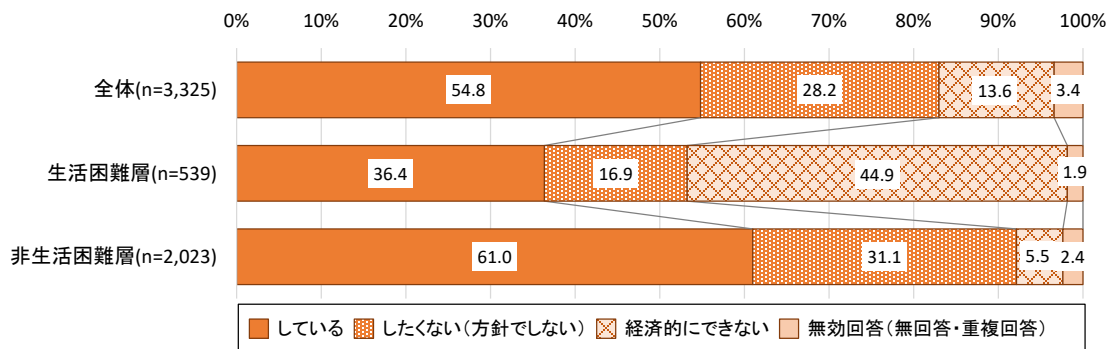
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「経済的にできない」の回答割合が低くなっていた。

設問 31D あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。（SA）

図表 1-2-7-25 学習塾に通わせる



(参考) 前回調査結果

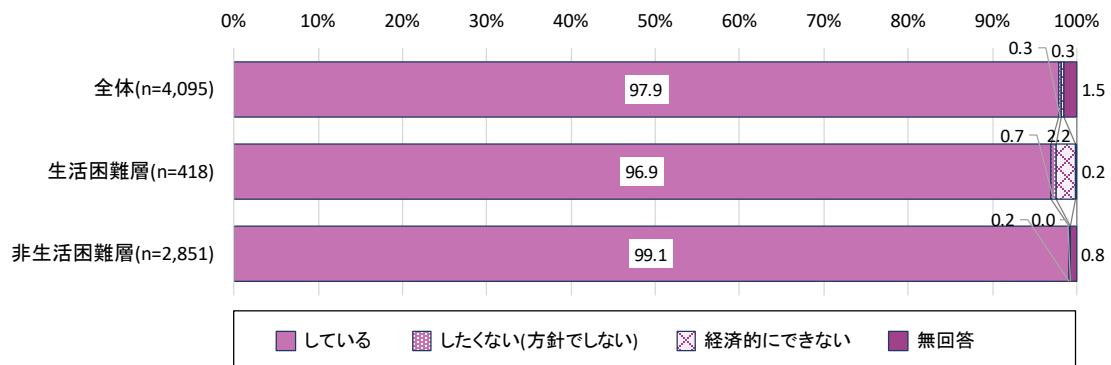


E お誕生日のお祝いをする

子どもに「お誕生日のお祝いをする」ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、全体では0.3%、生活困難層では2.2%、非生活困難層では0.0%であった。

設問 31E あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。（SA）

図表 1-2-7-26 お誕生日のお祝いをする

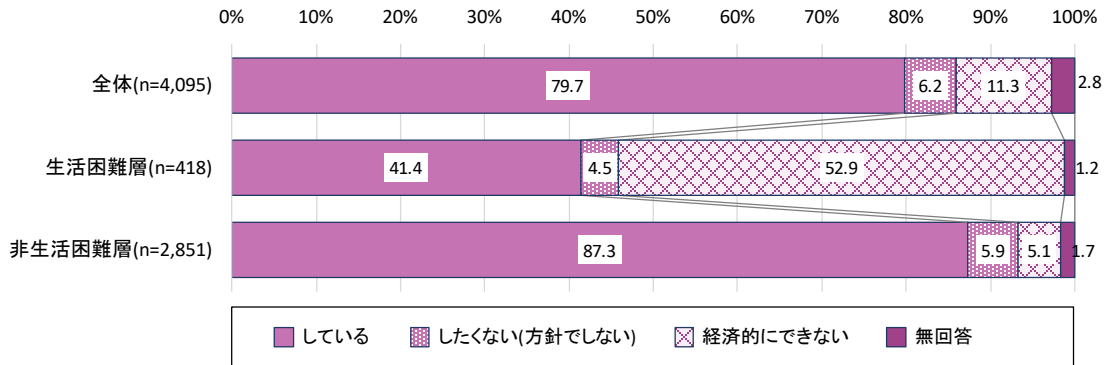


F 1年に1回程度家族旅行に行く

子どもと「1年に1回程度家族旅行に行く」ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、全体では11.3%、生活困難層では52.9%、非生活困難層では5.1%であった。

設問 31 F あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(SA)

図表 1-2-7-27 1年に1回程度家族旅行に行く

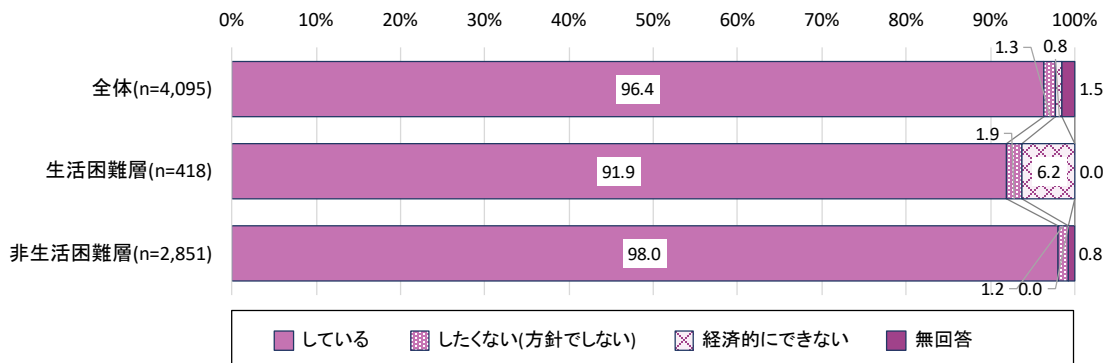


G クリスマスのプレゼントをあげる

子どもに「クリスマスのプレゼントをあげる」ことについて尋ねた設問に対して、「経済的にできない」の回答割合は、全体では0.8%、生活困難層では6.2%、非生活困難層では0.0%であった。

設問 31 G あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(SA)

図表 1-2-7-28 クリスマスのプレゼントをあげる

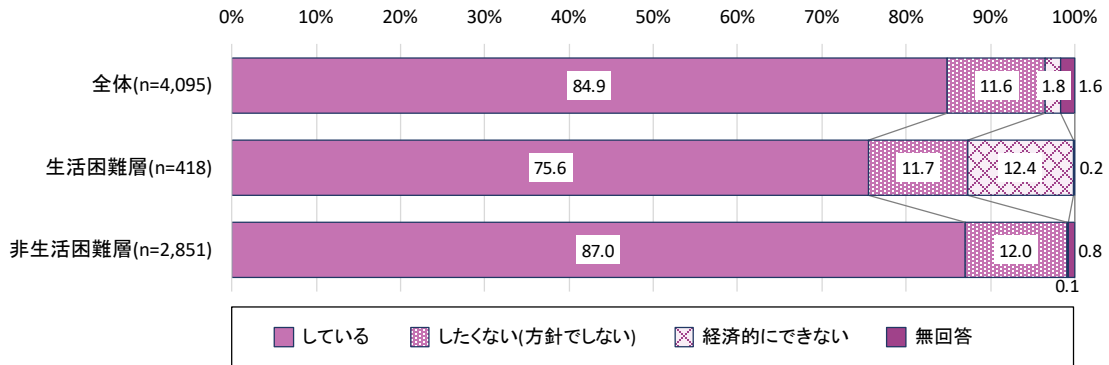


H 正月のお年玉をあげる

子どもに「正月のお年玉をあげる」ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、全体では1.8%、生活困難層では12.4%、非生活困難層では0.1%であった。

設問 31 H あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(SA)

図表 1-2-7-29 正月のお年玉をあげる

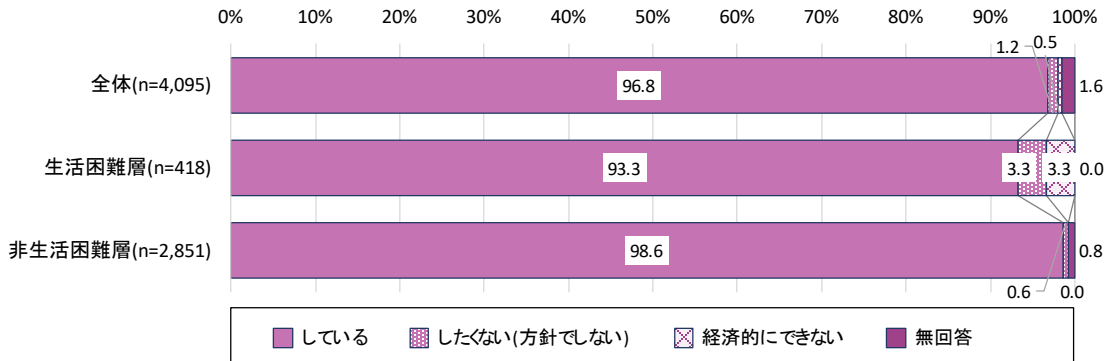


I 子どもの学校行事などに親が参加する

「子どもの学校行事などに親が参加する」ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、全体では0.5%、生活困難層では3.3%、非生活困難層では0.0%であった。

設問 31 I あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(SA)

図表 1-2-7-30 子どもの学校行事などに親が参加する



⑦物質的剥奪の状況²⁶

経済的理由のために世帯にないものを尋ねた設問に対して、「あてはまるものはない」の回答割合は、全体では69.2%、生活困難層では25.1%、非生活困難層では78.3%であった。

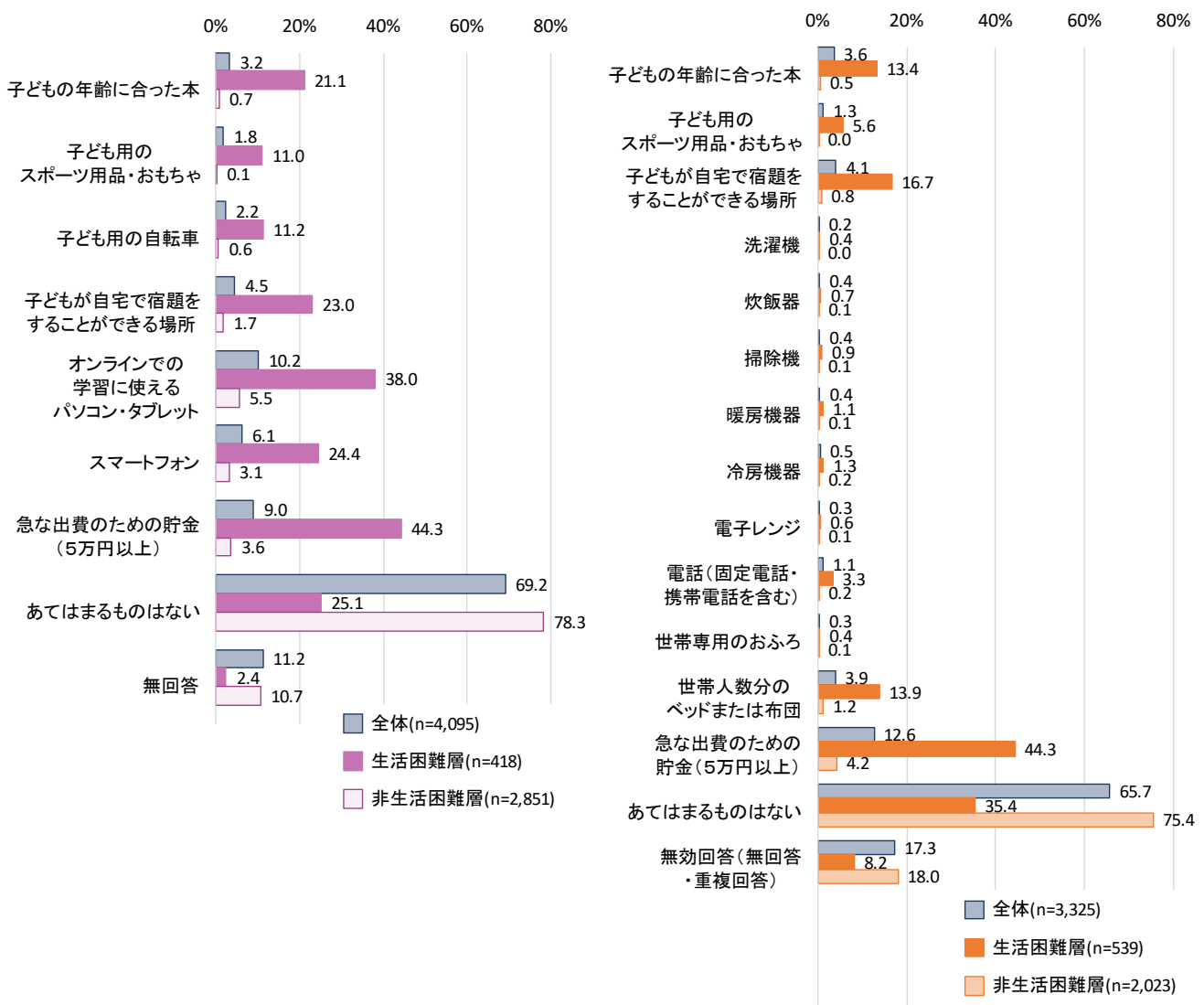
なお、生活困難層での回答割合は、「急な出費のための貯金（5万円以上）」が44.3%であったほか、「オンラインでの学習に使えるパソコン・タブレット」が38.0%、「スマートフォン」が24.4%、「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」が23.0%であった。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「急な出費のための貯金（5万円以上）」の回答割合が低く、「あてはまるものはない」の回答割合が高くなっていた。

設問 32 次のうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。（MA）

図表 1-2-7-31 経済的理由のために世帯にないもの

（参考） 前回調査結果



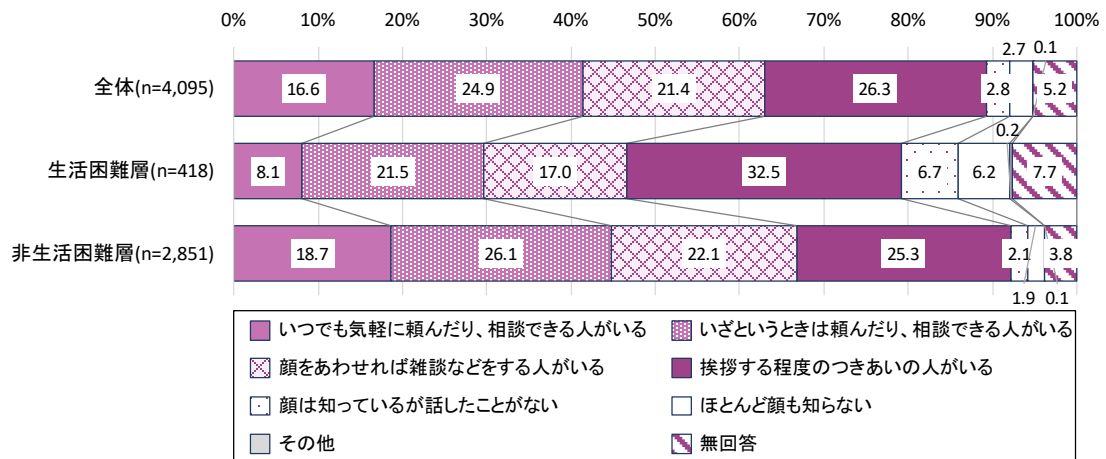
²⁶ 「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」については、生活困難層を定義するための要素のひとつとして、各項目において回答割合が必然的に生活困難層において高く、非生活困難層では低くなっている。

⑧近所づきあい

「あなたは、近所づきあいをどの程度していますか」という設問について、「いつでも気軽に頼んだり、相談できる人がいる」と「いざというときは頼んだり、相談できる人がいる」を合わせた回答割合は、全体では41.5%、生活困難層では29.6%、非生活困難層では44.8%であった。

設問 33 (新設) あなたは、近所づきあいをどの程度していますか。(SA)

図表 1-2-7-32 近所づきあい



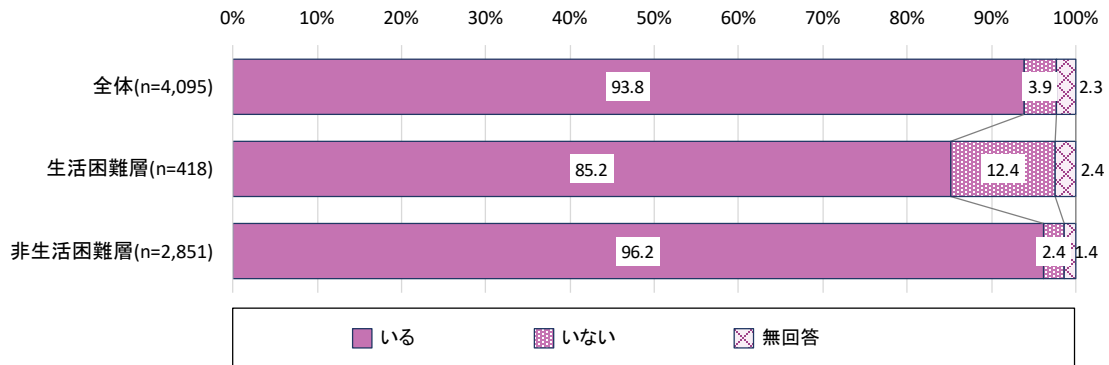
⑨相談相手の有無

「本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）がいますか」という設問に対して、「いない」と回答した割合は、全体では3.9%、生活困難層では12.4%、非生活困難層では2.4%であった。

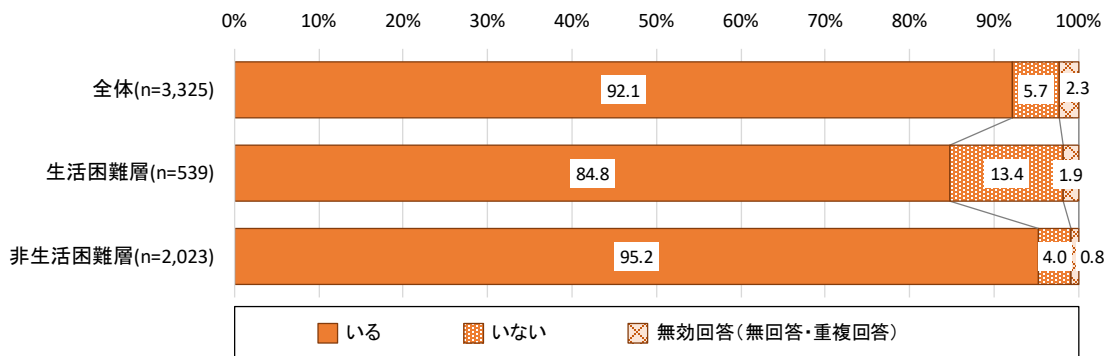
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「いない」の回答割合が低くなっていた。

設問 34 あなたは、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）がいますか。（SA）

図表 1-2-7-33 相談相手の有無



（参考） 前回調査結果



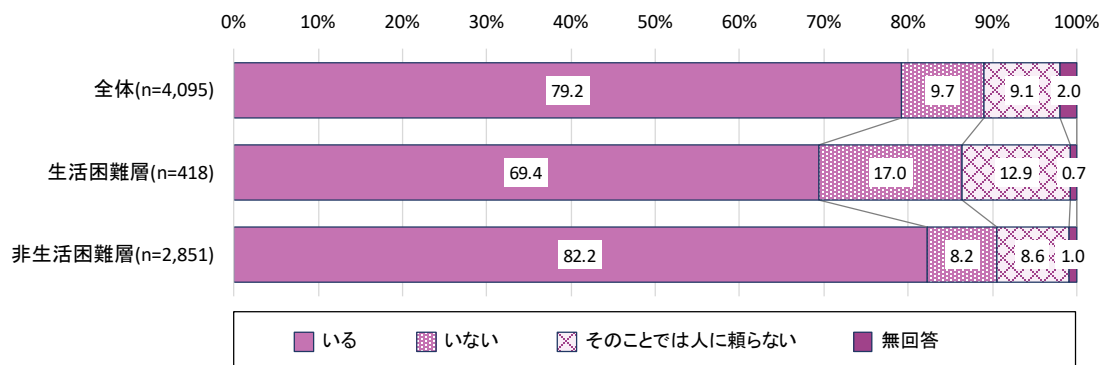
⑩事柄別の頼れる人の有無

A 子どもの世話や看病

「子どもの世話や看病」で頼れる人がいるかを尋ねた設問に対して、「いない」と回答した割合は、全体では9.7%、生活困難層では17.0%、非生活困難層では8.2%であった。

設問 35A あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(SA)

図表 1-2-7-34 子どもの世話や看病

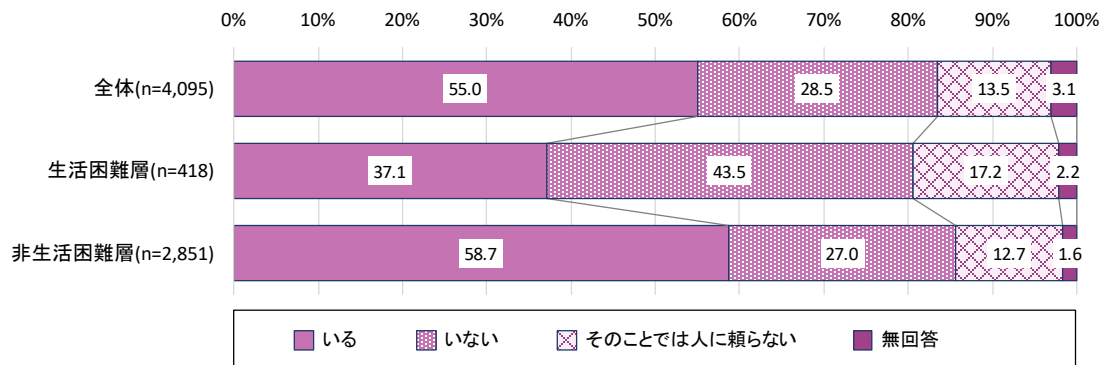


B (子ども以外の) 介護や看病

「(子ども以外の) 介護や看病」で頼れる人がいるかを尋ねた設問に対して、「いない」と回答した割合は、全体では28.5%、生活困難層では43.5%、非生活困難層では27.0%であった。

設問 35B あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(SA)

図表 1-2-7-35 (子ども以外の) 介護や看病

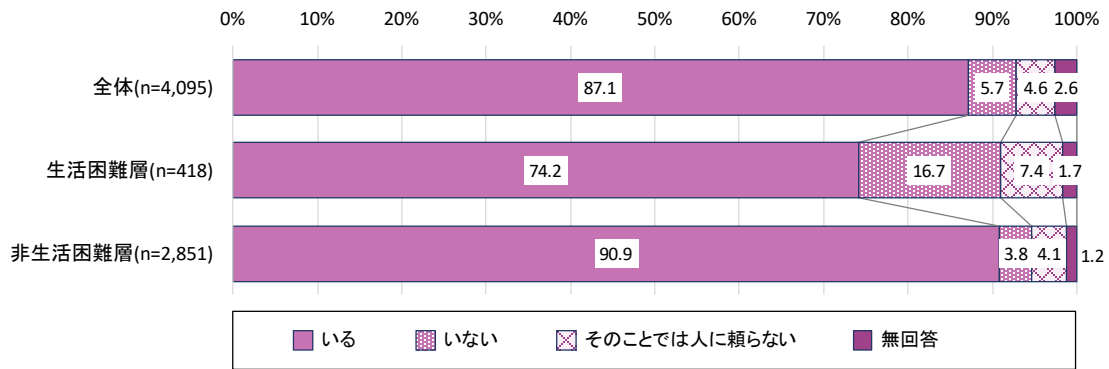


C 重要な事柄の相談

「重要な事柄の相談」で頼れる人がいるかを尋ねた設問に対して、「いない」と回答した割合は、全体では 5.7%、生活困難層では 16.7%、非生活困難層では 3.8%であった。

設問 35C あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(SA)

図表 1-2-7-36 重要な事柄の相談

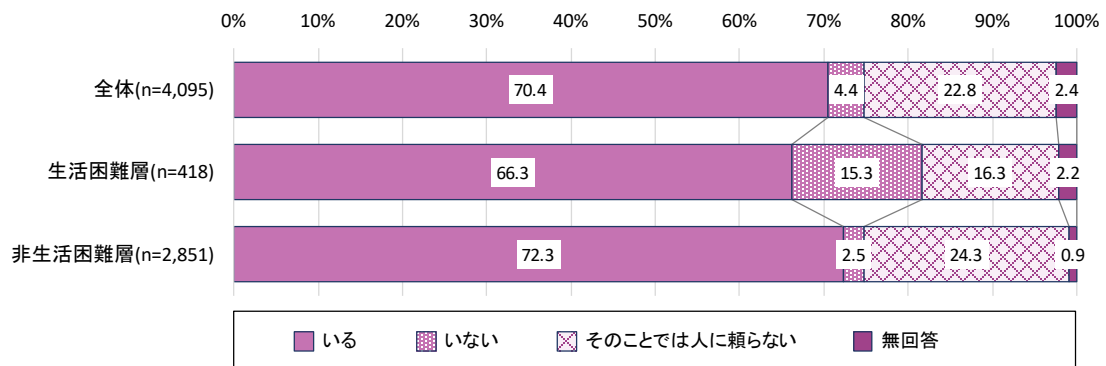


D いざという時のお金（1万円程度）の援助

「いざという時のお金（1万円程度）」で頼れる人がいるかを尋ねた設問に対して、「いない」と回答した割合は、全体では 4.4%、生活困難層では 15.3%、非生活困難層では 2.5%であった。

設問 35D あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(SA)

図表 1-2-7-37 いざという時のお金（1万円程度）の援助

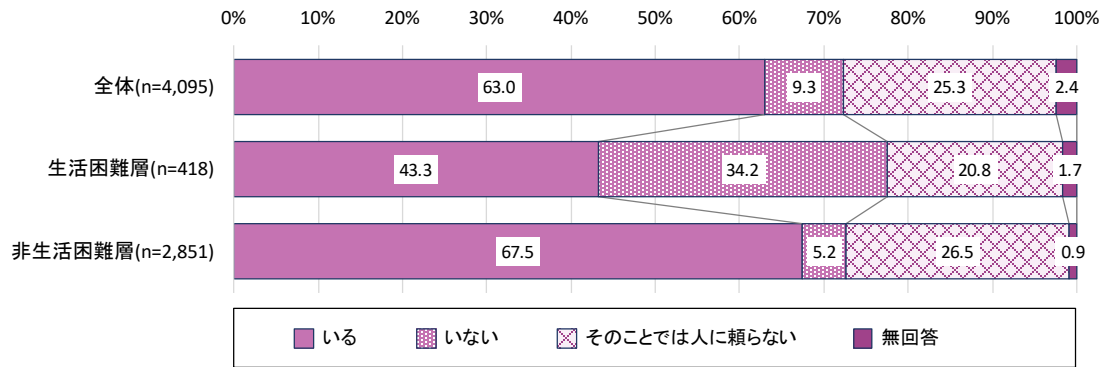


E いざという時のお金（10万円程度）の援助

「いざという時のお金（10万円程度）」で頼れる人がいるかを尋ねた設問に対して、「いない」と回答した割合は、全体では9.3%、生活困難層では34.2%、非生活困難層では5.2%であった。

設問 35 E あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。（SA）

図表 1-2-7-38 いざという時のお金（10万円程度）の援助

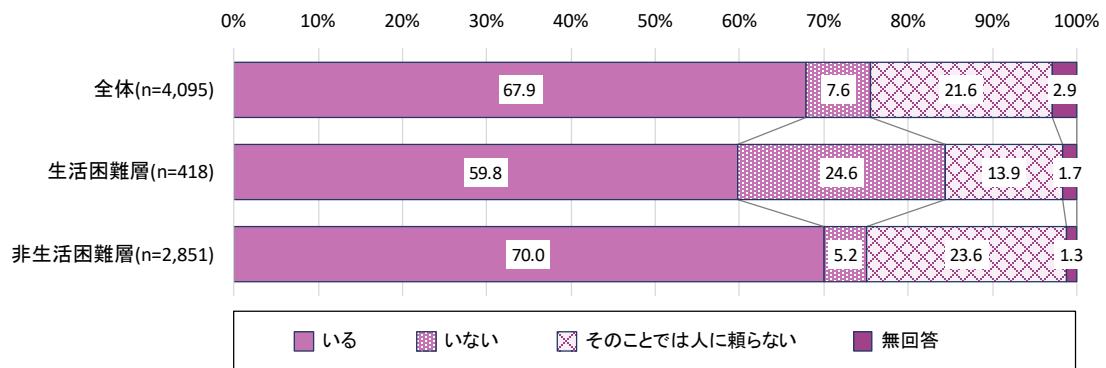


F 家を借りる時の保証人を頼むこと

「家を借りる時の保証人を頼むこと」で頼れる人がいるかを尋ねた設問に対して、「いない」と回答した割合は、全体では7.6%、生活困難層では24.6%、非生活困難層では5.2%であった。

設問 35 F あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。（SA）

図表 1-2-7-39 家を借りる時の保証人を頼むこと



(8)過去の経験に関すること

①母親が最後に通った学校

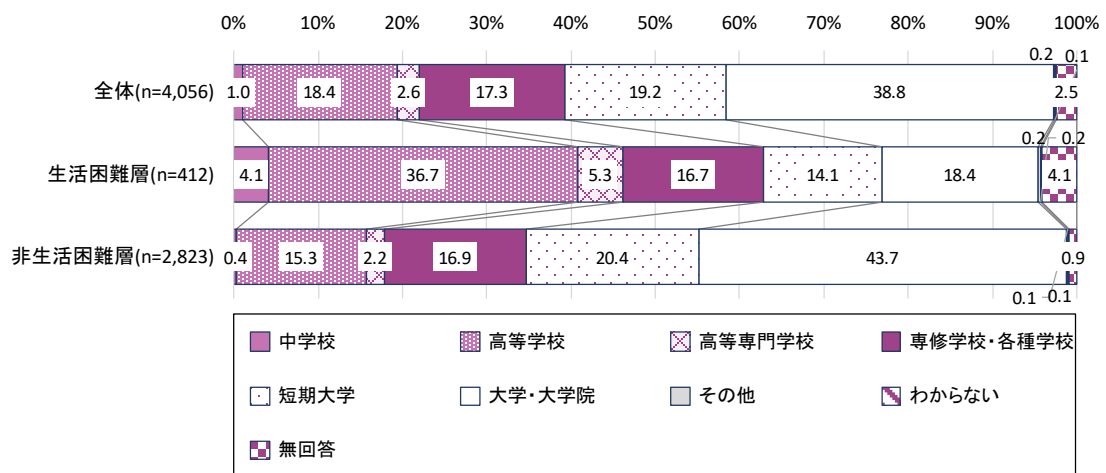
子どもの母親が最後に通った学校を尋ねた設問に対して、全体の回答割合では、「大学・大学院」が38.8%、「短期大学」が19.2%、「高等学校」が18.4%であった。

生活困難層の回答割合は、「高等学校」が36.7%、「大学・大学院」が18.4%、「専修学校・各種学校」が16.7%であった。非生活困難層の回答割合は、「大学・大学院」が43.7%、「短期大学」が20.4%、「専修学校・各種学校」が16.9%であった。

また、卒業・中途退学の状況を尋ねた設問に対して、「中途退学した」の回答割合は、全体では4.6%、生活困難層では12.7%、非生活困難層では3.5%であった。

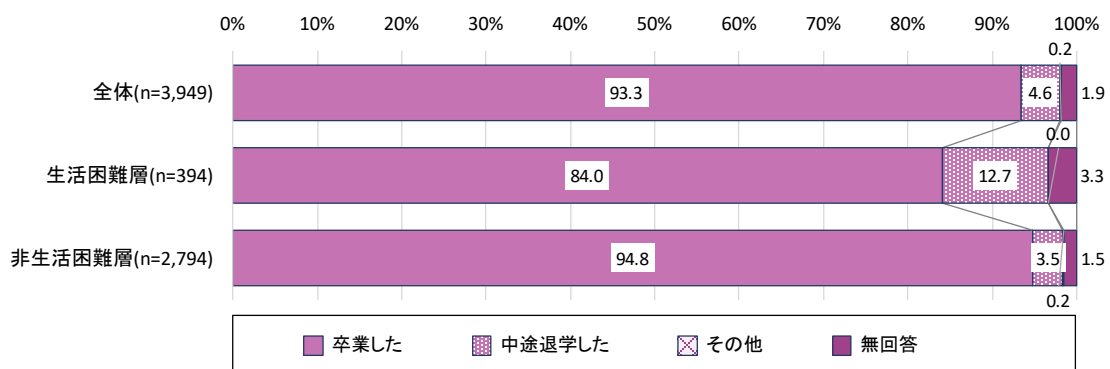
設問 36-① お子さんのお母さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(SA)

図表 1-2-8-1 母親が最後に通った学校



設問 36-1 お子さんのお母さまは、設問 36-①で答えた学校を卒業されましたか。(SA)

図表 1-2-8-2 母親の卒業・中退等の状況



②父親が最後に通った学校

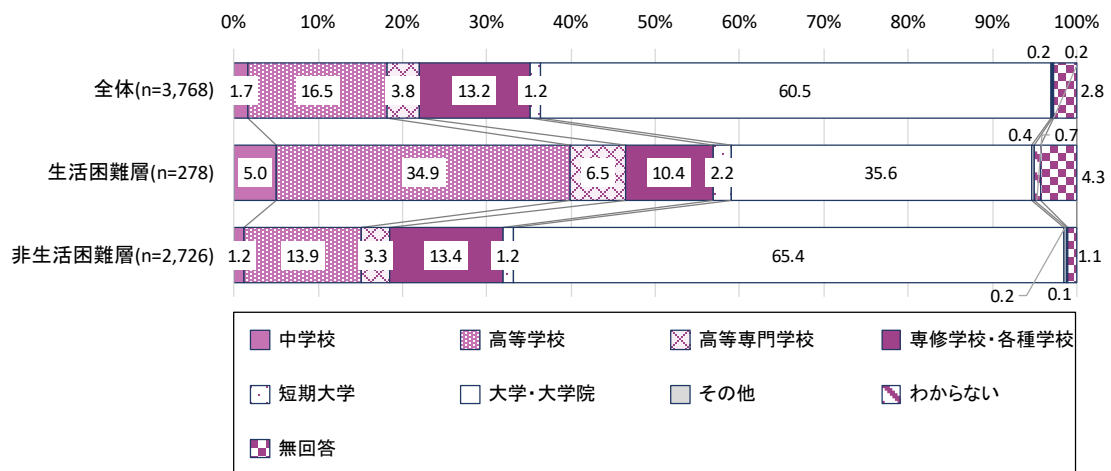
子どもの父親が最後に通った学校を尋ねた設問に対して、全体の回答割合では、「大学」が60.5%、「高等学校」が16.5%、「専修学校・各種学校」が13.2%であった。

生活困難層の回答割合は、「大学・大学院」が35.6%、「高等学校」が34.9%、「専修学校・各種学校」が10.4%であった。非生活困難層の回答割合は、「大学・大学院」が65.4%、「高等学校」が13.9%、「専修学校・各種学校」が13.4%であった。

また、卒業・中途退学の状況を尋ねた設問に対して、「中途退学した」の回答は、全体では6.6%、生活困難層では12.1%、非生活困難層では6.0%であった。

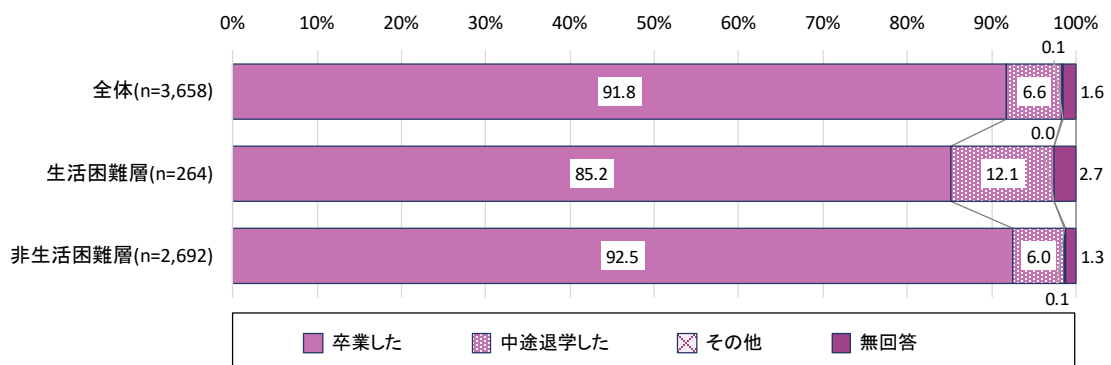
設問 36-② お子さんのお父さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(SA)

図表 1-2-8-3 父親が最後に通った学校



設問 36-2 お子さんのお父さまは、設問 36-②で答えた学校を卒業されましたか。(SA)

図表 1-2-8-4 父親の卒業・中退等の状況

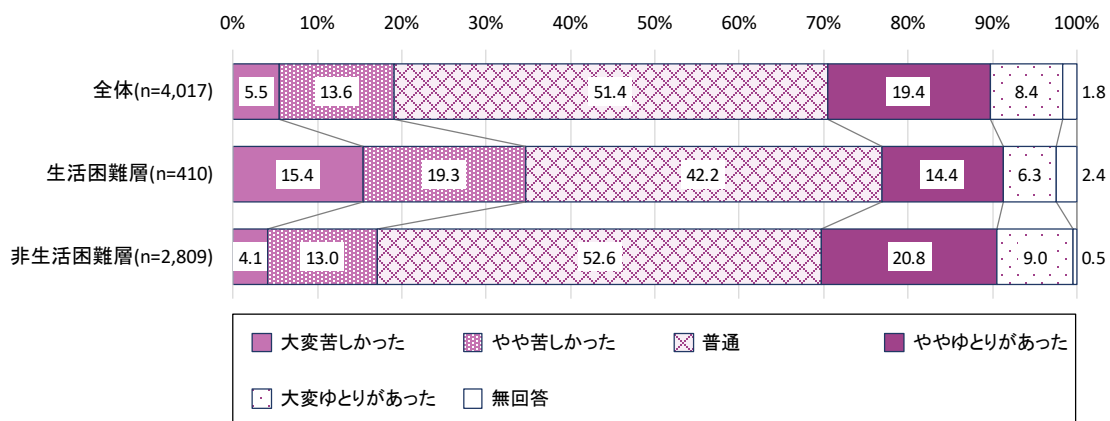


③保護者が15歳の頃の暮らし向き²⁷

回答者（子どもの保護者）が15歳の頃の暮らし向きについて尋ねた設問に対して、「大変苦しかった」「やや苦しかった」という回答の割合を合わせると、全体では19.1%、生活困難層では34.7%、非生活困難層では17.1%であった。

設問 37 あなた（回答者）が15歳頃のご家庭の暮らし向きについて
最も近いものに○をつけてください。（SA）

図表 1-2-8-5 保護者が15歳の頃の暮らし向き



²⁷ 回答者の15歳の頃の状況を把握するに当たっては、回答者の子どもから見た関係が「父親」または「母親」の場合のみを集計対象とした。

④保護者が成人する前に体験したこと²⁸

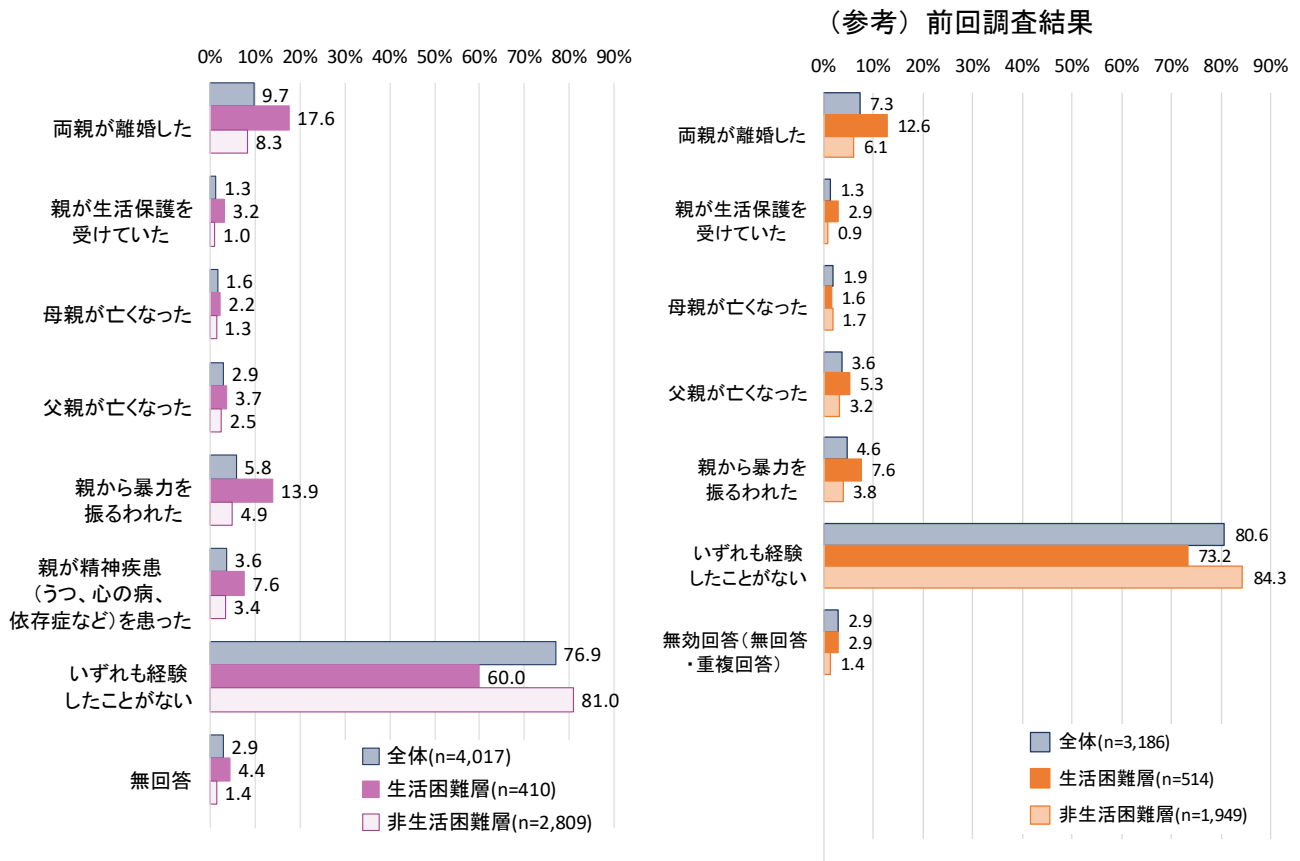
回答者（子どもの保護者）が成人前に体験したことを尋ねた設問に対して、「両親が離婚した」の回答割合は、全体では9.7%、生活困難層では17.6%、非生活困難層では8.3%であった。また、「親から暴力を振るわれた」の回答割合は、全体では5.8%、生活困難層では13.9%、非生活困難層では4.9%、「親が精神疾患（うつ、心の病、依存症など）を患った」の回答割合は、全体では3.6%、生活困難層では7.6%、非生活困難層では3.4%であった²⁹。

なお、「いずれも経験したことがない」の回答割合は、全体では76.9%、生活困難層では60.0%、非生活困難層では81.0%であった。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「両親が離婚した」「親から暴力をふるわれた」の回答割合は高く、「いずれも経験したことがない」の回答割合は低くなっていた。

設問 38 あなた（回答者）は、成人する前に下記のような体験をしたことがありますか。（MA）

図表 1-2-8-6 保護者が成人する前に体験したこと



²⁸ 回答者の成人する前の状況を把握するに当たっては、回答者の子どもから見た関係が「父親」または「母親」の場合のみを集計対象とした。

²⁹ 「母親が亡くなった」「父親が亡くなった」の回答は、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

⑤子育てに関わってから経験したこと³⁰

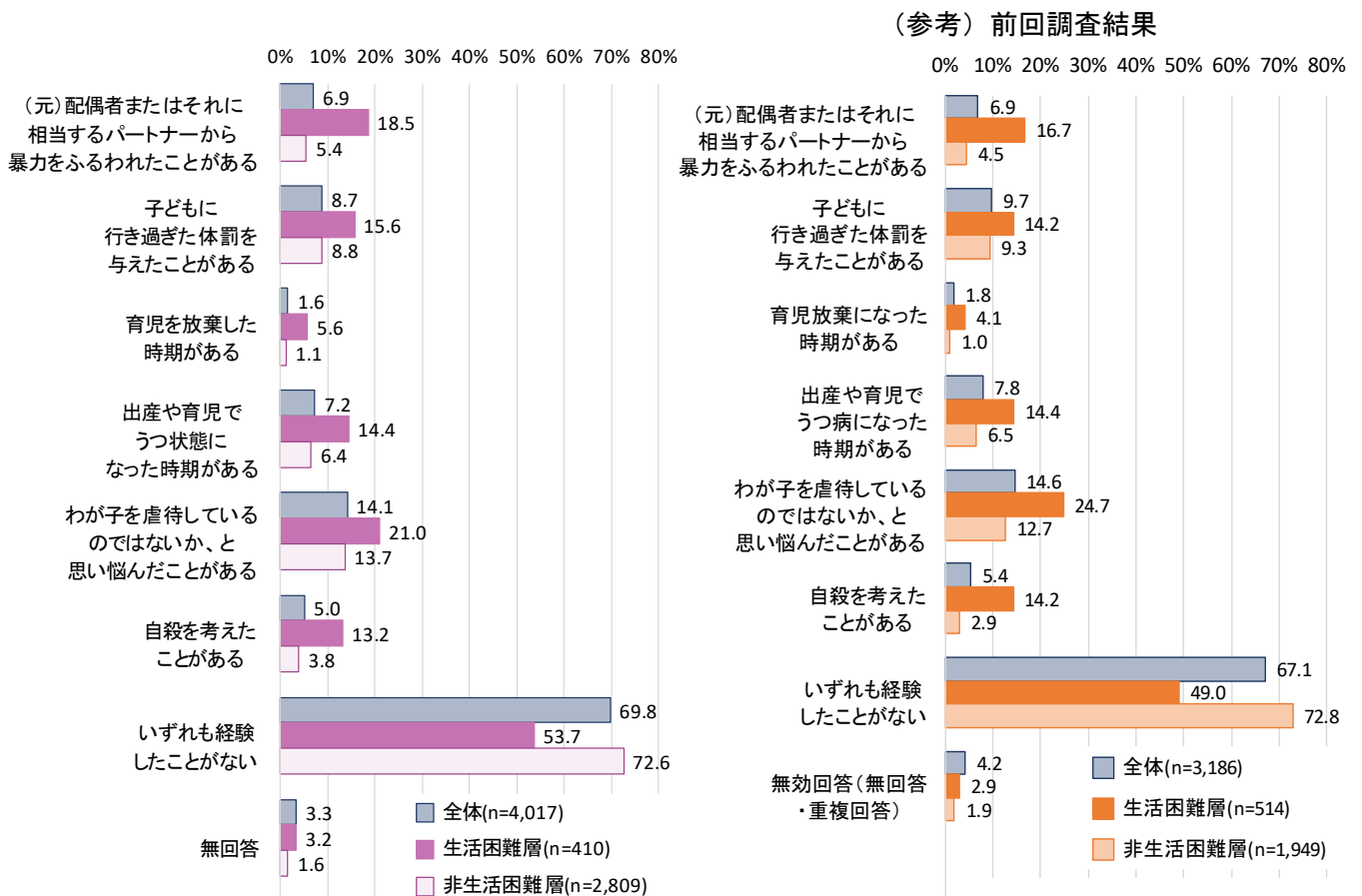
回答者（子どもの保護者）が子育てに関わってから経験したことを尋ねた設問に対して、「わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」の回答割合は、全体では14.1%、生活困難層では21.0%、非生活困難層では13.7%であった。また、「(元)配偶者またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある」の回答割合は、全体では6.9%、生活困難層では18.5%、非生活困難層では5.4%であった。

なお、「いずれも経験したことがない」の回答割合は、全体では69.8%、生活困難層では53.7%、非生活困難層では72.6%であった。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「いずれも経験したことがない」の回答割合が高くなっていた。

設問 39 あなたは、子育てにかかわってから以下のような経験をしたことがありますか。（MA）

図表 1-2-8-7 子育てに関わってから経験したこと



³⁰ 子育てに関わってからの経験を把握するに当たっては、回答者の子どもから見た関係が「父親」または「母親」の場合のみを集計対象とした。

(9) 公的支援の利用に関すること

① 情報媒体に関するニーズ

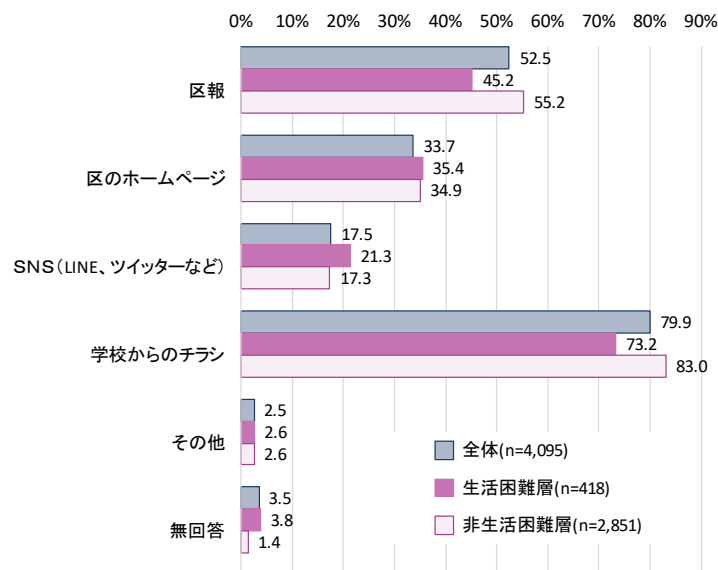
A 現在の受け取り方法

子どもに関する施策等の情報を現在どういう形で受け取っているかを尋ねた設問に対して、全体の回答割合では、「学校からのチラシ」が79.9%、「区報」が52.5%、「区のホームページ」が33.7%であった。

また、「区報」の回答割合は生活困難層で45.2%、非生活困難層で55.2%、「学校からのチラシ」の回答割合は生活困難層で73.2%、非生活困難層で83.0%であった³¹。

設問 40A あなたは、子どもに関する施策等の情報を現在どういう形で受け取っていますか。(MA)

図表 1-2-9-1 現在の受け取り方法



³¹ 「区のホームページ」「SNS (LINE、ツイッターなど)」「その他」の回答は、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

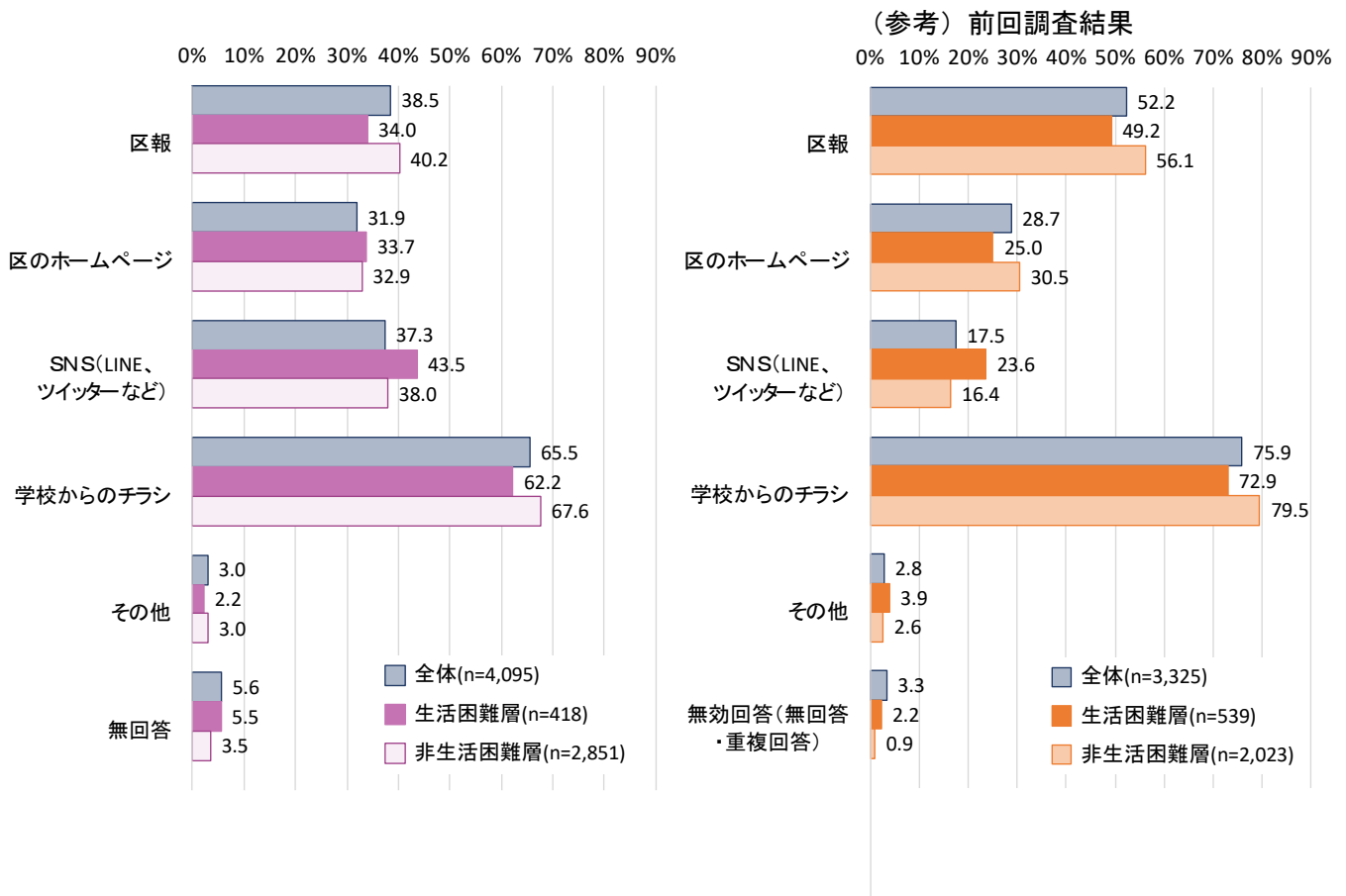
B 今後希望する受け取り方法

子どもに関する施策等の情報を今後どのような形で受け取りたいかを尋ねた設問に対して、全体の回答割合では、「学校からのチラシ」が65.5%、「区報」が38.5%、「SNS（LINE、ツイッターなど）」が37.3%であった³²。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「区報」「学校からのチラシ」の回答割合は低く、「区のホームページ」「SNS（LINE、ツイッターなど）」の回答割合は高くなっていた。

設問 40B あなたは、子どもに関する施策等の情報をどのような形で受け取りたいですか。（MA）

図表 1-2-9-2 今後希望する受け取り方法



³² いずれの項目も生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

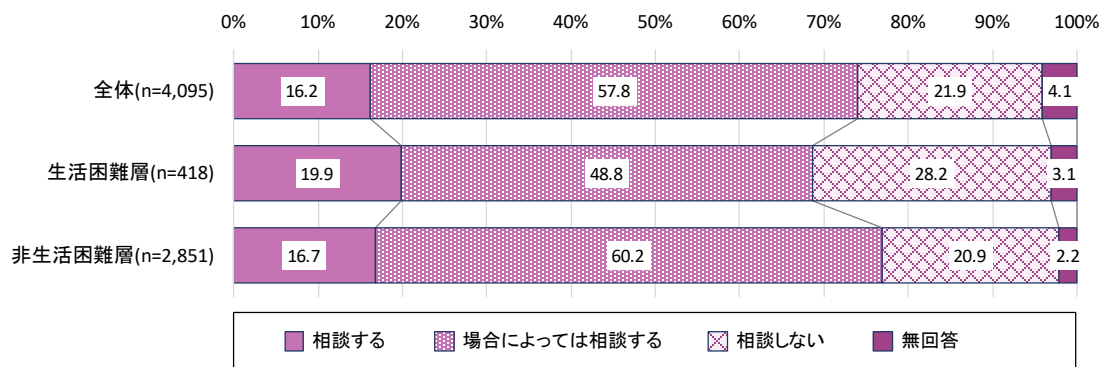
②公的機関への相談

A 区役所の窓口

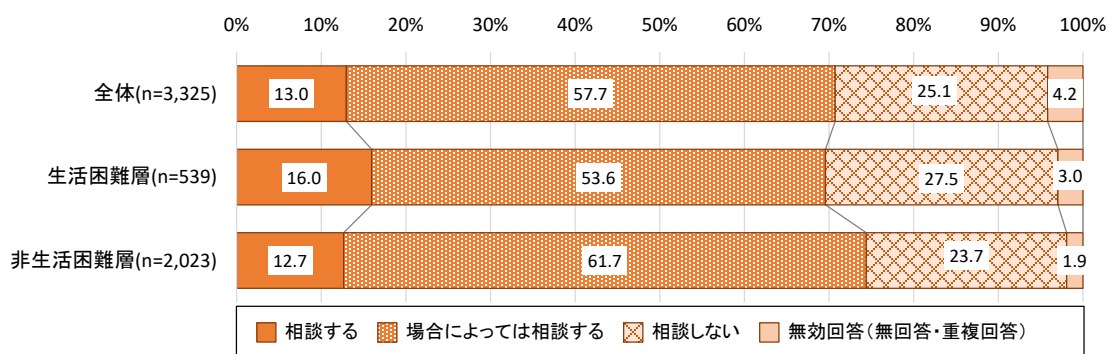
困ったときに「区役所の窓口」に相談するかを尋ねた設問に対して、「相談しない」と回答した割合は、全体では21.9%、生活困難層では28.2%、非生活困難層では20.9%であった。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「相談する」の回答割合が高くなっていた。

設問 41 A あなたは、困ったときに以下の公的機関に相談しますか。（SA）

図表 1-2-9-3 区役所の窓口



(参考) 前回調査結果



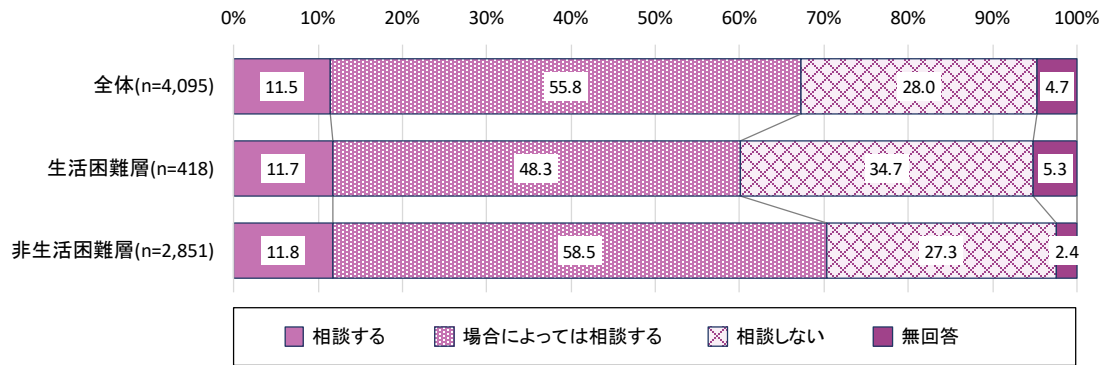
B 子ども家庭支援センター

困ったときに「子ども家庭支援センター」に相談するかを尋ねた設問に対して、「相談しない」と回答した割合は、全体では28.0%、生活困難層では34.7%、非生活困難層では27.3%であった。

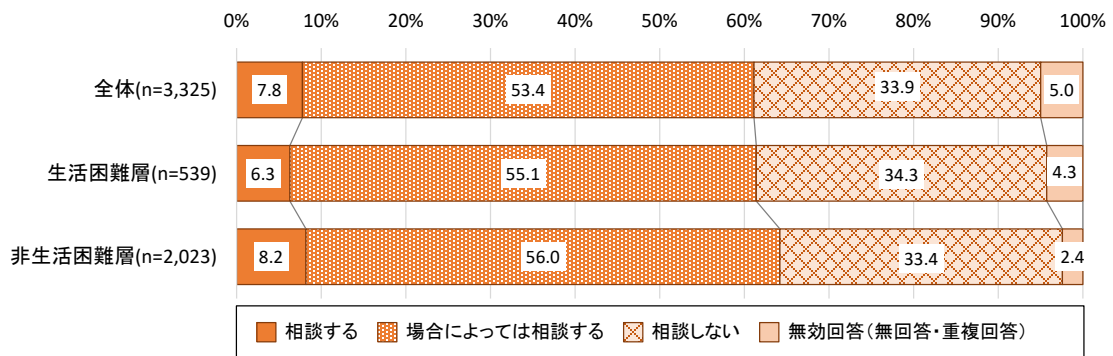
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「相談する」の回答割合が高くなっていった。

設問 41 B あなたは、困ったときに以下の公的機関に相談しますか。（SA）

図表 1-2-9-4 子ども家庭支援センター



(参考) 前回調査結果



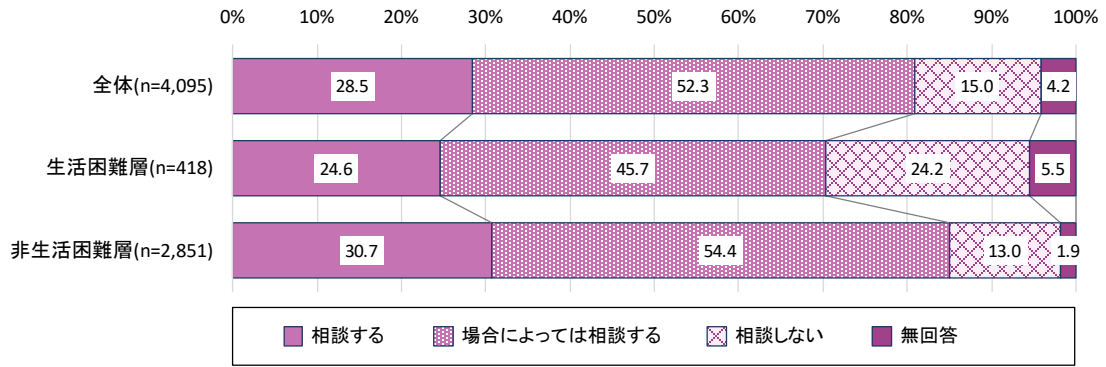
C 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど

困ったときに「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」に相談するかを尋ねた設問に対して、「相談しない」と回答した割合は、全体では15.0%、生活困難層では24.2%、非生活困難層では13.0%であった。

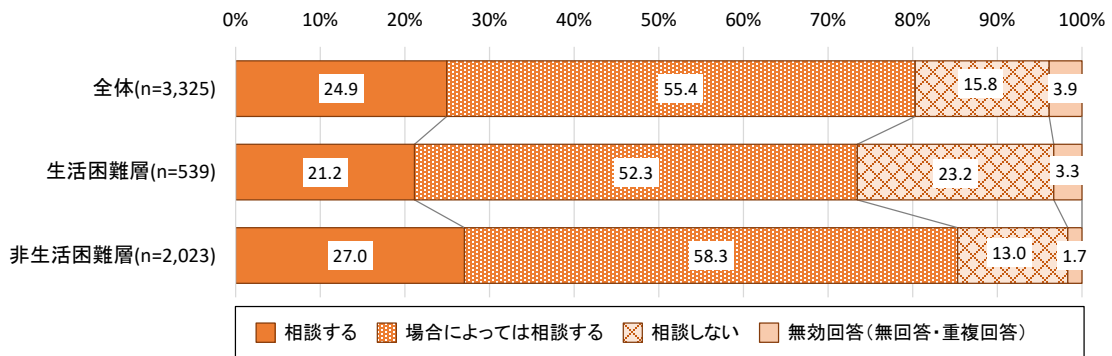
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「相談する」の回答割合が高くなっていた。

設問 41C あなたは、困ったときに以下の公的機関に相談しますか。（SA）

図表 1-2-9-5 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど



(参考) 前回調査結果



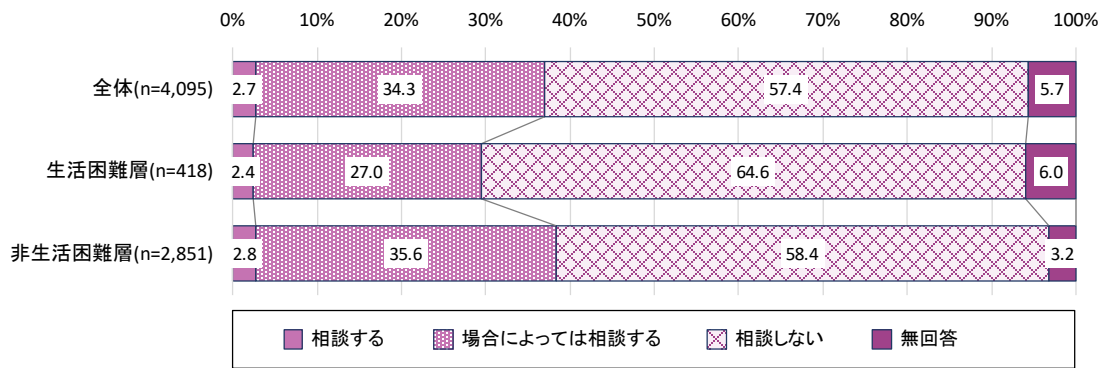
D 民生委員・児童委員

困ったときに「民生委員・児童委員」に相談するかを尋ねた設問に対して、「相談しない」と回答した割合は、全体では57.4%、生活困難層では64.6%、非生活困難層では58.4%であった。

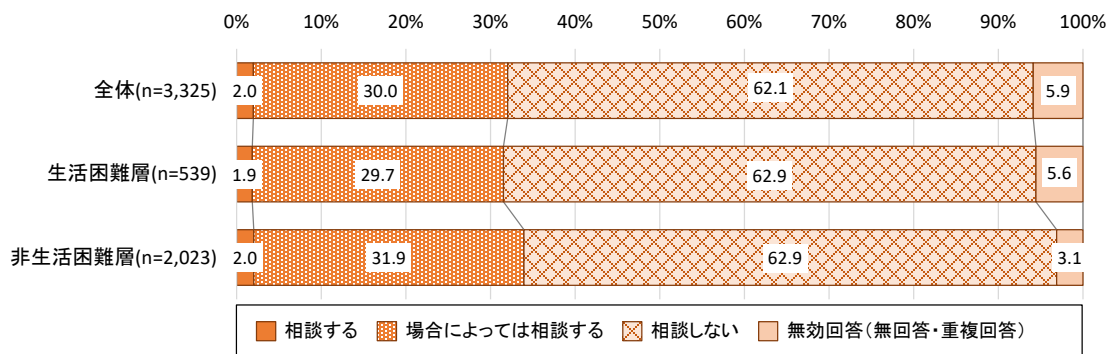
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「場合によっては相談する」の回答割合が高くなっていた。

設問 41D あなたは、困ったときに以下の公的機関に相談しますか。（SA）

図表 1-2-9-6 民生委員・児童委員



(参考) 前回調査結果



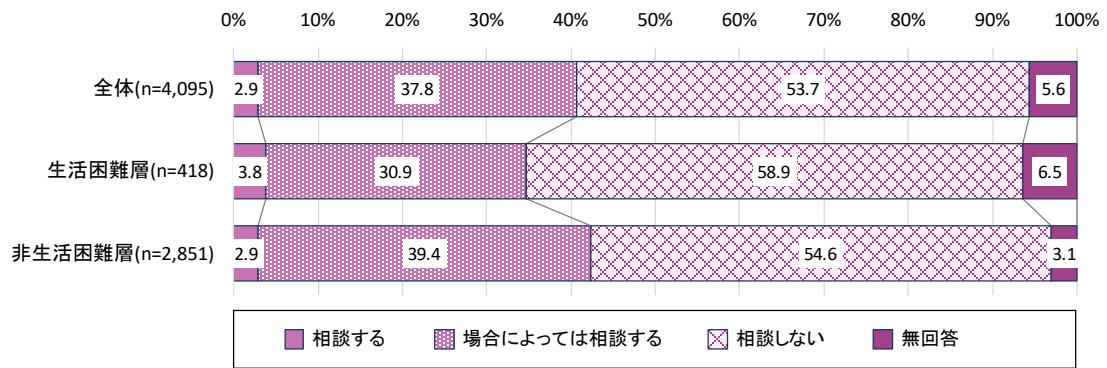
E 区の社会福祉協議会

困ったときに「区の社会福祉協議会」に相談するかを尋ねた設問に対して、「相談しない」と回答した割合は、全体では53.7%であった³³。

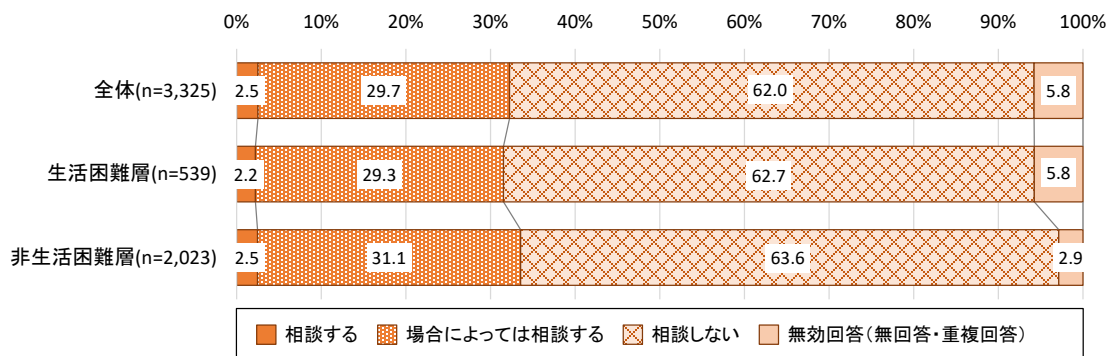
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「場合によっては相談する」の回答割合が高くなっていた。

設問 41 E あなたは、困ったときに以下の公的機関に相談しますか。（SA）

図表 1-2-9-7 区の社会福祉協議会



(参考) 前回調査結果



³³ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

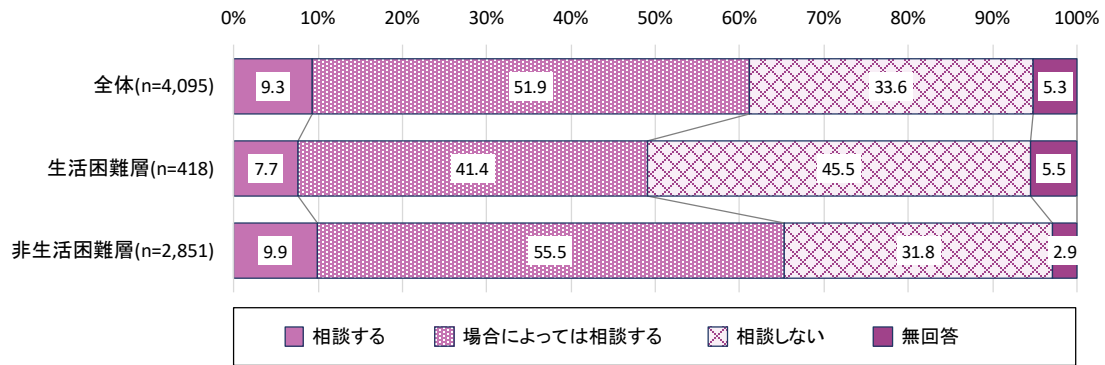
F 保健所

困ったときに「保健所」に相談するかを尋ねた設問に対して、「相談しない」と回答した割合は、全体では 33.6%、生活困難層では 45.5%、非生活困難層では 31.8%であった。

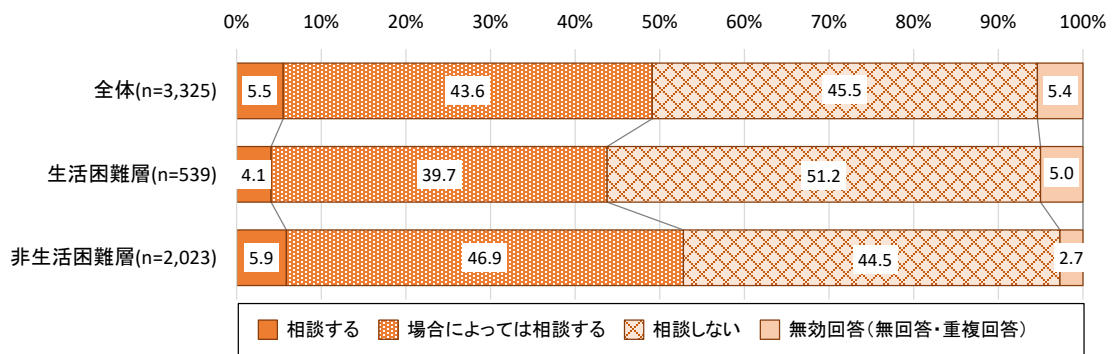
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「相談する」の回答割合が高くなっていた。

設問 41 F あなたは、困ったときに以下の公的機関に相談しますか。（SA）

図表 1-2-9-8 保健所



(参考) 前回調査結果



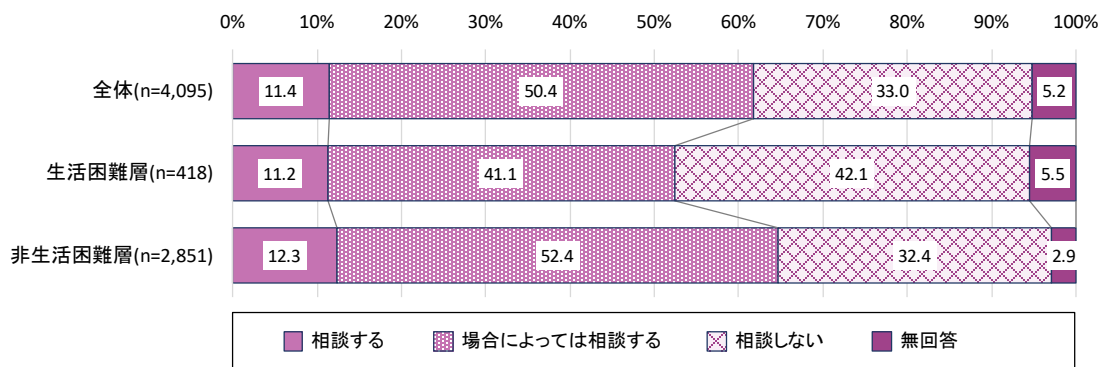
G ハローワーク

困ったときに「ハローワーク」に相談するかを尋ねた設問に対して、「相談しない」と回答した割合は、全体では33.0%、生活困難層では42.1%、非生活困難層では32.4%であった。

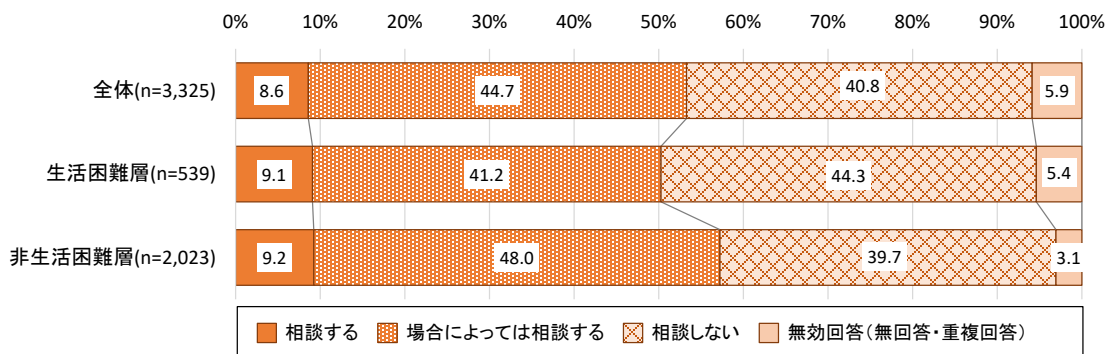
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「相談する」「場合によっては相談する」の回答割合が高くなっていた。

設問 41G あなたは、困ったときに以下の公的機関に相談しますか。（SA）

図表 1-2-9-9 ハローワーク



(参考) 前回調査結果



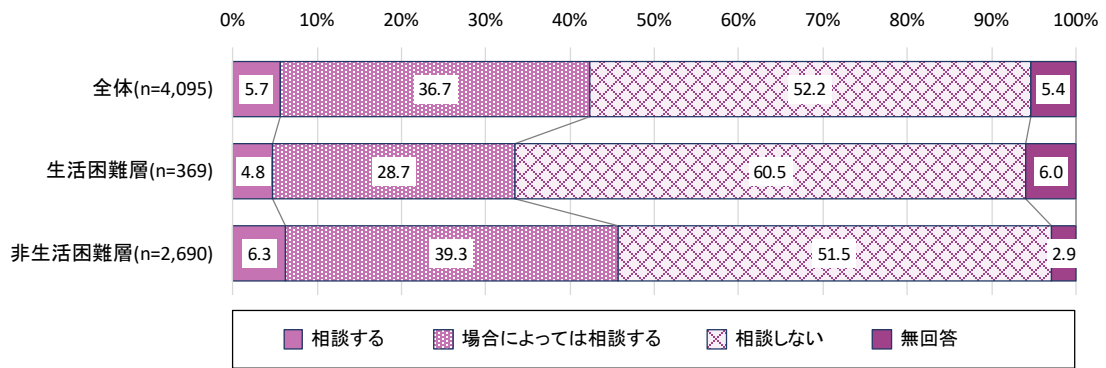
H インターネットの相談サイト

困ったときに「インターネットの相談サイト」に相談するかを尋ねた設問に対して、「相談しない」と回答した割合は、全体では52.2%、生活困難層では60.5%、非生活困難層では51.5%であった。

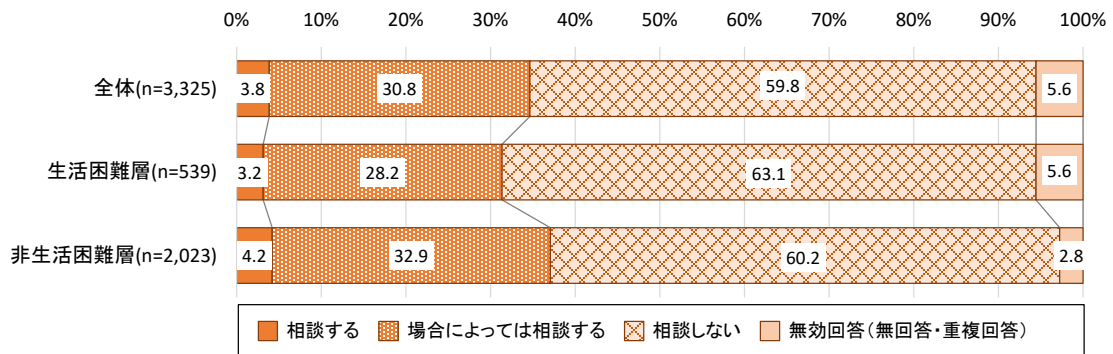
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「相談する」「場合によっては相談する」の回答割合が高くなっていた。

設問 41H あなたは、困ったときに以下の公的機関に相談しますか。（SA）

図表 1-2-9-10 インターネットの相談サイト



(参考) 前回調査結果



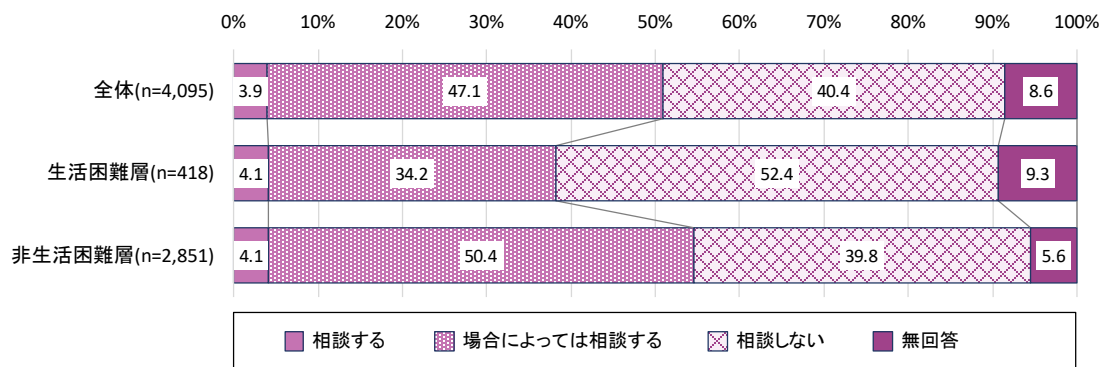
I 上記以外の公的機関

困ったときに「上記以外の公的機関」に相談するかを尋ねた設問に対して、「相談しない」と回答した割合は、全体では40.4%、生活困難層では52.4%、非生活困難層では39.8%であった。

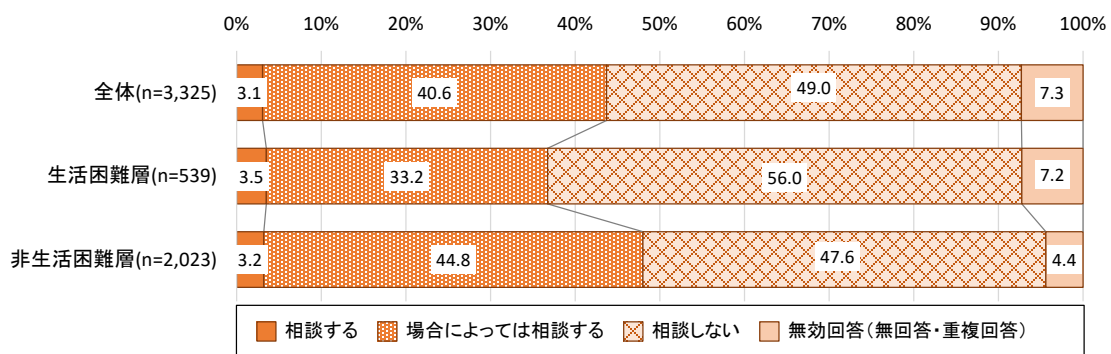
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「場合によっては相談する」の回答割合が高くなっていた。

設問 41 I あなたは、困ったときに以下の公的機関に相談しますか。（SA）

図表 1-2-9-11 上記以外の公的機関



（参考） 前回調査結果



③公的支援制度の利用状況

A 生活福祉資金

「生活福祉資金」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では0.9%、生活困難層では4.1%、非生活困難層では0.4%であった。

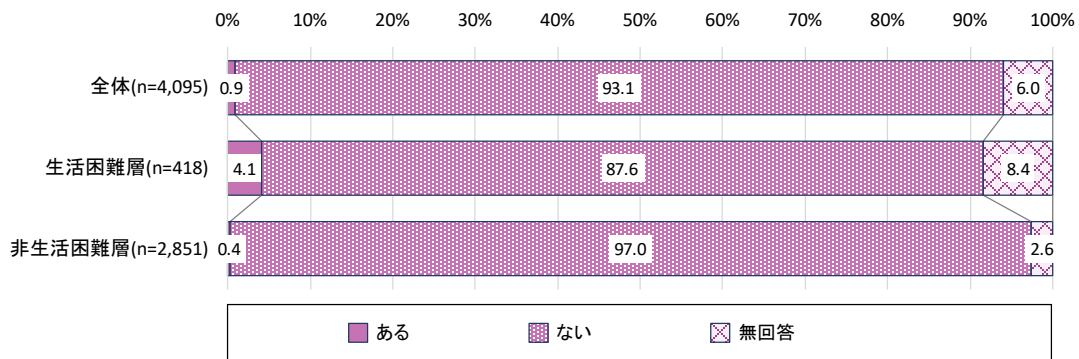
また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では13.3%、生活困難層では26.5%、非生活困難層では11.6%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では3.7%、生活困難層では12.7%、非生活困難層では2.4%であった。

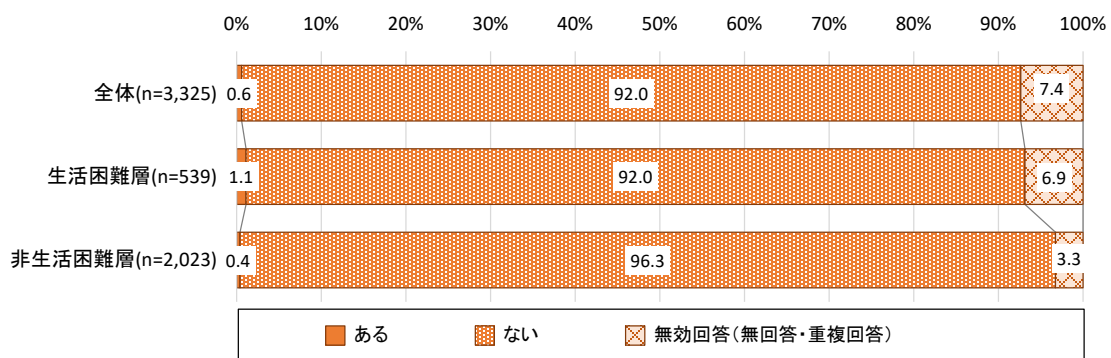
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、利用経験が「ない」とする回答割合が高く、利用したことがない理由としては「利用したいと思ったことがなかった（そもそも制度の対象外であった）」の回答割合が高く、「制度について全く知らなかった」の回答割合が低くなっていた。

設問 42A① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。（SA）

図表 1-2-9-12 「生活福祉資金」の利用経験の有無



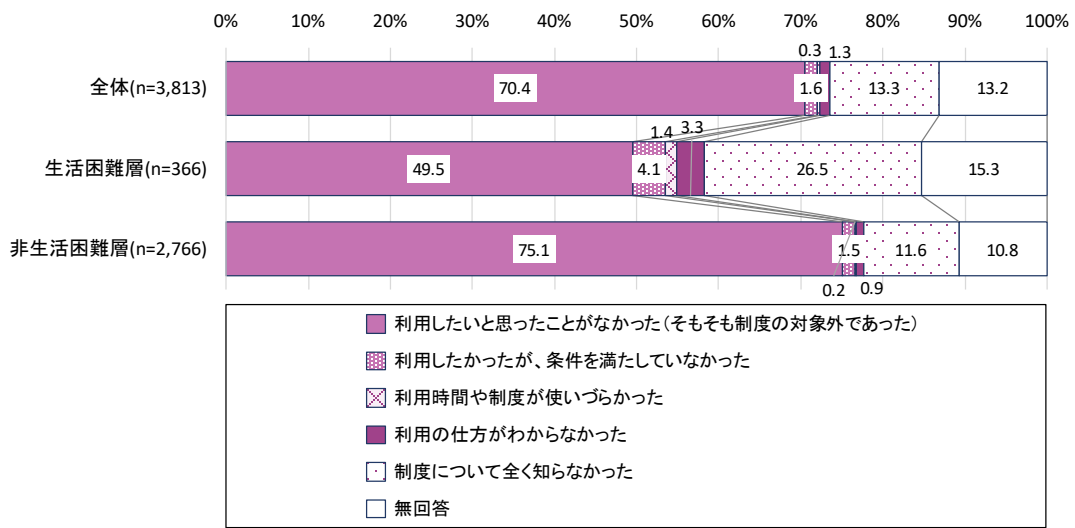
(参考) 前回調査結果



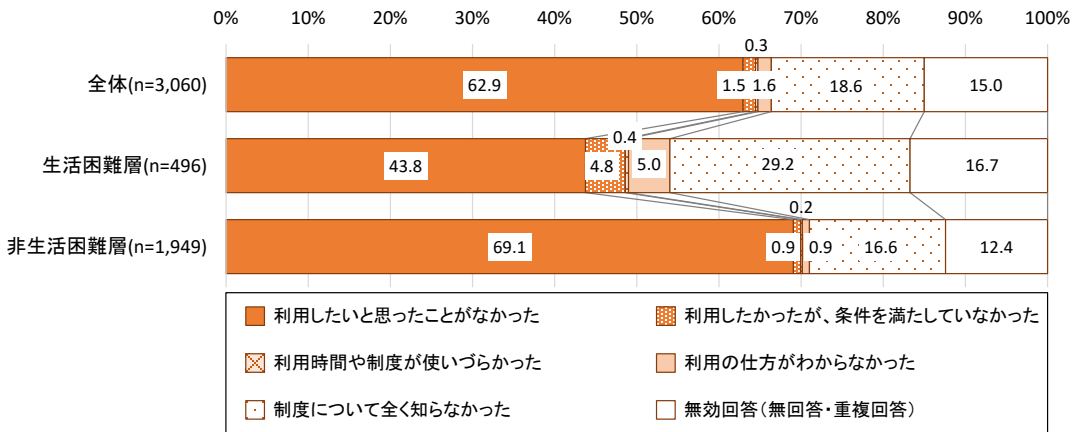
設問 42A②

以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-13 「生活福祉資金」を利用しなかった理由



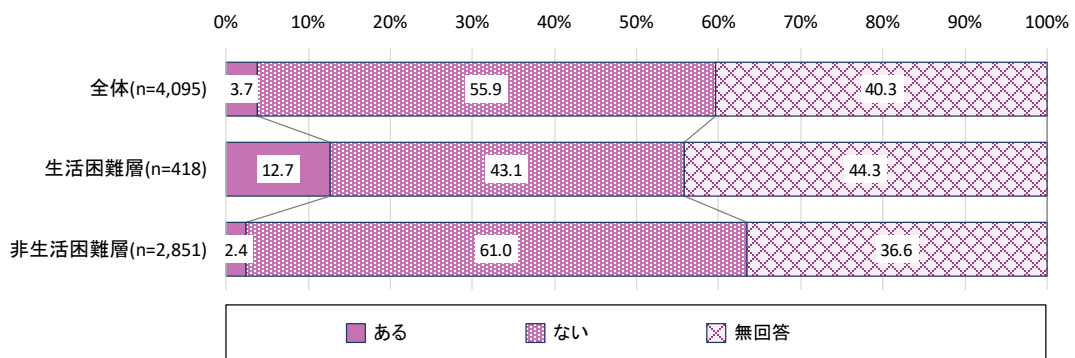
(参考) 前回調査結果



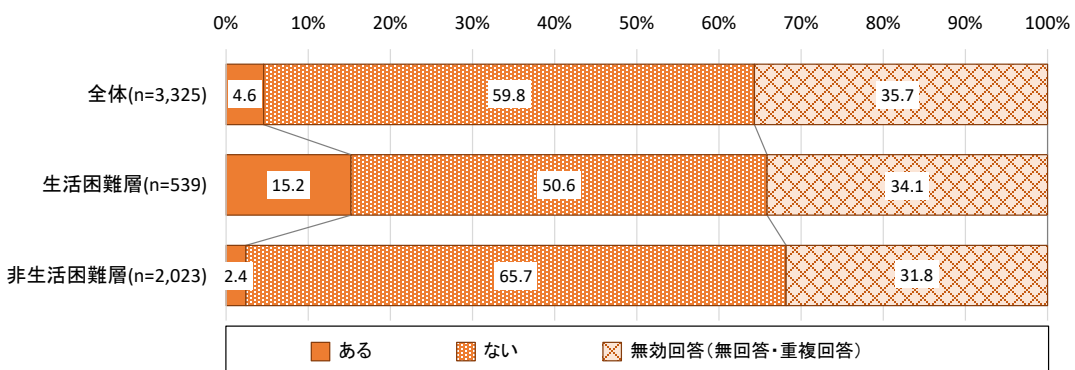
設問 42A③

以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-14 「生活福祉資金」の利用に関する興味の有無



(参考) 前回調査結果



B 生活保護

「生活保護」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では1.5%、生活困難層では8.1%、非生活困難層では0.6%であった。

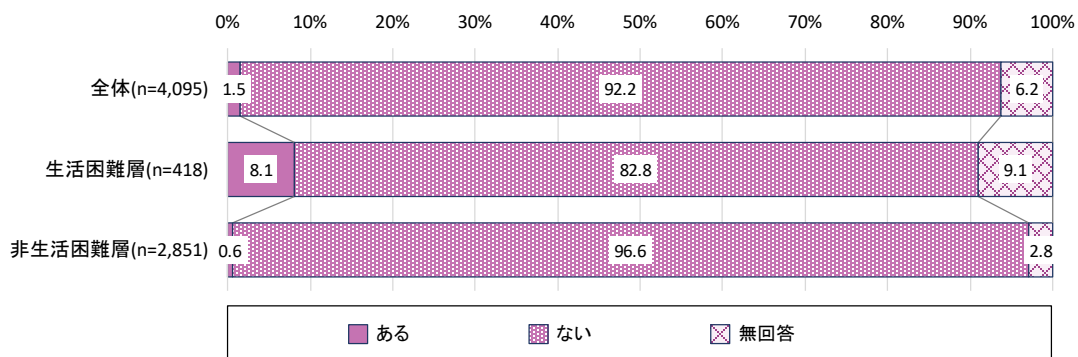
また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では3.4%、生活困難層では6.4%、非生活困難層では3.0%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では2.3%、生活困難層では8.6%、非生活困難層では1.1%であった。

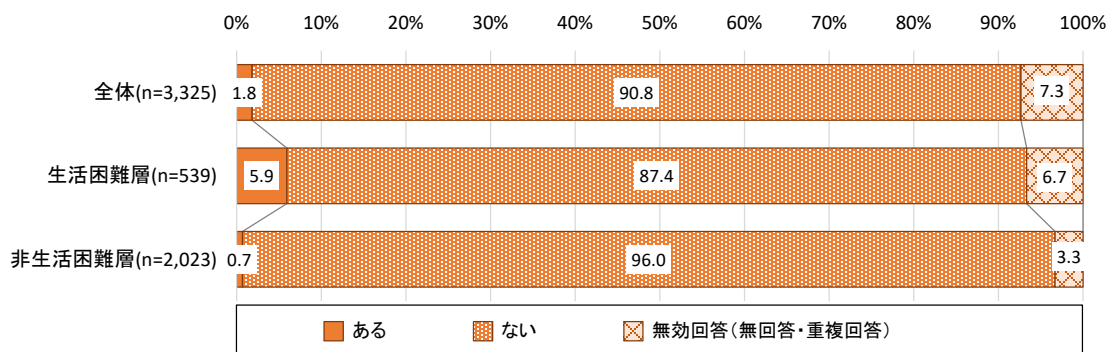
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、利用経験が「ない」とする回答割合が高く、利用したことがない理由としては「利用したいと思ったことがなかった（そもそも制度の対象外であった）」の回答割合が高く、「制度について全く知らなかった」の回答割合が低くなっていた。

設問 42B① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。（SA）

図表 1-2-9-15 「生活保護」の利用経験の有無

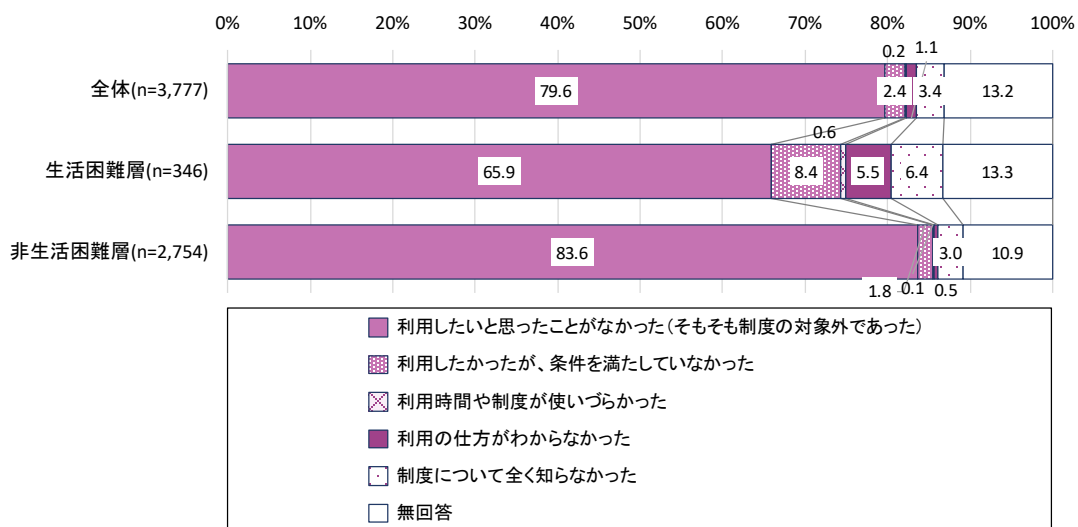


(参考) 前回調査結果

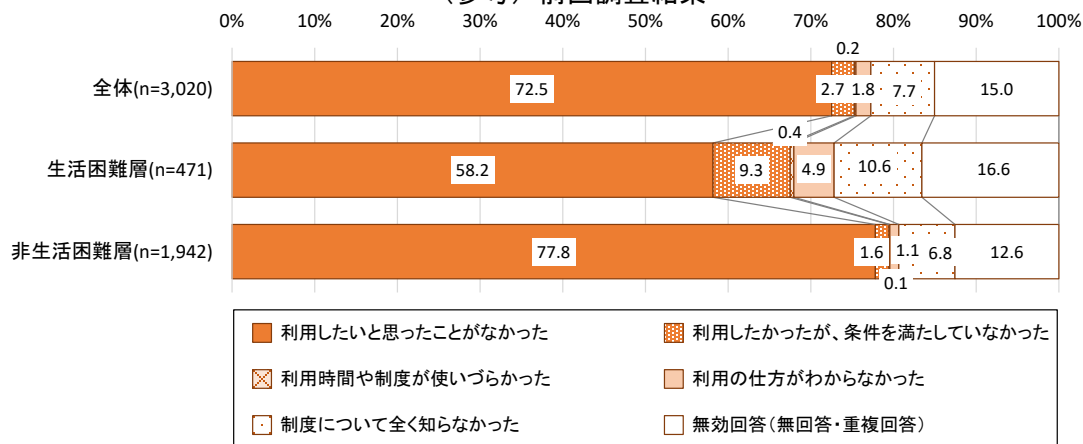


設問 42B② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-16 「生活保護」を利用しなかった理由

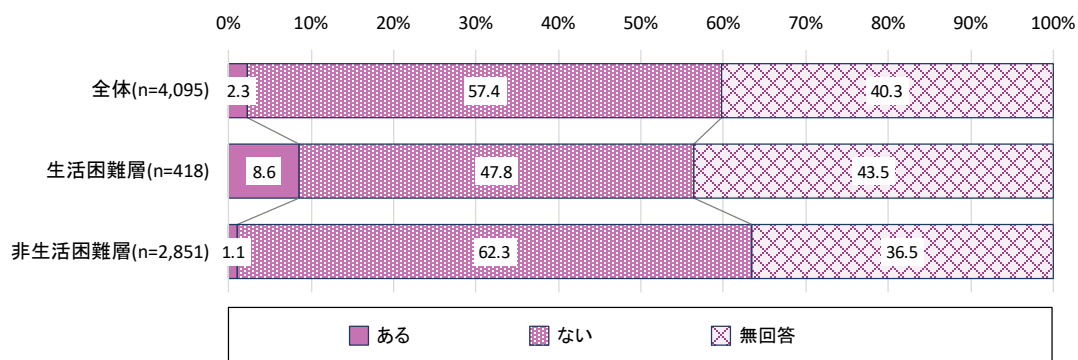


(参考) 前回調査結果

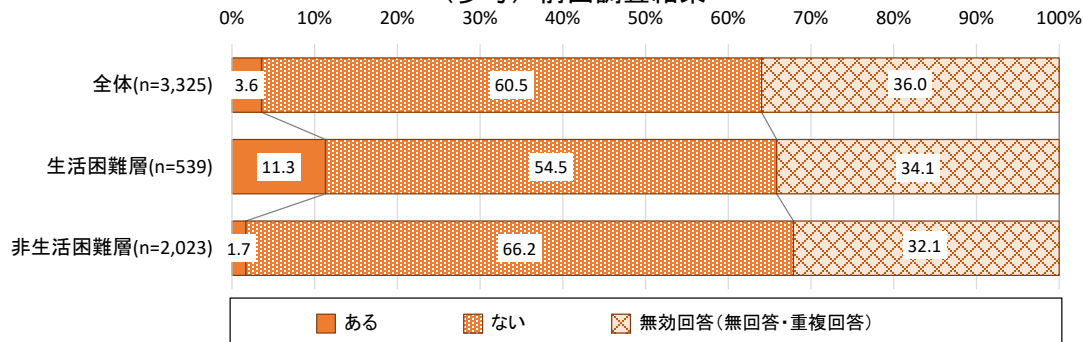


設問 42B③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-17 「生活保護」の利用に関する興味の有無



(参考) 前回調査結果



C 母子及び父子福祉資金

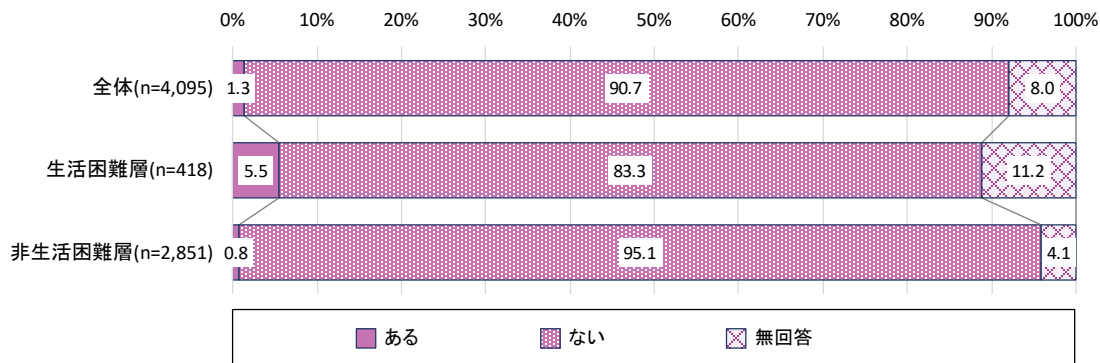
「母子及び父子福祉資金」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では1.3%、生活困難層では5.5%、非生活困難層では0.8%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では8.2%、生活困難層では20.7%、非生活困難層では6.4%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では3.7%、生活困難層では14.4%、非生活困難層では2.2%であった。

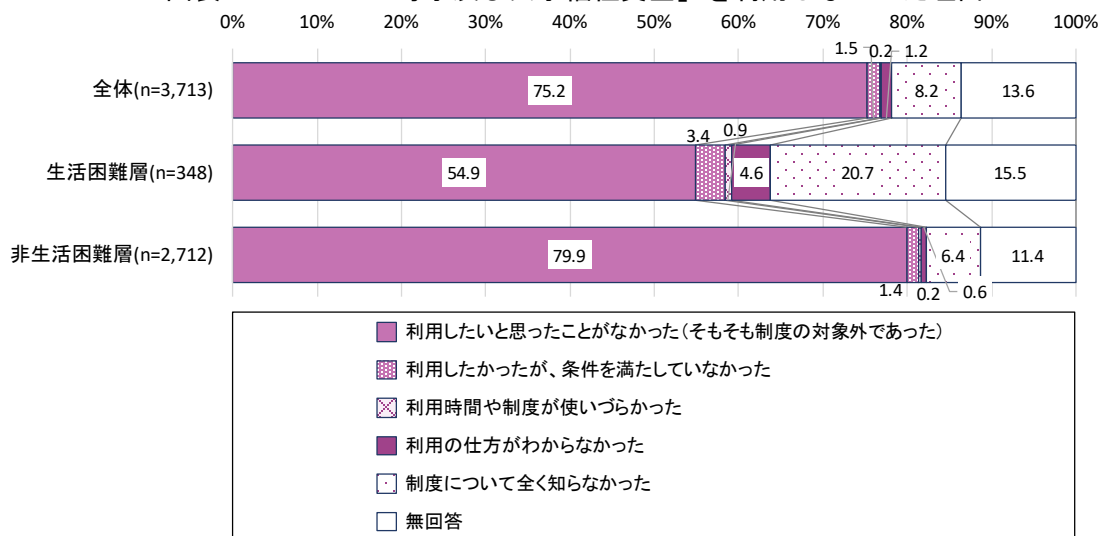
設問 42C① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-18 「母子及び父子福祉資金」の利用経験の有無



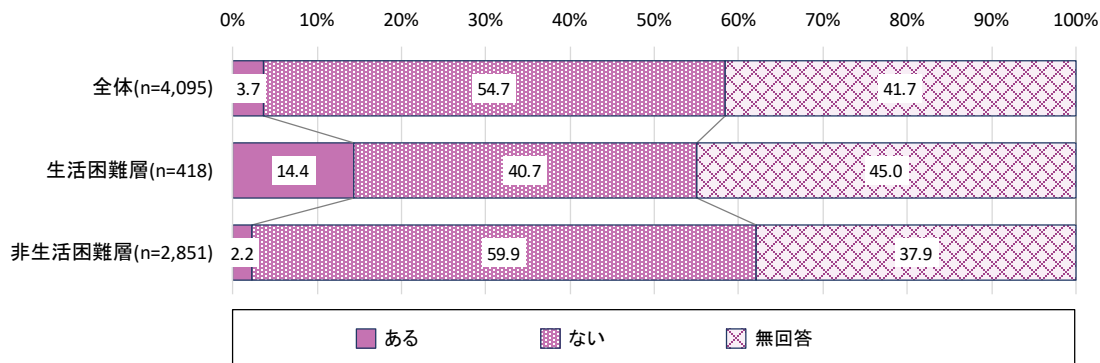
設問 42C② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-19 「母子及び父子福祉資金」を利用しなかった理由



設問 42C③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-20 「母子及び父子福祉資金」の利用に関する興味の有無



D 児童扶養手当

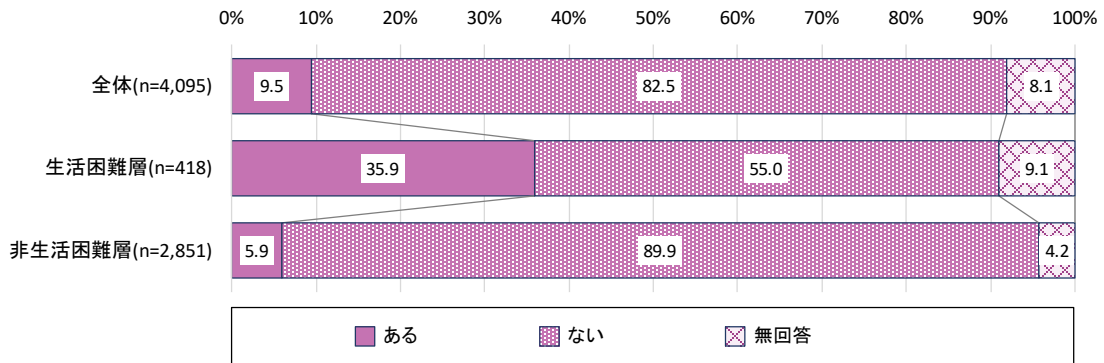
「児童扶養手当」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では9.5%、生活困難層では35.9%、非生活困難層では5.9%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では5.7%、生活困難層では12.6%、非生活困難層では5.0%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では8.2%、生活困難層では26.3%、非生活困難層では5.8%であった。

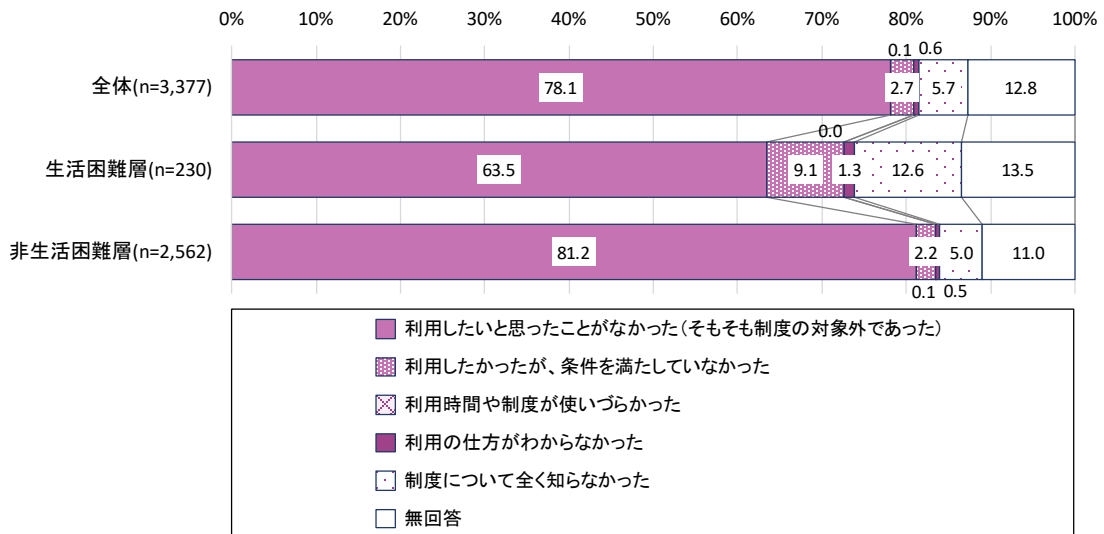
設問 42D① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-21 「児童扶養手当」の利用経験の有無



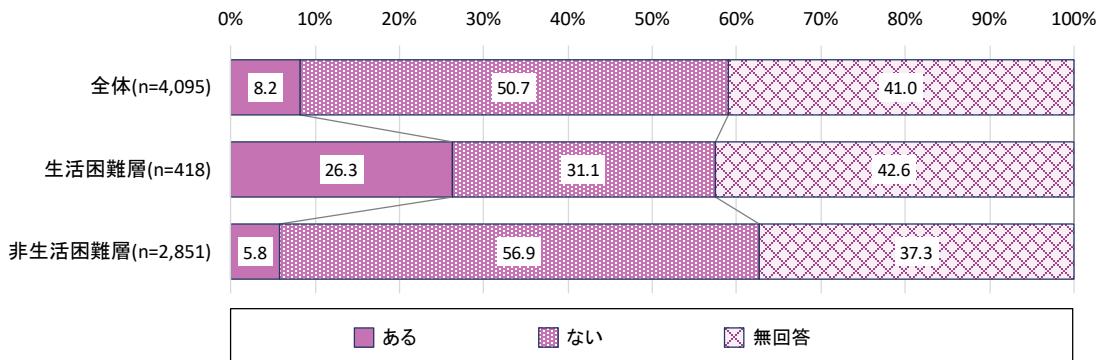
設問 42D 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-22 「児童扶養手当」を利用しなかった理由



設問 42D③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-23 「児童扶養手当」の利用に関する興味の有無



E 児童育成手当

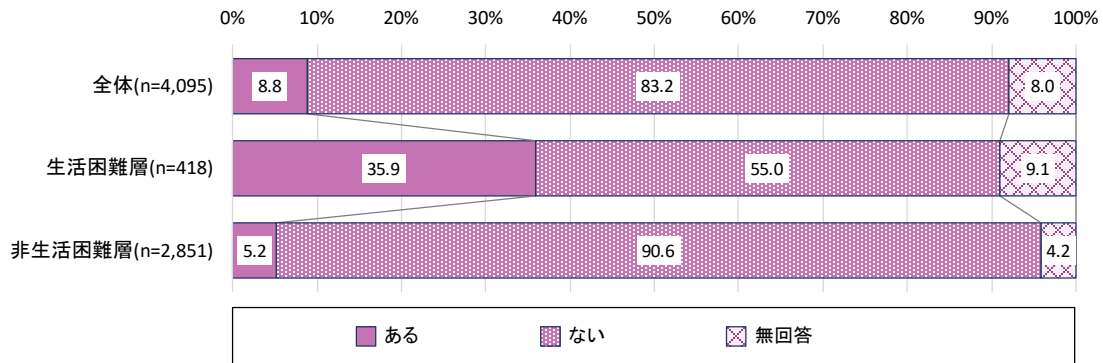
「児童育成手当」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では8.8%、生活困難層では35.9%、非生活困難層では5.2%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では6.6%、生活困難層では13.5%、非生活困難層では6.0%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では8.3%、生活困難層では27.0%、非生活困難層では5.9%であった。

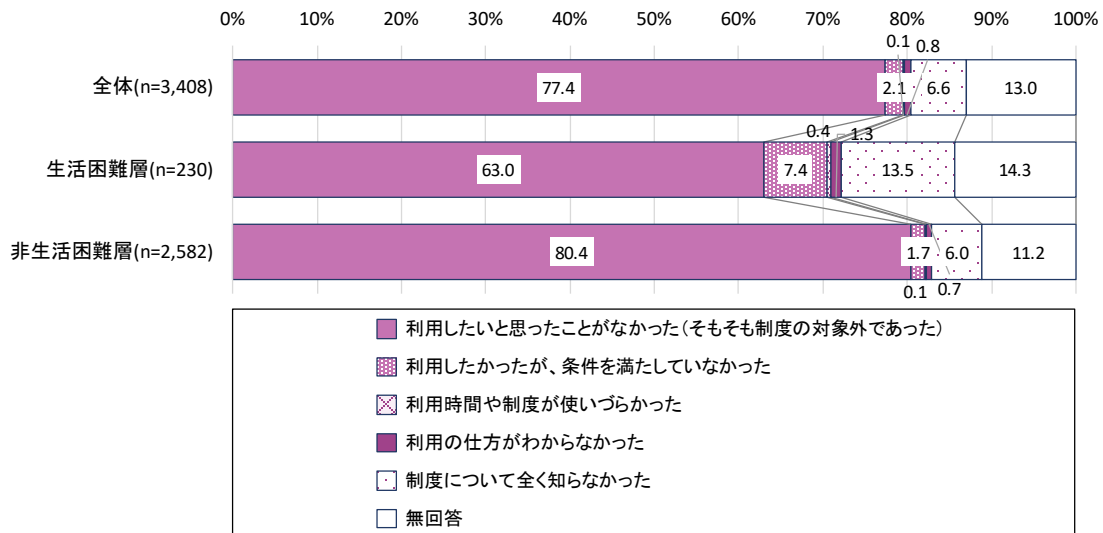
設問 42E① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-24 「児童育成手当」の利用経験の有無



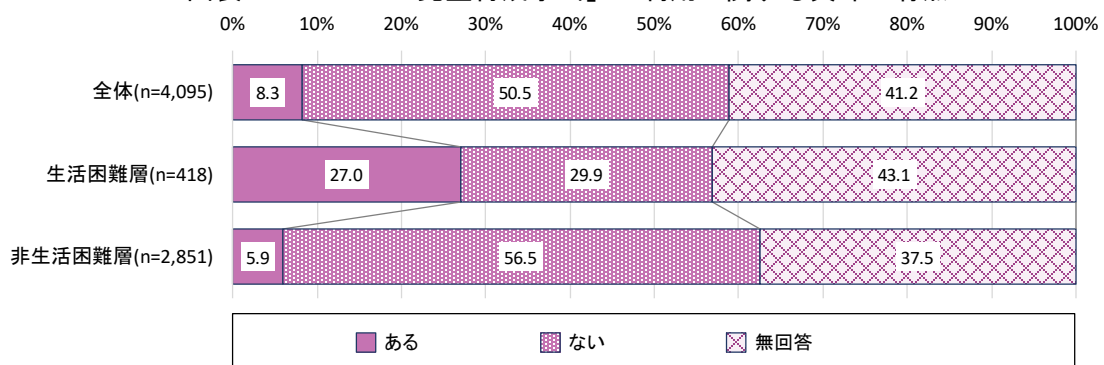
設問 42E② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-25 「児童育成手当」を利用しなかった理由



設問 42E③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-26 「児童育成手当」の利用に関する興味の有無



F 特別定額給付金

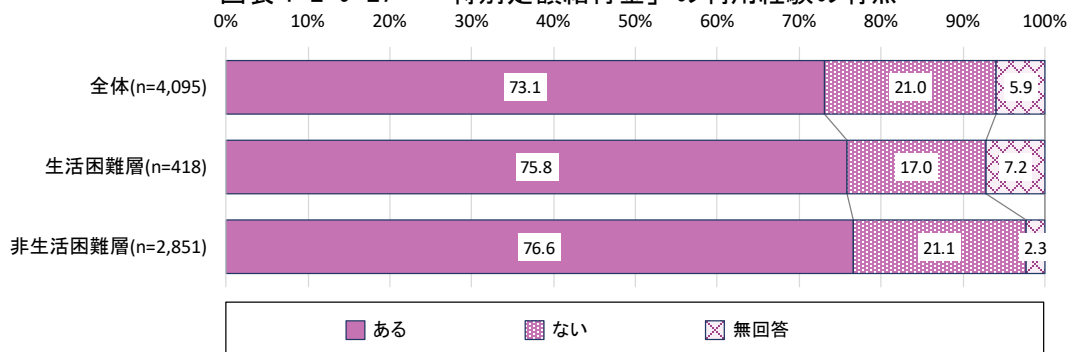
「特別定額給付金」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体で73.1%であった³⁴。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では7.5%、生活困難層では16.9%、非生活困難層では6.1%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では55.8%、生活困難層では55.5%、非生活困難層では59.3%であった。

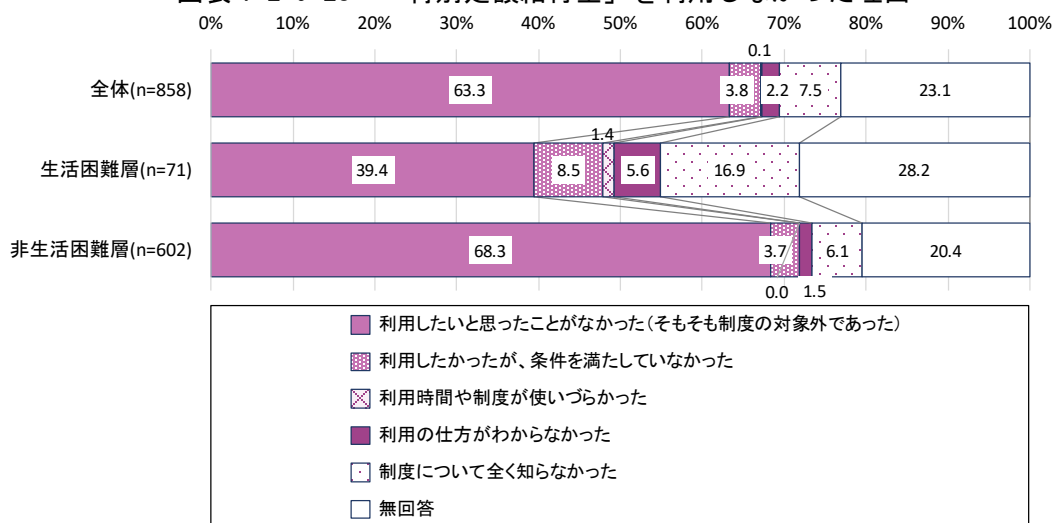
設問 42F① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-27 「特別定額給付金」の利用経験の有無



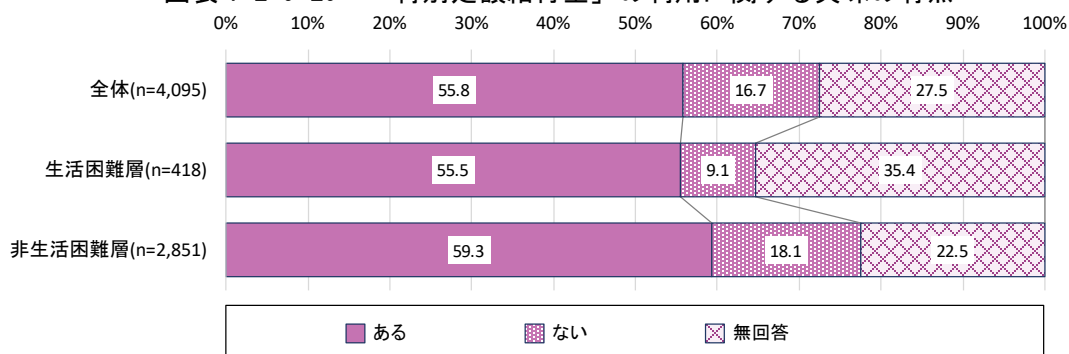
設問 42F② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-28 「特別定額給付金」を利用しなかった理由



設問 42F③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-29 「特別定額給付金」の利用に関する興味の有無



³⁴ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

G 新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付

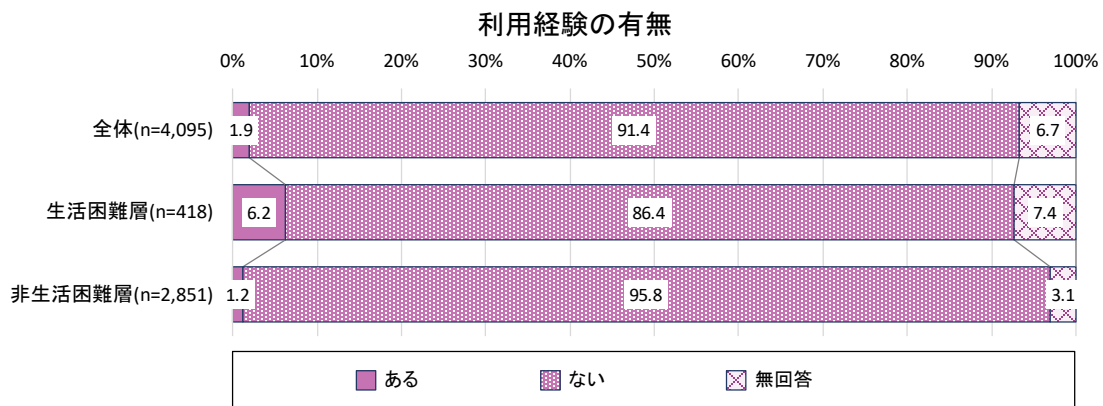
「新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では1.9%、生活困難層では6.2%、非生活困難層では1.2%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では11.9%、生活困難層では25.5%、非生活困難層では9.6%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では6.9%、生活困難層では17.5%、非生活困難層では5.1%であった。

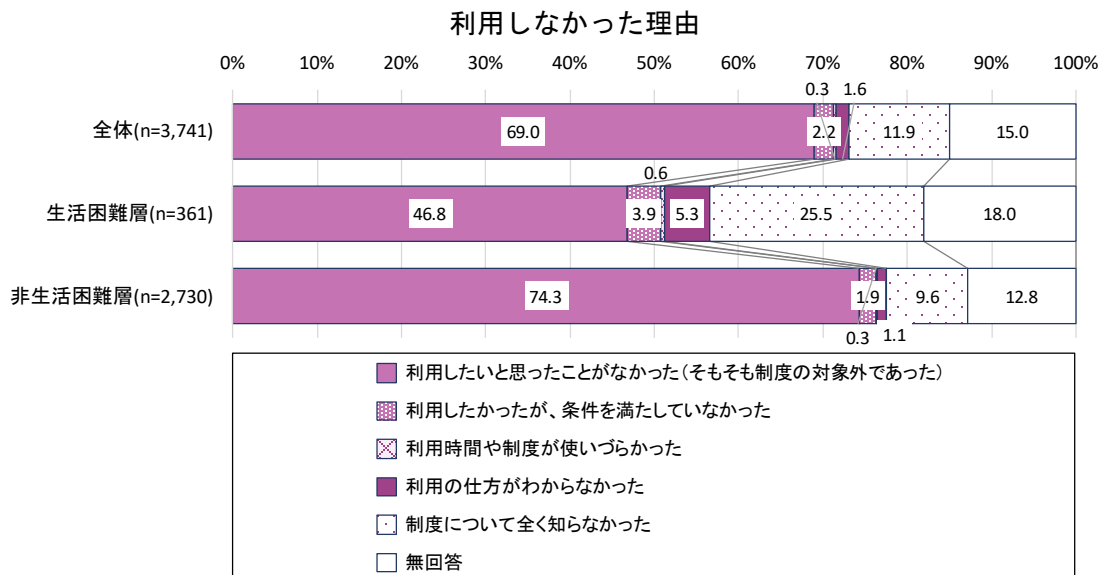
設問 42G① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-30 「新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付」の



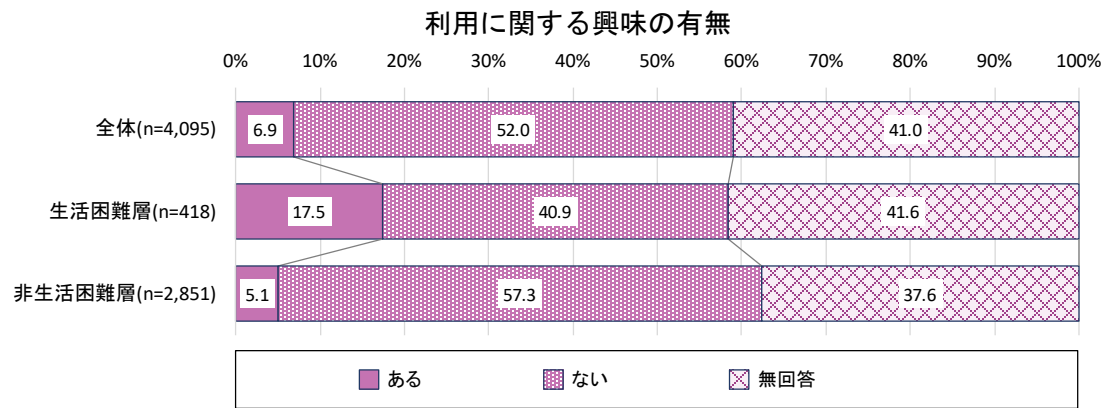
設問 42G② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-31 「新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付」を



設問 42G③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-32 「新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付」の



H 住居確保給付金

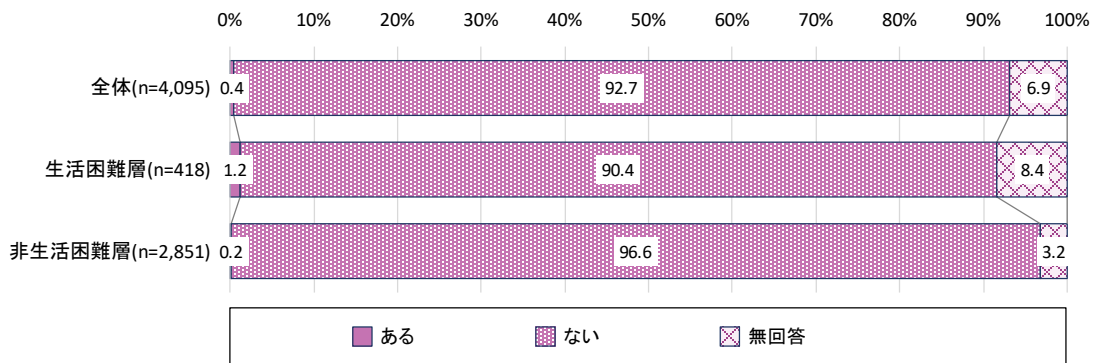
「住居確保給付金」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では0.4%、生活困難層では1.2%、非生活困難層では0.2%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では15.0%、生活困難層では29.1%、非生活困難層では12.7%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では6.6%、生活困難層では19.6%、非生活困難層では4.9%であった。

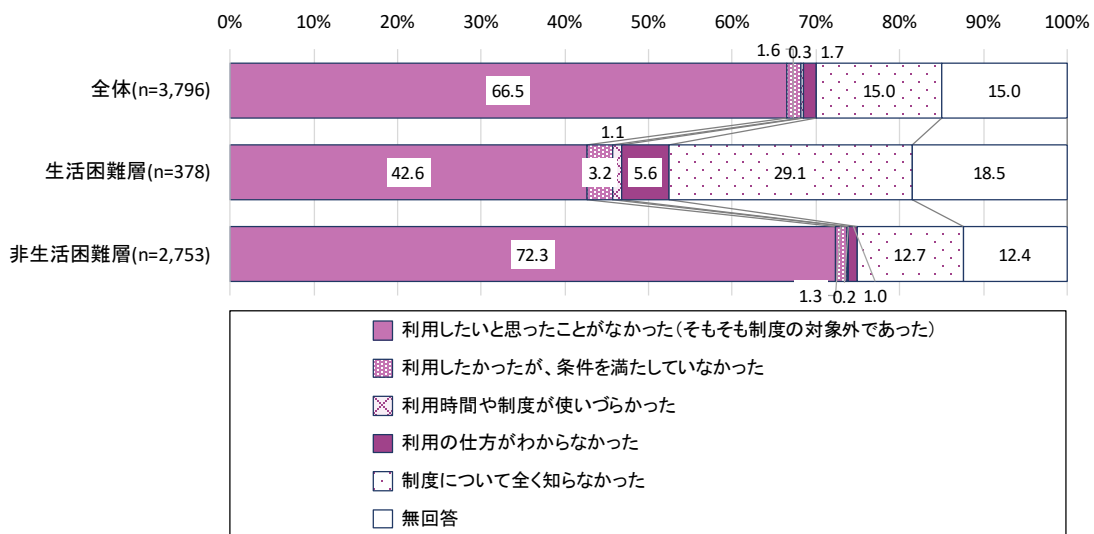
設問 42H① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-33 「住居確保給付金」の利用経験の有無



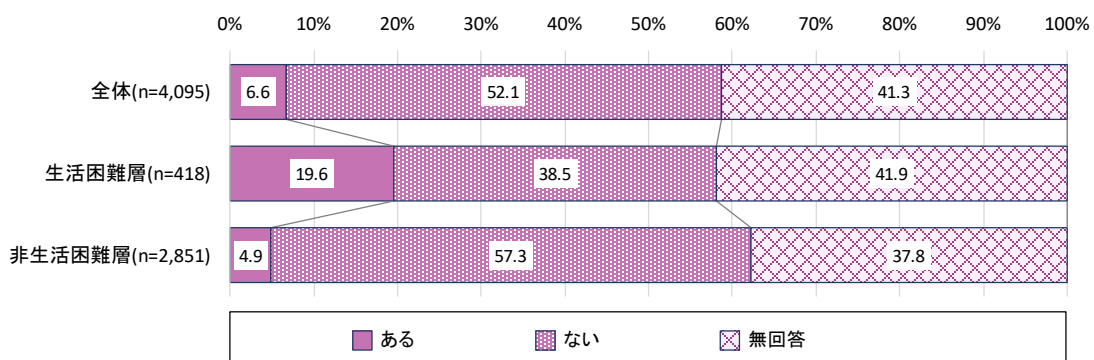
設問 42H② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-34 「住居確保給付金」を利用しなかった理由



設問 42H③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-35 「住居確保給付金」の利用に関する興味の有無



I ひとり親世帯臨時特別給付金

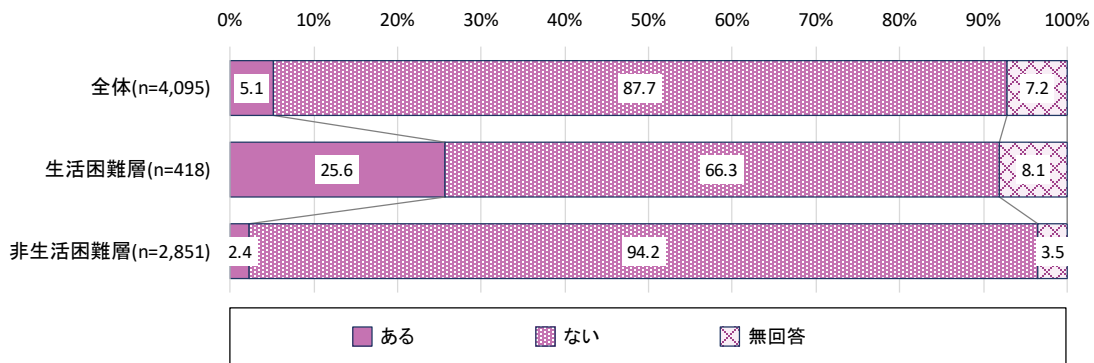
「ひとり親世帯臨時特別給付金」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では5.1%、生活困難層では25.6%、非生活困難層では2.4%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では9.0%、生活困難層では17.0%、非生活困難層では7.7%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では5.8%、生活困難層では22.0%、非生活困難層では3.5%であった。

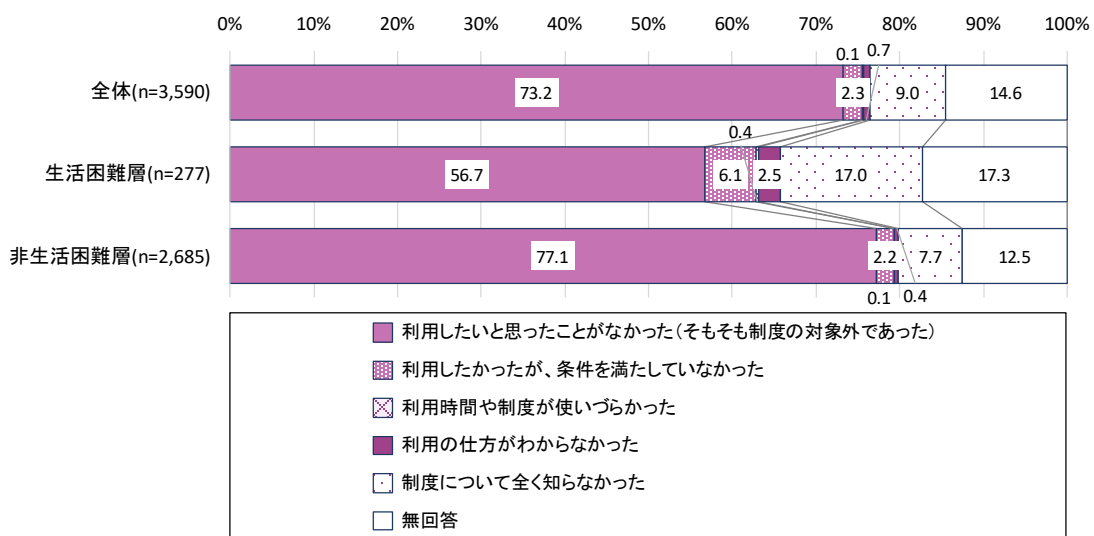
設問 42 I ① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-36 「ひとり親世帯臨時特別給付金」の利用経験の有無



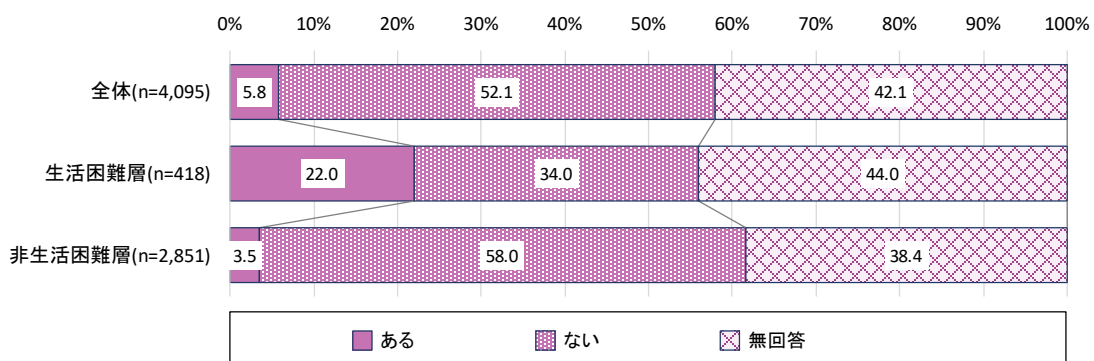
設問 42 I ② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-37 「ひとり親世帯臨時特別給付金」を利用しなかった理由



設問 42 I ③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-38 「ひとり親世帯臨時特別給付金」の利用に関する興味の有無



J 新型コロナウイルスに伴う国民健康保険加入者に対する傷病手当金

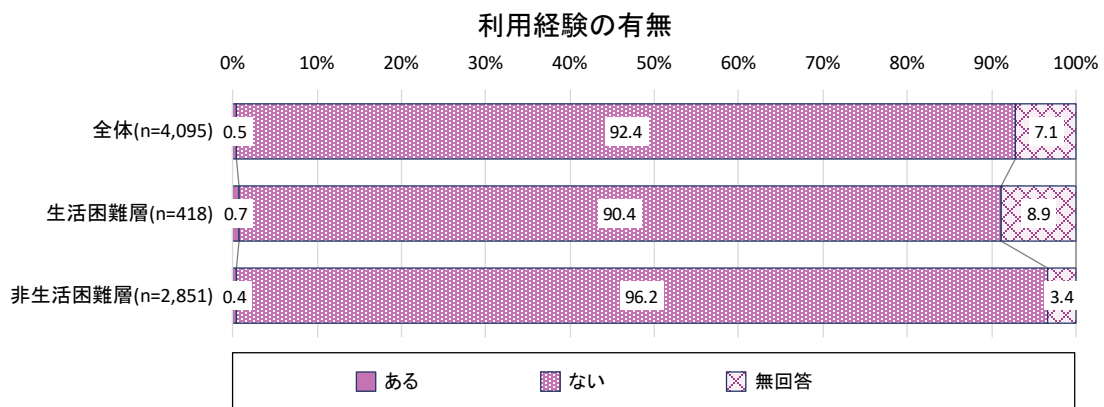
「新型コロナウイルスに伴う国民健康保険加入者に対する傷病手当金」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体で0.5%であった³⁵。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では15.4%、生活困難層では28.3%、非生活困難層では12.8%であった。

今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では9.0%、生活困難層では17.9%、非生活困難層では7.8%であった。

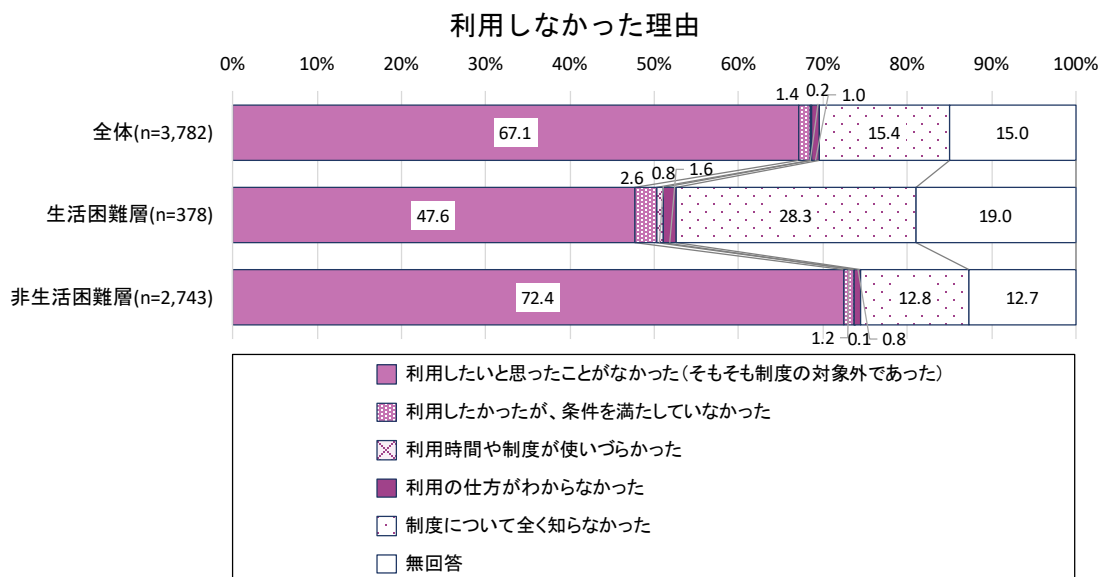
設問 42 J ① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-39 「新型コロナウイルスに伴う国民健康保険加入者に対する傷病手当金」の



設問 42 J ② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

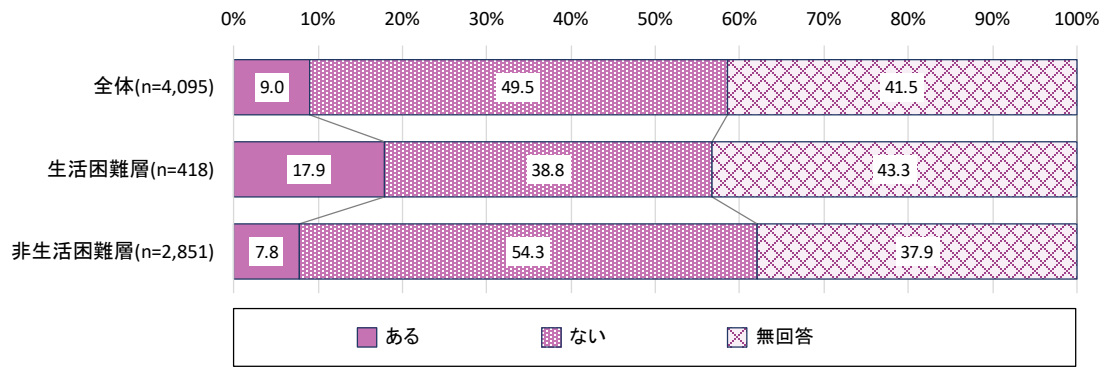
図表 1-2-9-40 「新型コロナウイルスに伴う国民健康保険加入者に対する傷病手当金」を



³⁵ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

設問 42 J ③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-41 「新型コロナウイルスに伴う国民健康保険加入者に対する傷病手当金」の利用に関する興味の有無



K ファミリー・サポートおおた

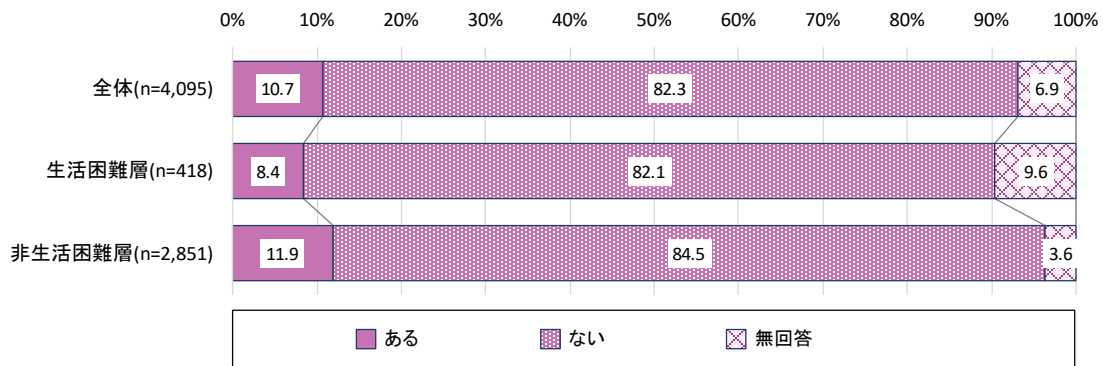
「ファミリー・サポートおおた」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体で10.7%であった³⁶。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では12.1%、生活困難層では23.0%、非生活困難層では10.5%であった。その他、「利用時間や制度が使いづらかった」の回答割合は、全体では9.0%、生活困難層では7.9%、非生活困難層では9.8%、「利用の仕方がわからなかった」の回答割合は、全体では7.0%、生活困難層では10.8%、非生活困難層では6.3%であった。

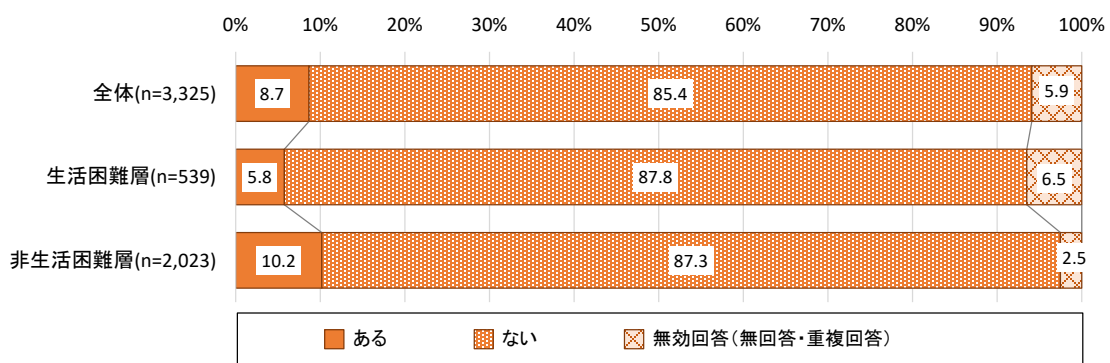
今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体で7.6%であった³⁷。

設問 43K① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-42 「ファミリー・サポートおおた」の利用経験の有無



(参考) 前回調査結果



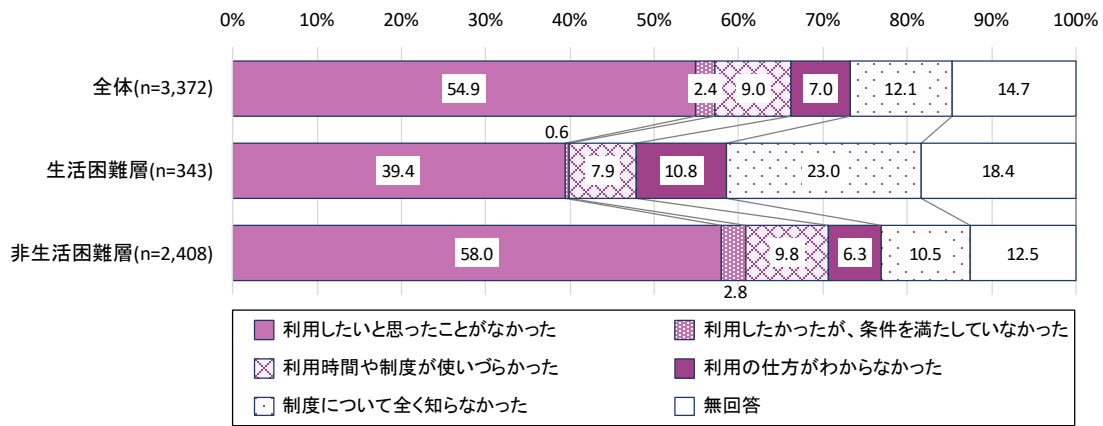
³⁶ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

³⁷ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

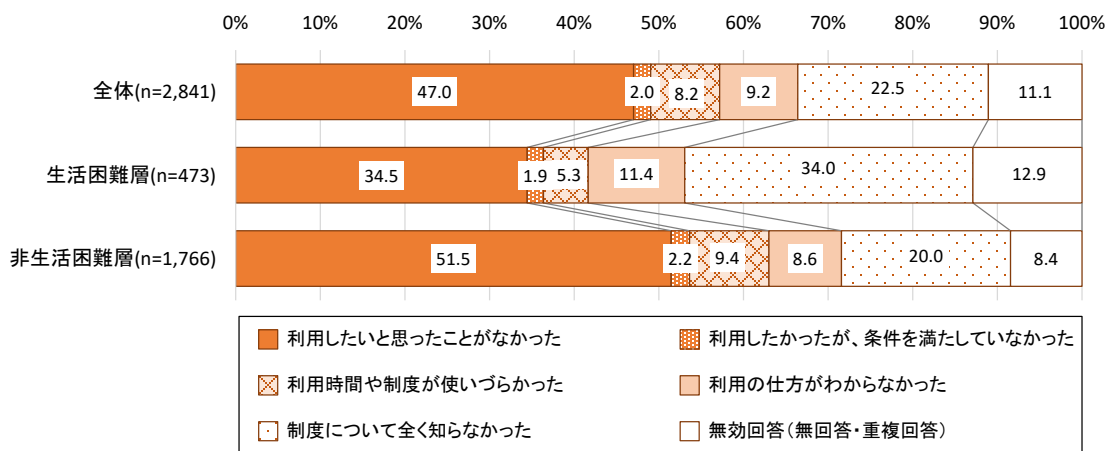
設問 43K②

以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-43 「ファミリー・サポートおおた」を利用しなかった理由



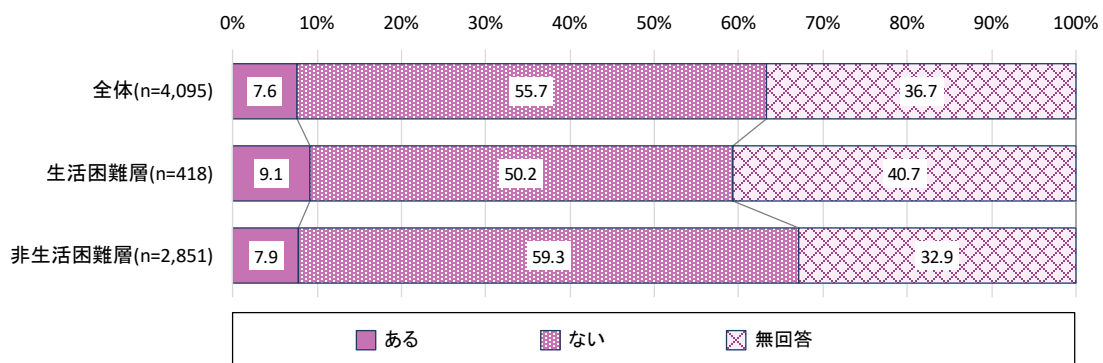
(参考) 前回調査結果



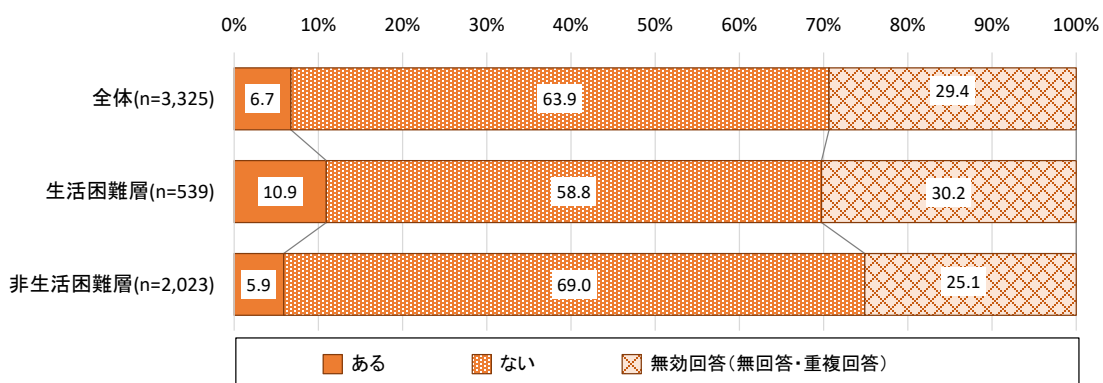
設問 43K③

以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-44 「ファミリー・サポートおおた」の利用に関する興味の有無



(参考) 前回調査結果



L 子育て短期支援事業（ショートステイ）

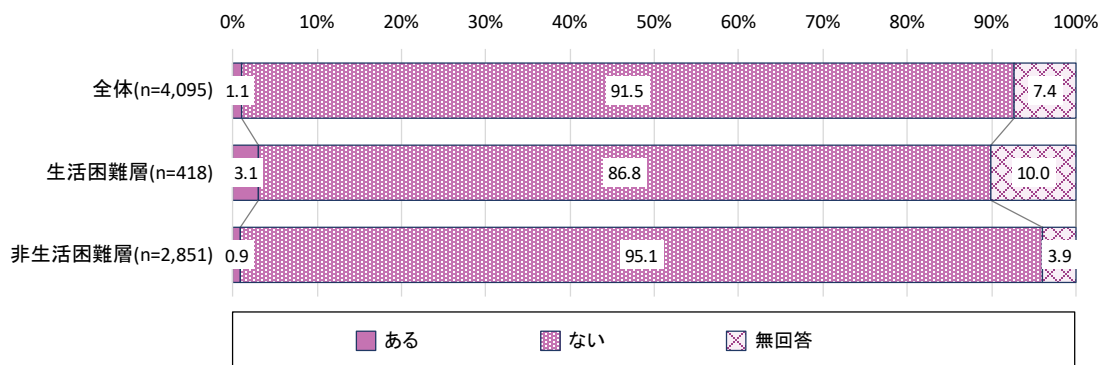
「子育て短期支援事業（ショートステイ）」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では1.1%、生活困難層では3.1%、非生活困難層では0.9%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では15.5%、生活困難層では25.9%、非生活困難層では14.2%であった。

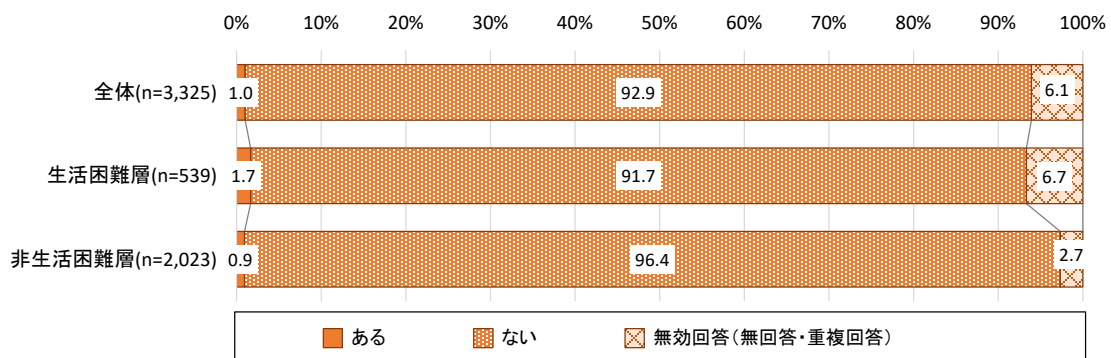
今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では4.3%、生活困難層では6.9%、非生活困難層では4.2%であった。

設問 43L① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。（SA）

図表 1-2-9-45 「子育て短期支援事業（ショートステイ）」の利用経験の有無



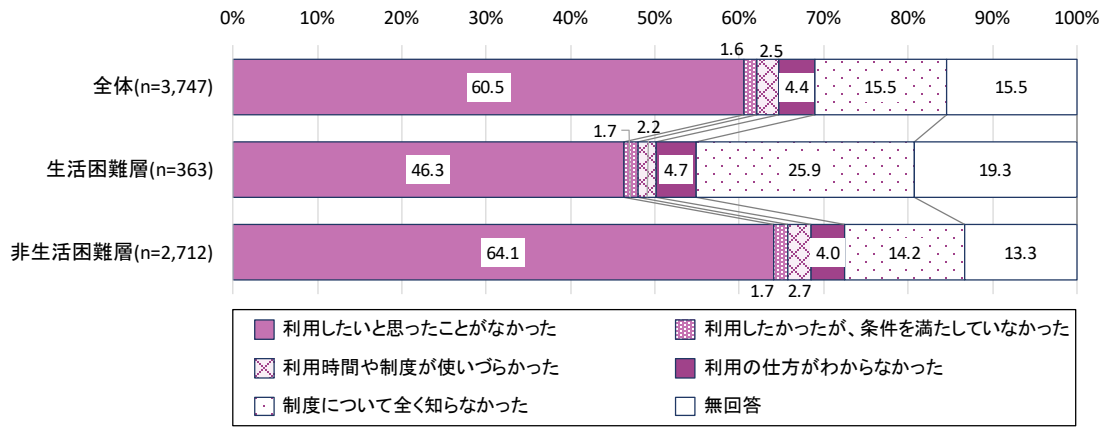
(参考) 前回調査結果



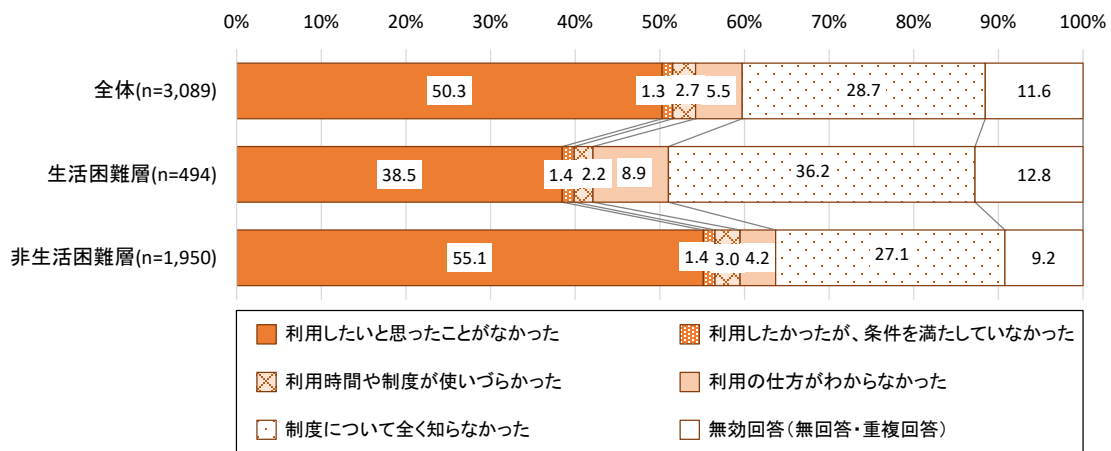
設問 43 L ②

以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-46 「子育て短期支援事業(ショートステイ)」を利用しなかった理由



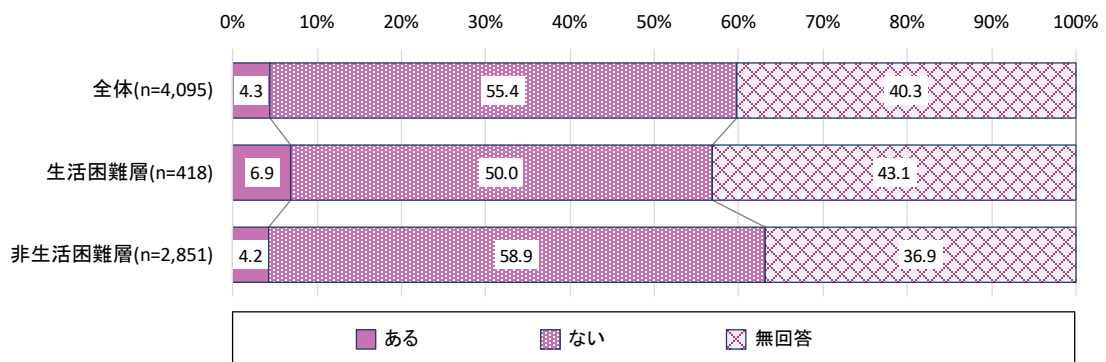
(参考) 前回調査結果



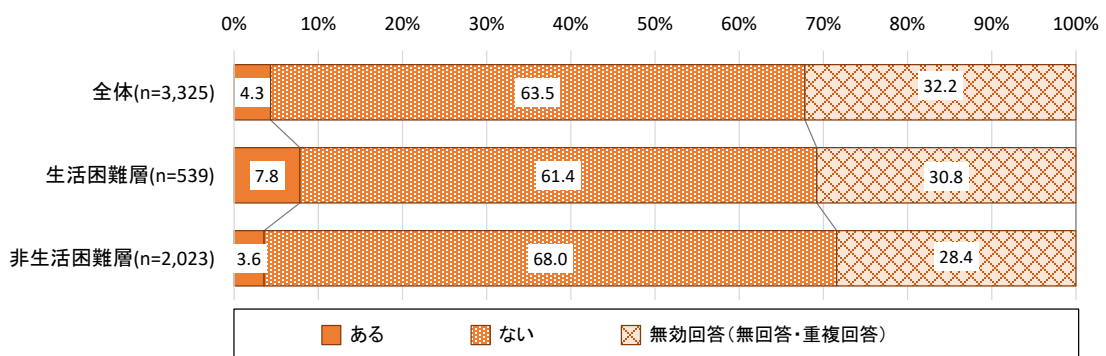
設問 43 L ③

以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-47 「子育て短期支援事業(ショートステイ)」の利用に関する興味の有無



(参考) 前回調査結果



M 子育てひろば（キッズな）

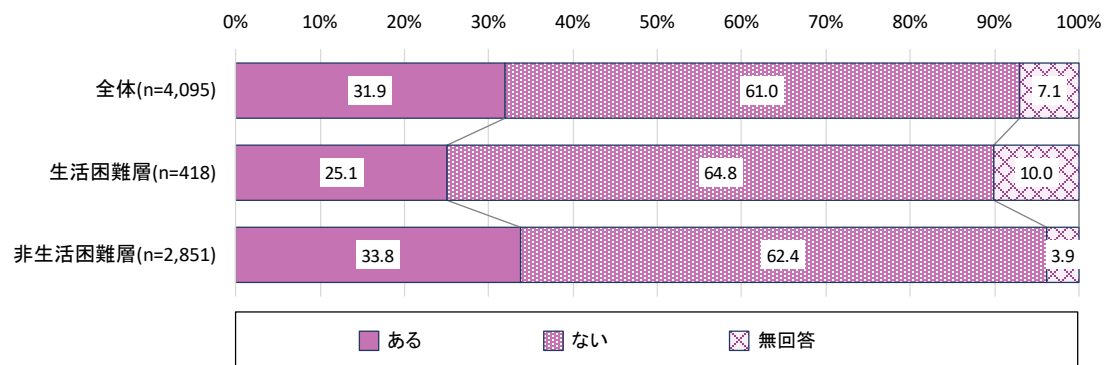
「子育てひろば（キッズな）」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では31.9%、生活困難層では25.1%、非生活困難層では33.8%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では14.1%、生活困難層では22.9%、非生活困難層では13.0%であった。

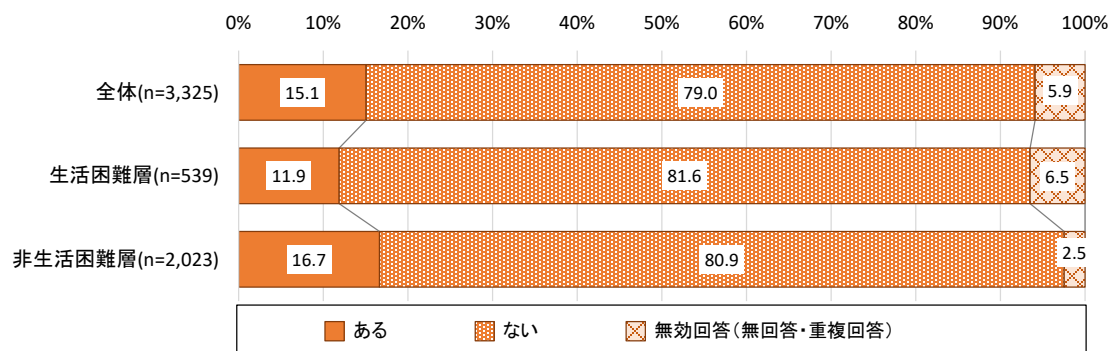
今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体で7.1%であった³⁸。

設問 43M① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。（SA）

図表 1-2-9-48 「子育てひろば（キッズな）」の利用経験の有無



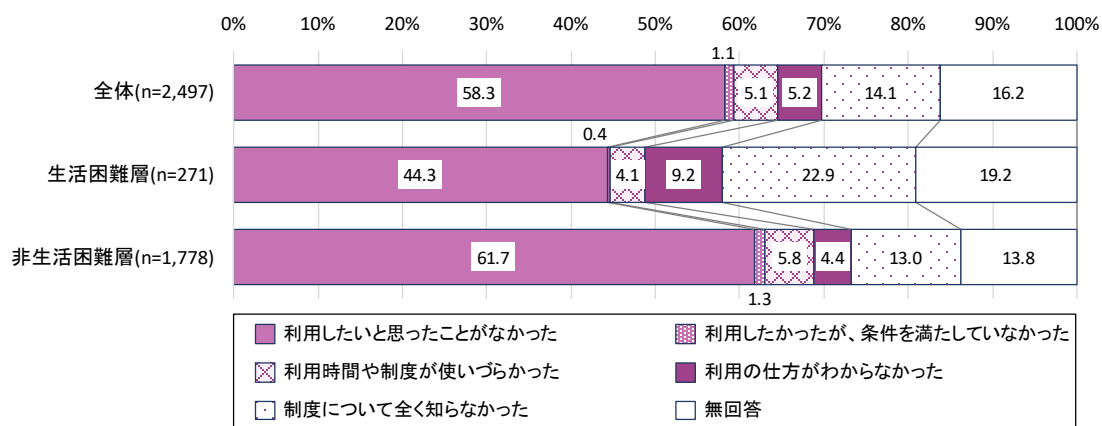
(参考) 前回調査結果



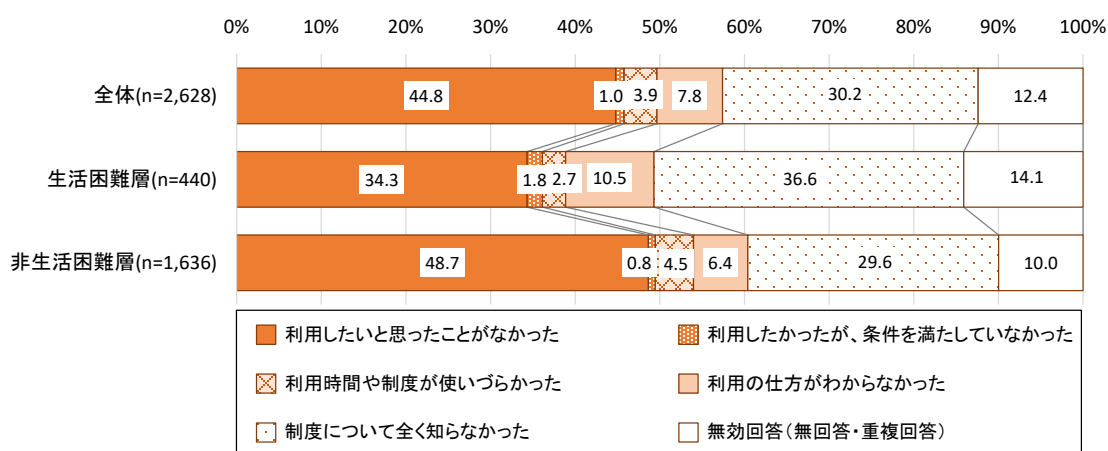
³⁸ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

設問 43M② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-49 「子育てひろば(キッズな)」を利用しなかった理由

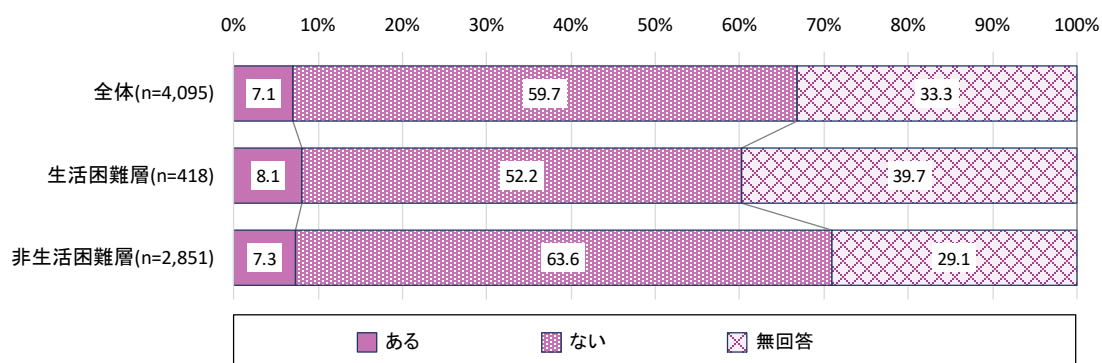


(参考) 前回調査結果

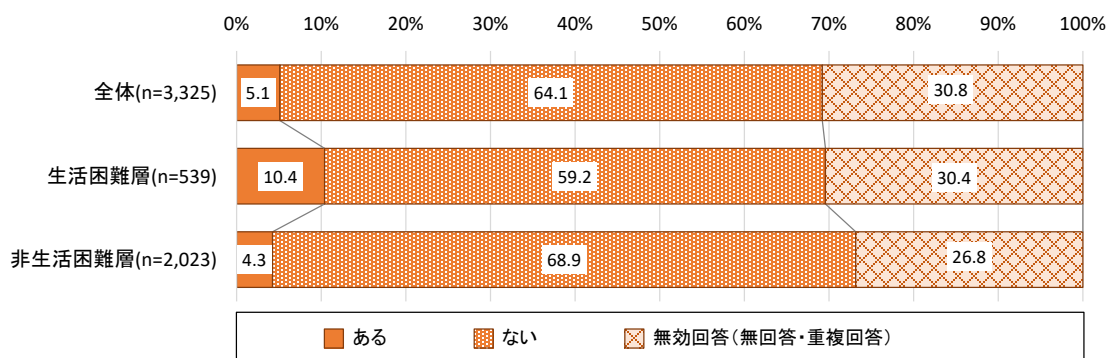


設問 43M③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-50 「子育てひろば(キッズな)」の利用に関する興味の有無



(参考) 前回調査結果



N (NPOなどによる) 子ども食堂

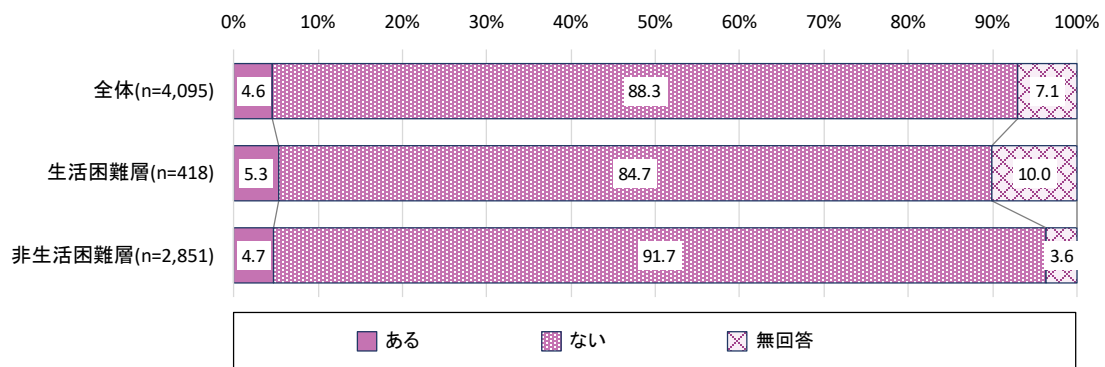
「(NPOなどによる) 子ども食堂」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体で4.6%であった³⁹。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では11.1%、生活困難層では22.3%、非生活困難層では9.7%であった。その他、「利用の仕方がわからなかった」の回答割合は、全体では9.8%、生活困難層では15.3%、非生活困難層では9.3%であった。

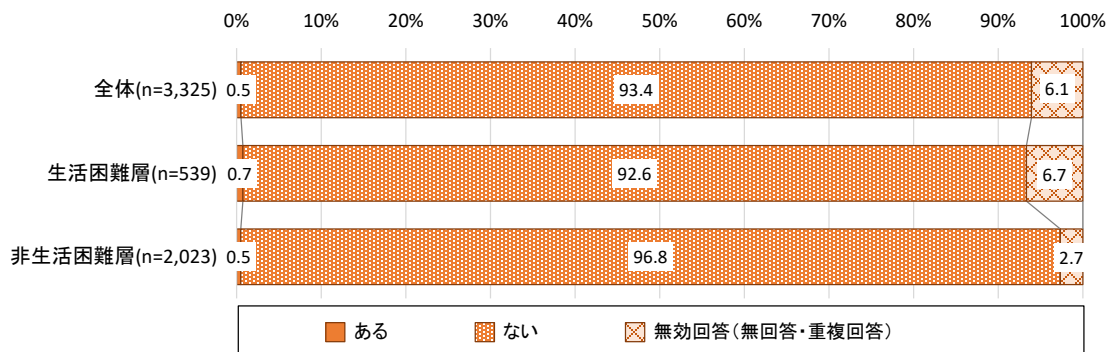
今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では13.8%、生活困難層では23.0%、非生活困難層では13.3%であった。

設問 43N① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-51 「(NPOなどによる) 子ども食堂」の利用経験の有無



(参考) 前回調査結果

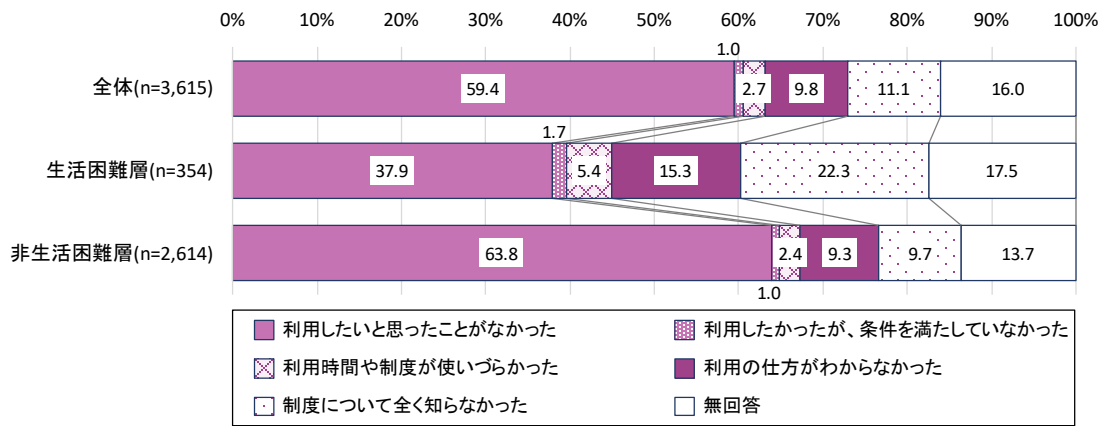


³⁹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

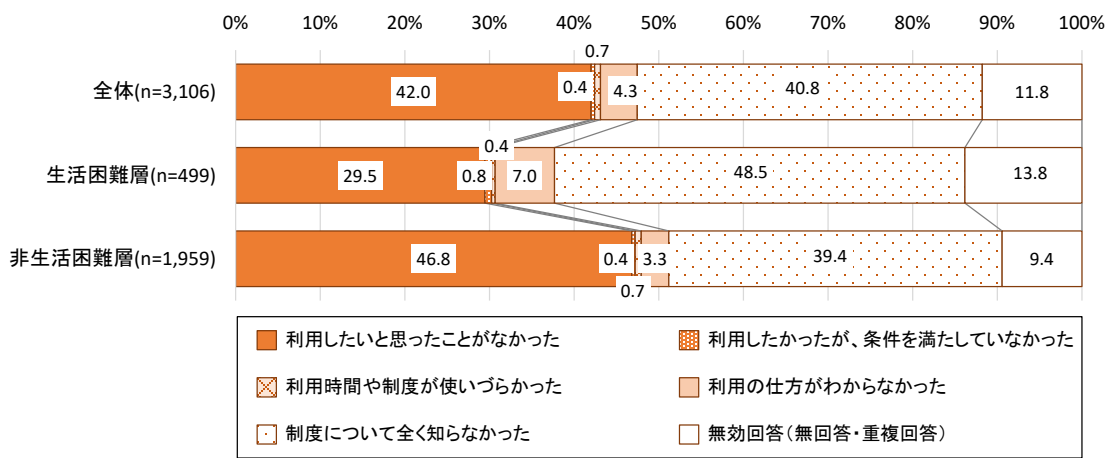
設問 43N②

以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-52 「(NPOなどによる) 子ども食堂」を利用しなかった理由



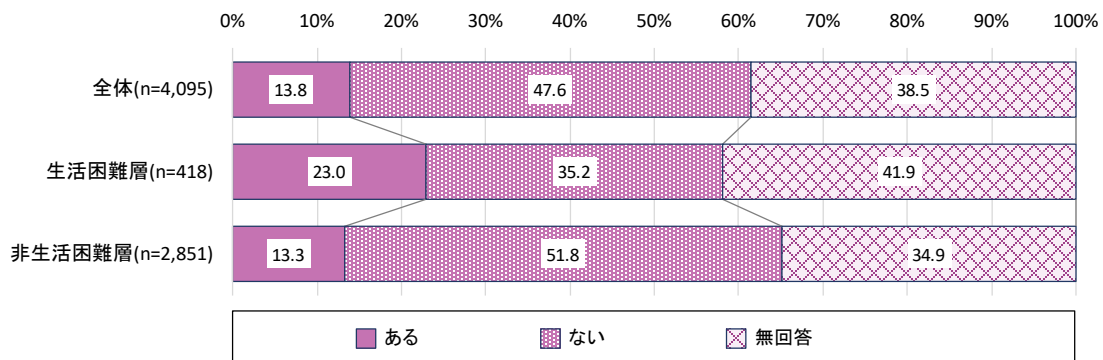
(参考) 前回調査結果



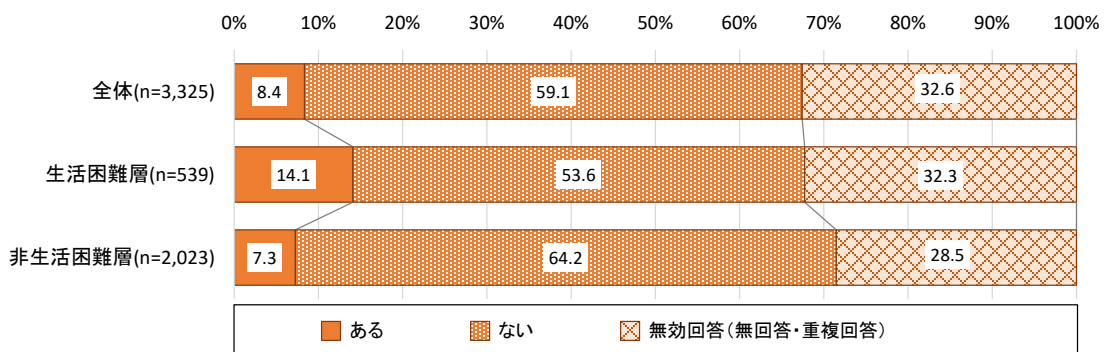
設問 43N③

以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-53 「(NPOなどによる) 子ども食堂」の利用に関する興味の有無



(参考) 前回調査結果



○ フードバンクによる食料支援

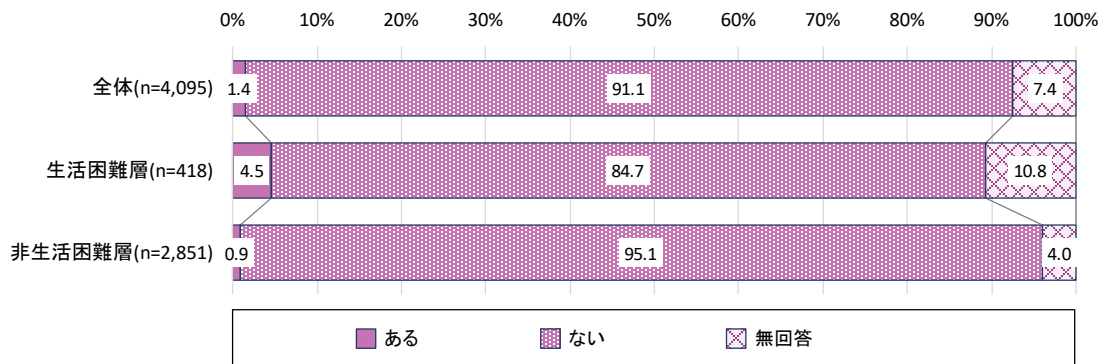
「フードバンクによる食料支援」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では1.4%、生活困難層では4.5%、非生活困難層では0.9%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では18.3%、生活困難層では30.5%、非生活困難層では17.1%であった。なお、生活困難層の「利用の仕方がわからなかった」の回答割合は11.6%であった。

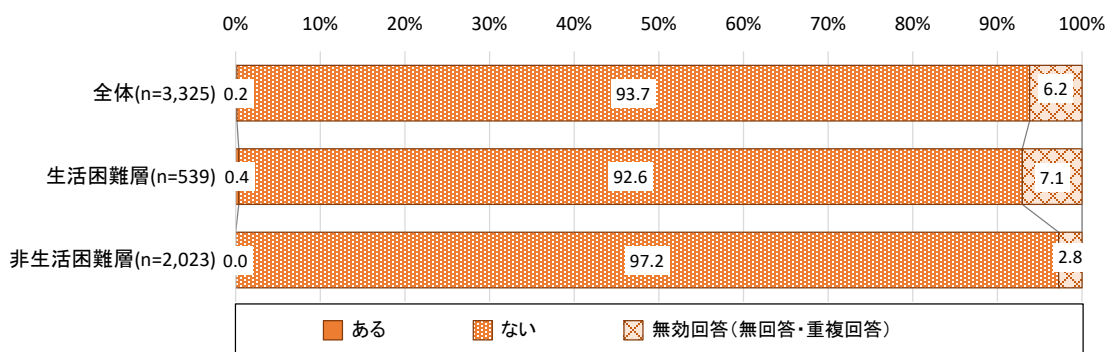
今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では10.3%、生活困難層では20.8%、非生活困難層では9.2%であった。

設問 43〇① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-54 「フードバンクによる食料支援」の利用経験の有無



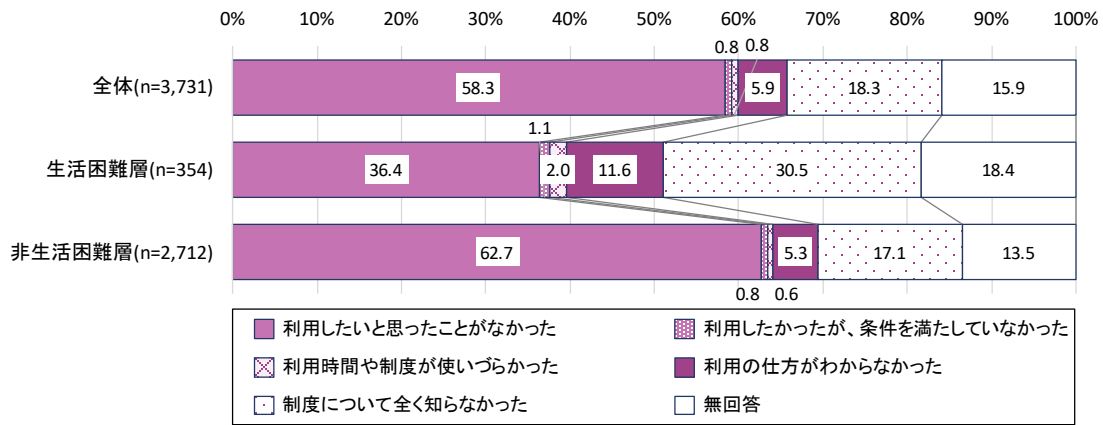
(参考) 前回調査結果



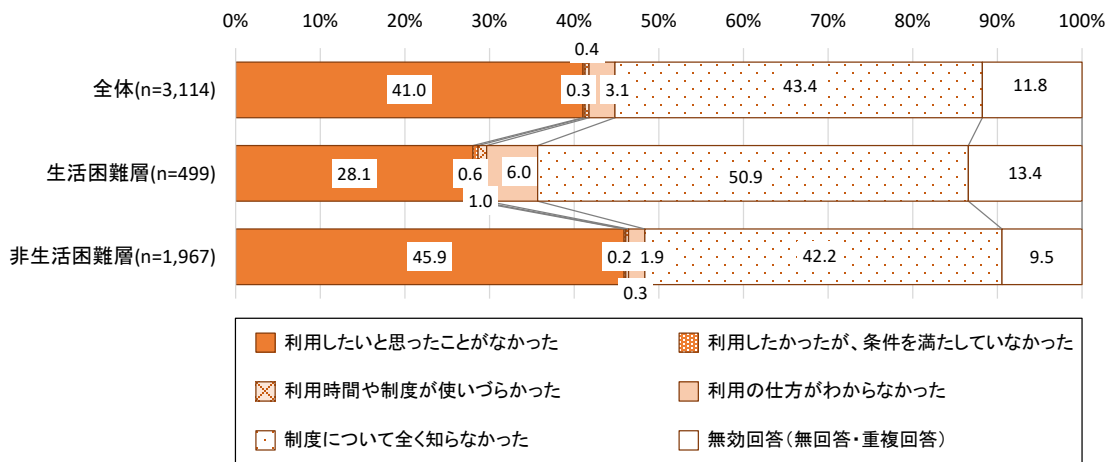
設問 43〇②

以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-55 「フードバンクによる食料支援」を利用しなかった理由



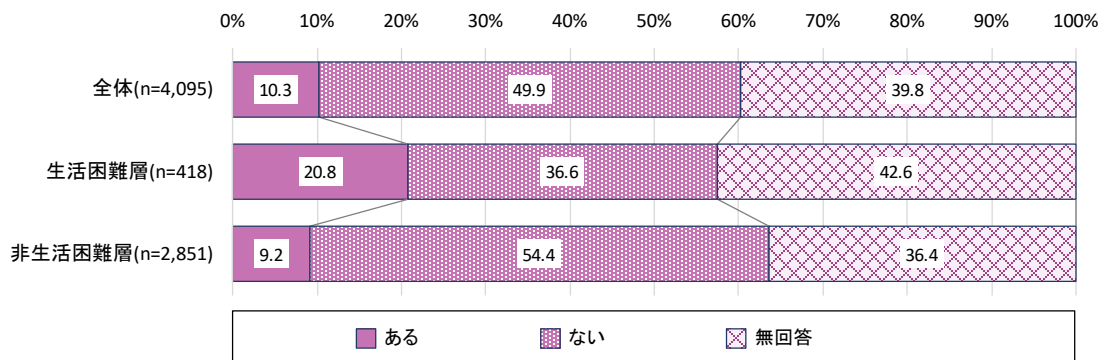
(参考) 前回調査結果



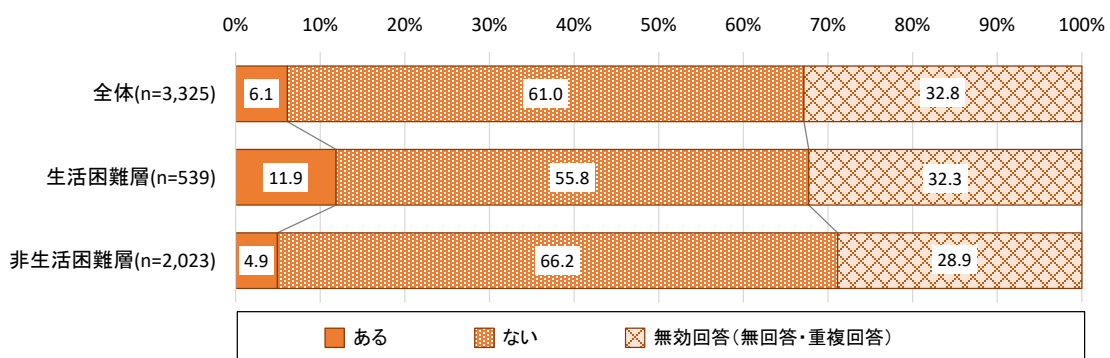
設問 43〇③

以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-56 「フードバンクによる食料支援」の利用に関する興味の有無



(参考) 前回調査結果



P 学校が実施している補講（学習支援）

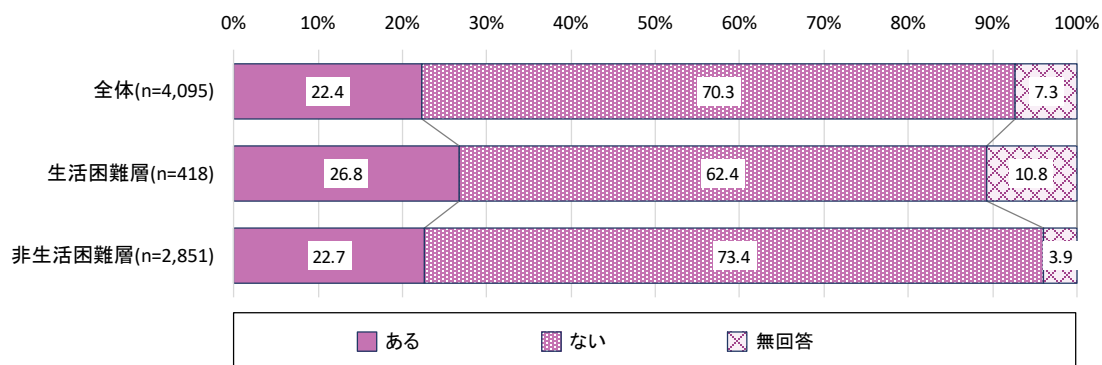
「学校が実施している補講（学習支援）」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では22.4%、生活困難層では26.8%、非生活困難層では22.7%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では14.5%、生活困難層では28.4%、非生活困難層では12.5%であった。なお、生活困難層の「利用の仕方がわからなかった」の回答割合は11.9%であった。

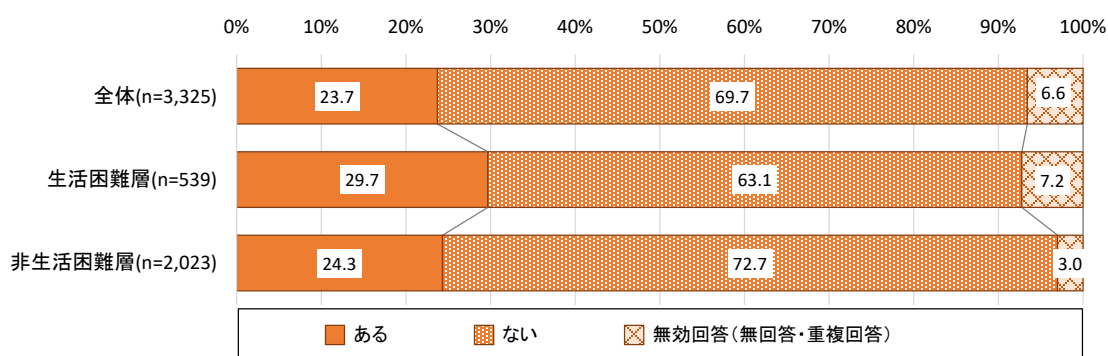
今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では26.9%、生活困難層では34.9%、非生活困難層では27.9%であった。

設問 43P① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。（SA）

図表 1-2-9-57 「学校が実施している補講（学習支援）」の利用経験の有無



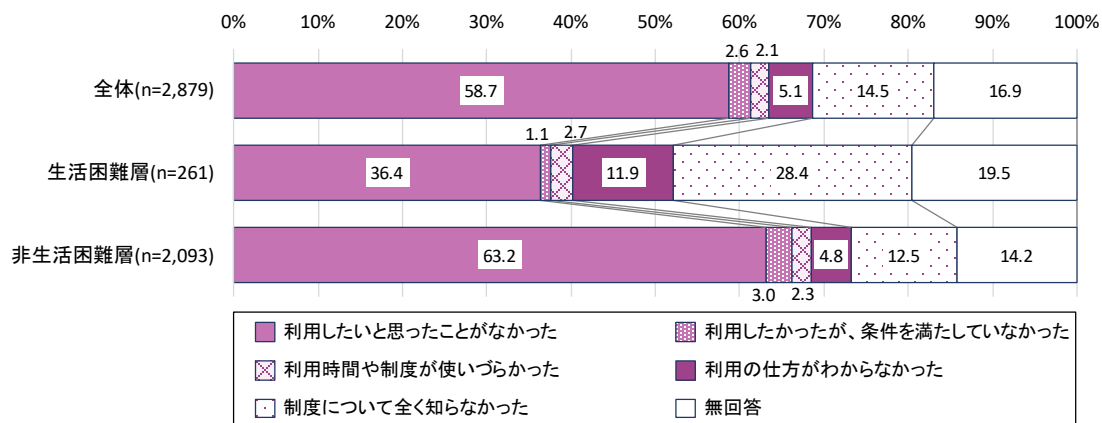
(参考) 前回調査結果



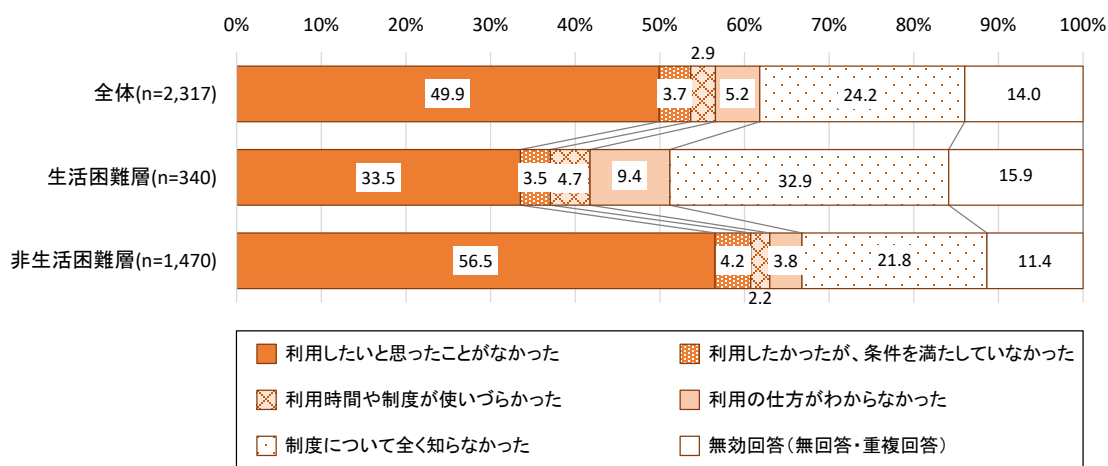
設問 43P②

以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-58 「学校が実施している補講(学習支援)」を利用しなかった理由



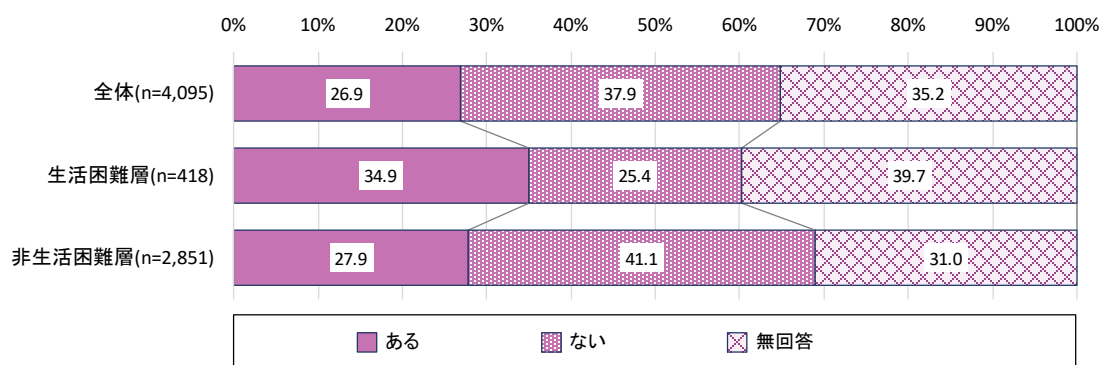
(参考) 前回調査結果



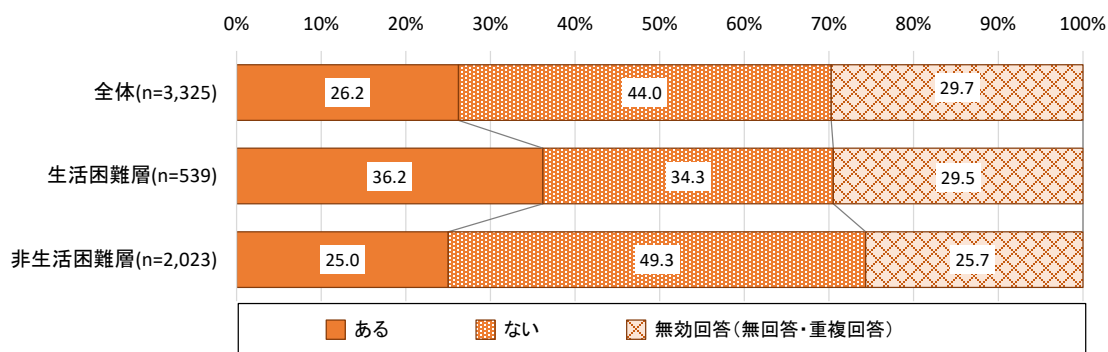
設問 43P③

以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-59 「学校が実施している補講(学習支援)」の利用に関する興味の有無



(参考) 前回調査結果



Q NPOなどによる学校以外が実施する学習支援

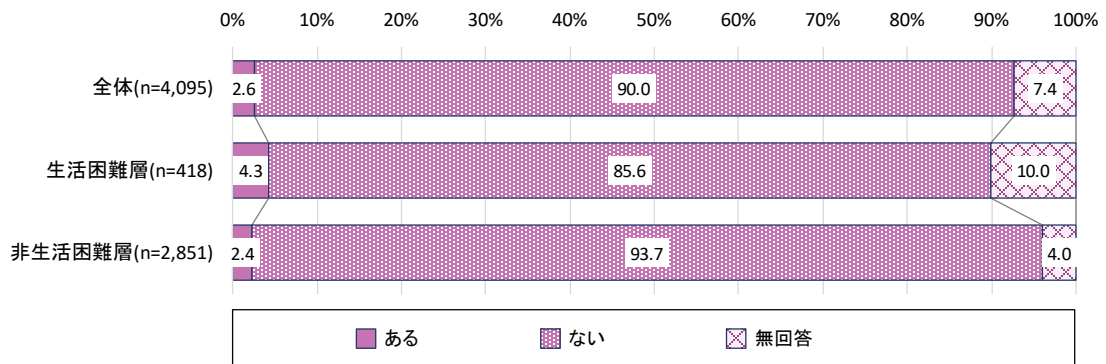
「NPOなどによる学校以外が実施する学習支援」を利用したことがあるかを尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では2.6%、生活困難層では4.3%、非生活困難層では2.4%であった。

また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、全体では24.0%、生活困難層では36.9%、非生活困難層では23.3%であった。なお、生活困難層の「利用の仕方がわからなかった」の回答割合は11.2%であった。

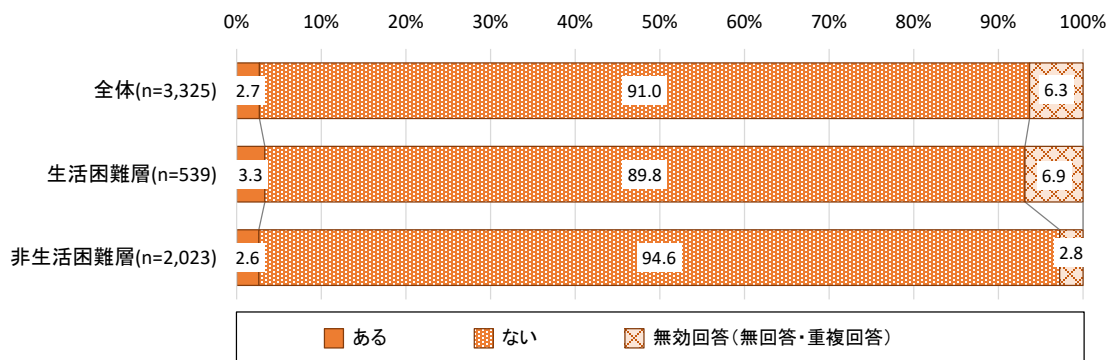
今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、全体では17.7%、生活困難層では25.8%、非生活困難層では17.7%であった。

設問 43Q① 以下の支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 1-2-9-60 「NPOなどによる学校以外が実施する学習支援」の利用経験の有無

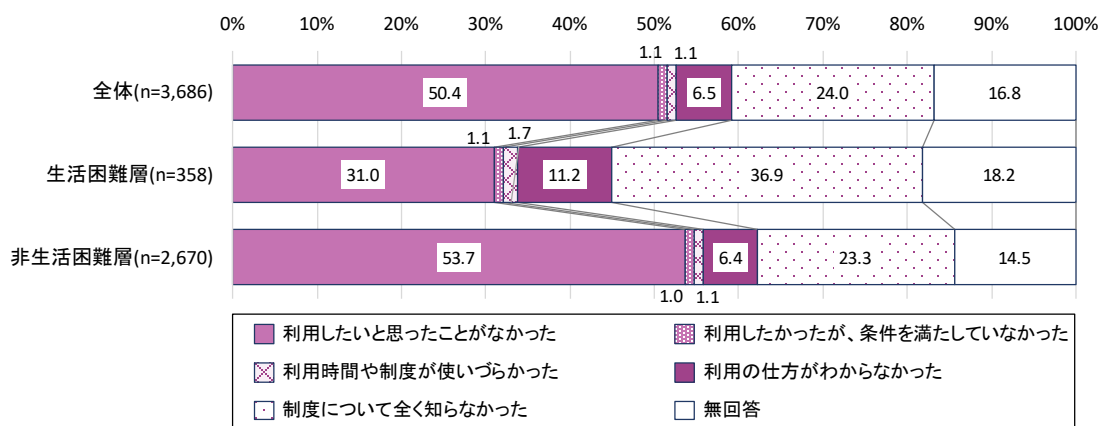


(参考) 前回調査結果

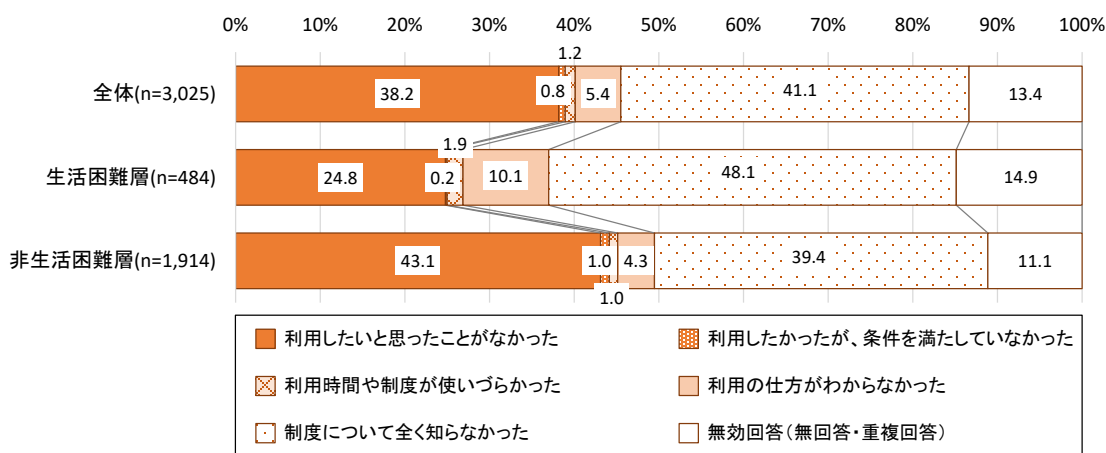


設問 43Q② 以下の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

図表 1-2-9-61 「NPOなどによる学校以外が実施する学習支援」を利用しなかった理由

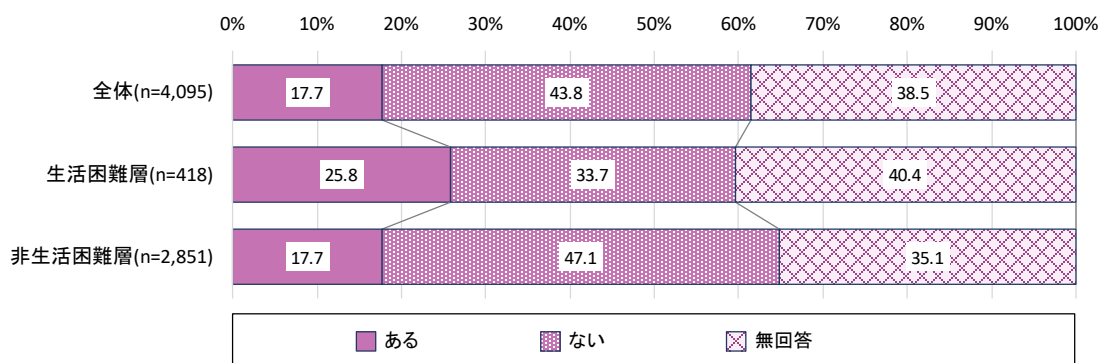


(参考) 前回調査結果

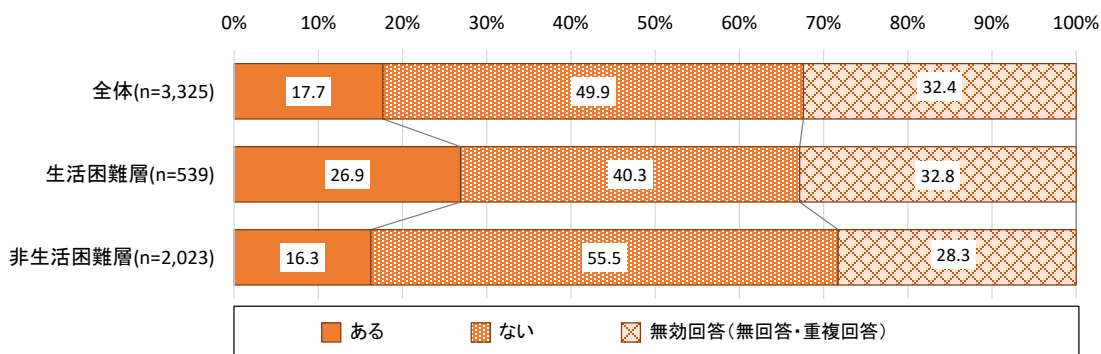


設問 43Q③ 以下の支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 1-2-9-62 「NPOなどによる学校以外が実施する学習支援」の利用に関する興味の有無



(参考) 前回調査結果



3. 調査結果(子ども票)

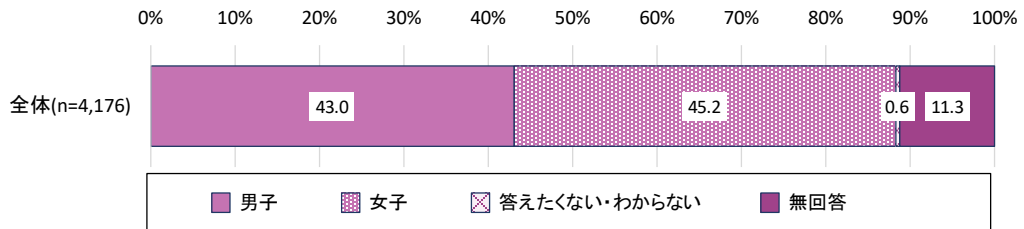
(1)属性・家庭環境に関すること

①性別

回答があった子どもの性別は、男子が43.0%、女子が45.2%であった。

設問 1 あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-1-1 回答者の性別



②自分で使うことができるもの・ほしいもの

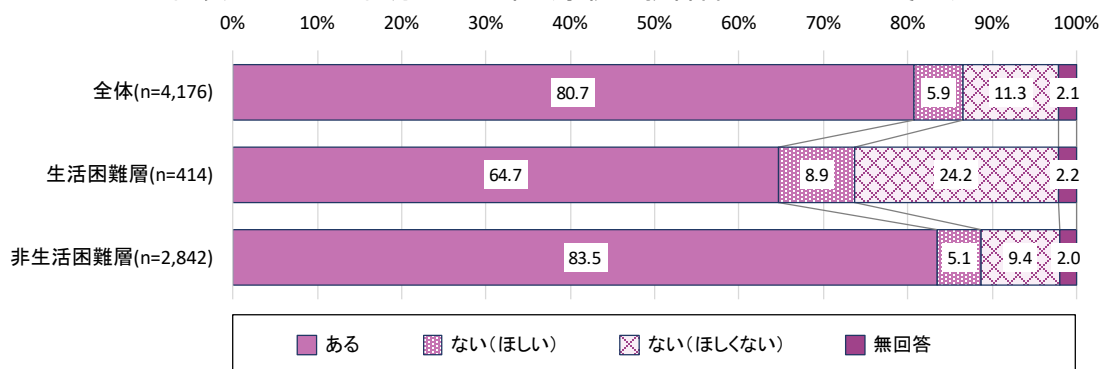
A 自分だけの本 (学校の教科書やマンガはのぞく)

自分が使うことができるものについて、「自分だけの本 (学校の教科書やマンガはのぞく)」が「ある」と回答した割合は、全体では80.7%、生活困難層では64.7%、非生活困難層では83.5%であった。また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体では5.9%、生活困難層では8.9%、非生活困難層では5.1%であった。

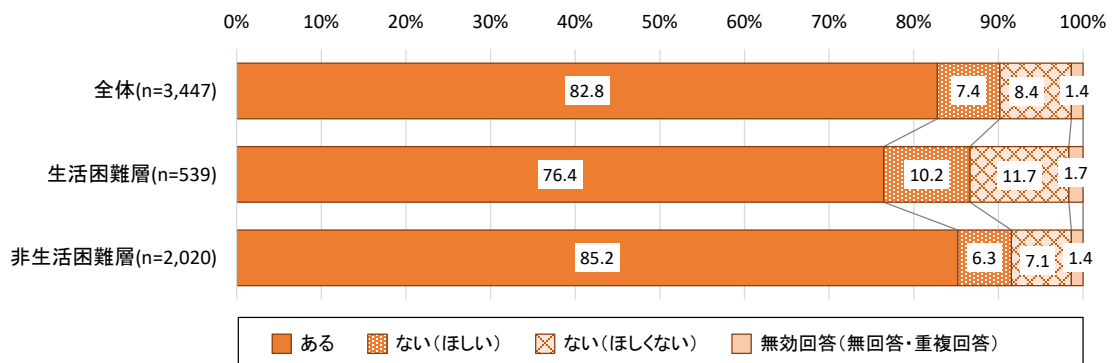
全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「ある」「ない(ほしい)」の回答割合が低くなっていた。

設問 2A あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-2 自分だけの本 (学校の教科書やマンガはのぞく)



(参考) 前回調査結果



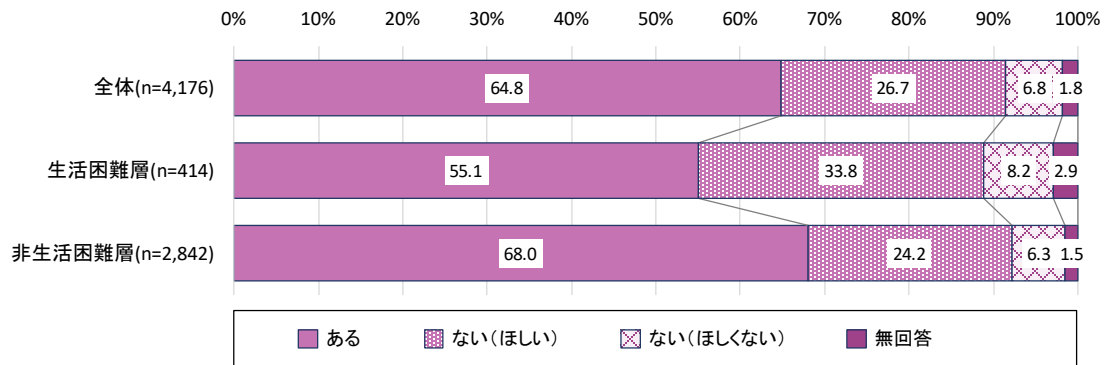
B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合も含みます）

自分が使うことができるものについて、「子ども部屋（きょうだいと使っている場合も含みます）」が「ある」と回答した割合は、全体では64.8%、生活困難層では55.1%、非生活困難層では68.0%であった。また、「ない（ほしい）」と回答した割合は、全体では26.7%、生活困難層では33.8%、非生活困難層では24.2%であった。

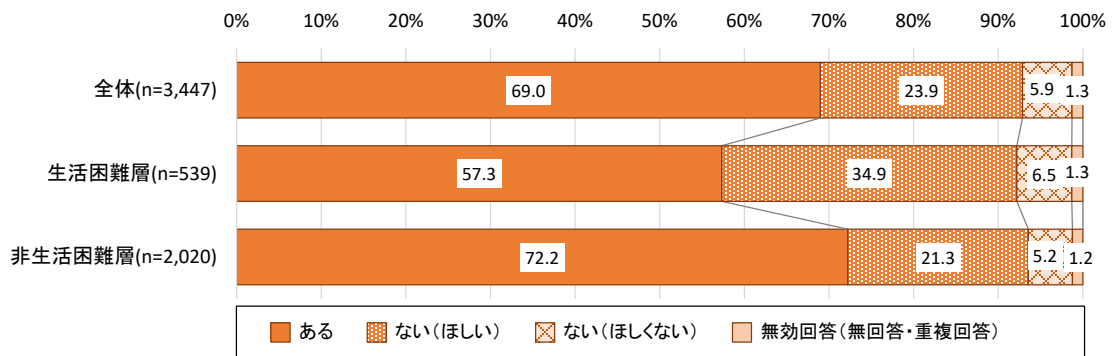
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「ない（ほしい）」「ない（ほしくない）」の回答割合が高くなっていた。

設問 2B あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。（SA）

図表 1-3-1-3 子ども部屋（きょうだいと使っている場合も含みます）



(参考) 前回調査結果



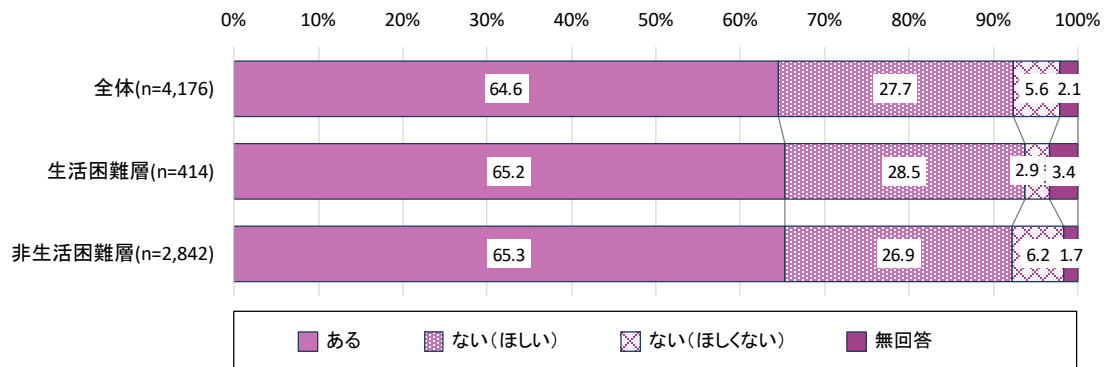
C 自分が使うことができるスマートフォン・タブレット

自分が使うことができるものについて、「自分が使うことができるスマートフォン・タブレット」が「ある」と回答した割合は、全体で64.6%であった⁴⁰。

また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体で27.7%であった。

設問 2C あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-4 自分が使うことができるスマートフォン・タブレット



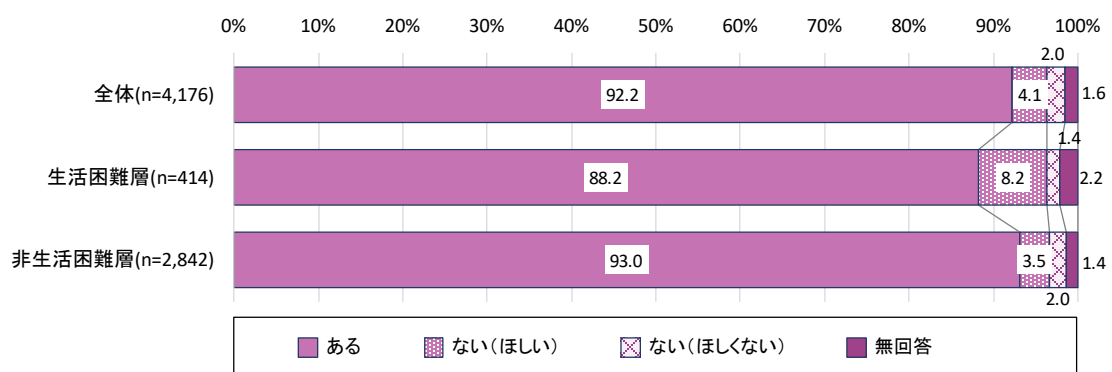
D 自宅で宿題をすることができる場所

自分が使うことができるものについて、「自宅で宿題をすることができる場所」が「ある」と回答した割合は、全体では92.2%、生活困難層では88.2%、非生活困難層では93.0%であった。

また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体では4.1%、生活困難層では8.2%、非生活困難層では3.5%であった。

設問 2D あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-5 自宅で宿題をすることができる場所



⁴⁰ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

E 自分専用の勉強机

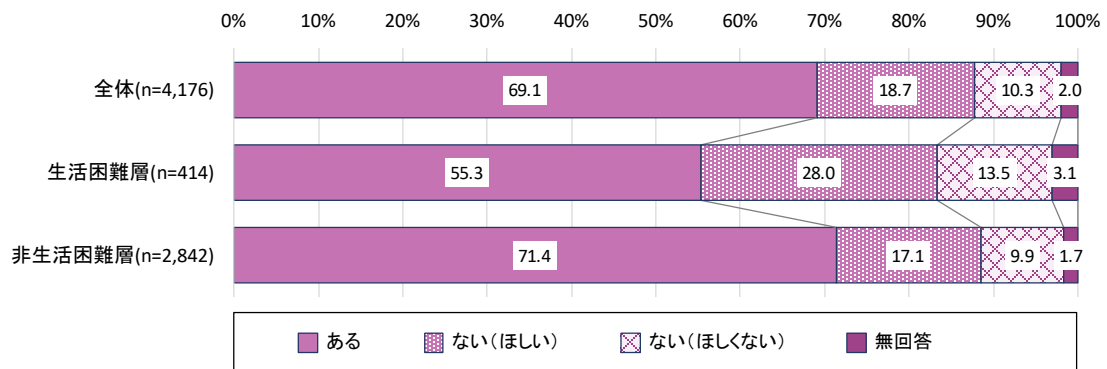
自分が使うことができるものについて、「自分専用の勉強机」が「ある」と回答した割合は、全体では69.1%、生活困難層では55.3%、非生活困難層では71.4%であった。

また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体では18.7%、生活困難層では28.0%、非生活困難層では17.1%であった。

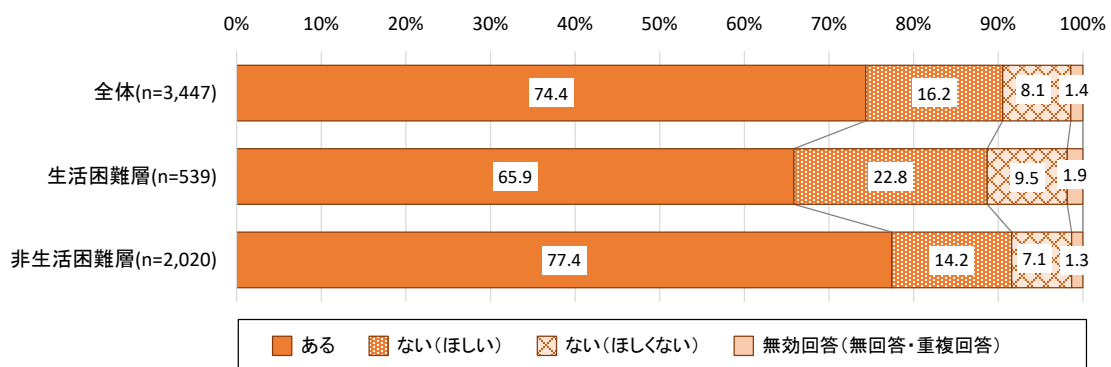
全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「ない(ほしい)」「ない(ほしくない)」の回答割合が高くなっていた。

設問 2E あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-6 自分専用の勉強机



(参考) 前回調査結果



F スポーツ用品（野球のグローブや、サッカー・ボールなど）

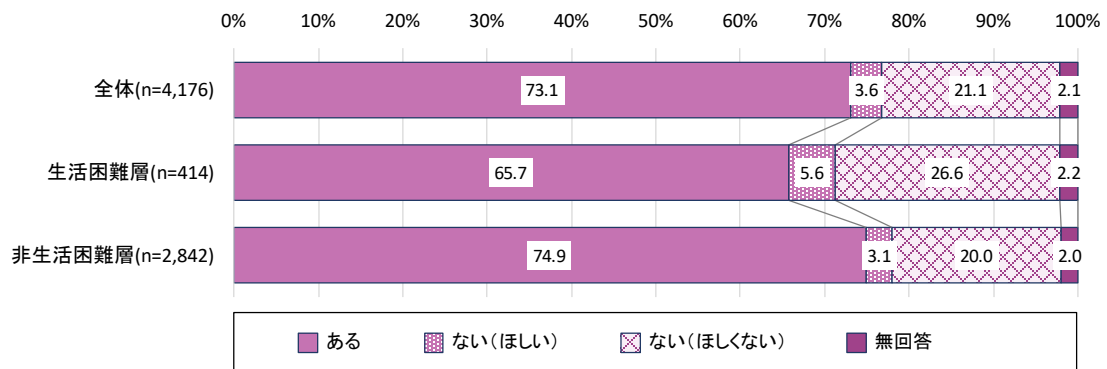
自分が使うことができるものについて、「スポーツ用品（野球のグローブや、サッカー・ボールなど）」が「ある」と回答した割合は、全体では73.1%、生活困難層では65.7%、非生活困難層では74.9%であった。

また、「ない（ほしい）」と回答した割合は、全体では3.6%、生活困難層では5.6%、非生活困難層では3.1%であった。

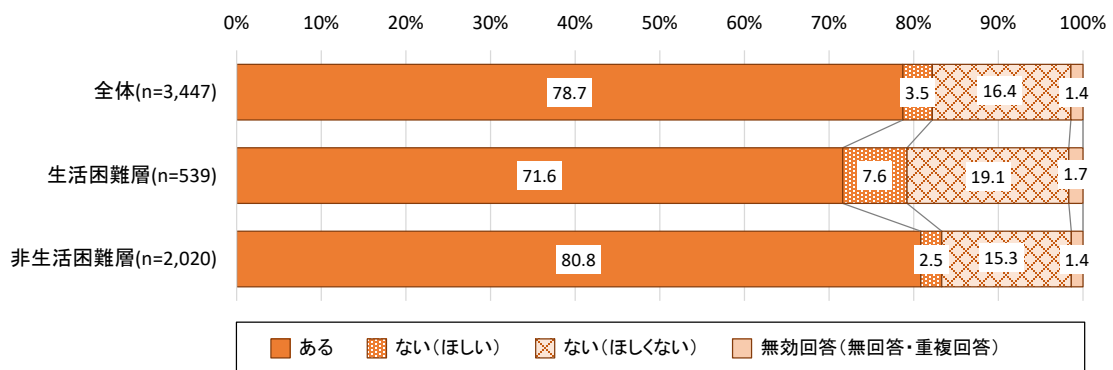
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「ある」の回答割合が低くなっていた。

設問 2F あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。（SA）

図表 1-3-1-7 スポーツ用品（野球のグローブや、サッカー・ボールなど）



(参考) 前回調査結果



G ゲーム機

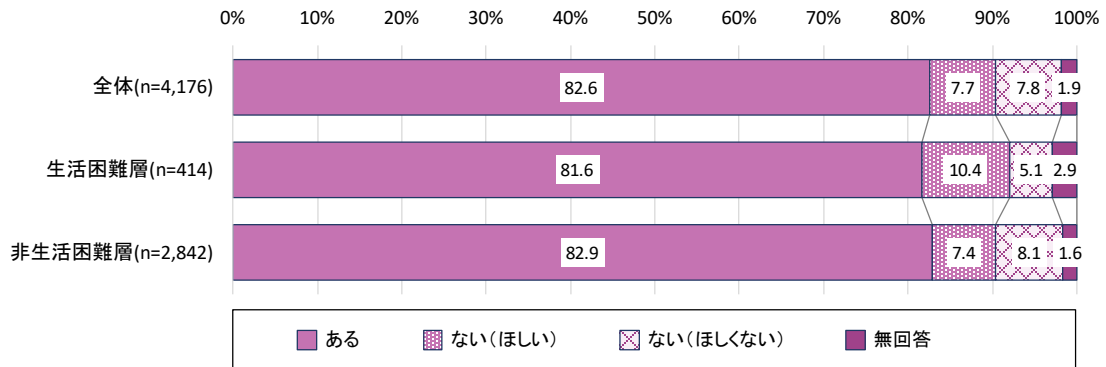
自分が使うことができるものについて、「ゲーム機」が「ある」と回答した割合は、全体では 82.6%、生活困難層では 81.6%、非生活困難層では 82.9%であった。

また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体では 7.7%、生活困難層では 10.4%、非生活困難層では 7.4%であった。

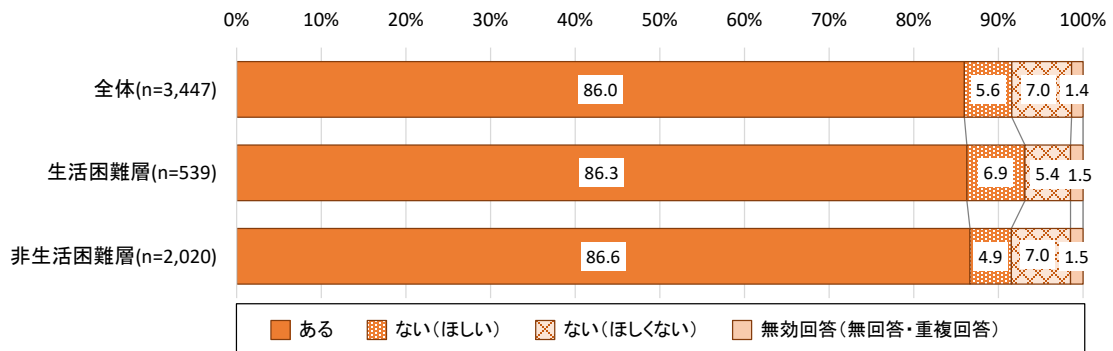
全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「ある」の回答割合が低くなっていた。

設問 2G あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-8 ゲーム機



(参考) 前回調査結果



H たいていの友だちが持っているおもちゃ

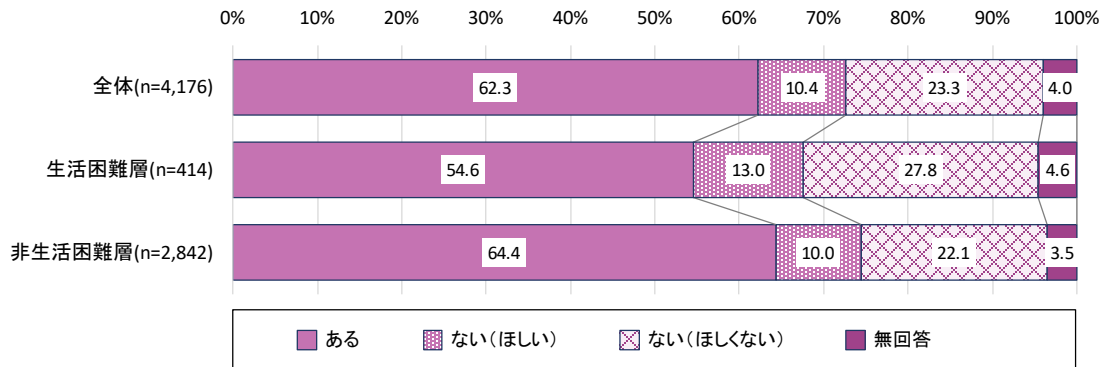
自分が使うことができるものについて、「たいていの友だちが持っているおもちゃ」が「ある」と回答した割合は、全体では62.3%、生活困難層では54.6%、非生活困難層では64.4%であった。

また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体では10.4%、生活困難層では13.0%、非生活困難層では10.0%であった。

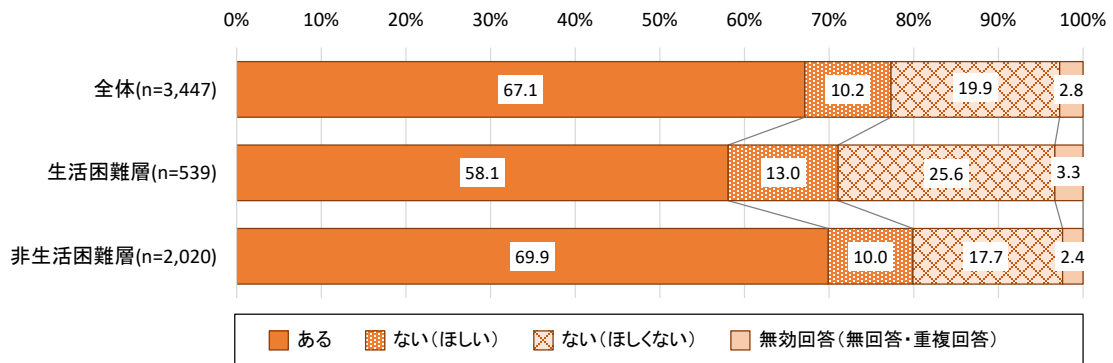
全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「ある」の回答割合が低くなっていた。

設問 2H あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-9 たいていの友だちが持っているおもちゃ



(参考) 前回調査結果



I 自転車

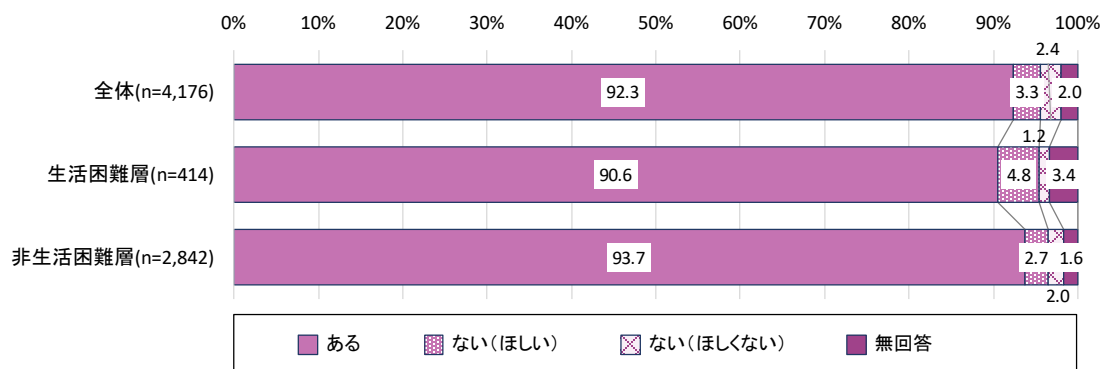
自分が使うことができるものについて、「自転車」が「ある」と回答した割合は、全体では92.3%、生活困難層では90.6%、非生活困難層では93.7%であった。

また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体では3.3%、生活困難層では4.8%、非生活困難層では2.7%であった。

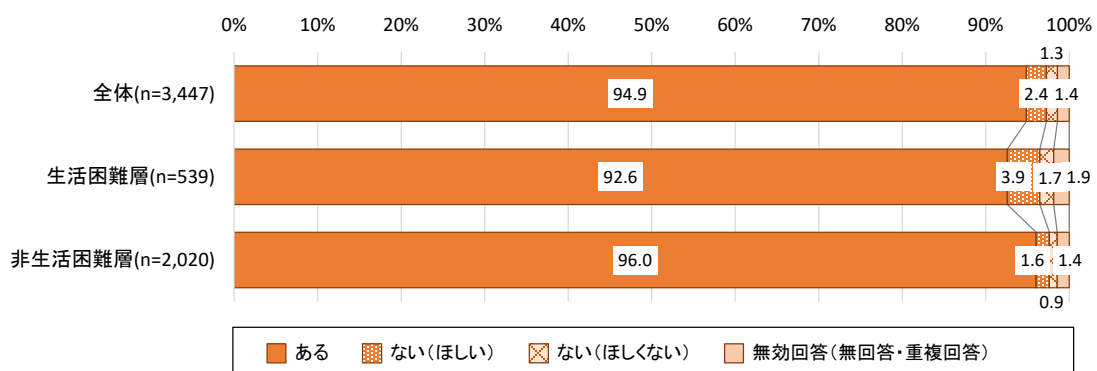
全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「ない(ほしい)」「ない(ほしくない)」の回答割合が高くなっていた。

設問 2 I あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-10 自転車



(参考) 前回調査結果



Ｊ おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい

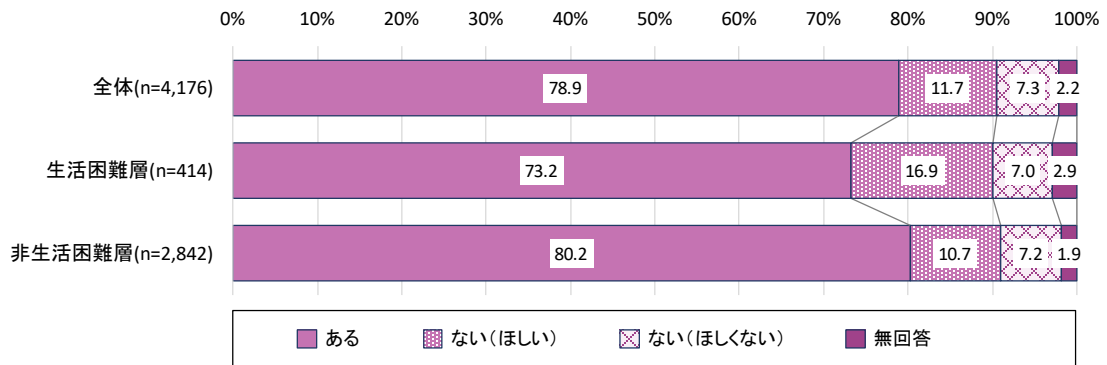
自分が使うことができるものについて、「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」が「ある」と回答した割合は、全体では78.9%、生活困難層では73.2%、非生活困難層では80.2%であった。

また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体では11.7%、生活困難層では16.9%、非生活困難層では10.7%であった。

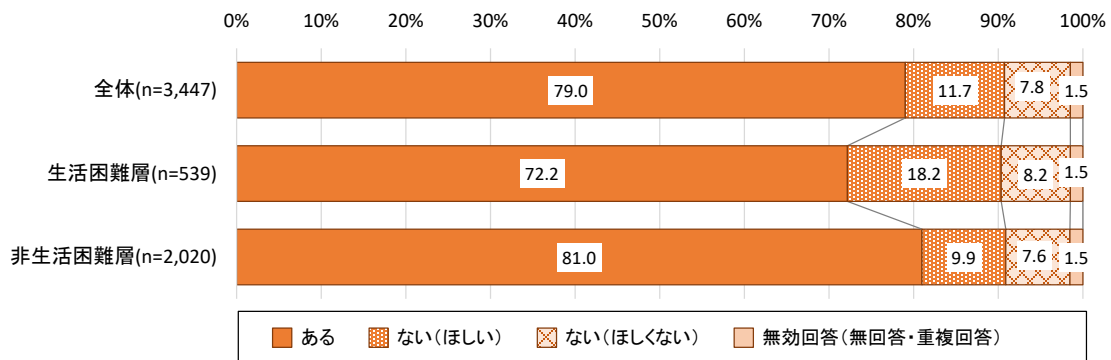
全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「ない(ほしくない)」の回答割合が低くなっていた。

設問 2J あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-11 おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい



(参考) 前回調査結果



K 友だちが着ているのと同じような服

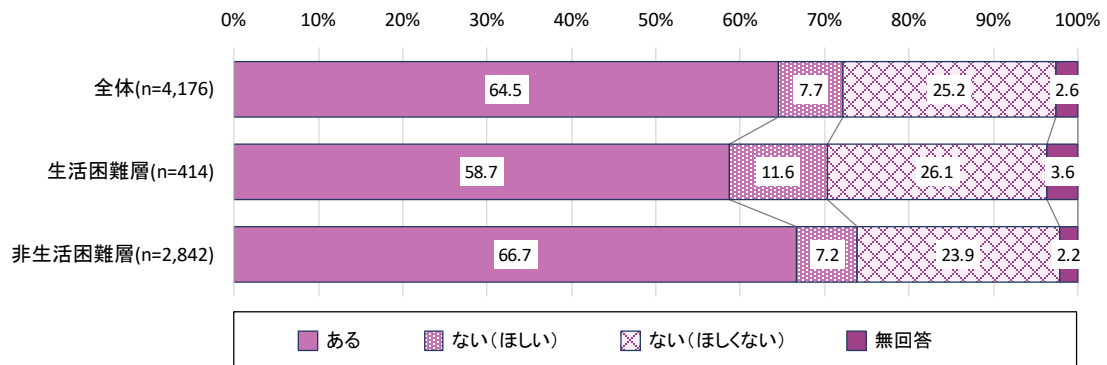
自分が使うことができるものについて、「友だちが着ているのと同じような服」が「ある」と回答した割合は、全体では64.5%、生活困難層では58.7%、非生活困難層では66.7%であった。

また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体では7.7%、生活困難層では11.6%、非生活困難層では7.2%であった。

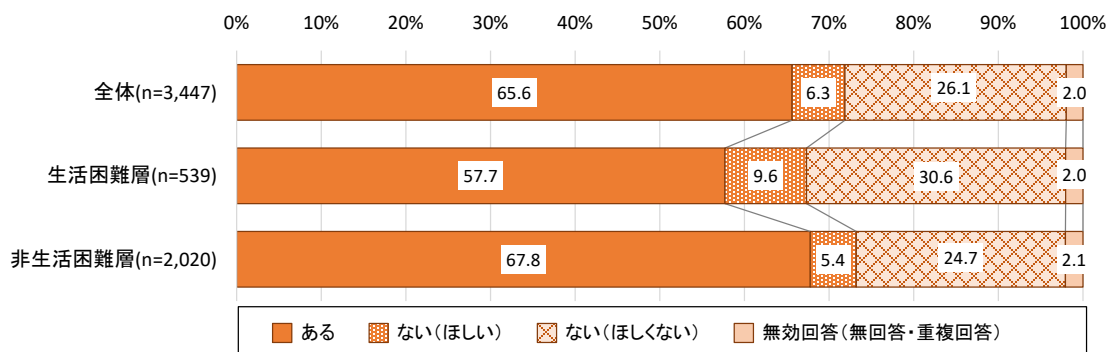
全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「ない(ほしい)」の回答割合が高くなっていた。

設問 2K あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-12 友だちが着ているのと同じような服



(参考) 前回調査結果



L 2足以上のサイズのあった靴

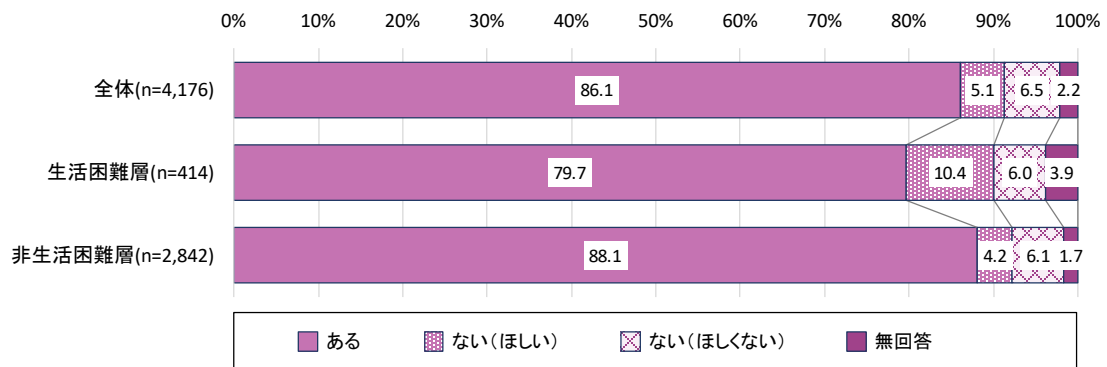
自分が使うことができるものについて、「2足以上のサイズのあった靴」が「ある」と回答した割合は、全体では86.1%、生活困難層では79.7%、非生活困難層では88.1%であった。

また、「ない(ほしい)」と回答した割合は、全体では5.1%、生活困難層では10.4%、非生活困難層では4.2%であった。

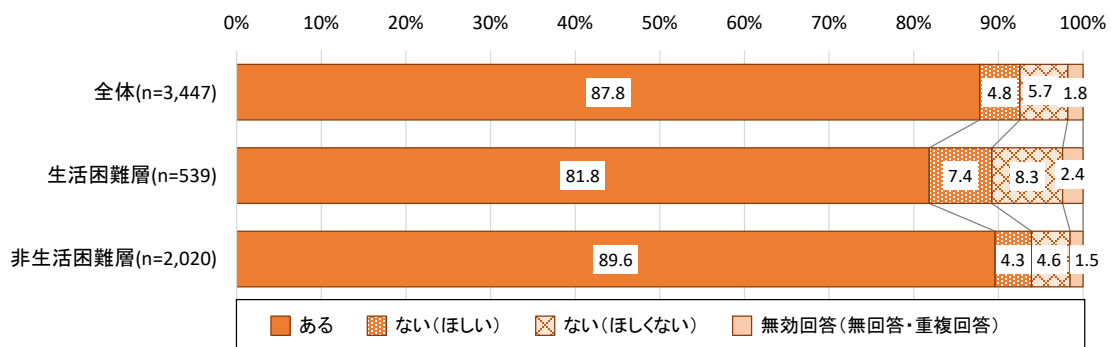
全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「ない(ほしい)」「ない(ほしくない)」の回答割合が高くなっていた。

設問 2L あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。(SA)

図表 1-3-1-13 2足以上のサイズのあった靴



(参考) 前回調査結果



(2)友だちとの関係に関すること

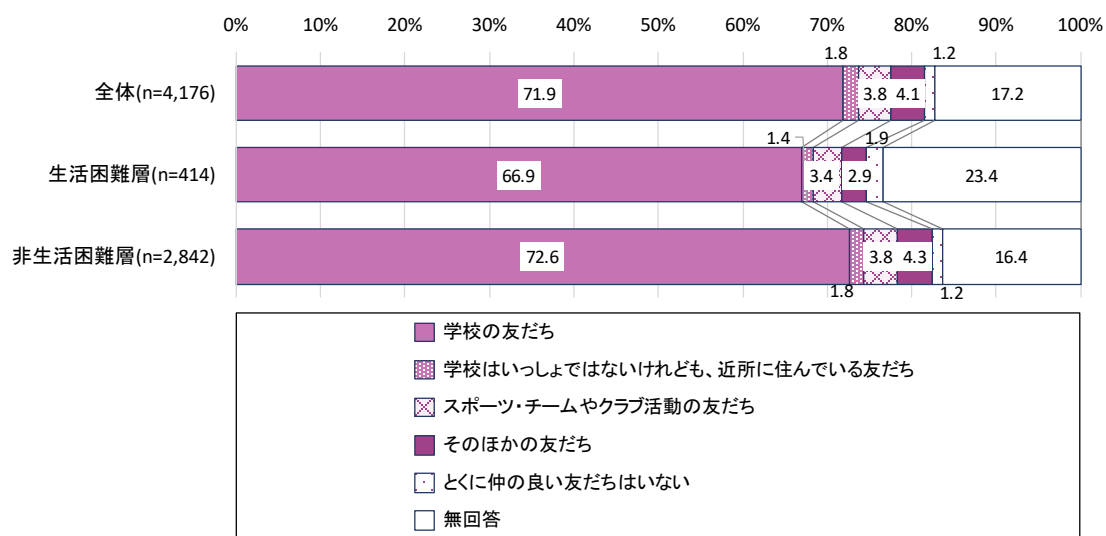
①仲の良い友だち

「あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか」と尋ねた設問に対して、全体では、「学校の友だち」の回答割合が71.9%であった。なお、「とくに仲のよい友だちはいない」と回答した割合は、全体では1.2%であった⁴¹。

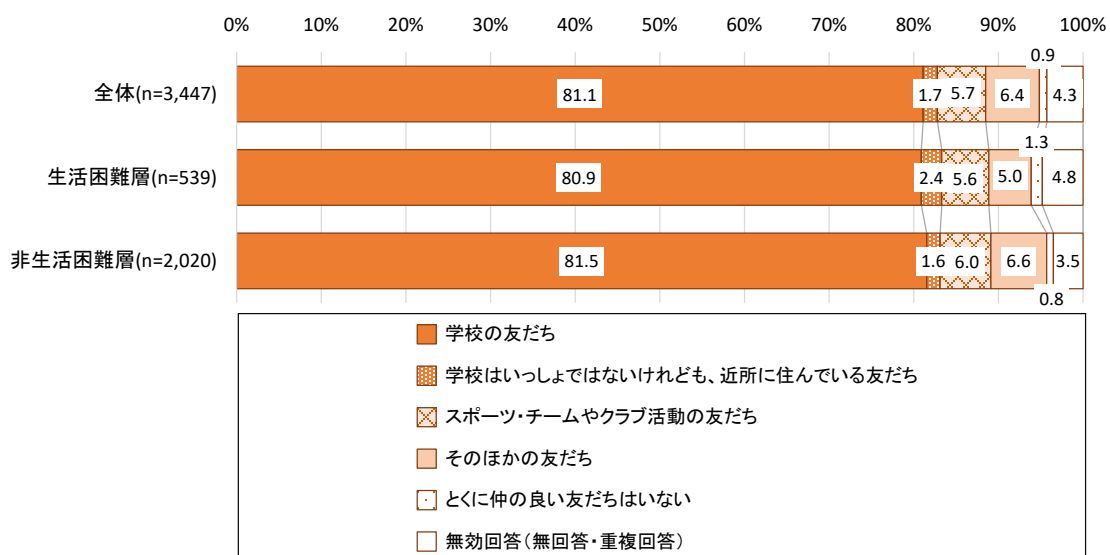
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「学校の友だち」「スポーツ・チームやクラブ活動の友だち」「そのほかの友だち」の回答割合が低くなっていた。

設問3 あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。（SA）

図表 1-3-2-1 仲の良い友だち



(参考) 前回調査結果



⁴¹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

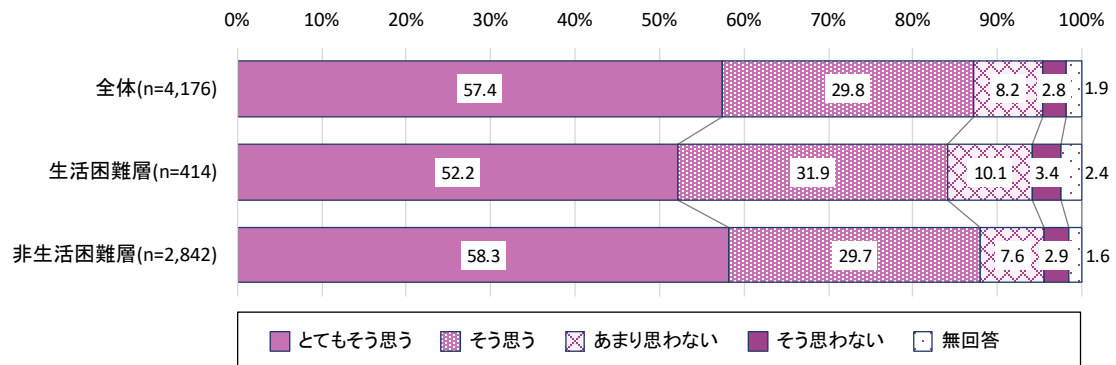
②友だちとの関係性についての意識

A 友だちといっしょにたくさん遊んでいると思う

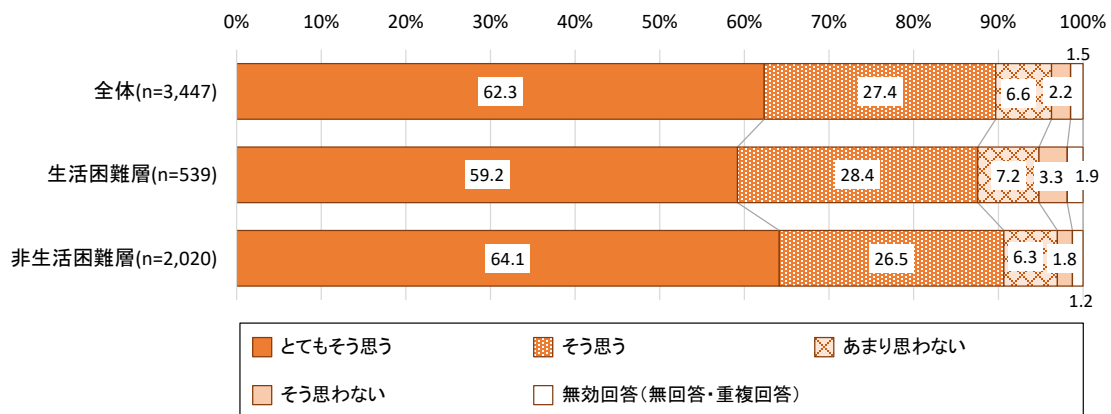
友だちとの関係について尋ねた設問に対して、「友だちといっしょにたくさん遊んでいると思う」について「あまり思わない」と「そう思わない」を合わせた回答割合は、全体で11.0%であった⁴²。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あまり思わない」「そう思わない」の回答割合が高くなっていた。

設問 4A あなたと友だちの関係について、どのように思いますか。（SA）

図表 1-3-2-2 友だちといっしょにたくさん遊んでいると思う



(参考) 前回調査結果



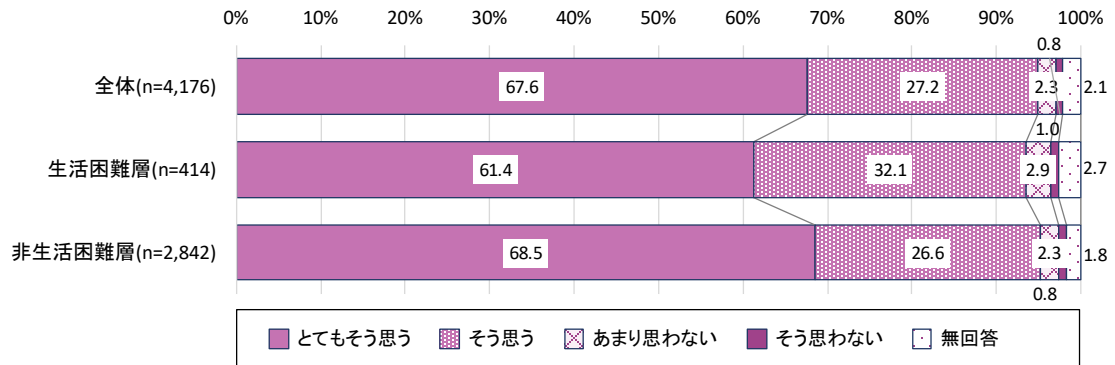
⁴² この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

B 友だちと仲良くしていると思う

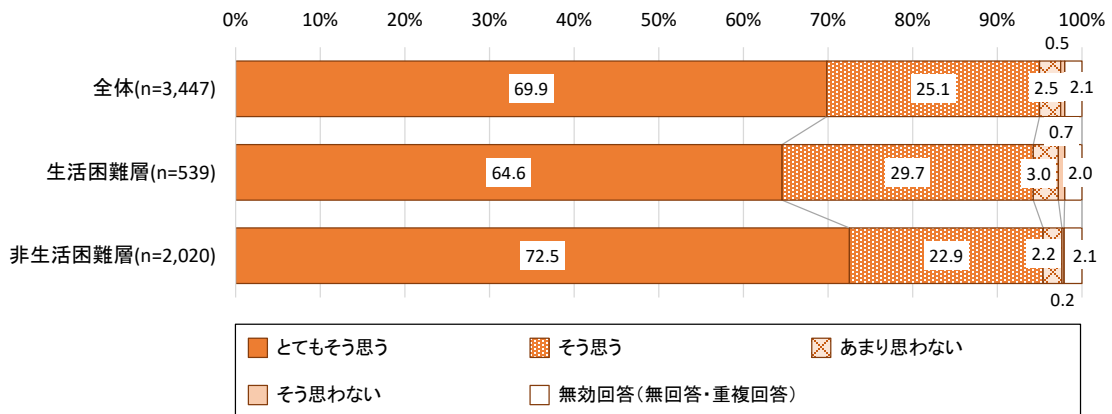
友だちとの関係について尋ねた設問に対して、「友だちと仲良くしていると思う」について「あまり思わない」と「そう思わない」を合わせた回答割合は、全体で3.1%であった⁴³。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「とてもそう思う」の回答割合が低くなっていた。

設問 4B あなたと友だちの関係について、どのように思いますか。（SA）

図表 1-3-2-3 友だちと仲良くしていると思う



(参考) 前回調査結果



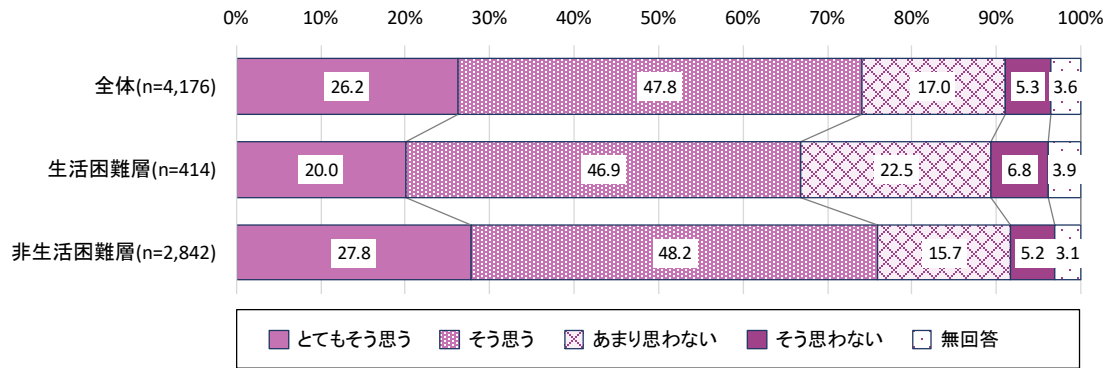
⁴³ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

C 友だちに好かれていると思う

友だちとの関係について尋ねた設問に対して、「友だちに好かれていると思う」について「あまり思わない」「そう思わない」と回答した割合は、全体では22.3%、生活困難層では29.3%、非生活困難層では20.9%であった。

設問 4C あなたと友だちの関係について、どのように思いますか。(SA)

図表 1-3-2-4 友だちに好かれていると思う



(3)放課後の過ごし方など普段の生活のこと

①平日誰と過ごすか

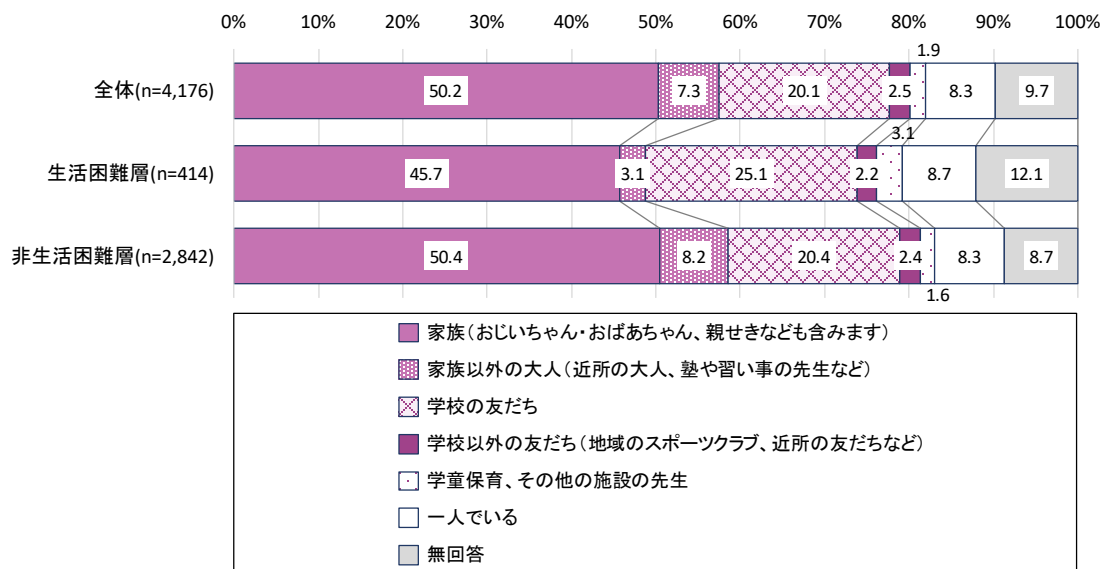
「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）はだれと過ごしますか」と尋ねた設問に対して、「家族（おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなども含みます）」と回答した割合は、全体では50.2%、生活困難層では45.7%、非生活困難層では50.4%であった。

また、「学校の友だち」の回答は、全体では20.1%、生活困難層では25.1%、非生活困難層では20.4%であった。なお、「一人でのいる」の回答は、全体では8.3%、生活困難層では8.7%、非生活困難層では8.3%であった。

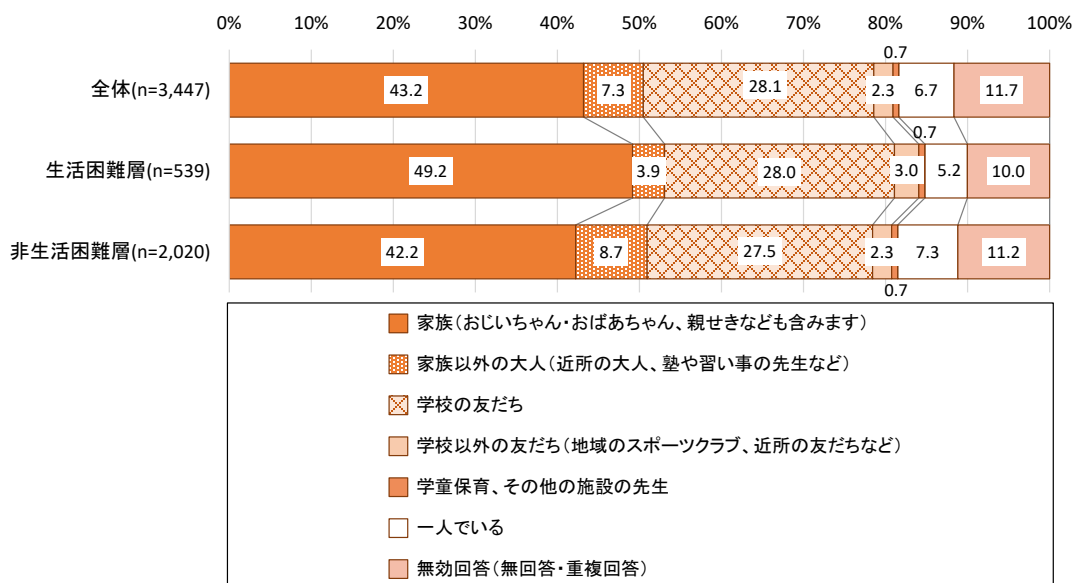
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「家族（おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなども含みます）」「学童保育、その他の施設の先生」「一人でのいる」の回答割合が高くなっていた。

設問5 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）はだれと過ごしますか。（SA）

図表 1-3-3-1 平日誰と過ごすか



(参考) 前回調査結果



②平日どこで過ごすか

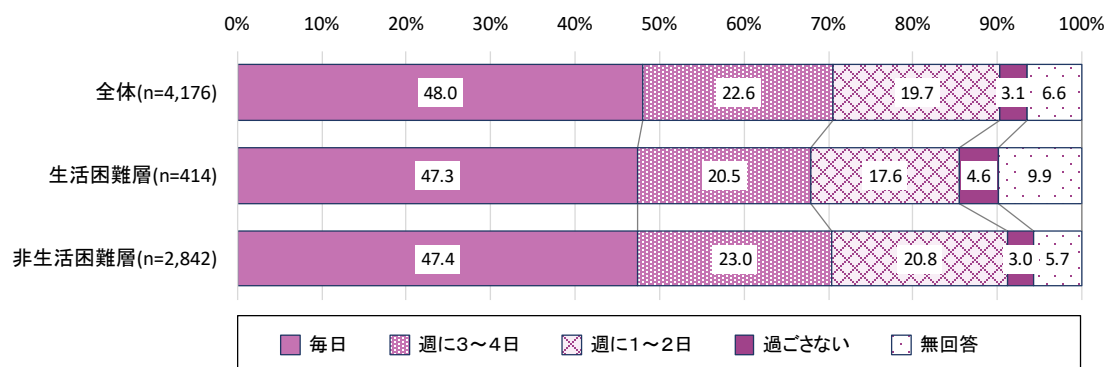
A 自分の家

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「自分の家」で「毎日」または「週に3～4日」過ごす割合を合わせると、全体で70.6%であった⁴⁴。

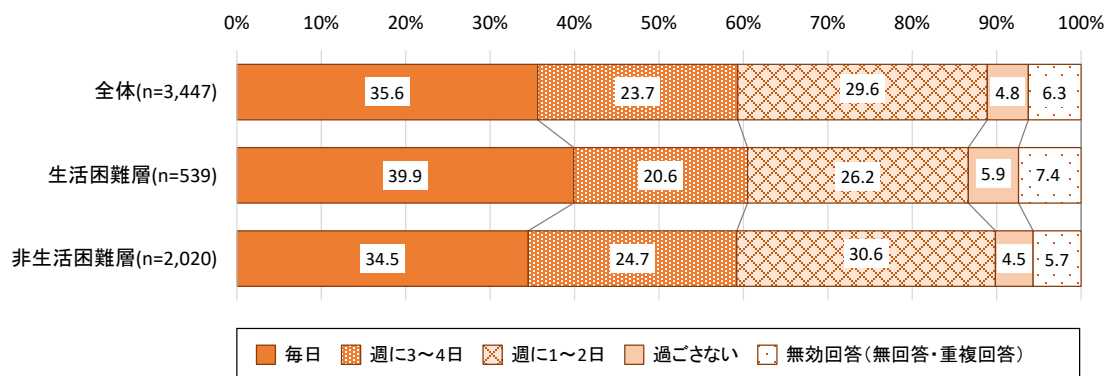
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「毎日」の回答割合が高く、「週に1～2日」「過ごさない」の回答割合が低くなっていた。

設問 6A あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-2 自分の家



(参考) 前回調査結果



⁴⁴ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

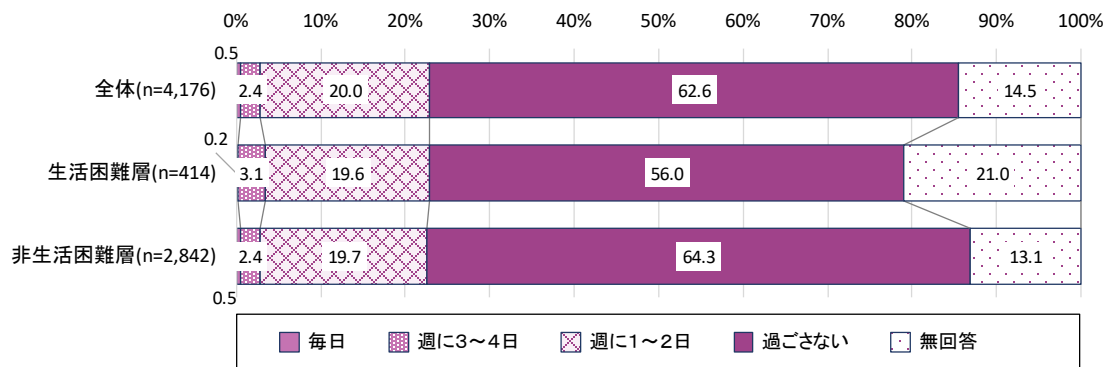
B 友だちの家

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「友だちの家」で「毎日」または「週に3～4日」過ごす割合を合わせると、全体で2.9%であった⁴⁵。

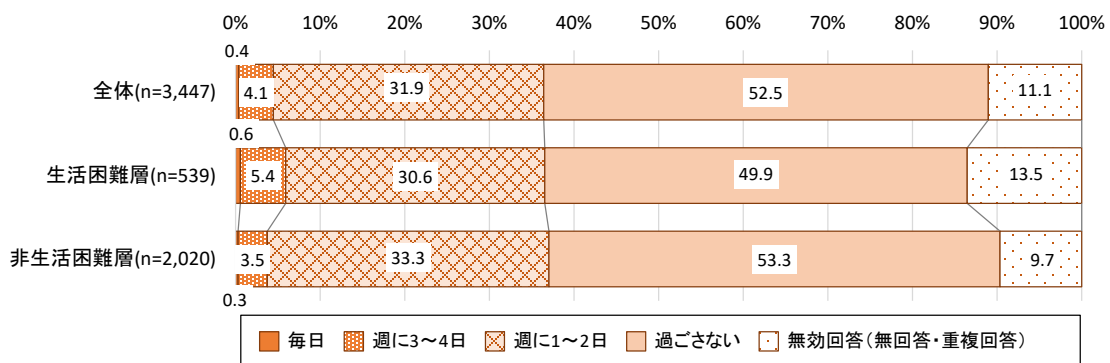
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「週に3～4日」「週に1～2日」の回答割合が低く、「過ごさない」の回答割合が高くなっていった。

設問 6B あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、
どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-3 友だちの家



（参考）前回調査結果



⁴⁵ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

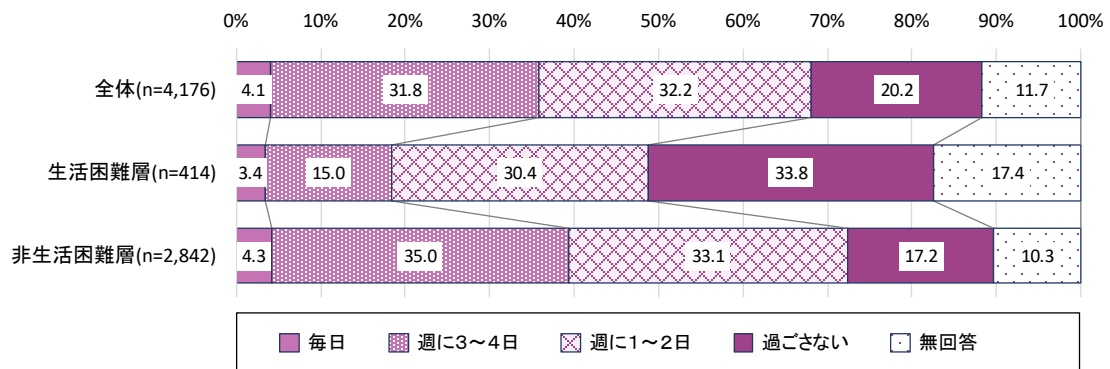
C 塾や習い事

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「塾や習い事」で「毎日」または「週に3～4日」過ごす割合を合わせると、全体では35.9%、生活困難層では18.4%、非生活困難層では39.3%であった。

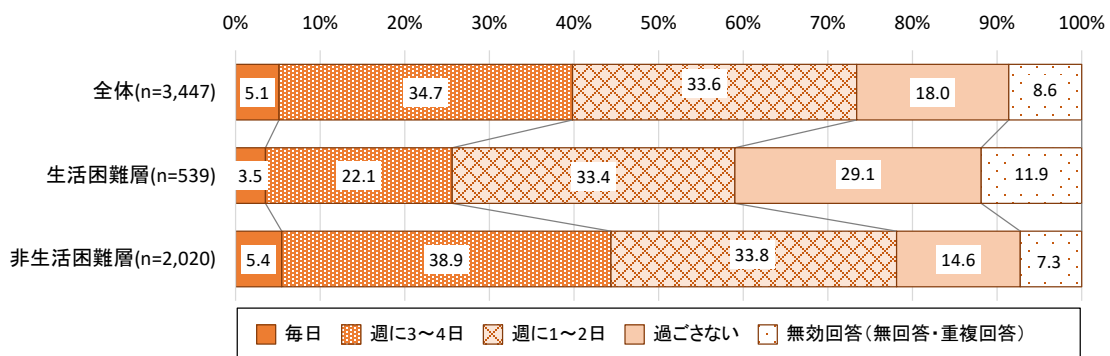
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」の回答割合が低くなっていた。

設問 6C あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-4 塾や習い事



(参考) 前回調査結果



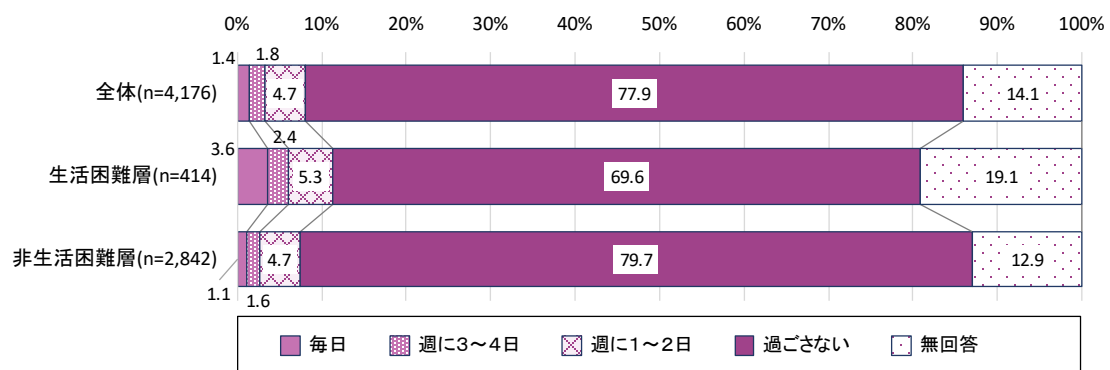
D 児童館（学童保育含む）

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「児童館（学童保育含む）」で「毎日」または「週に3～4日」過ごすという回答した割合を合わせると、全体では3.2%、生活困難層では6.0%、非生活困難層では2.7%であった。「週に1～2日」過ごすという回答割合を加えると、全体では7.9%、生活困難層では11.3%、非生活困難層では8.4%であった。

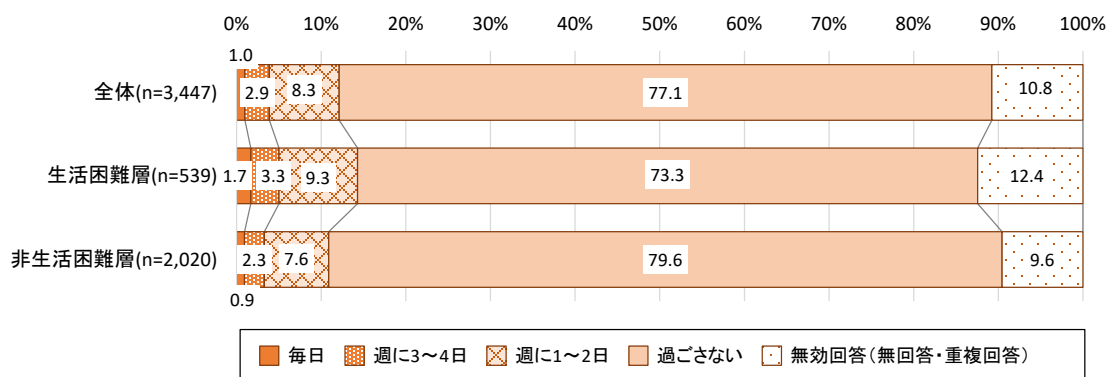
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「週に3～4日」「週に1～2日」の回答割合が低くなっていた。

設問 6D あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-5 児童館（学童保育含む）



（参考） 前回調査結果



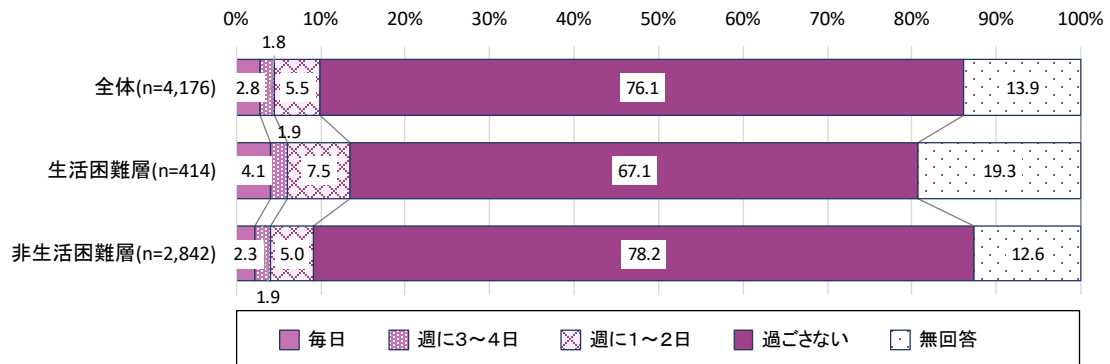
E 学校（放課後校庭開放、放課後子ども教室など）

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「学校（放課後校庭開放、放課後子ども教室など）」で「毎日」または「週に3～4日」過ごすという回答割合を合わせると、全体では4.6%、生活困難層では6.0%、非生活困難層では4.2%であった。「週に1～2日」過ごすという回答割合を加えると、全体では10.1%、生活困難層では13.5%、非生活困難層では9.2%であった。

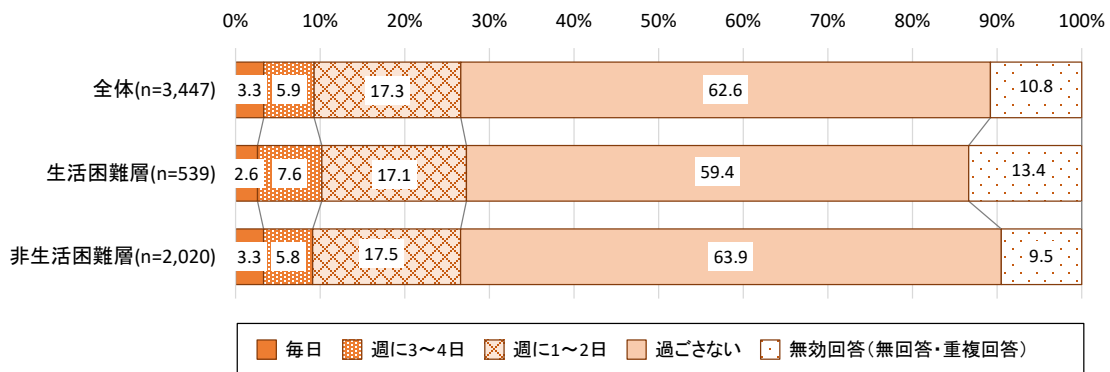
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「過ごさない」の回答割合が高くなっていた。

設問 6E あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-6 学校（放課後校庭開放、放課後子ども教室など）



（参考）前回調査結果



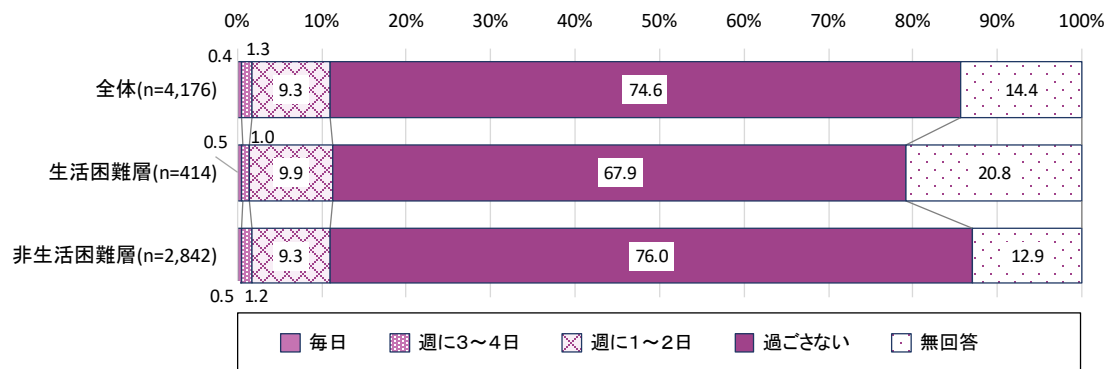
F 図書館

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「図書館」で「毎日」または「週に3～4日」過ごす割合を合わせると、全体で1.7%であった。「週に1～2日」過ごすという回答の割合を加えると、全体で11.0%であった⁴⁶。

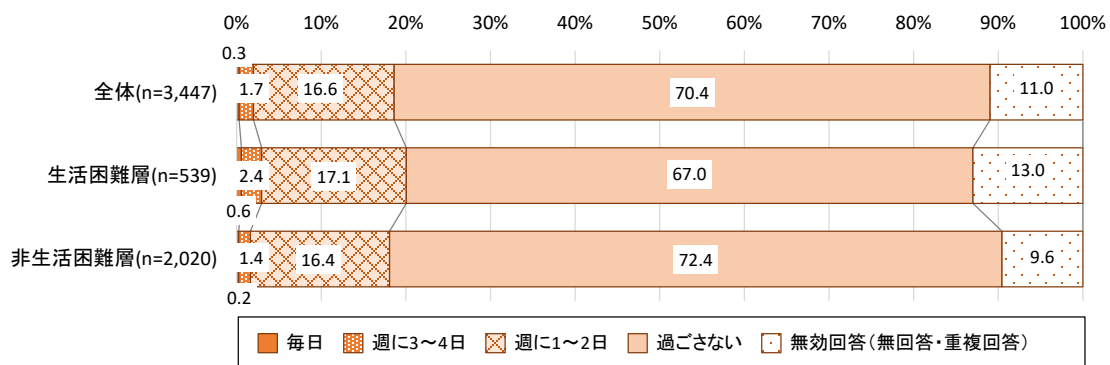
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「過ごさない」の回答割合が高くなっていた。

設問 6F あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、
どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-7 図書館



(参考) 前回調査結果



⁴⁶ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

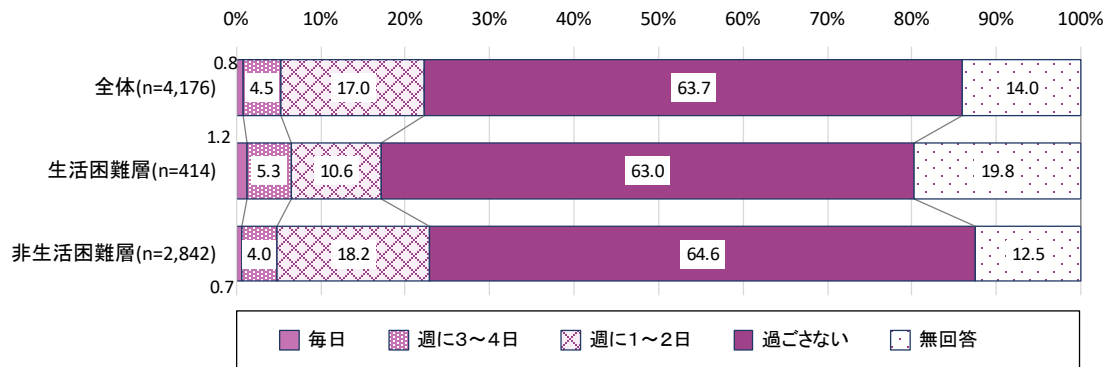
G スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）」で「毎日」または「週に3～4日」過ごす割合を合わせると、全体では5.3%、生活困難層では6.5%、非生活困難層では4.7%であった。

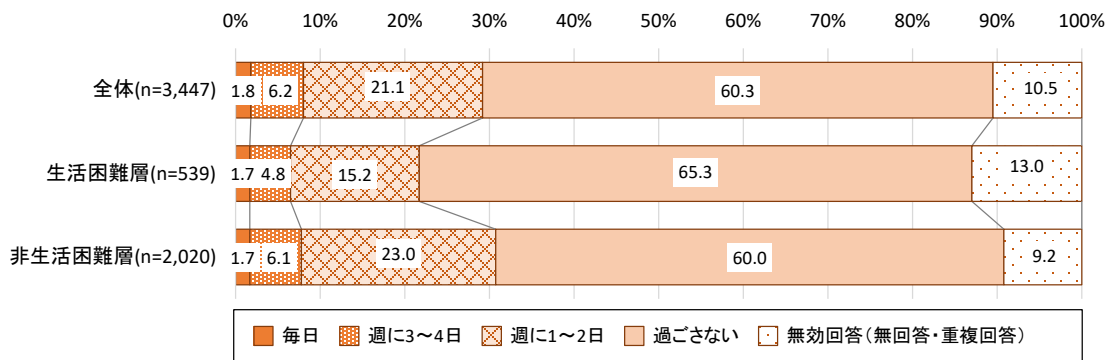
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「過ごさない」の回答割合が高くなっていた。

設問 6G あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-8 スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）



(参考) 前回調査結果



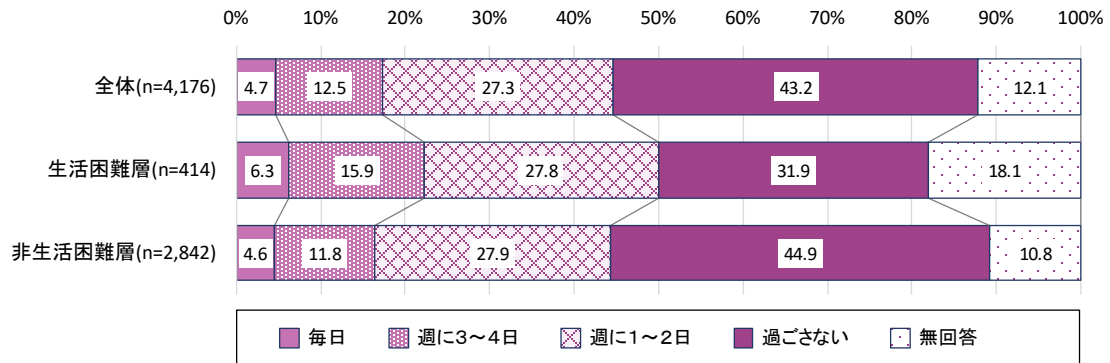
H 公園

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「公園」で「毎日」または「週に3～4日」過ごす割合を合わせると、全体では17.2%、生活困難層では22.2%、非生活困難層では16.4%であった。

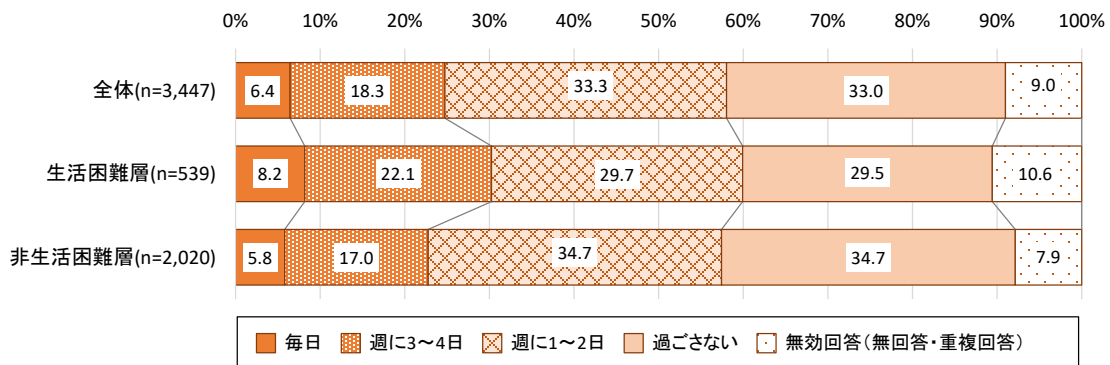
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「過ごさない」の回答割合が高くなっていた。

設問 6H あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、
どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-9 公園



(参考) 前回調査結果



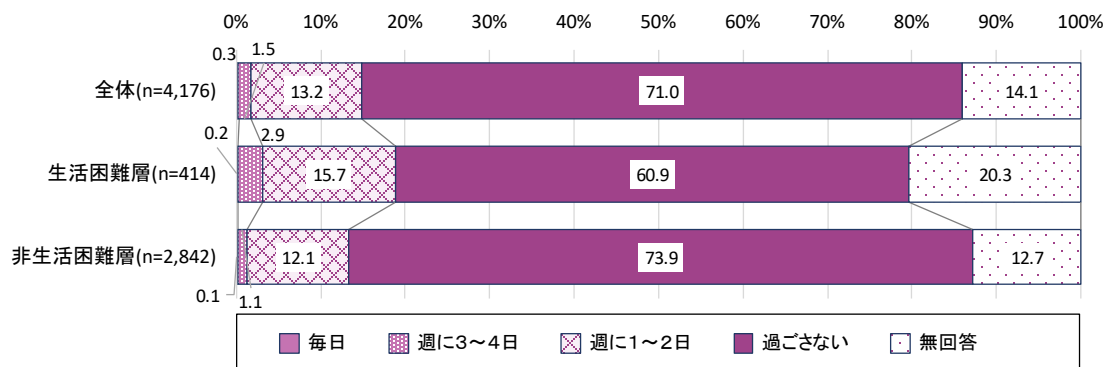
I 商店街やショッピングモール

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「商店街やショッピングモール」で「毎日」または「週に3～4日」過ごす割合を合わせると、全体では1.8%、生活困難層では3.1%、非生活困難層では1.2%であった。

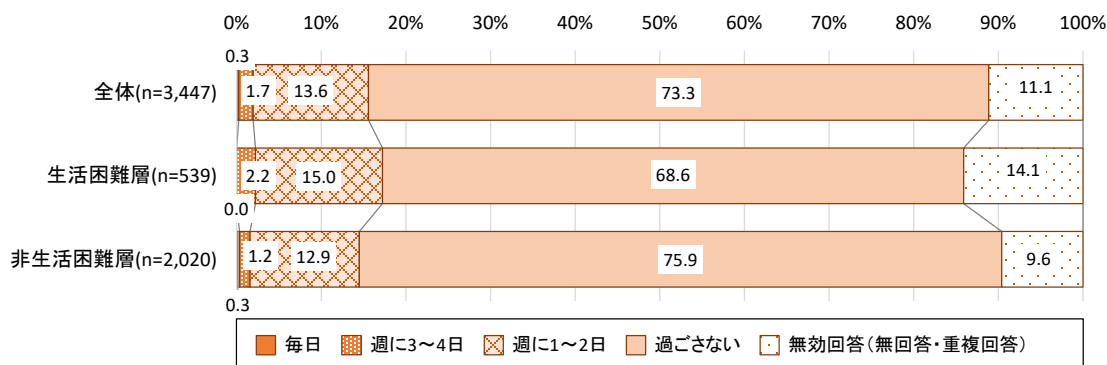
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「過ごさない」の回答割合が低くなっていた。

設問 6 I あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、
どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-10 商店街やショッピングモール



(参考) 前回調査結果



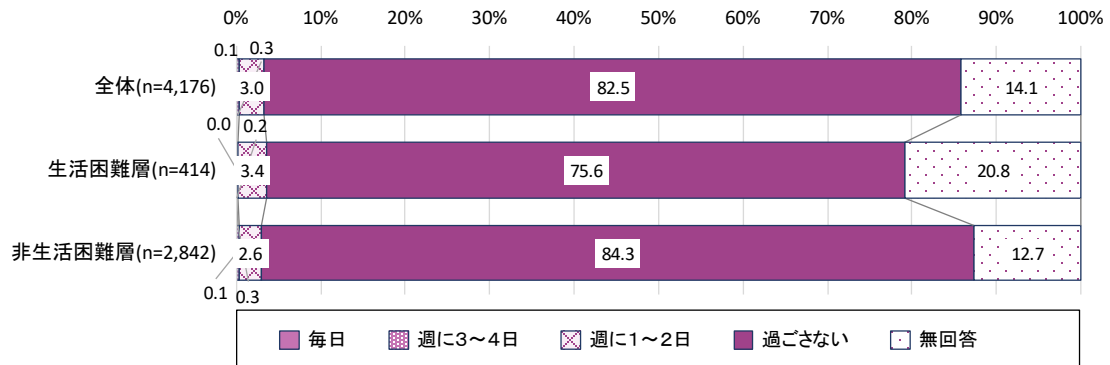
J ゲームセンター

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「ゲームセンター」で「毎日」または「週に3～4日」過ごす割合を合わせると、全体では0.4%、生活困難層では0.2%、非生活困難層では0.4%であった。

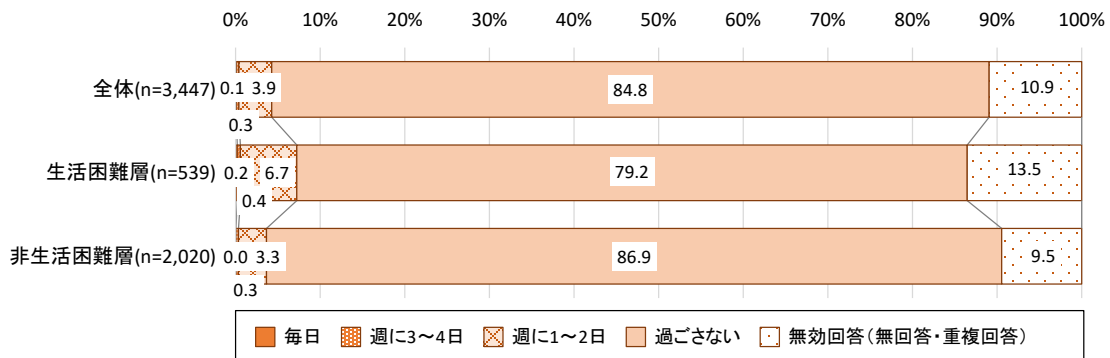
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「過ごさない」の回答割合が低くなっていた。

設問 6 J あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-11 ゲームセンター



(参考) 前回調査結果



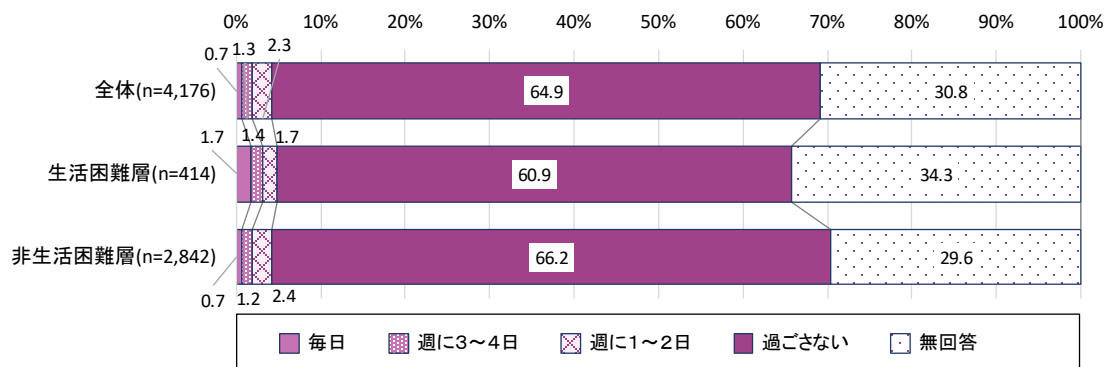
K その他

「あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしていますか」と尋ねた設問に対して、「その他」で「毎日」または「週に3～4日」過ごす割合を合わせると、全体では2.0%、生活困難層では3.1%、非生活困難層では1.9%であった。

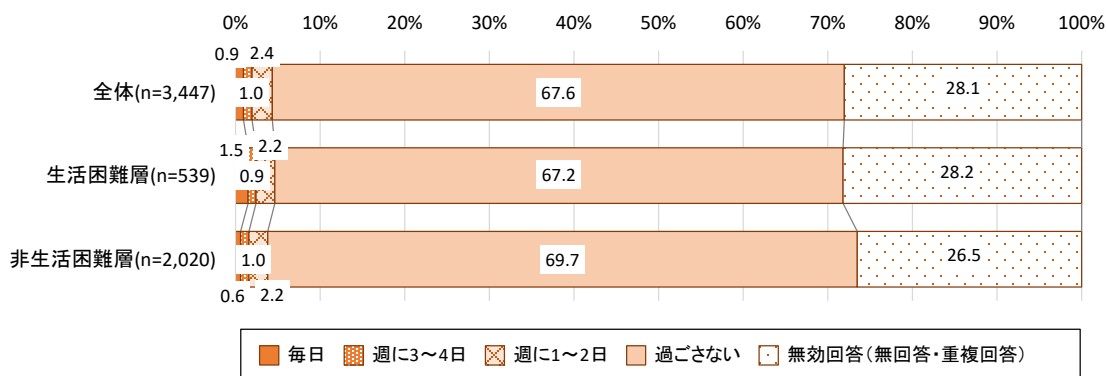
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「過ごさない」の回答割合が低くなっていた。

設問 6K あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、
どこで過ごしていますか。（SA）

図表 1-3-3-12 その他



(参考) 前回調査結果



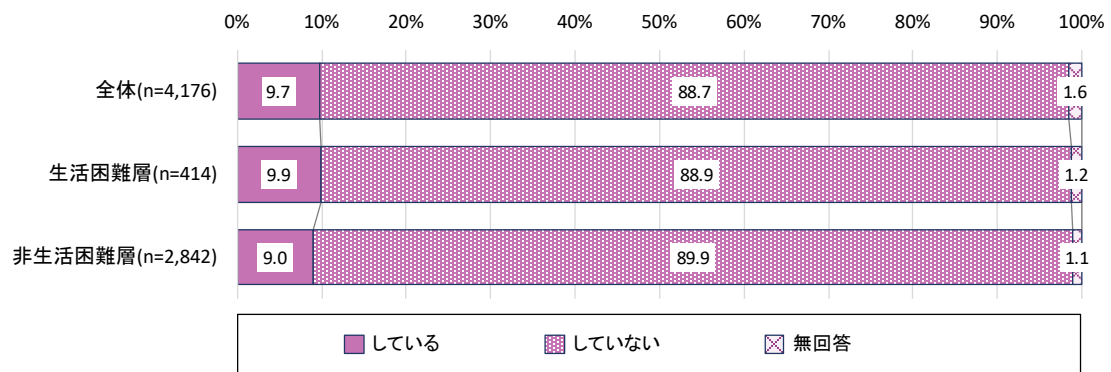
③放課後子ども教室の利用状況

「あなたは、学校の「放課後子ども教室」を利用していますか」と尋ねた設問に対して、利用「している」と回答した割合は、全体で9.7%であった⁴⁷。

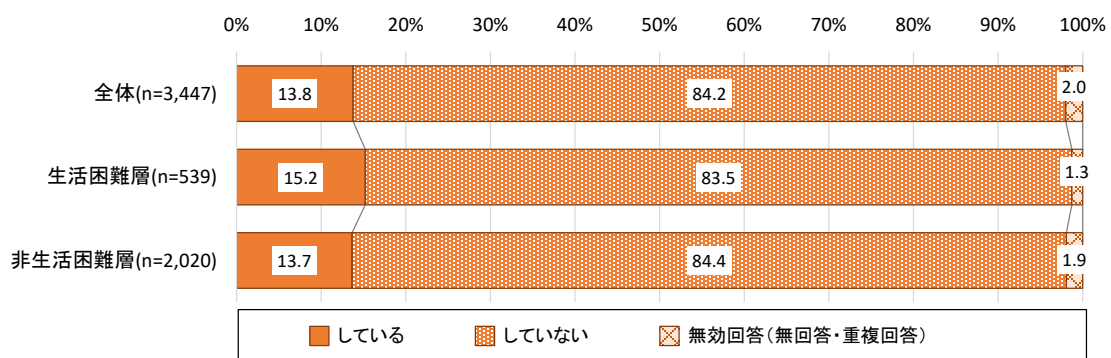
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「放課後子ども教室」を利用「していない」の回答割合が高くなっていた。

設問 7 あなたは、学校の「放課後子ども教室」を利用していますか。（SA）

図表 1-3-3-13 「放課後子ども教室」の利用状況



(参考) 前回調査結果



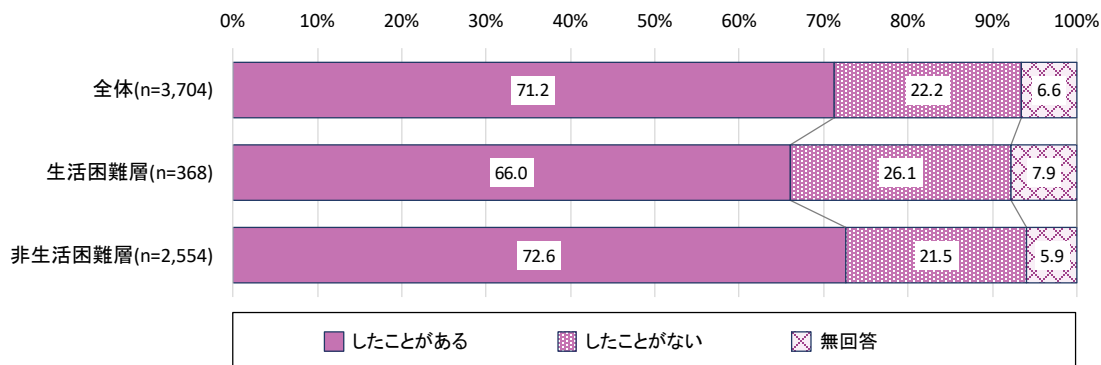
⁴⁷ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

利用「していない」者のうち、利用「したことがある」と回答した割合は全体で 71.2%、今後利用「したい」と回答した割合は全体で 9.0%であった⁴⁸。

設問 7A (放課後子ども教室を利用「していない」方に)

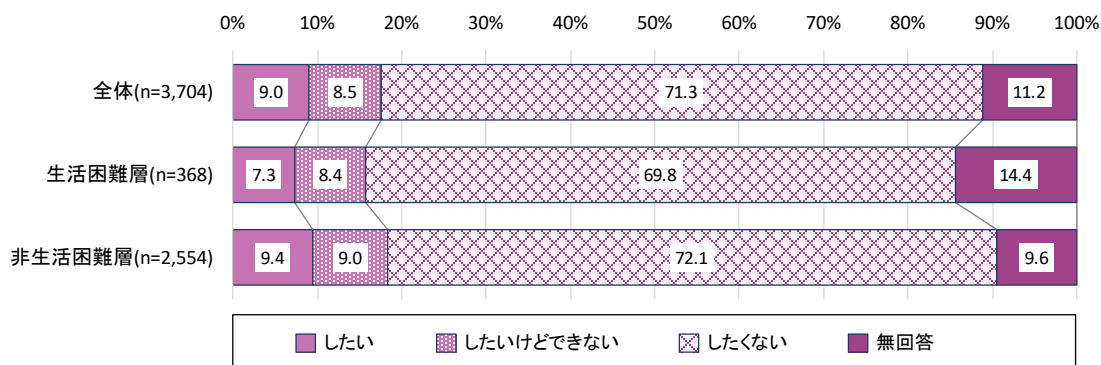
これまでに利用したことがありますか。(SA)

図表 1-3-3-14 「放課後子ども教室」の利用経験



設問 7B (放課後子ども教室を利用「していない」方に) 今後利用したいと思いますか。(SA)

図表 1-3-3-15 「放課後子ども教室」の利用意向



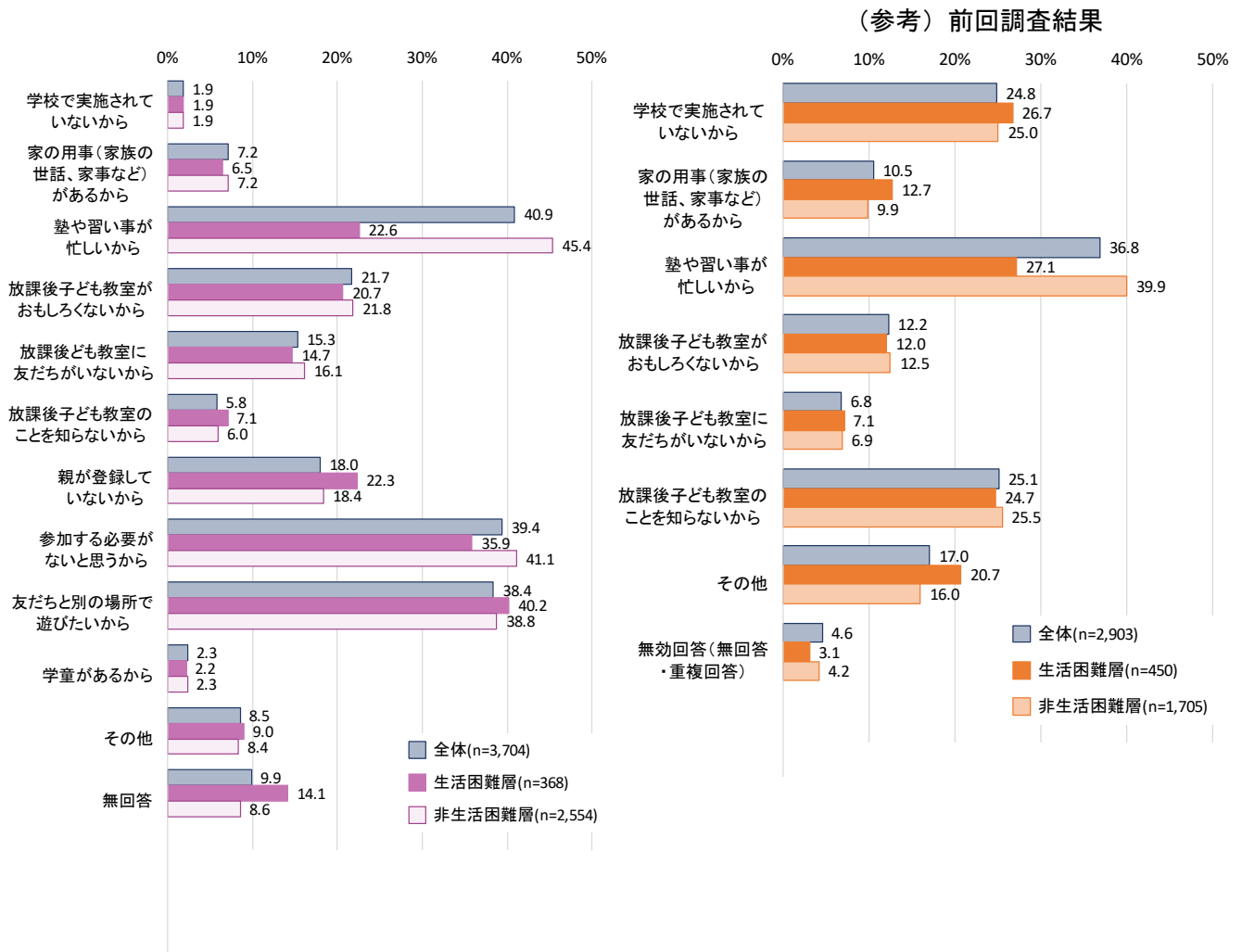
⁴⁸ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

「放課後子ども教室」に参加しない理由を尋ねた設問に対して、「塾や習い事が忙しいから」の回答は、全体では40.9%、生活困難層では22.6%、非生活困難層では45.4%であった⁴⁹。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「塾や習い事が忙しいから」「放課後子ども教室がおもしろくないから」「放課後子ども教室に友だちがいないから」について回答割合が高くなっていた。

設問 7-1 参加しない理由は何ですか。（MA）

図表 1-3-3-16 「放課後子ども教室」に参加しない理由



⁴⁹ 「塾や習い事が忙しいから」の回答以外は、生活困難層と非生活困難層とで統計的に有意差は見られなかった。

④休日の午後誰と過ごすか

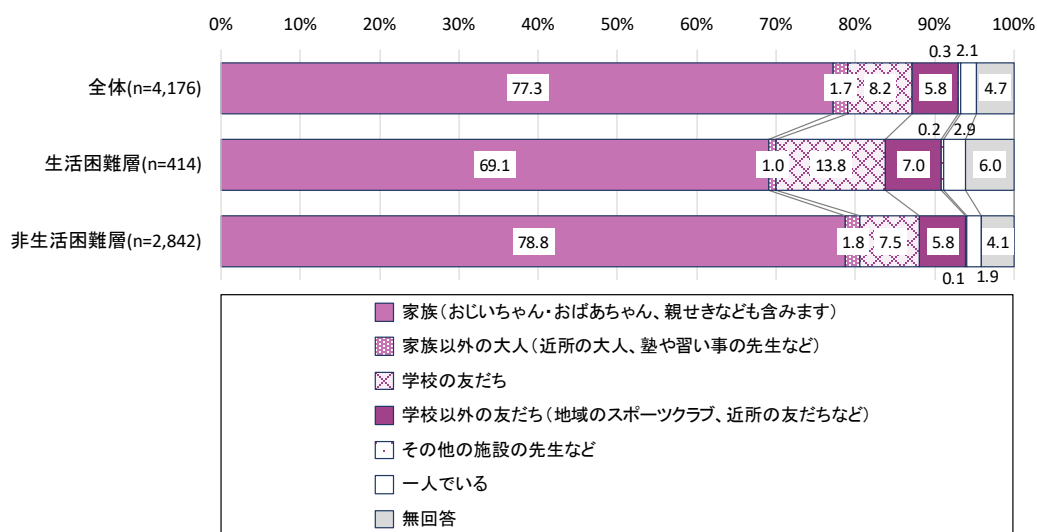
「あなたは、休日（学校がお休みの日）の午後はだれと過ごしますか」と尋ねた設問に対して、「家族（おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなども含みます）」と回答した割合は、全体では77.3%、生活困難層では69.1%、非生活困難層では78.8%であった。

また、「学校の友だち」と回答した割合は、全体では8.2%、生活困難層では13.8%、非生活困難層では7.5%であった。なお、「一人である」と回答した割合は、全体では2.1%、生活困難層では2.9%、非生活困難層では1.9%であった。

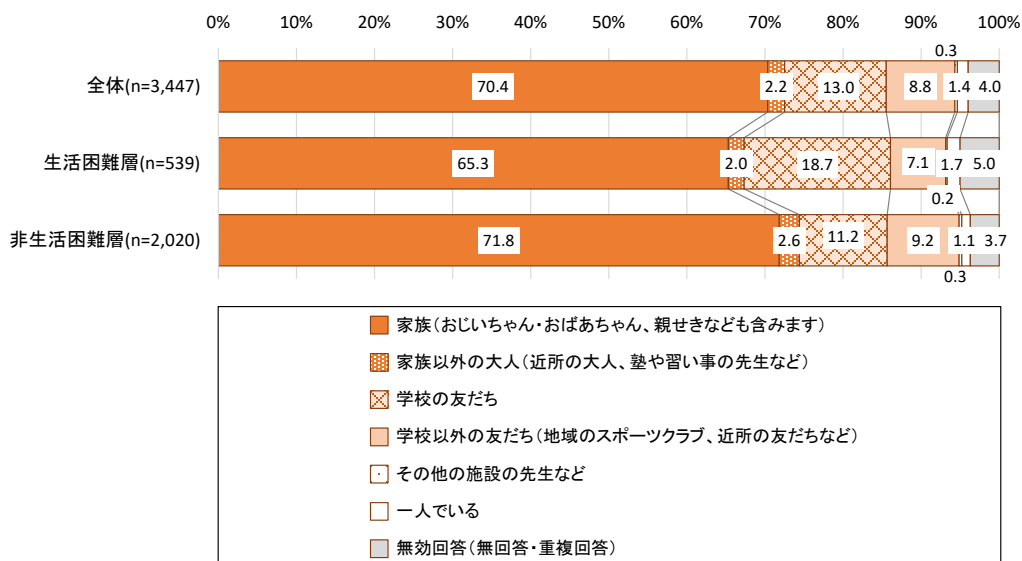
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「家族（おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなども含みます）」の回答割合が高くなっていた。また、「一人である」の回答割合についても高くなっていた。

設問 8 あなたは、休日（学校がお休みの日）の午後はだれと過ごしますか。（SA）

図表 1-3-3-17 休日の午後誰と過ごすか



(参考) 前回調査結果



⑤ 休日の午後どこで過ごすか

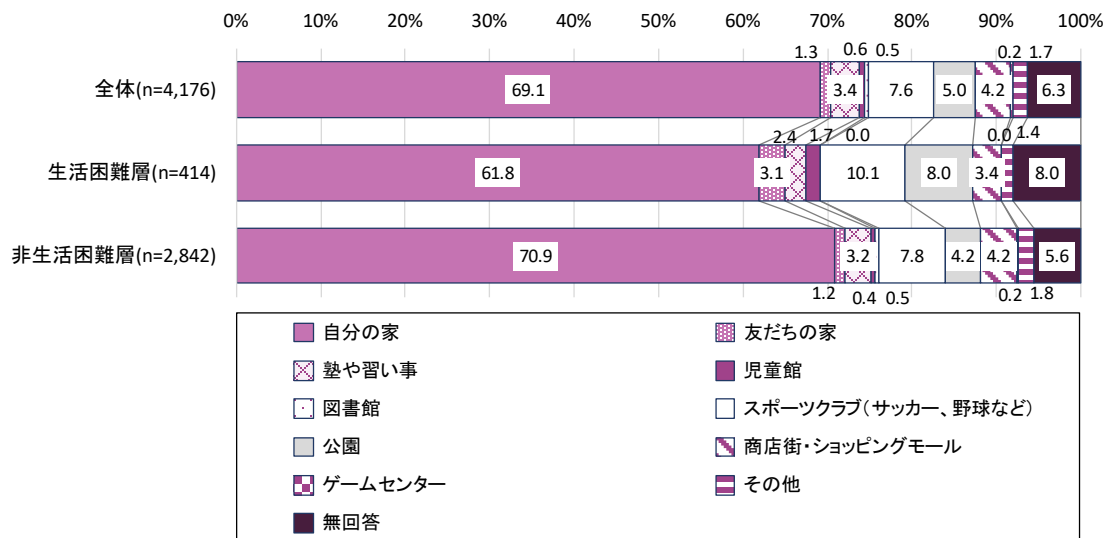
「あなたは、休日（学校がお休みの日）の午後はどこで過ごしますか」と尋ねた設問に対して、「自分の家」の回答は、全体では69.1%、生活困難層では61.8%、非生活困難層では70.9%であった。

また、「スポーツクラブ（サッカー、野球など）」の回答は、全体では7.6%、生活困難層では10.1%、非生活困難層では7.8%であった。「公園」の回答は、全体では5.0%、生活困難層では8.0%、非生活困難層では4.2%であった。

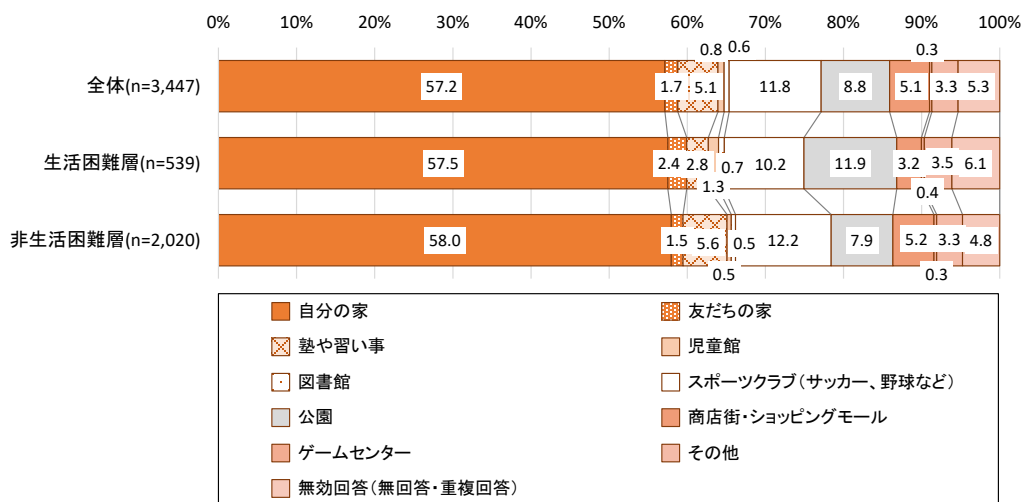
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「自分の家」の回答割合が高くなっていった。

設問 9 あなたは、休日（学校がお休みの日）の午後、どこで過ごしますか。（SA）

図表 1-3-3-18 休日の午後どこで過ごすか



(参考) 前回調査結果



⑥屋内・屋外での活動の状況

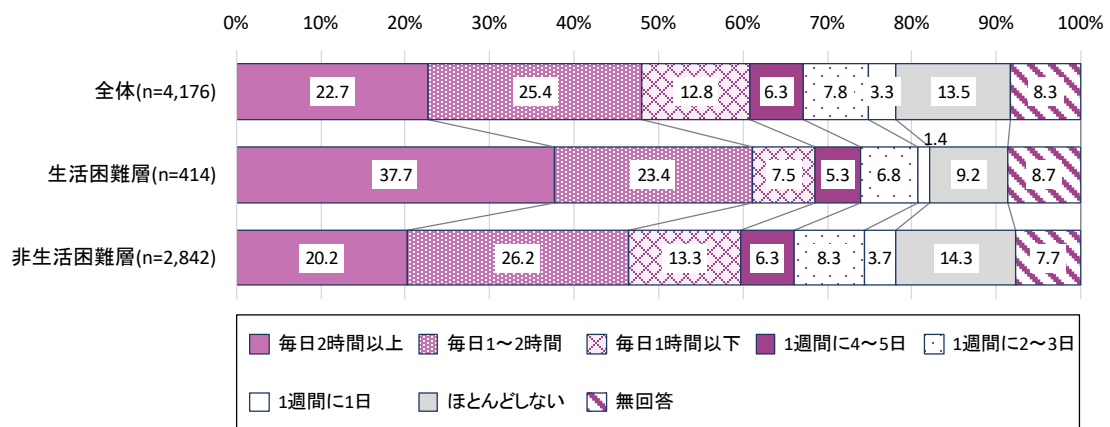
A ゲームで遊ぶ

「ゲーム」について、ふだんどれくらいするかを尋ねた設問に対して、毎日（「毎日2時間以上」、「毎日1～2時間」、「毎日1時間以下」の合計）と回答した割合は、全体では60.9%、生活困難層では68.6%、非生活困難層では59.7%であった。

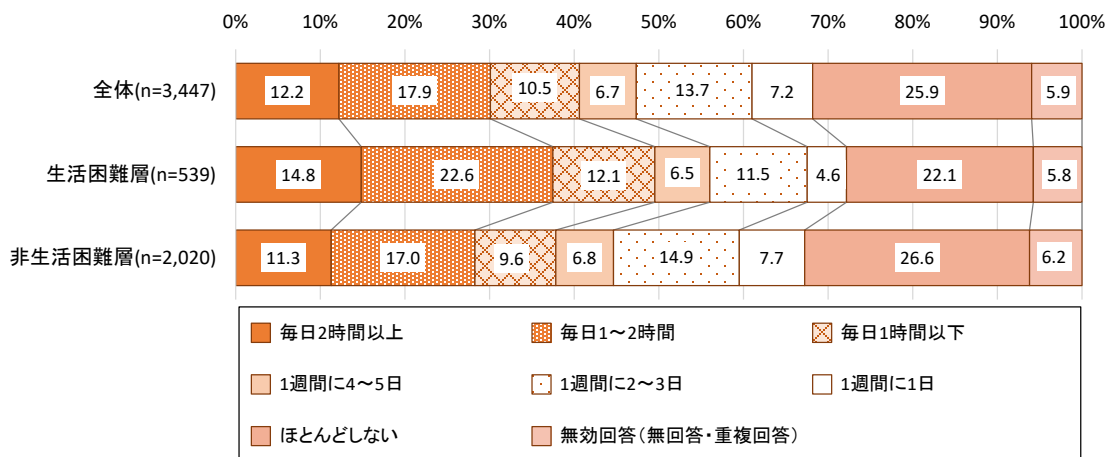
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、毎日と回答した割合が高く、「ほとんどしない」の回答割合が低くなっていた。

設問 10A あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。（SA）

図表 1-3-3-19 ゲームで遊ぶ（パソコン・スマホ・タブレットを用いたゲームを含む）



（参考） 前回調査結果



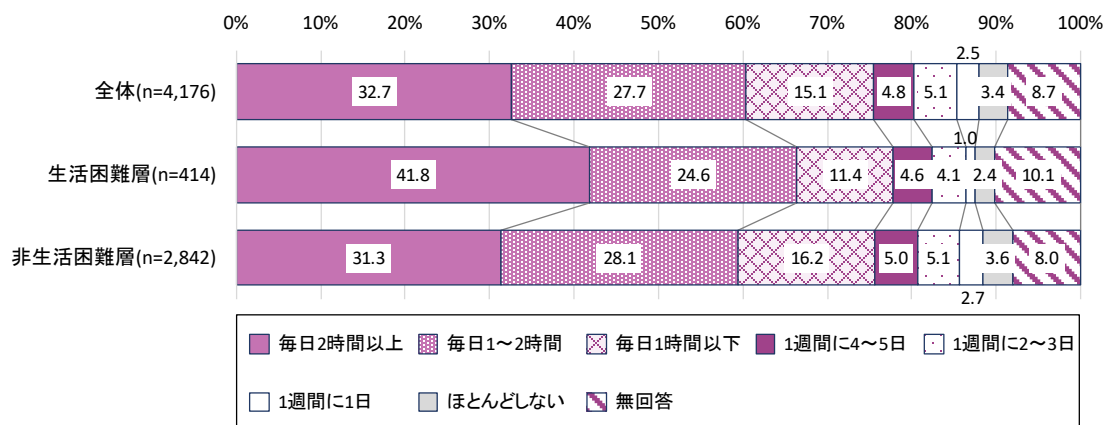
B テレビや動画を見る

「テレビや動画を見る（パソコン・スマホ・タブレットで見るものを含む）」について、ふだんどれくらいするかを尋ねた設問に対して、毎日（「毎日2時間以上」、「毎日1～2時間」、「毎日1時間以下」の合計）と回答した割合は、全体では75.5%、生活困難層では77.8%、非生活困難層では75.6%であった。

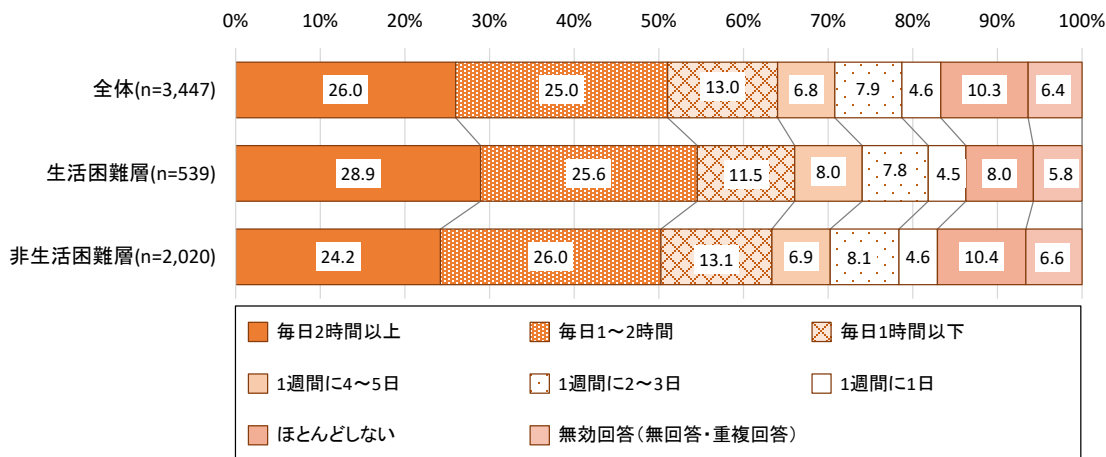
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「毎日」の回答割合が高く、「ほとんどしない」の回答割合が低くなっていた。

設問 10B あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。（SA）

図表 1-3-3-20 テレビや動画を見る（パソコン・スマホ・タブレットで見るものを含む）



（参考） 前回調査結果

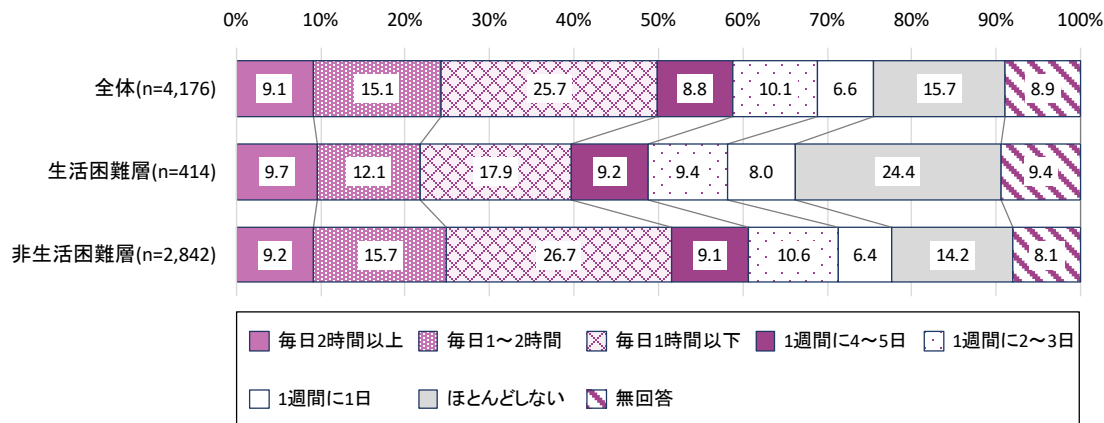


C 本・漫画・雑誌・新聞を読む

「本・漫画・雑誌・新聞を読む（パソコン・スマホ・タブレットで読むものを含む）」について、ふだんどれくらいするかを尋ねた設問に対して、毎日（「毎日2時間以上」、「毎日1～2時間」、「毎日1時間以下」の合計）と回答した割合は、全体では49.9%、生活困難層では39.7%、非生活困難層では51.6%であった。

設問 10C あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。（SA）

図表 1-3-3-21 本・漫画・雑誌・新聞を読む（パソコン・スマホ・タブレットで読むものを含む）

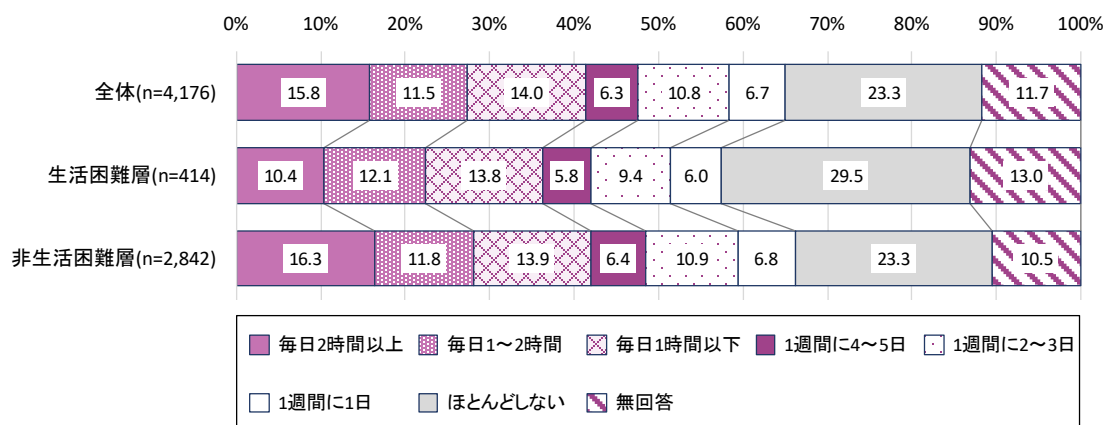


D 室内でのほかの活動

「室内でのほかの活動」について、ふだんどれくらいするかを尋ねた設問に対して、毎日（「毎日2時間以上」、「毎日1～2時間」、「毎日1時間以下」の合計）と回答した割合は、全体で41.3%であった⁵⁰。

設問 10D あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。（SA）

図表 1-3-4-22 室内でのほかの活動



⁵⁰ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

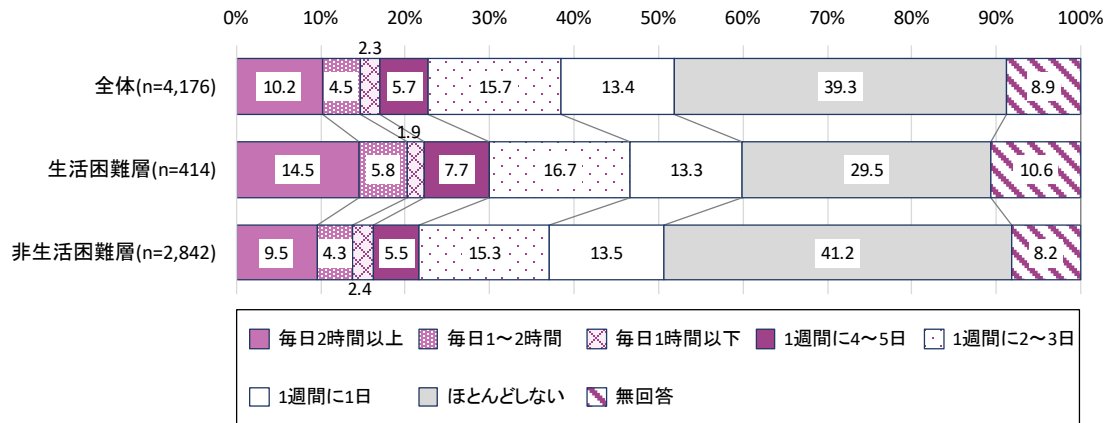
E 公園で遊ぶ

「公園で遊ぶ」について、ふだんどれくらいするかを尋ねた設問に対して、毎日（「毎日2時間以上」、「毎日1～2時間」、「毎日1時間以下」の合計）と回答した割合は、全体では17.0%、生活困難層では22.2%、非生活困難層では16.2%であった。

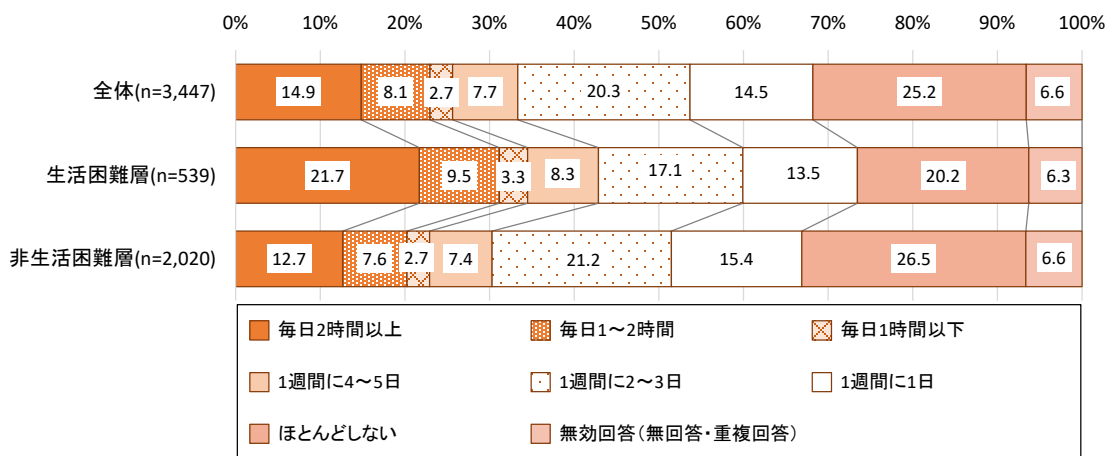
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「毎日」の回答割合が低く、「ほとんどしない」の回答割合が高くなっていった。

設問 10E あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。（SA）

図表 1-3-3-23 公園で遊ぶ



(参考) 前回調査結果

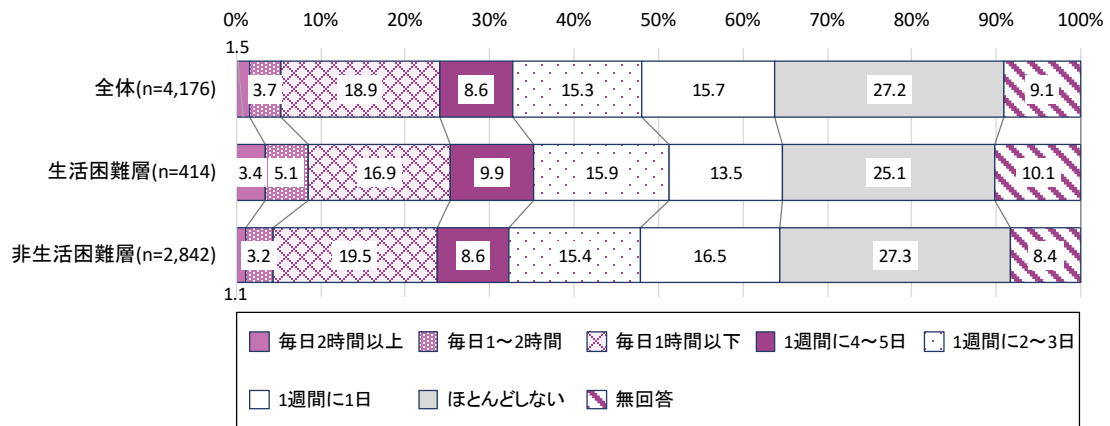


F 家事（洗濯、掃除、調理、片付けなど）

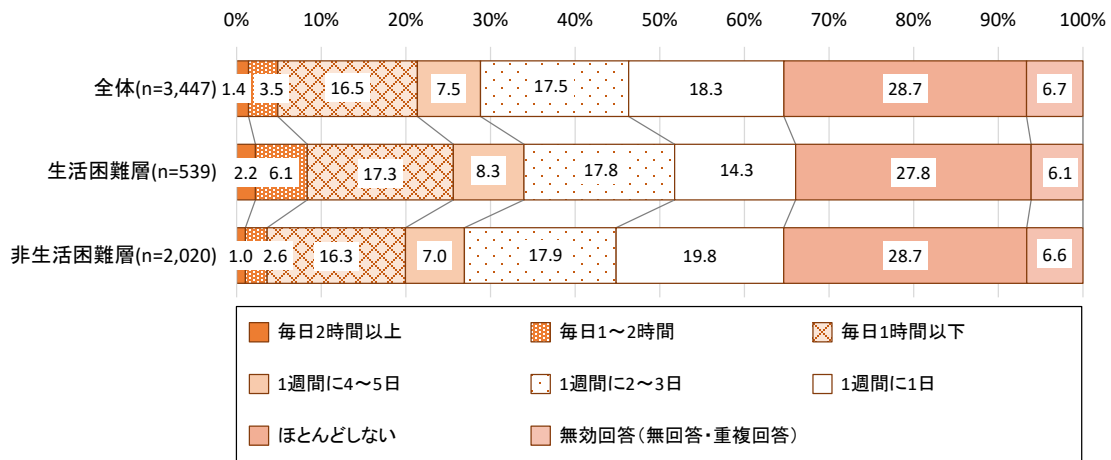
「家事（洗濯、掃除、調理、片付けなど）」について、ふだんどれくらいするかを尋ねた設問に対して、毎日（「毎日2時間以上」、「毎日1～2時間」、「毎日1時間以下」の合計）と回答した割合は、全体では24.1%、生活困難層では25.4%、非生活困難層では23.8%であった。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、毎日の回答割合が低くなっていた。

設問 10F あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。（SA）

図表 1-3-3-24 家事（洗濯、掃除、調理、片付けなど）



(参考) 前回調査結果



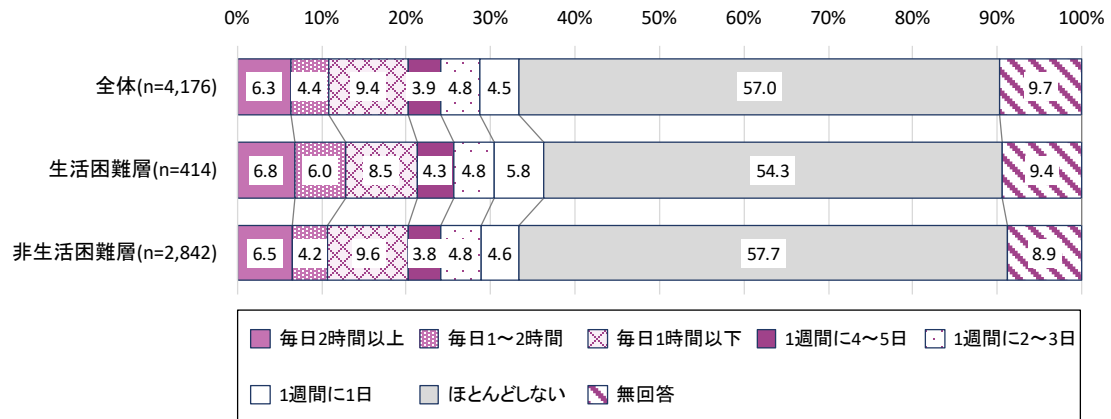
G 兄弟姉妹など家族の世話

「兄弟姉妹など家族の世話」について、ふだんどれくらいするかを尋ねた設問に対して、毎日（「毎日2時間以上」、「毎日1～2時間」、「毎日1時間以下」の合計）と回答した割合は、全体で20.1%であった⁵¹。

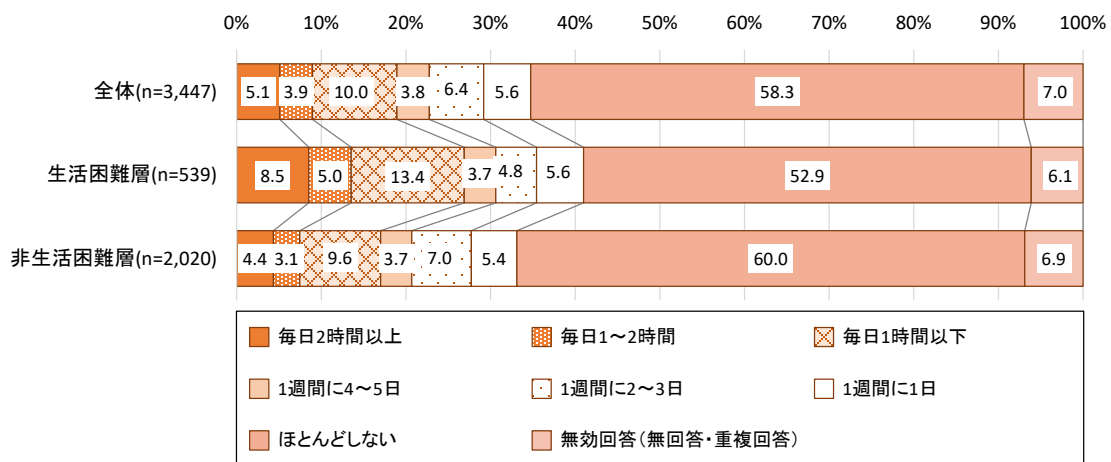
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」の回答割合が高く、「1週間に2～3日」「1週間に1日」「ほとんどしない」の回答割合が低くなっていた。

設問 10G あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。（SA）

図表 1-3-3-25 兄弟姉妹など家族の世話



(参考) 前回調査結果



⁵¹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

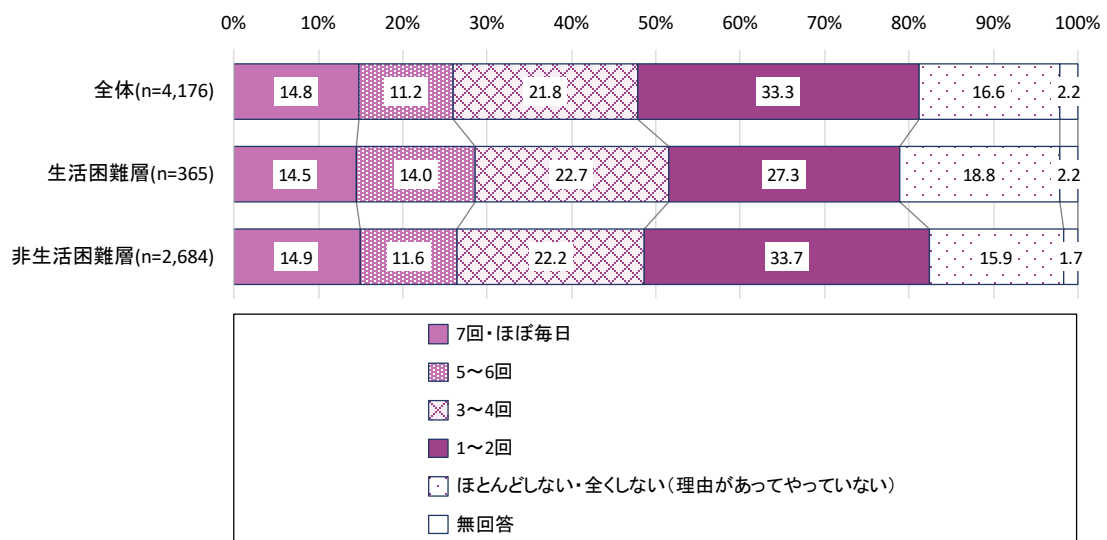
⑦からだを動かす頻度

「30分以上からだを動かす遊びや習い事は、1週間でどれくらいしますか」と尋ねた設問に対して、全体では、「1～2回」が33.3%、「3～4回」が21.8%であった⁵²。

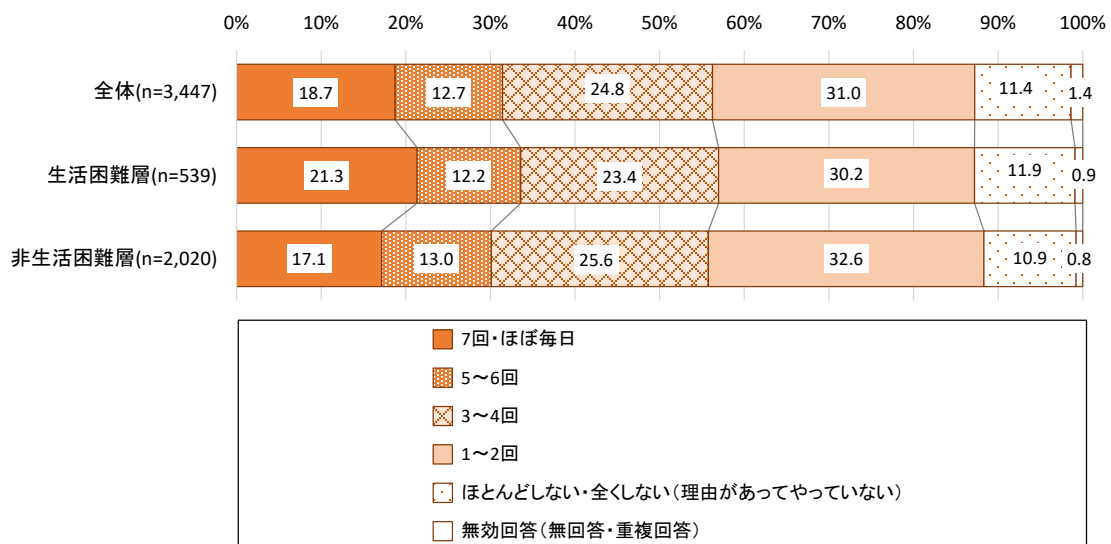
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「1～2回」「ほとんどしない・全くしない（理由があってやっていない）」の回答割合が高くなっていった。

設問 11 あなたは、30分以上からだを動かす遊びや習い事は、1週間でどれくらいしますか。（SA）

図表 1-3-3-26 からだを動かす頻度



(参考) 前回調査結果



⁵² この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

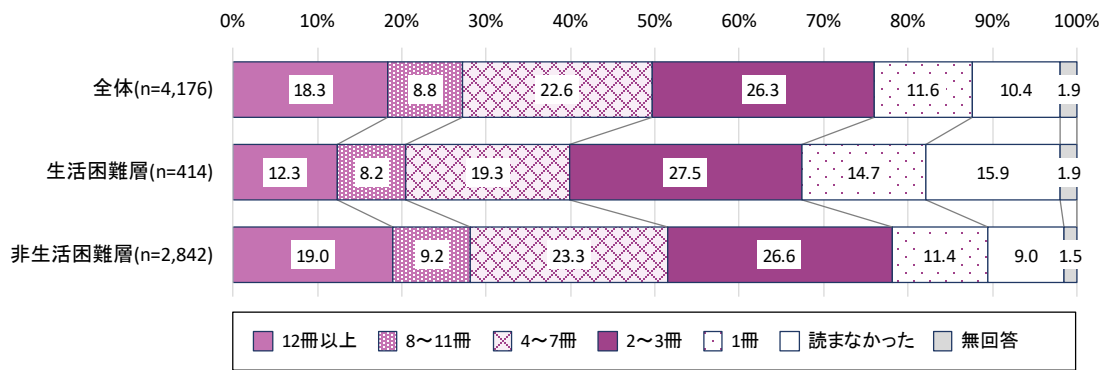
⑧読書の習慣⁵³

「この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか」と尋ねた設問に対して、「読まなかった」と回答した割合は、全体では10.4%、生活困難層では15.9%、非生活困難層では9.0%であった。

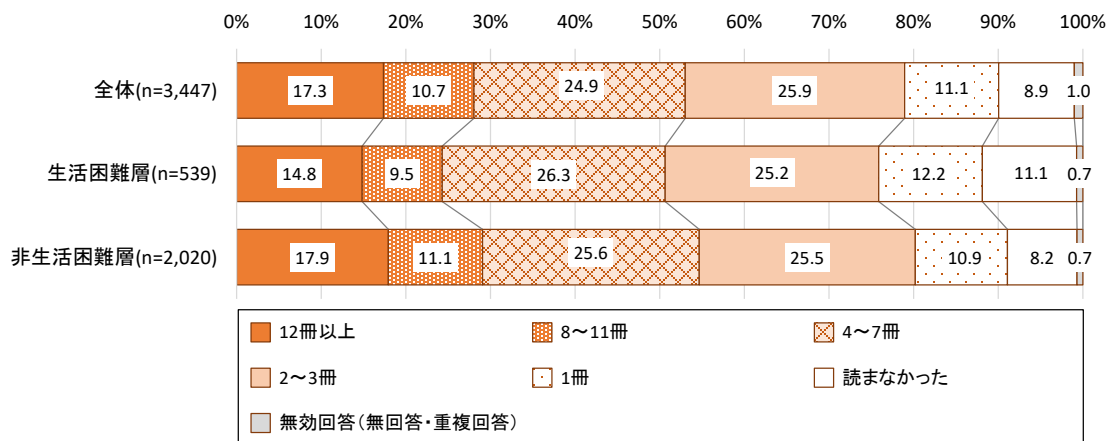
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「12冊以上」「2～3冊」「1冊」「読まなかった」の回答割合が高く、「8～11冊」「4～7冊」の回答割合が低くなっていた。

設問 12 あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。（SA）

図表 1-3-3-27 読書の習慣



(参考) 前回調査結果



⁵³ 自宅以外で読んだ本、パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本（電子書籍）も含めて回答いただいた。雑誌やマンガは含まれていない。

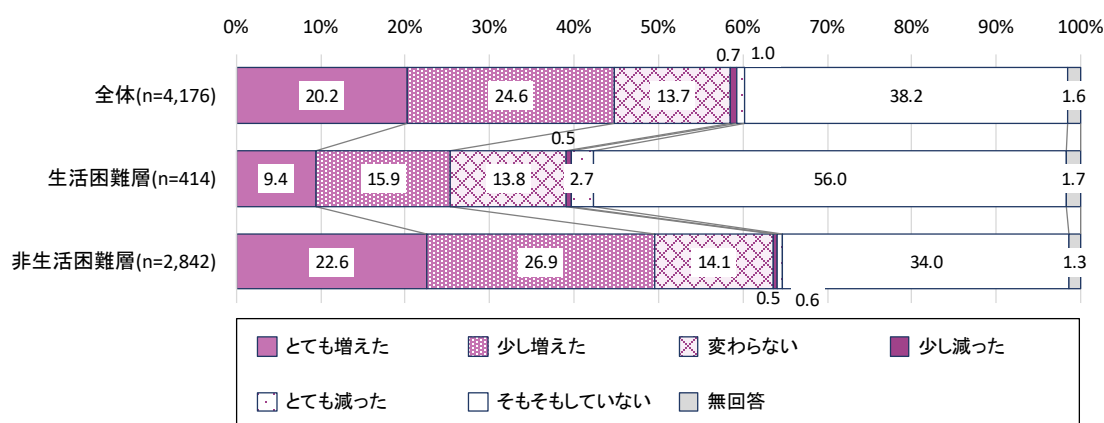
⑨新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化

A パソコンやタブレットを使ってオンラインで勉強すること

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「パソコンやタブレットを使ってオンラインで勉強すること」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体では44.8%、生活困難層では25.3%、非生活困難層では49.5%であった。また、「そもそもしていない」の回答割合は、全体では38.2%、生活困難層では56.0%、非生活困難層では34.0%であった。

設問 13A (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。
 新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
 次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-28 パソコンやタブレットを使ってオンラインで勉強すること

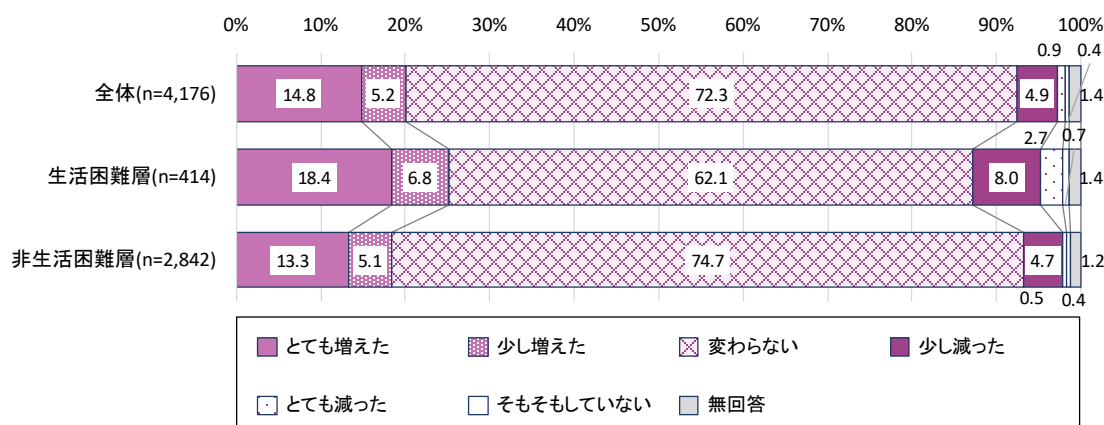


B 朝・昼・夕と三食しっかり食べること

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「朝・昼・夕と三食しっかり食べること」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体では20.0%、生活困難層では25.2%、非生活困難層では18.4%であった。また、「少し減った」と「とても減った」を合わせた回答割合は、全体では5.8%、生活困難層では10.7%、非生活困難層では5.2%であった。

設問 13B (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。
 新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
 次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-29 朝・昼・夕と三食しっかり食べること



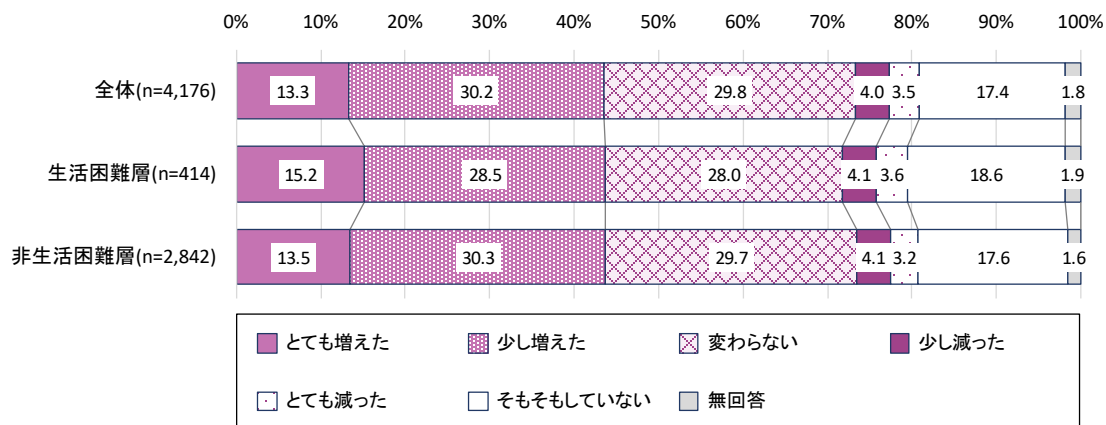
C 朝ねぼうをすること

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「朝ねぼうをすること」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で43.5%であった⁵⁴。

設問 13C (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。

新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-30 朝ねぼうをすること



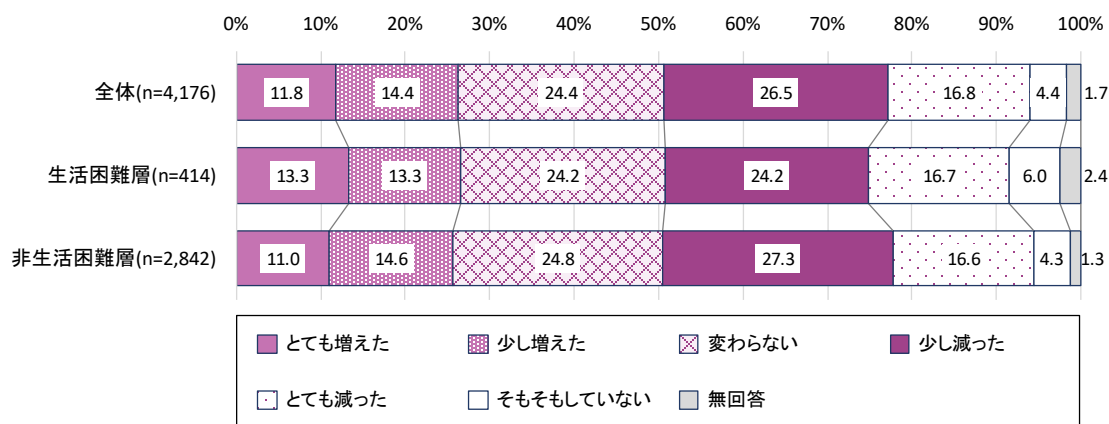
D 運動をすること

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「運動をすること」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で26.2%であった。また、「少し減った」と「とても減った」を合わせた回答割合は、全体で43.3%であった⁵⁵。

設問 13D (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。

新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-31 運動をすること



⁵⁴ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

⁵⁵ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

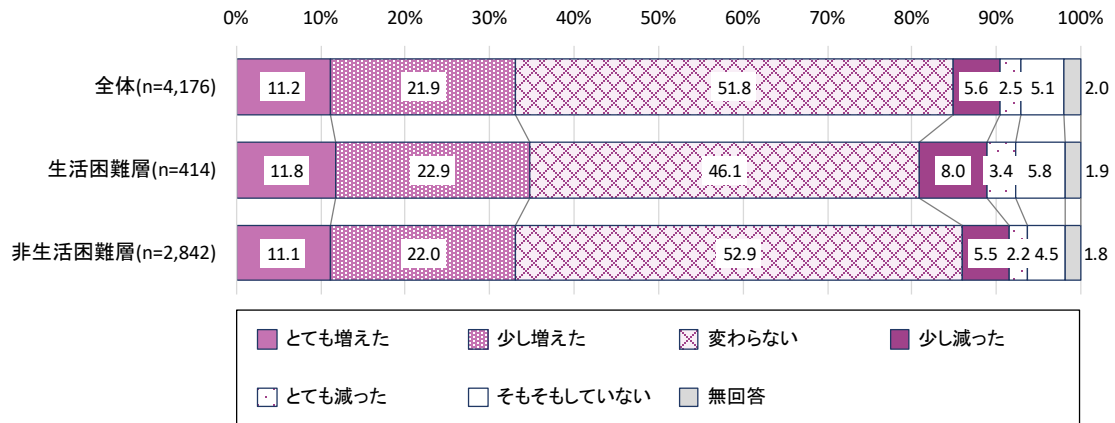
E 親にしかられること

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「親にしかられること」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で33.1%であった⁵⁶。

設問 13 E (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。

新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-32 親にしかられること



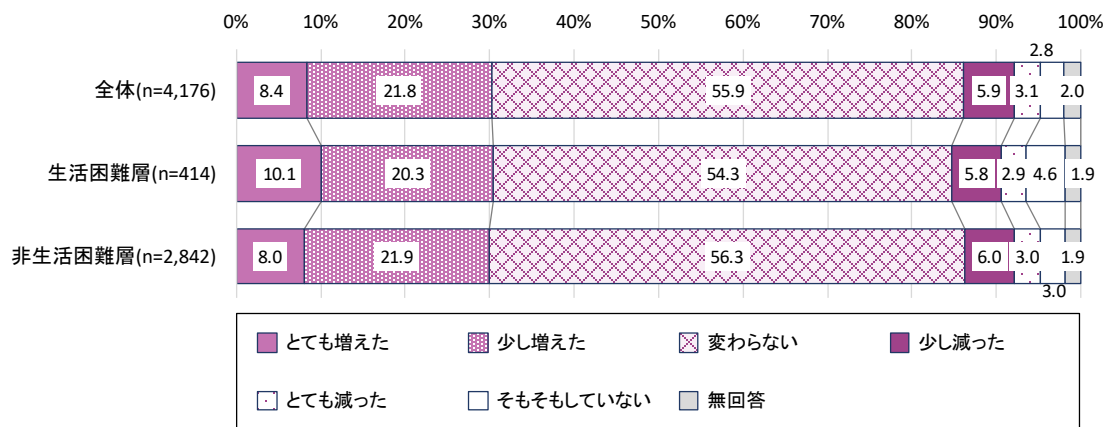
F 親にほめられること

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「親にほめられること」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で30.2%であった⁵⁷。

設問 13 F (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。

新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-33 親にほめられること



⁵⁶ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的有意差は見られなかった。

⁵⁷ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的有意差は見られなかった。

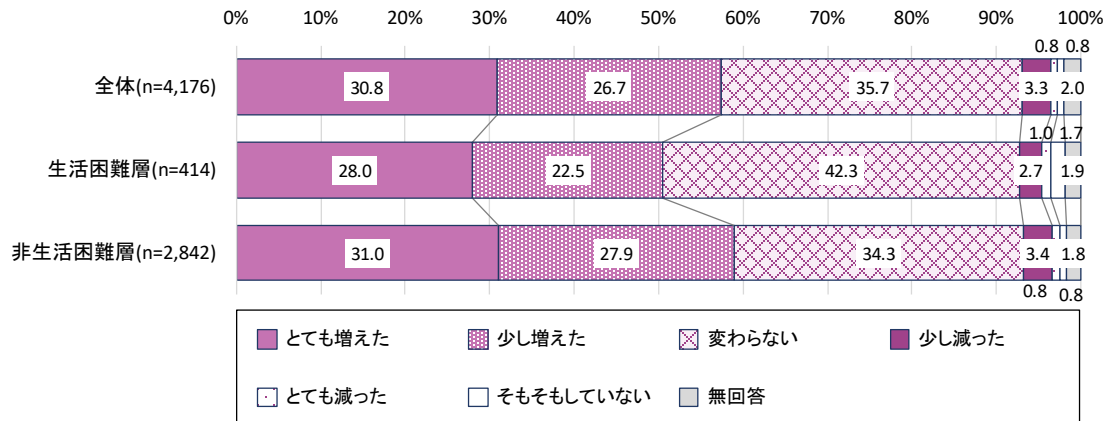
G 親と話をすること

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「親と話をすること」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体では57.5%、生活困難層では50.5%、非生活困難層では58.9%であった。

設問 13G (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。

新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-34 親と話をすること



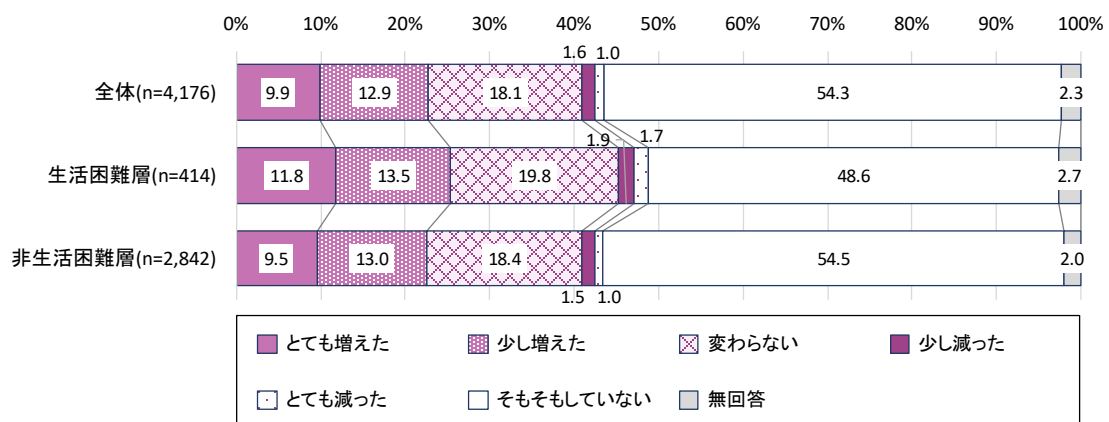
H 電話やSNSで友だちと交流すること

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「電話やSNSで友だちと交流すること」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で22.8%であった⁵⁸。

設問 13H (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。

新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-35 電話やSNSで友だちと交流すること



⁵⁸ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

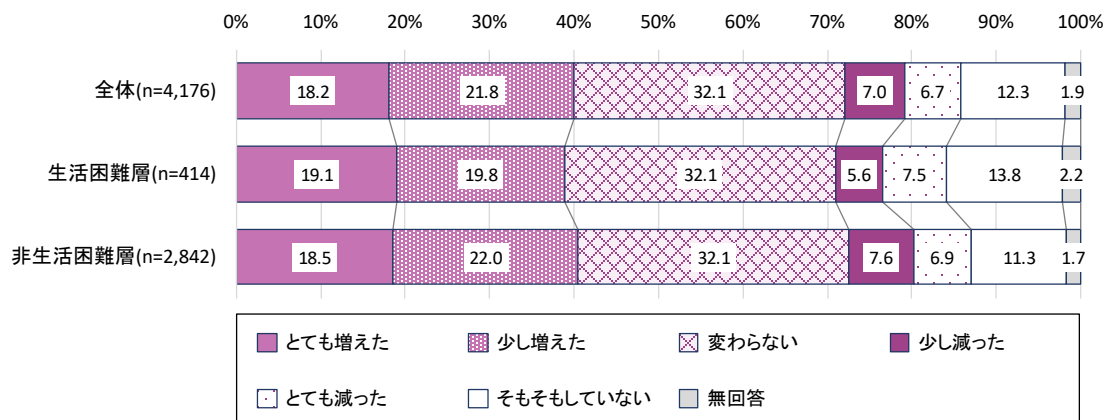
I ひとりだけで時間を過ごすこと

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「ひとりだけで時間を過ごすこと」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で40.0%であった⁵⁹。

設問 13 I (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。

新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-36 ひとりだけで時間を過ごすこと



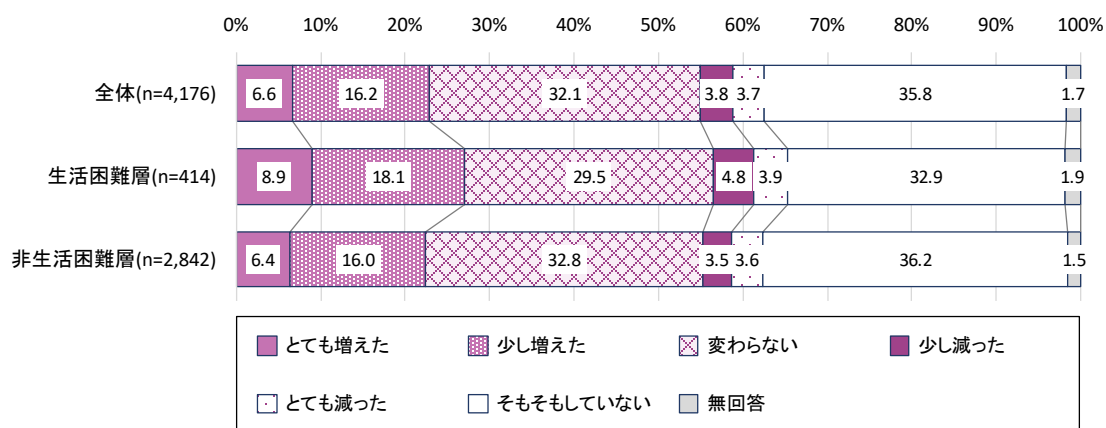
J 不安だったこと

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「不安だったこと」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で22.8%であった⁶⁰。

設問 13 J (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。

新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-37 不安だったこと



⁵⁹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

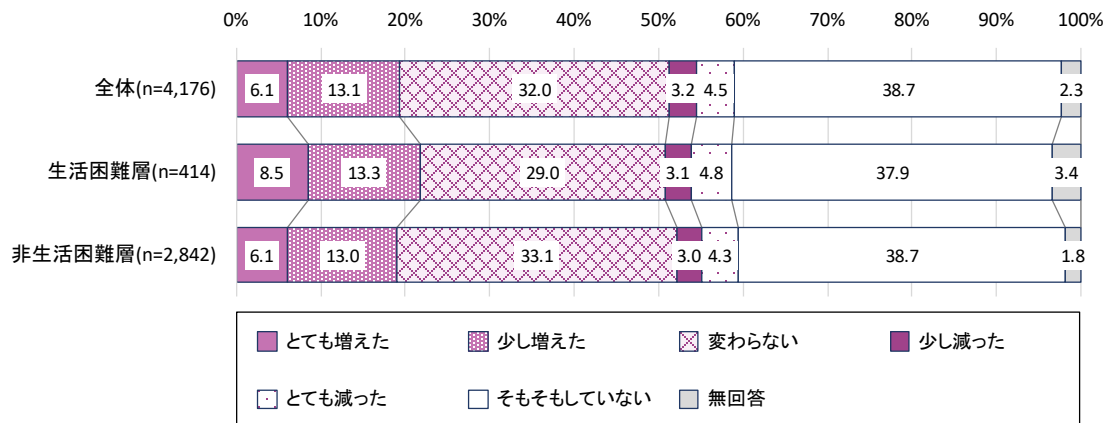
⁶⁰ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

K さみしいと感じたこと

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「さみしいと感じたこと」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で19.2%であった⁶¹。

設問 13K (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。
 新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
 次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-38 さみしいと感じたこと

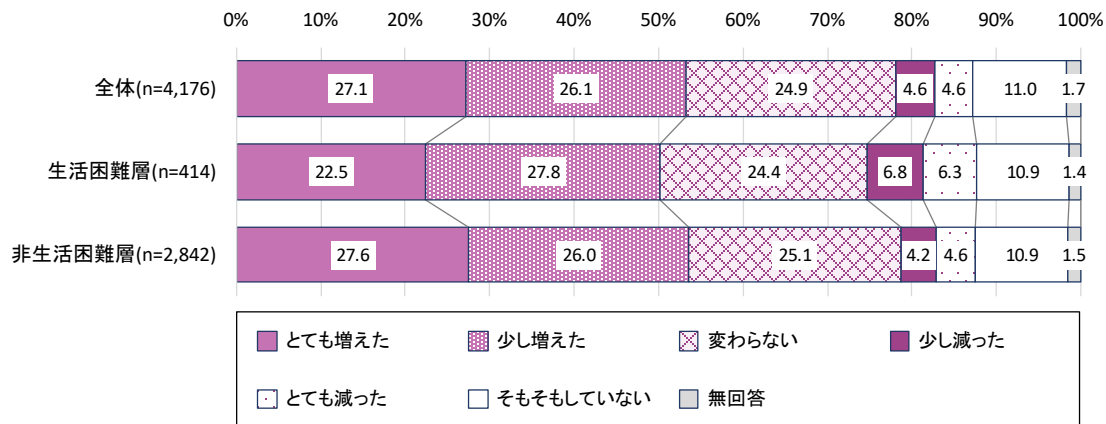


L 学校に行きたいと思ったこと

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「学校に行きたいと思ったこと」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で53.2%であった⁶²。

設問 13L (新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。
 新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
 次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-39 学校に行きたいと思ったこと



⁶¹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

⁶² この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

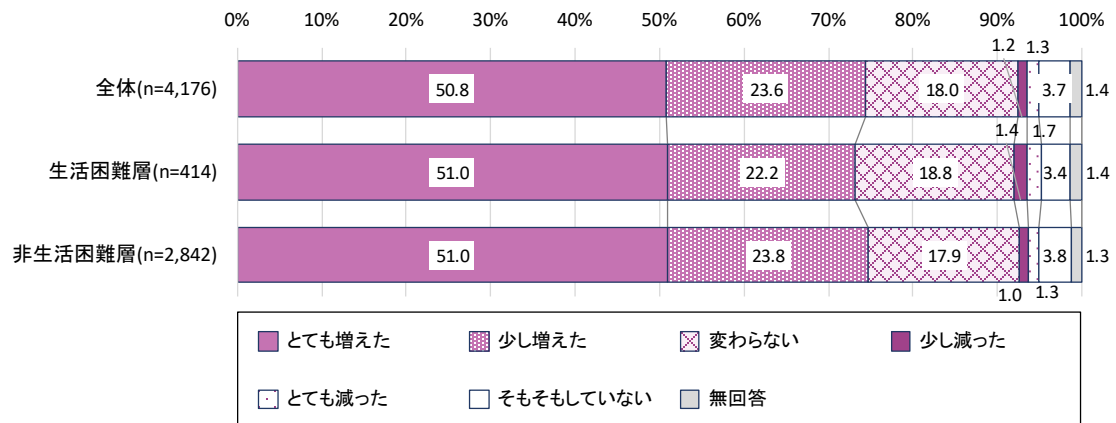
M 友だちに会いたいと思ったこと

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化について、「友だちに会いたいと思ったこと」が増えたかを尋ねた設問に対して、「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた回答割合は、全体で74.4%であった⁶³。

設問 13M(新設) 小学校休校中にあなた自身の生活がどのように変わったかおたずねします。

新型コロナウイルス感染症流行の前と比べて、
次の項目のようなことをする機会は増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 1-3-3-40 友だちに会いたいと思ったこと



⁶³ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

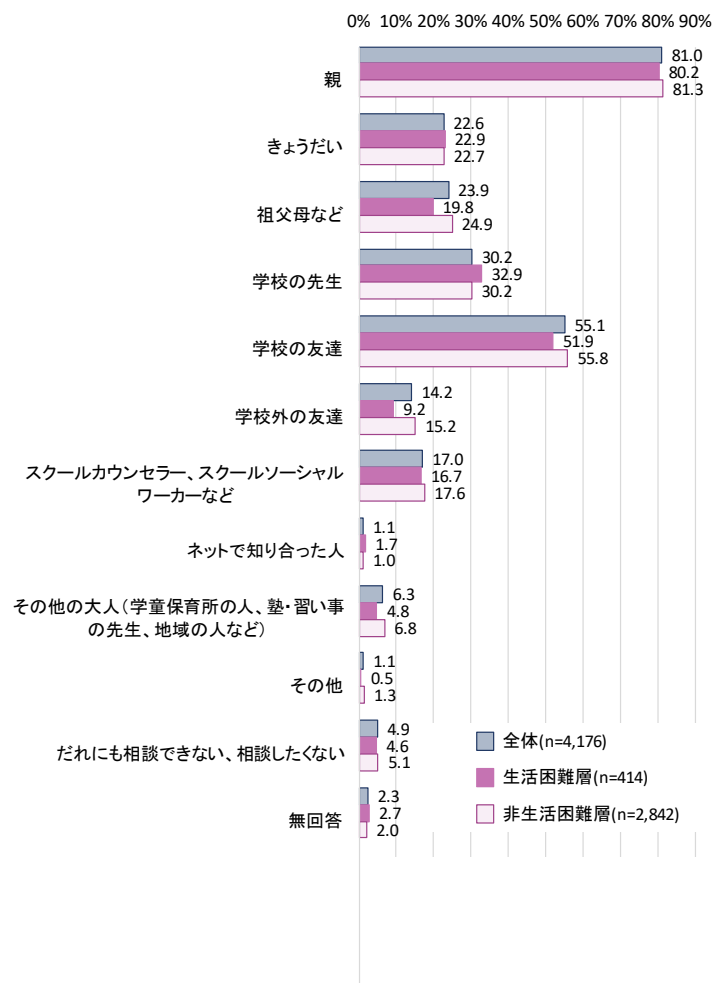
⑩相談相手

「あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか」と尋ねた設問に対して、全体では、「親」が81.0%、「学校の友達」が55.1%、「学校の先生」が30.2%であった。なお、「だれにも相談できない、相談したくない」という回答が4.9%であった。

また、「学校外の友達」の回答は、全体では14.2%、生活困難層では9.2%、非生活困難層では15.2%であった⁶⁴。

設問 14 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(MA)

図表 1-3-3-41 相談相手



⁶⁴ 「学校外の友達」の回答以外は、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

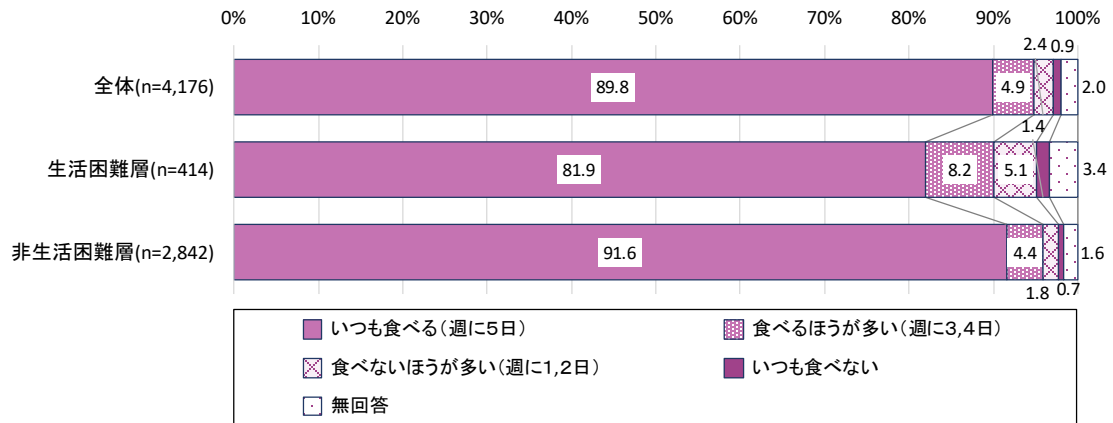
(4)食事や健康に関すること

①朝ごはんの摂取状況

「平日（学校に行く日）に毎日、朝ごはんを食べますか」という設問に対して、「いつも食べる（週に5日）」の回答割合は、全体では89.8%、生活困難層では81.9%、非生活困難層では91.6%であった。なお、「食べない方が多い（週に1、2日）」と「いつも食べない」を合わせた回答割合は、全体では3.3%、生活困難層では6.5%、非生活困難層では2.5%であった。

設問 15 あなたは、平日（学校に行く日）に毎日、朝ごはんを食べますか。（SA）

図表 1-3-4-1 朝ごはんの摂取状況



②朝ごはんを一緒に食べる相手

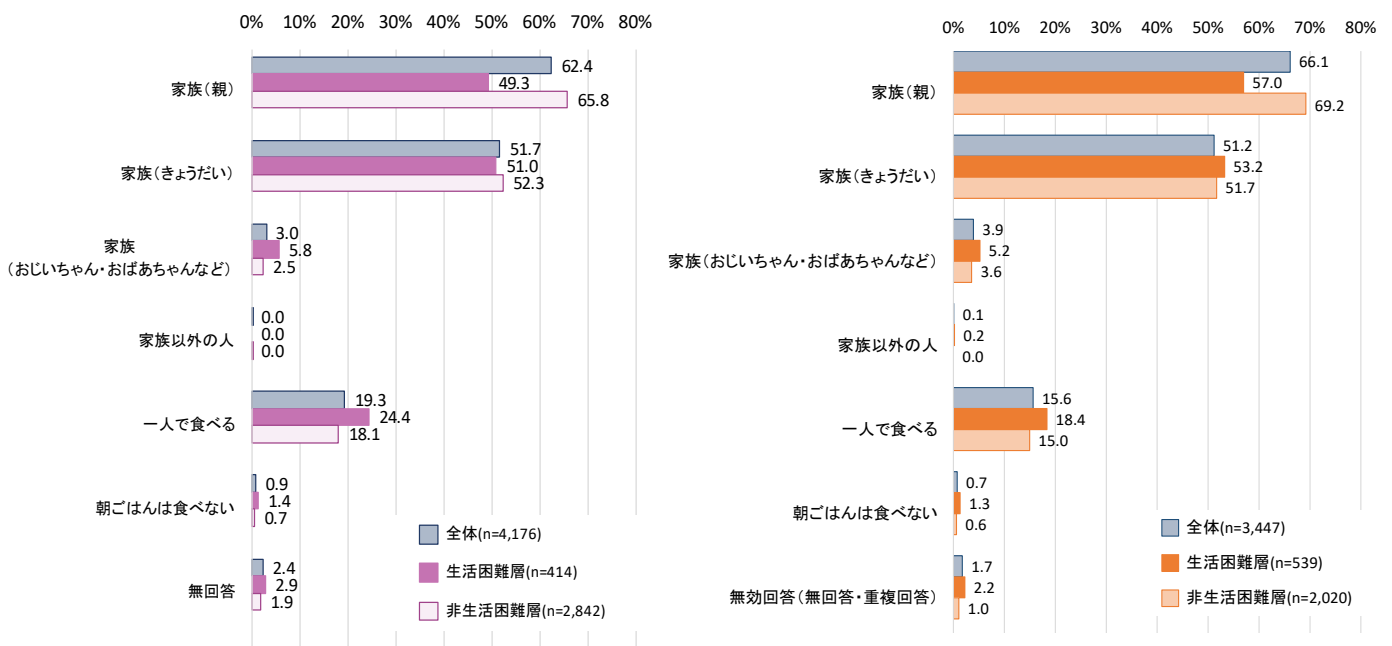
朝ごはんを誰と食べるかを尋ねた設問に対して、「家族（親）」の回答は、全体では 62.4%、生活困難層では 49.3%、非生活困難層では 65.8%であった。また、「一人で食べる」の回答は、全体では 19.3%、生活困難層では 24.4%、非生活困難層では 18.1%であった⁶⁵。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「家族（親）」「家族（おじいちゃん・おばあちゃんなど）」の回答割合は低く、「一人で食べる」の回答割合は高くなっていた。

設問 16 あなたは、平日（学校に行く日）に朝ごはんをだれと食べますか。（MA）

図表 1-3-4-2 朝ごはんを一緒に食べる相手

（参考）前回調査結果



⁶⁵ 「家族(きょうだい)」「家族以外の人」「朝ごはんは食べない」では、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

③食事の内容

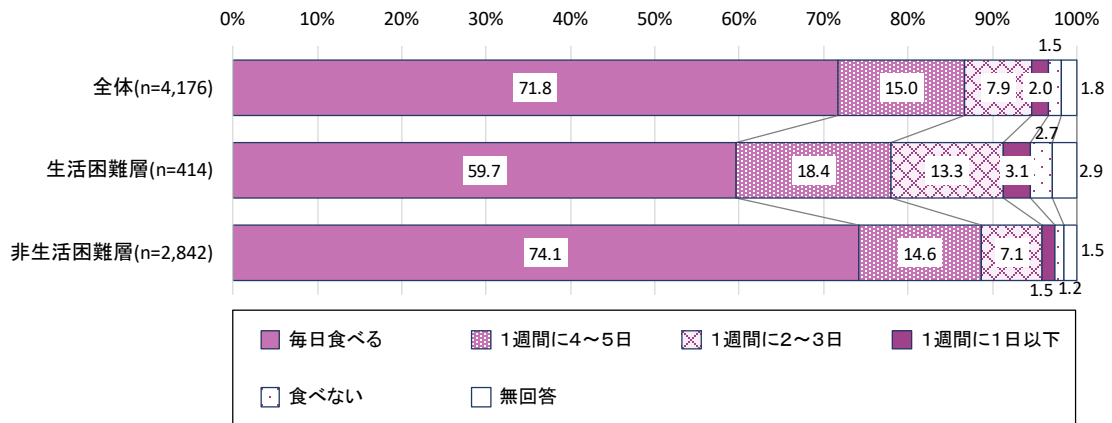
A 野菜

ふだんの食事の内容について尋ねた設問に対して、「野菜」について「毎日食べる」と回答した割合は、全体では71.8%、生活困難層では59.7%、非生活困難層では74.1%であった。また、「1週間に1日以下」と「食べない」を合わせた回答割合は、全体では3.5%、生活困難層では5.8%、非生活困難層では2.7%であった。

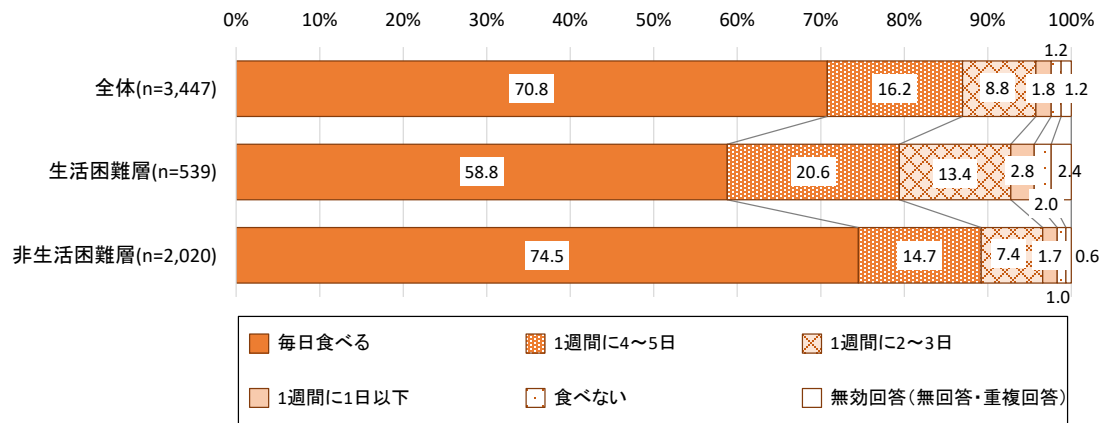
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「1週間に4～5日」「1週間に2～3日」の回答割合が低くなっていた。

設問 17A あなたは、給食を除いて、以下の食べ物をふだんどれくらい食べますか。（SA）

図表 1-3-4-3 野菜



(参考) 前回調査結果



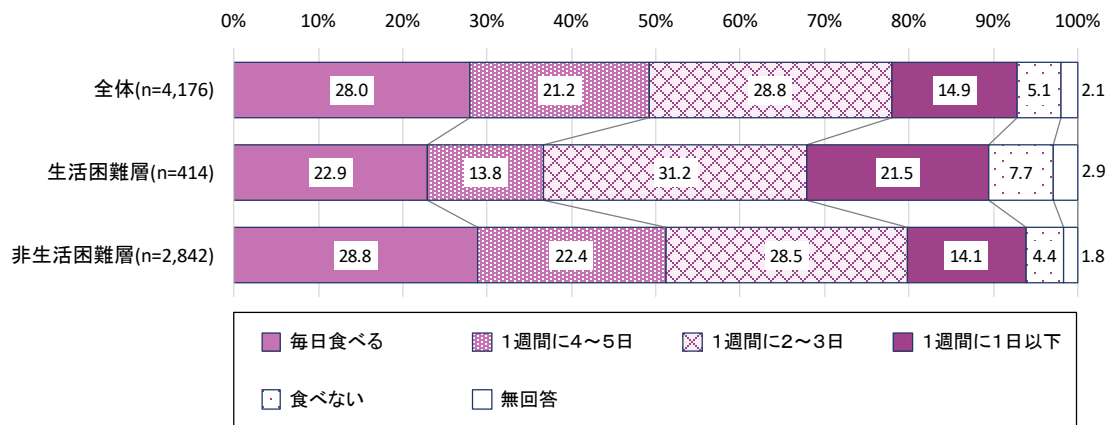
B くだもの

ふだんの食事の内容について尋ねた設問に対して、「くだもの」を「毎日食べる」と回答した割合は、全体では28.0%、生活困難層では22.9%、非生活困難層では28.8%であった。また、「1週間に1日以下」と「食べない」を合わせた回答割合は、全体では20.0%、生活困難層では29.2%、非生活困難層では18.5%であった。

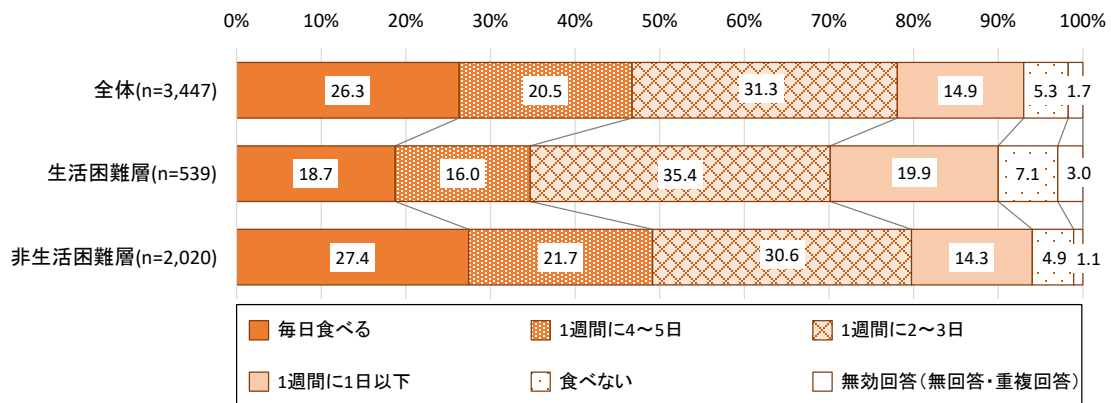
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「毎日食べる」「1週間に4～5日」の回答割合が高くなっていった。

設問 17B あなたは、給食を除いて、以下の食べ物をふだんどれくらい食べますか。（SA）

図表 1-3-4-4 くだもの



(参考) 前回調査結果



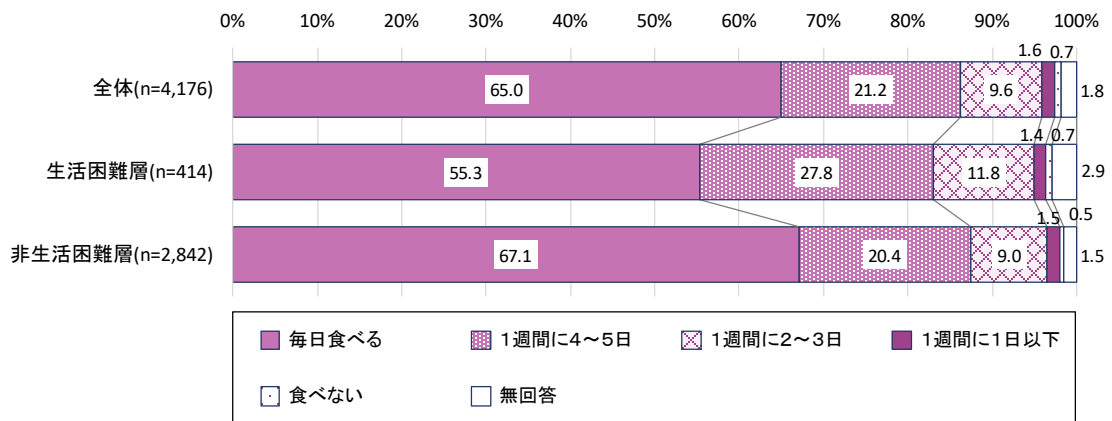
C 肉か魚

ふだんの食事の内容について尋ねた設問に対して、「肉か魚」を「毎日食べる」と回答した割合は、全体では 65.0%、生活困難層では 55.3%、非生活困難層では 67.1%であった。

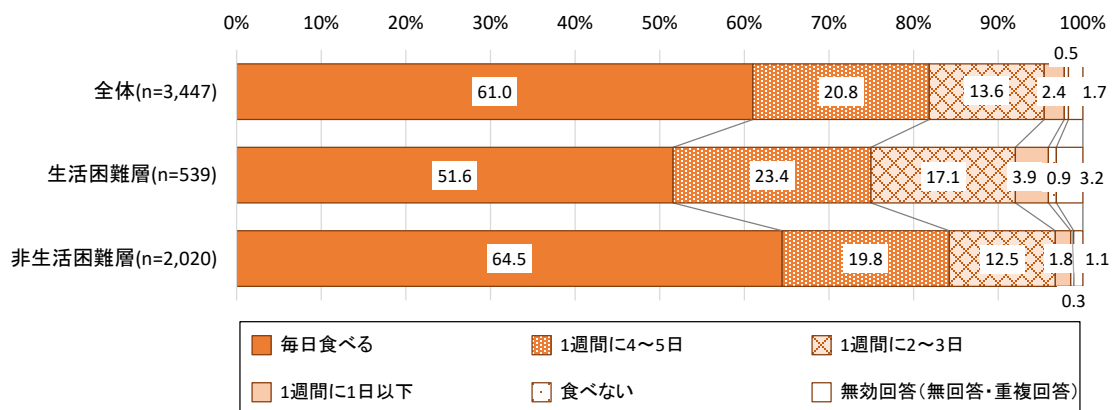
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「毎日食べる」「1週間に4～5日」の回答割合が高くなっていた。

設問 17C あなたは、給食を除いて、以下の食べ物をふだんどれくらい食べますか。（SA）

図表 1-3-4-5 肉か魚



(参考) 前回調査結果



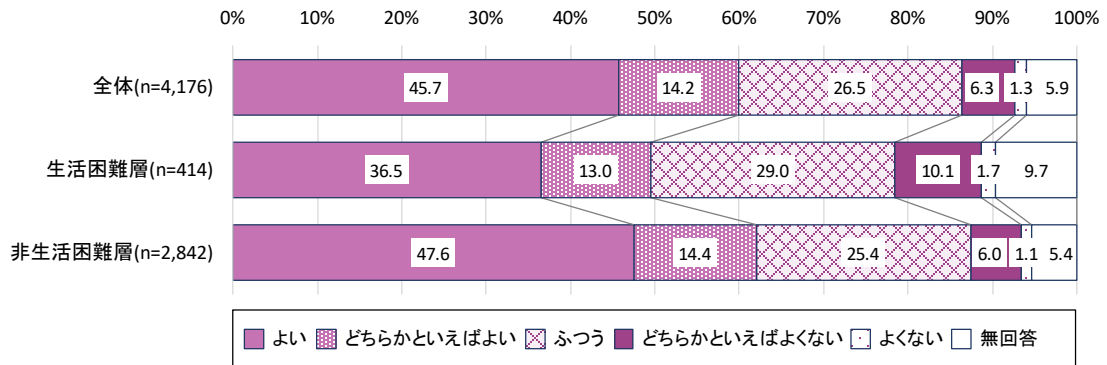
④健康に関する認識

「自分の健康状態についてどう感じていますか」と尋ねた設問に対して、「よくない」と「どちらかといえばよくない」を合わせた回答割合は、全体では7.6%、生活困難層では11.8%、非生活困難層では7.1%であった。

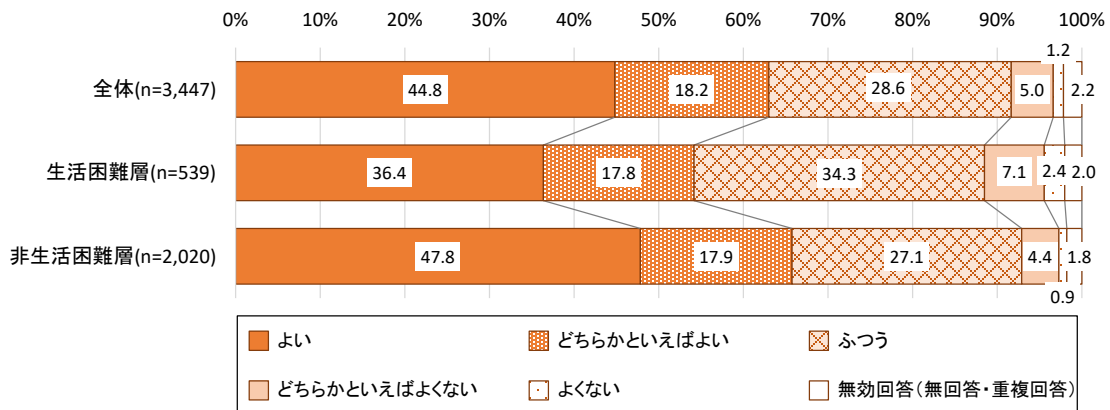
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「どちらかといえばよい」の回答割合が低くなっていた。

設問 18 あなたは、自分の健康状態についてどう感じていますか。（SA）

図表 1-3-4-6 自分の健康に関する認識



(参考) 前回調査結果



(5)学校のことや勉強のこと

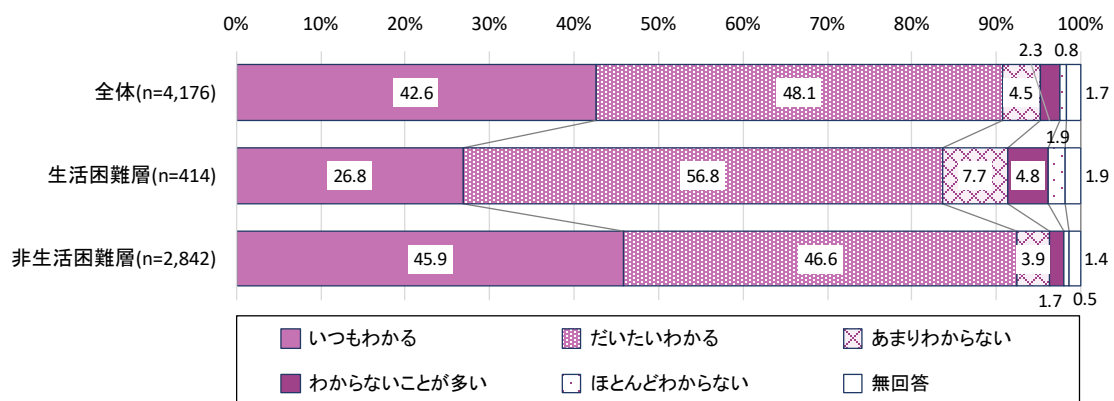
①学校の授業理解

「あなたは、学校の授業がわかりますか」という設問に対して、わからないと回答した割合（「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」の合計）は、全体では7.6%、生活困難層では14.4%、非生活困難層では6.1%であった。

「わからない」と回答した人に、わからなくなった時期を尋ねた設問に対して、全体では、「5年生になってから」が30.2%、「4年生のころ」が27.4%であった⁶⁶。

設問 19 あなたは、学校の授業がわかりますか。(SA)

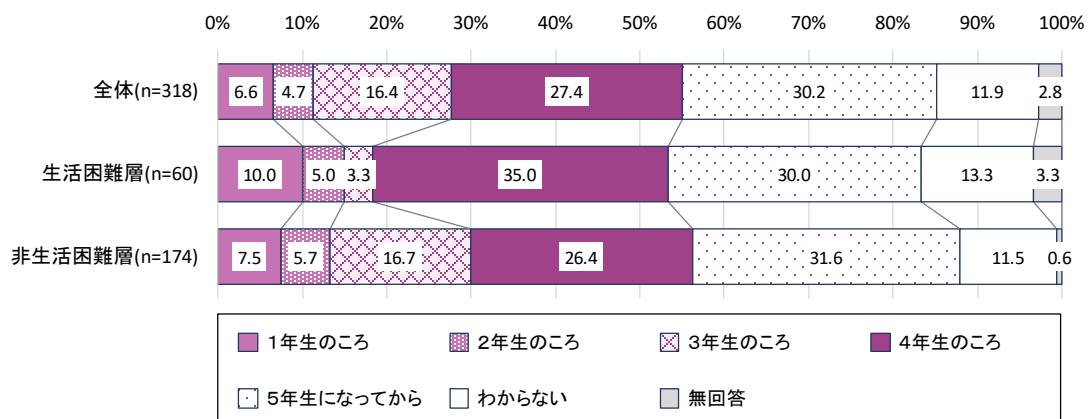
図表 1-3-5-1 学校の授業理解



設問 19-1 「あなたは、学校の授業がわかりますか」で「3. あまりわからない」「4. わからないことが多い」「5. ほとんどわからない」と答えた人におききます。

いつごろから、授業がわからなくなりましたか。(SA)

図表 1-3-5-2 学校の授業がわからなくなった時期



⁶⁶ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

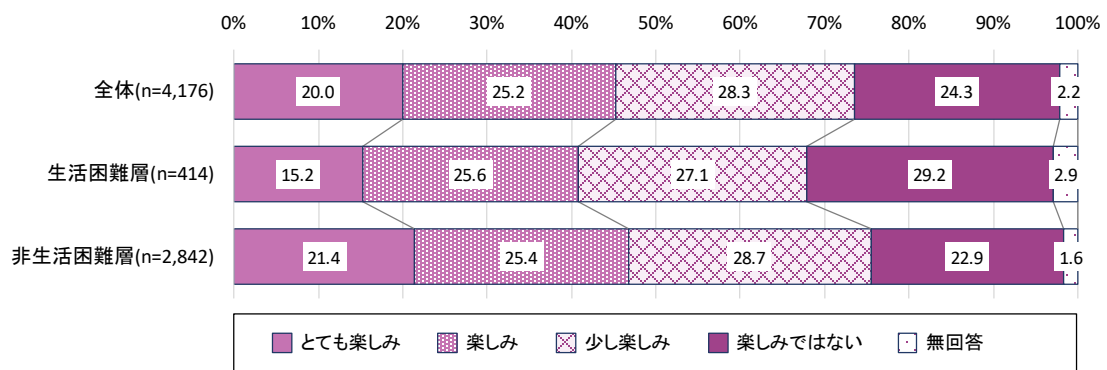
②学校が楽しみか

A 算数の授業

学校生活について「算数の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体では24.3%、生活困難層では29.2%、非生活困難層では22.9%であった。

設問 20A あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-3 算数の授業

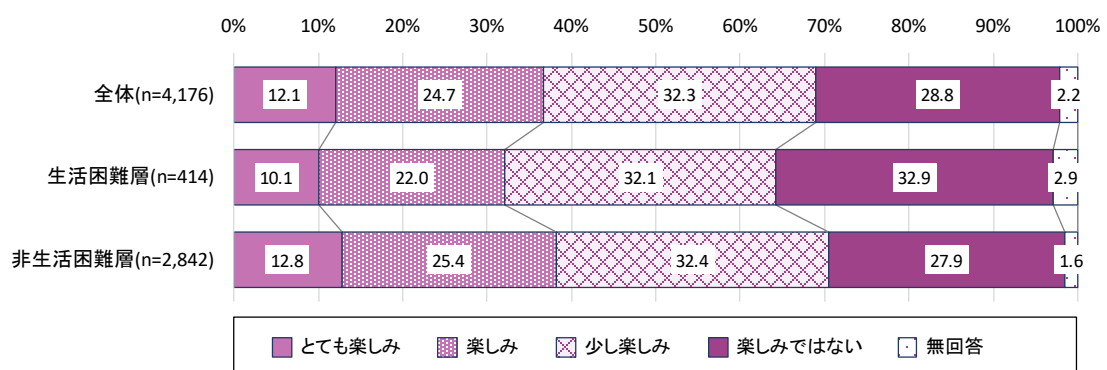


B 国語の授業

学校生活について「国語の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で28.8%であった⁶⁷。

設問 20B あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-4 国語の授業



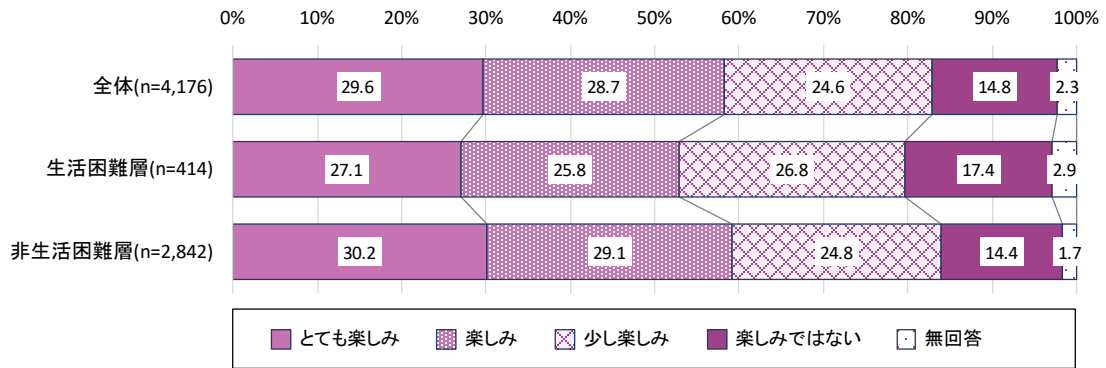
⁶⁷ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

C 理科の授業

学校生活について「理科の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で14.8%であった⁶⁸。

設問 20C あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-5 理科の授業

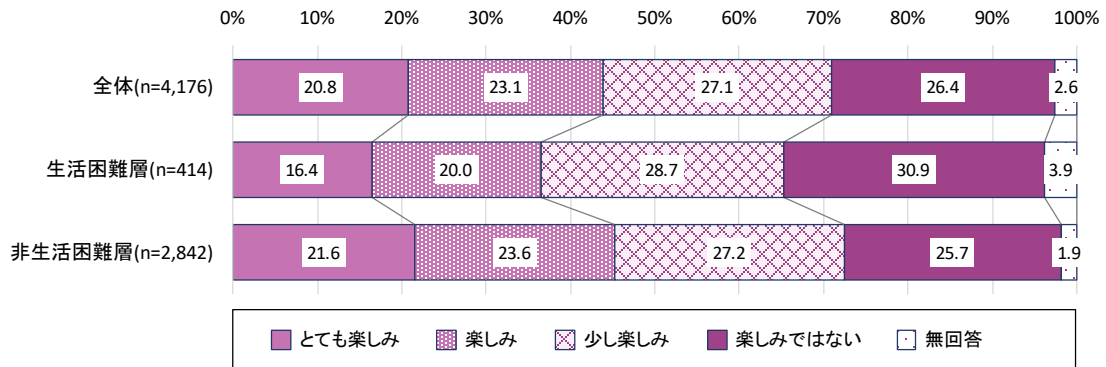


D 社会の授業

学校生活について「社会の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で26.4%であった⁶⁹。

設問 20D あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-6 社会の授業



⁶⁸ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

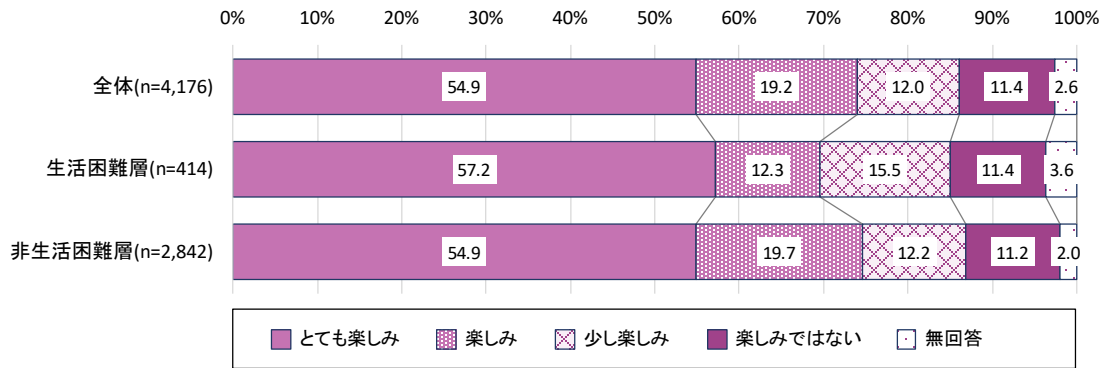
⁶⁹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

E 体育の授業

学校生活について「体育の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体では11.4%、生活困難層では11.4%、非生活困難層では11.2%であった。

設問 20E あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-7 体育の授業

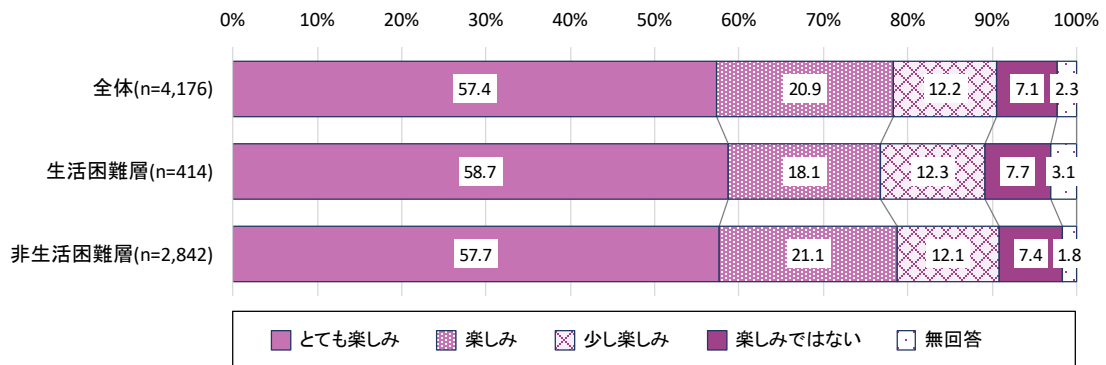


F 図画工作の授業

学校生活について「図画工作の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体では7.1%であった⁷⁰。

設問 20F あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-8 図画工作の授業



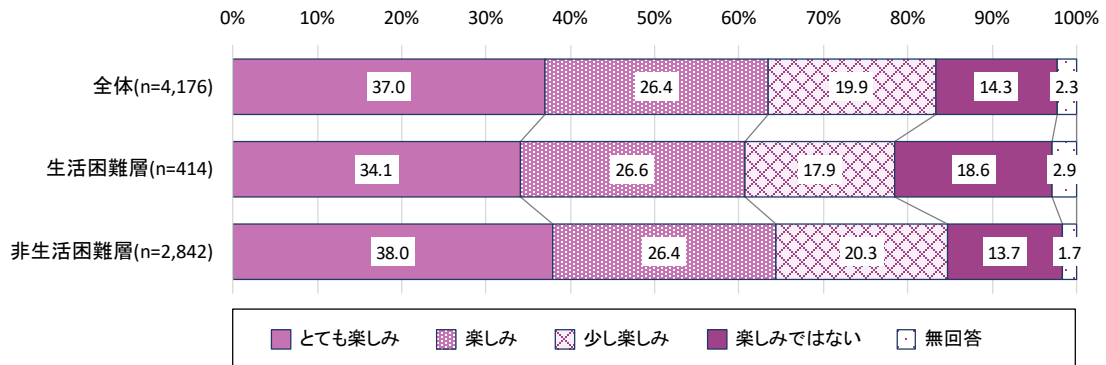
⁷⁰ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

G 音楽の授業

学校生活について「音楽の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で14.3%であった⁷¹。

設問 20G あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、最も近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-9 音楽の授業

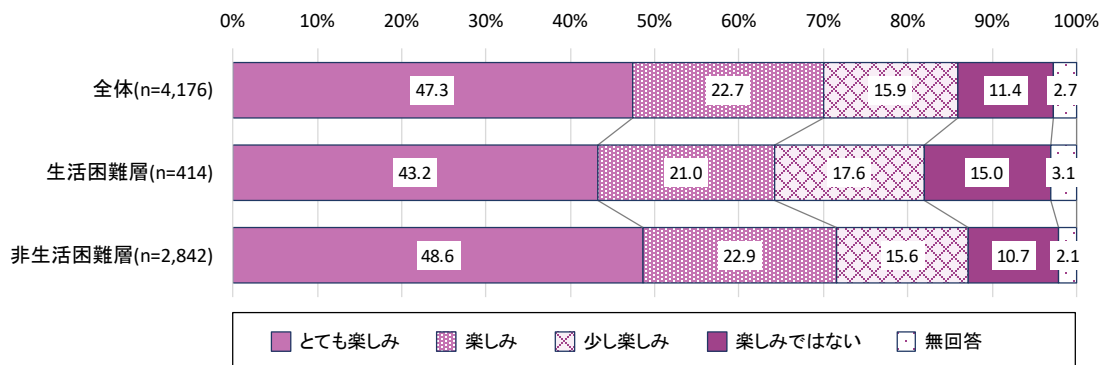


H 家庭の授業

学校生活について「家庭の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で11.4%であった⁷²。

設問 20H あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、最も近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-10 家庭の授業



⁷¹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

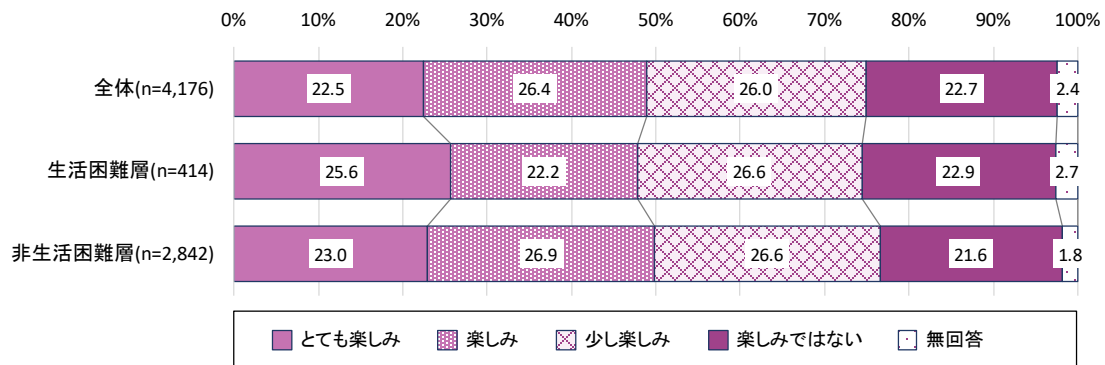
⁷² この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

I 外国語の授業

学校生活について「外国語の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で22.7%であった⁷³。

設問 20 I あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、最も近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-11 外国語の授業

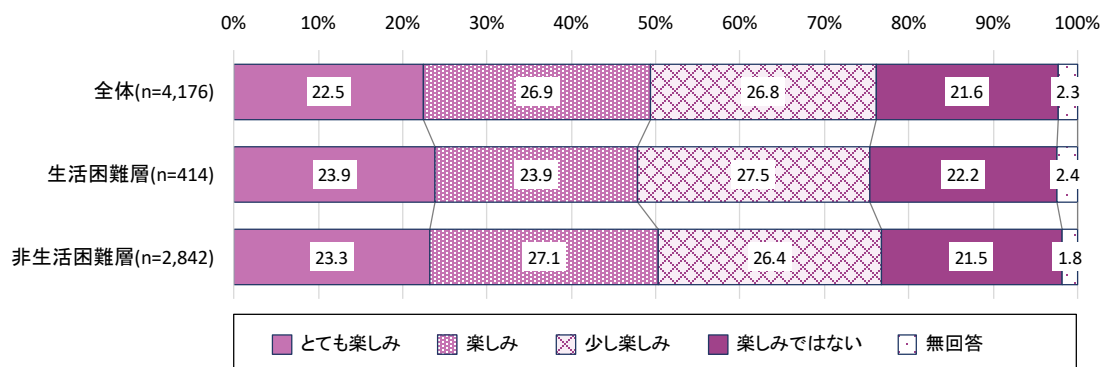


J 道徳の授業

学校生活について「道徳の授業」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で21.6%であった⁷⁴。

設問 20 J あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-5-12 道徳の授業



⁷³ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的有意差は見られなかった。

⁷⁴ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的有意差は見られなかった。

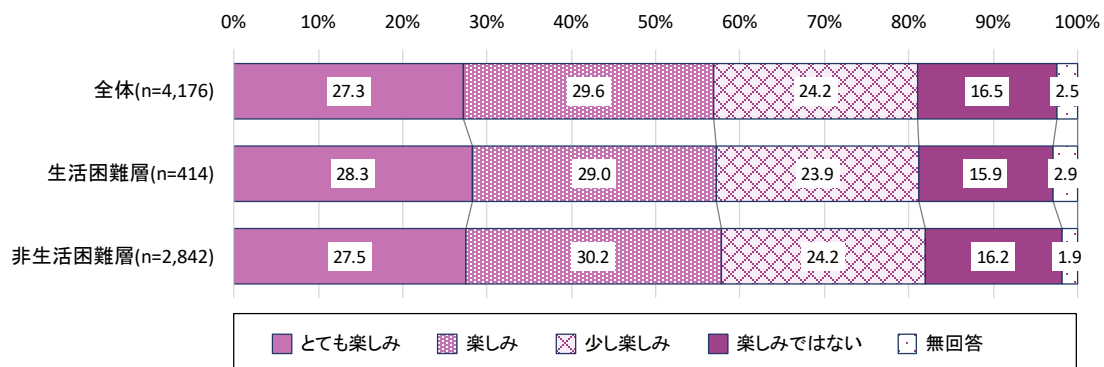
K 先生に会うこと

学校生活について「先生に会うこと」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体では16.5%であった⁷⁵。

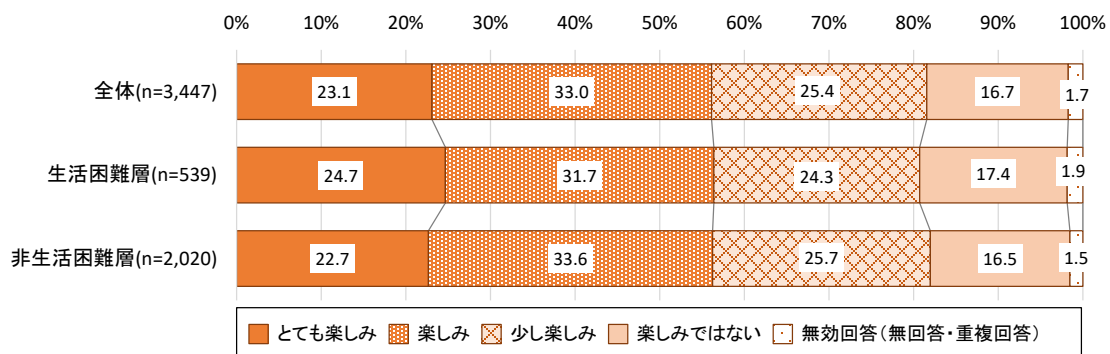
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「とても楽しみ」の回答割合は高く、「楽しみ」「少し楽しみ」の回答割合は低くなっていた。

設問 20K あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、最も近いものに○をつけてください。（SA）

図表 1-3-5-13 先生に会うこと



(参考) 前回調査結果



⁷⁵ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

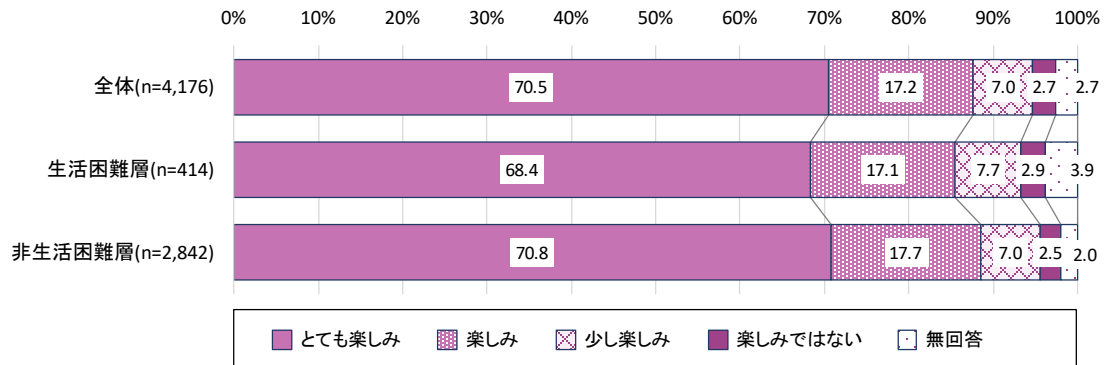
L 学校の友だちに会うこと

学校生活について「学校の友だちに会うこと」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で2.7%であった⁷⁶。

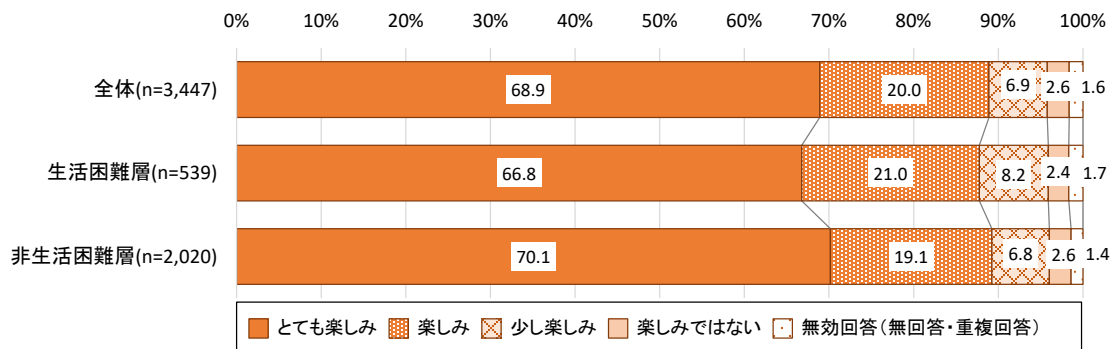
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「とても楽しみ」の回答割合は高く、「楽しみ」の回答割合は低くなっていた。

設問 20L あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、最も近いものに○をつけてください。（SA）

図表 1-3-5-14 学校の友だちに会うこと



(参考) 前回調査結果



⁷⁶ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

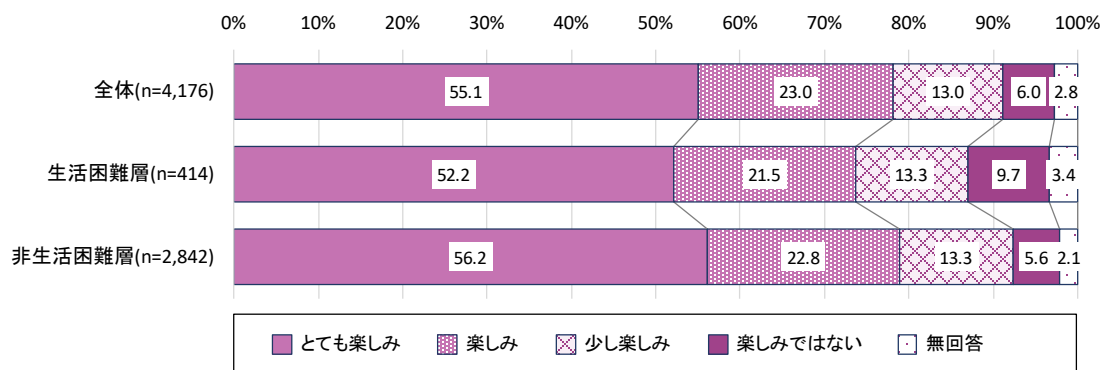
M 学校のクラブ活動

学校生活について「学校のクラブ活動」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体では6.0%、生活困難層では9.7%、非生活困難層では5.6%であった。

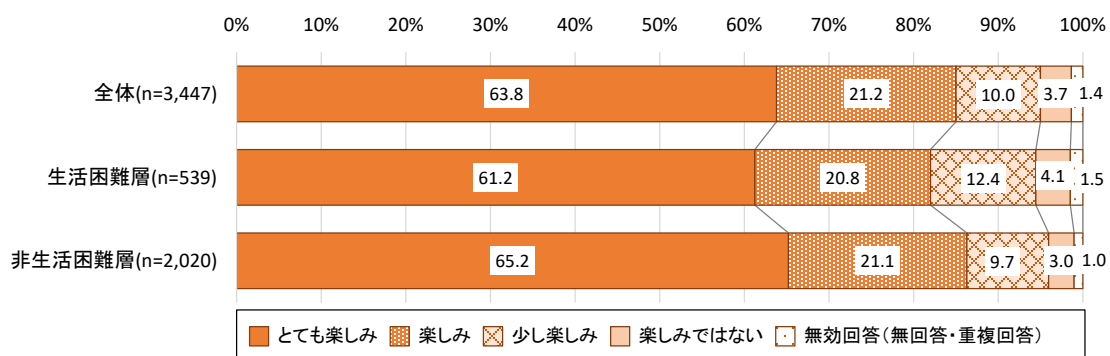
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「とても楽しみ」の回答割合は低くなっていた。

設問 20M あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、最も近いものに○をつけてください。（SA）

図表 1-3-5-15 学校のクラブ活動



(参考) 前回調査結果



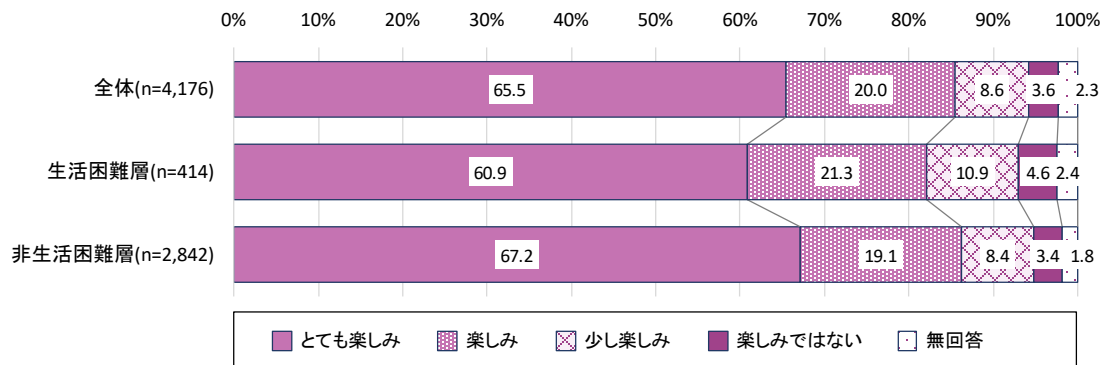
N 学校の休み時間

学校生活について「学校の休み時間」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で3.6%であった⁷⁷。

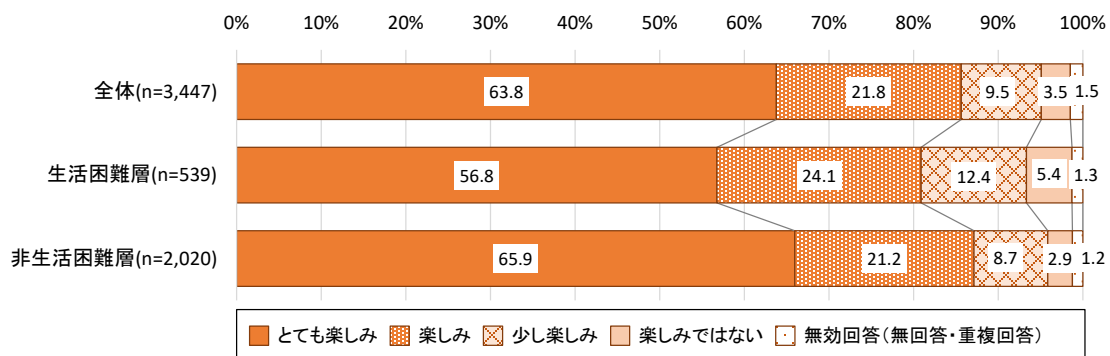
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「とても楽しみ」の回答割合は高く、「楽しみ」「少し楽しみ」の回答割合は低くなっていた。

設問 20N あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、最も近いものに○をつけてください。（SA）

図表 1-3-5-16 学校の休み時間



(参考) 前回調査結果



⁷⁷ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

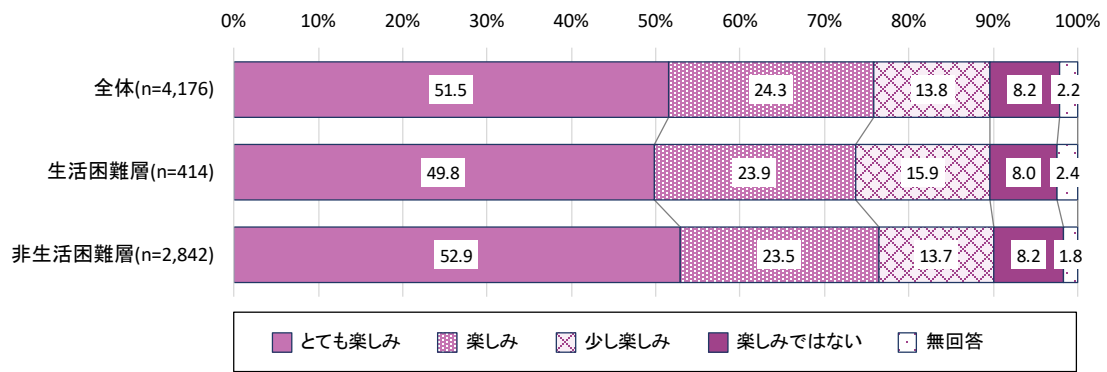
○ 学校の給食の時間

学校生活について「学校の給食の時間」が楽しみかを尋ねた設問に対して、「楽しみではない」と回答した割合は、全体で8.2%であった⁷⁸。

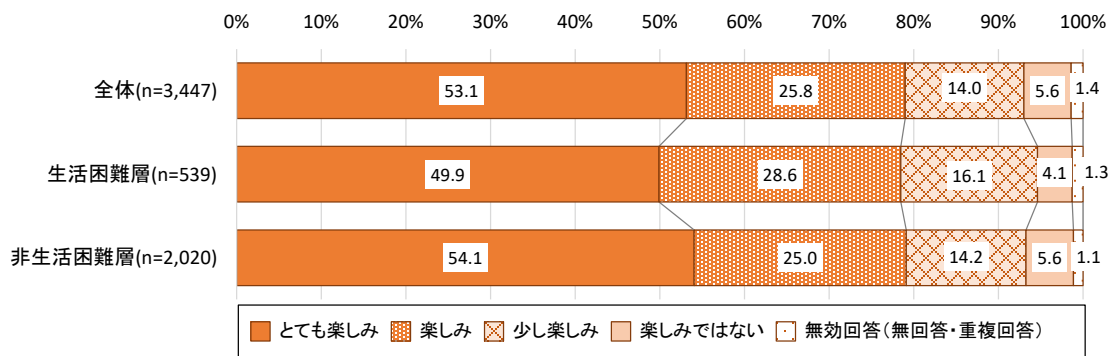
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「楽しみではない」の回答割合が高くなっていた。

設問 20○ あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「とても楽しみ」から「楽しみではない」のうち、最も近いものに○をつけてください。（SA）

図表 1-3-5-17 学校の給食の時間



(参考) 前回調査結果



⁷⁸ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

③勉強を誰に教えてもらうか

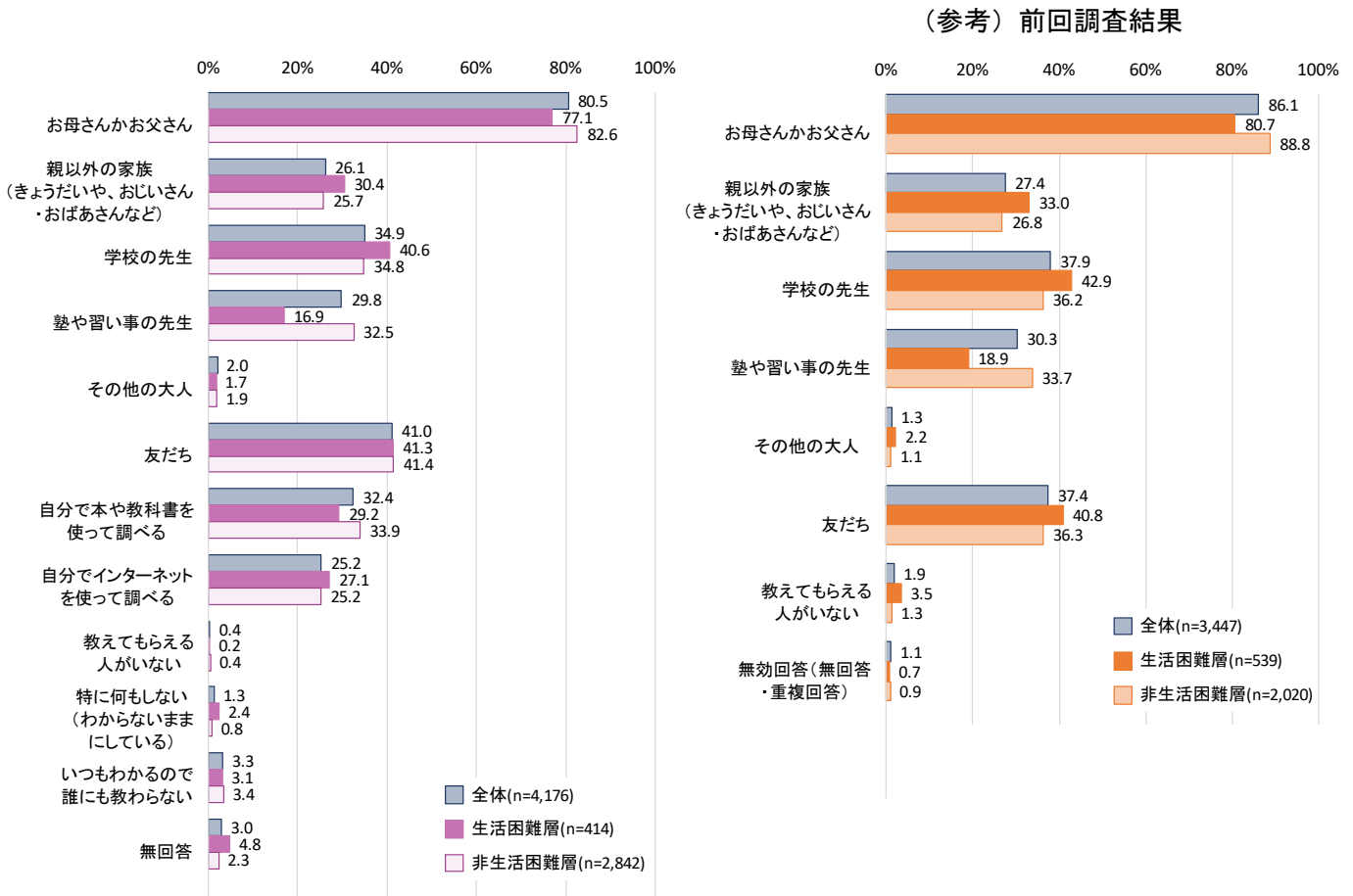
「勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか」と尋ねた設問に対して、全体では、「お母さんかお父さん」と回答した割合は80.5%、「友だち」と回答した割合は41.0%であった。

なお、「教えてもらえる人がいない」と回答した割合は、全体で0.4%、「特に何もしない（わからないままにしている）」と回答した割合は、全体では1.3%、生活困難層では2.4%、非生活困難層では0.8%であった⁷⁹。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「お母さんかお父さん」「学校の先生」「教えてもらえる人がいない」の回答割合は低く、「その他の大人」「友だち」の回答割合は高くなっていた。

設問 21 勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか。（MA）

図表 1-3-5-18 勉強がわからないときに教えてもらう相手



⁷⁹ 「学校の先生」「塾や習い事の先生」「特に何もしない（わからないままにしている）」の回答以外は、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

④得意な教科

得意な教科を尋ねた設問に対して、「算数」の回答は、全体では44.7%、生活困難層では35.3%、非生活困難層では47.0%であった⁸⁰。

「国語」の回答は、全体では28.4%、生活困難層では20.5%、非生活困難層では29.7%であった。

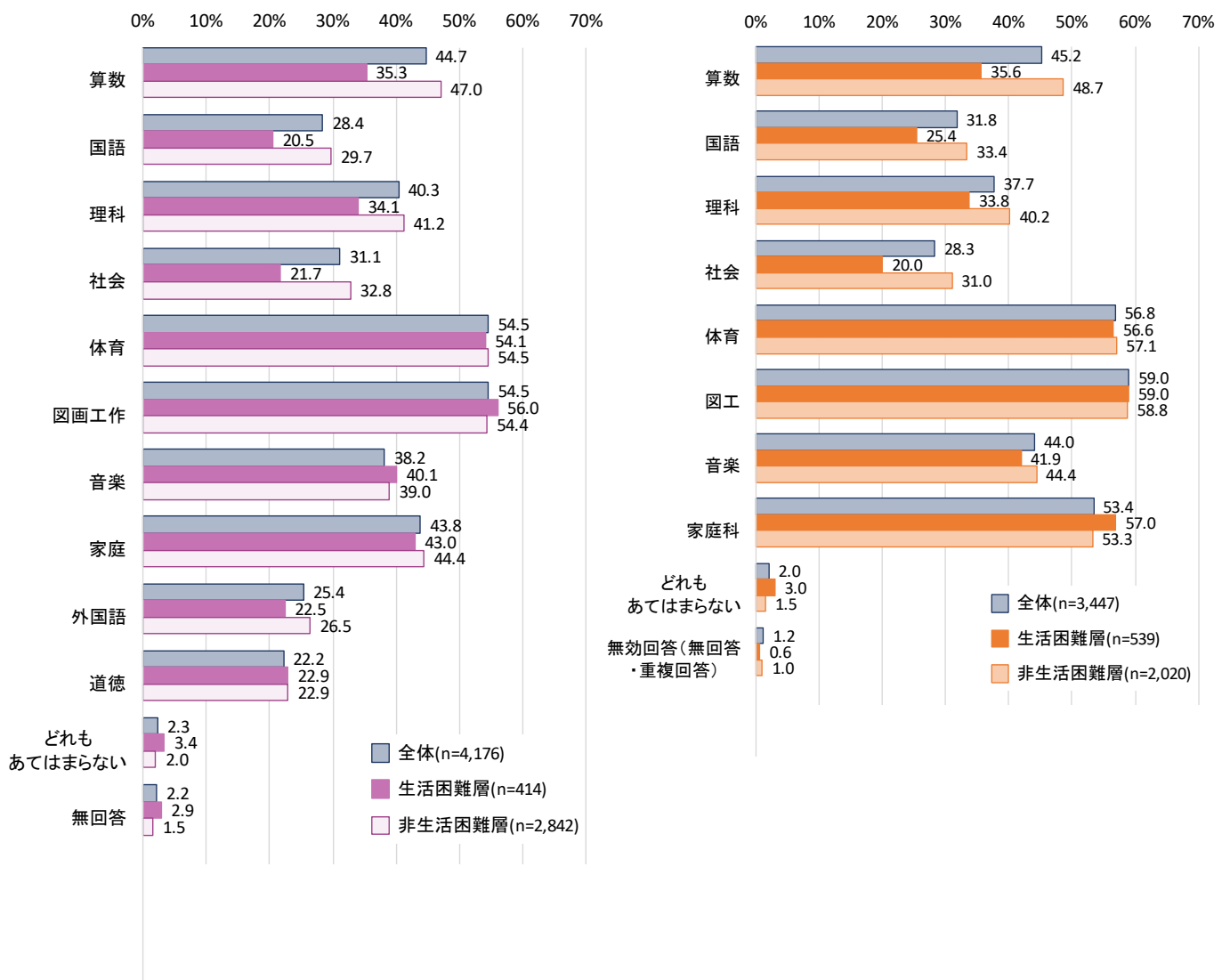
「社会」の回答は、全体では31.1%、生活困難層では21.7%、非生活困難層では32.8%であった。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「国語」「体育」「図画工作」「家庭」「音楽」の回答割合は低く、「理科」「社会」の回答割合は高くなっていった。

設問 22 あなたの得意な教科は、次のうちどれですか。（MA）

図表 1-3-5-19 得意な教科

（参考） 前回調査結果



⁸⁰ 「体育」「図画工作」「音楽」「家庭」「外国語」「道徳」「どれもあてはまらない」については、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

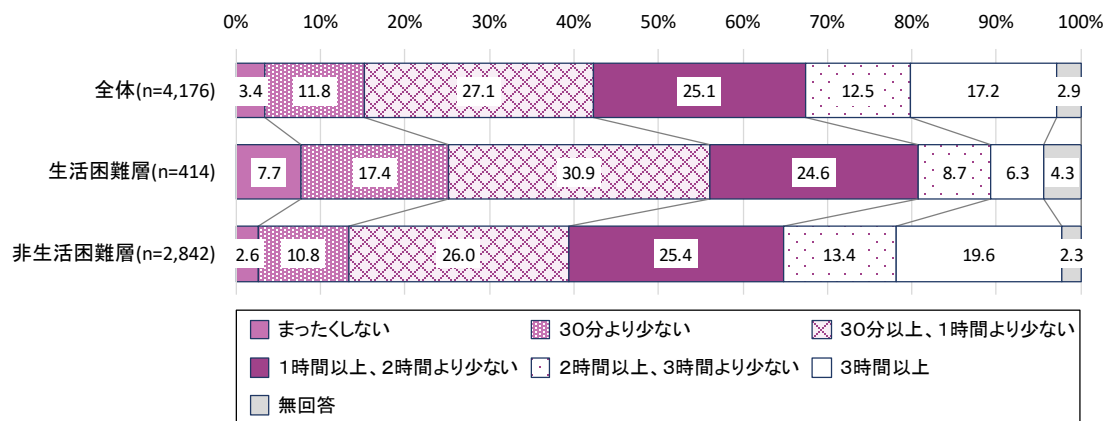
⑤学校外の学習時間⁸¹

「ふだん（月～金曜日）学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか」と尋ねた設問に対して、「まったくしない」と「30分より少ない」を合わせた回答割合は、全体では15.2%、生活困難層では25.1%、非生活困難層では13.4%であった。

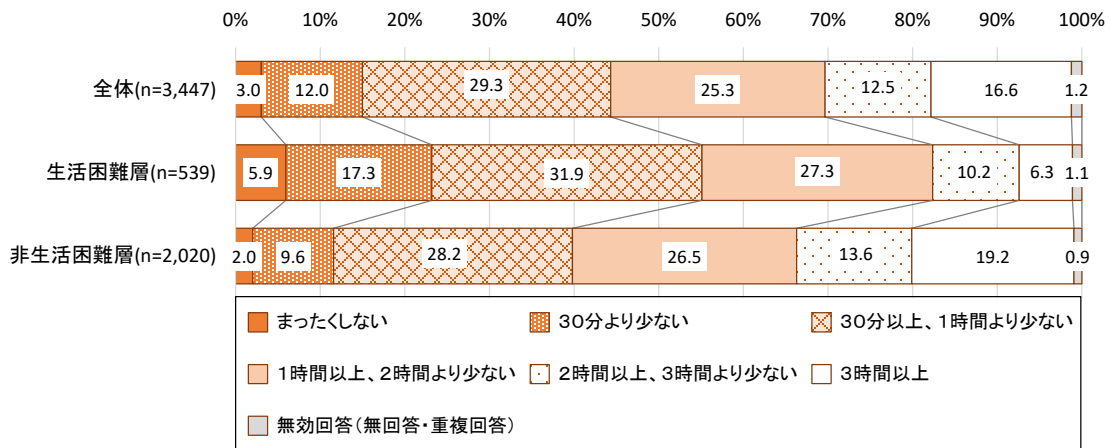
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「30分以上、1時間より少ない」の回答割合が低く、「3時間以上」の回答割合が高くなっていった。

設問 23 あなたは、ふだん（月～金曜日）学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。
1日あたりの勉強時間を教えてください。（SA）

図表 1-3-5-20 ふだんの1日あたりの勉強時間



（参考）前回調査結果



⁸¹ 塾などでの学習時間も含んで回答いただいた。

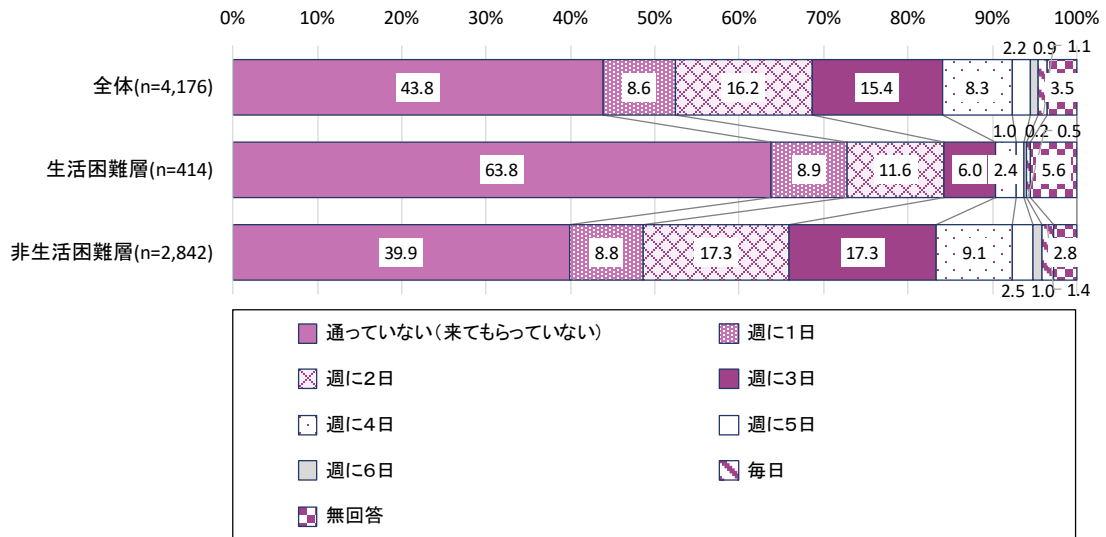
⑥学習塾・家庭教師に関する状況

学習塾や家庭教師に関する状況を尋ねた設問に対して、「通っていない（来てもらっていない）」と回答した割合は、全体では43.8%、生活困難層では63.8%、非生活困難層では39.9%であった。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「週に2日」「週に3日」の回答割合は低く、「週に4日」の回答割合は高くなっていた。

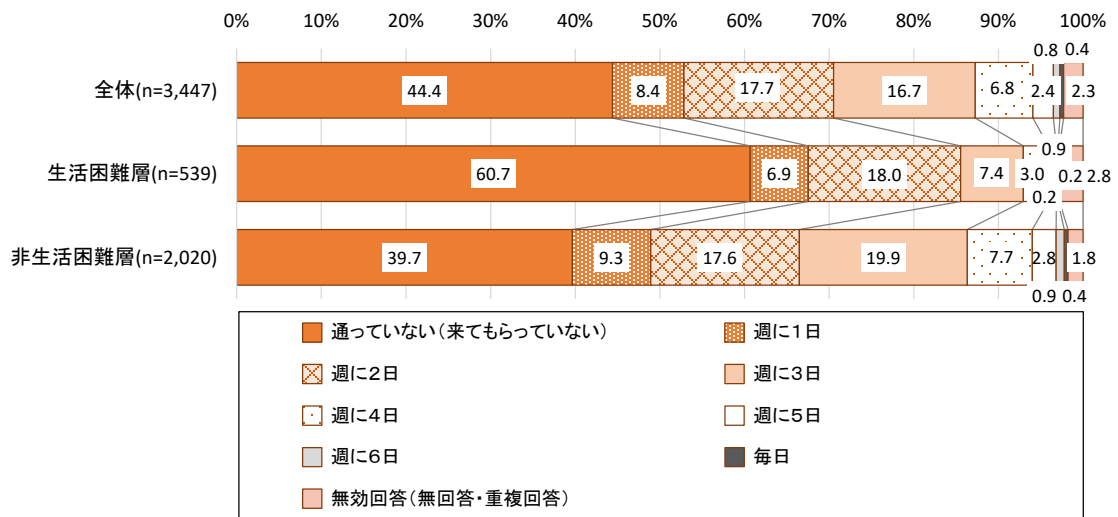
設問 24 あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらっていますか。

通っている（来てもらっている）場合、1週間に何日通っていますか（来てもらっていますか）。（SA）

図表 1-3-5-21 学習塾や家庭教師の頻度



(参考) 前回調査結果

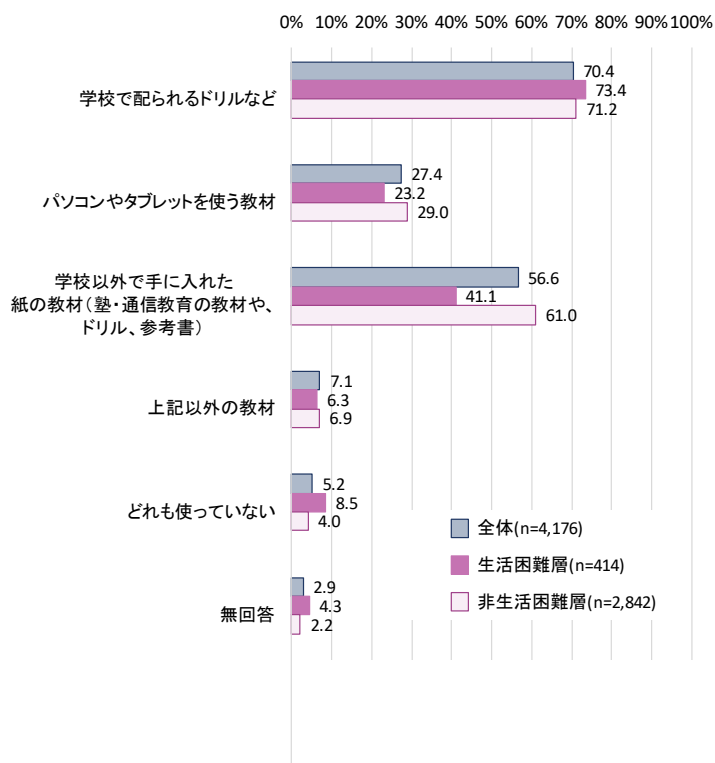


⑦使用教材に関する状況

「あなたは、家庭で以下の教材を使っていますか」と尋ねた設問に対して、「学校以外で手に入れた紙の教材（塾・通信教育の教材や、ドリル、参考書）」の回答は、全体では 56.6%、生活困難層では 41.1%、非生活困難層では 61.0%であった。また、「どれも使っていない」の回答は、全体では 5.2%、生活困難層では 8.5%、非生活困難層では 4.0%であった⁸²。

設問 25 あなたは、家庭で以下の教材を使っていますか。(MA)

図表 1-3-5-22 家庭で使っている教材



⁸² これら以外の回答には、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

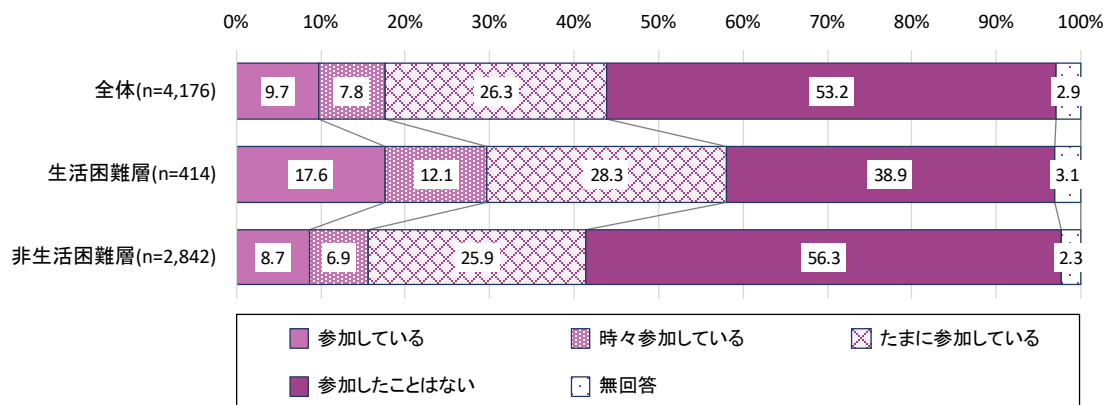
⑧補習の状況

「あなたは、学校での補習に参加していますか」と尋ねた設問に対して、「参加している」と「時々参加している」を合わせた回答割合は、全体では 17.5%、生活困難層では 29.7%、非生活困難層では 15.6%であった。

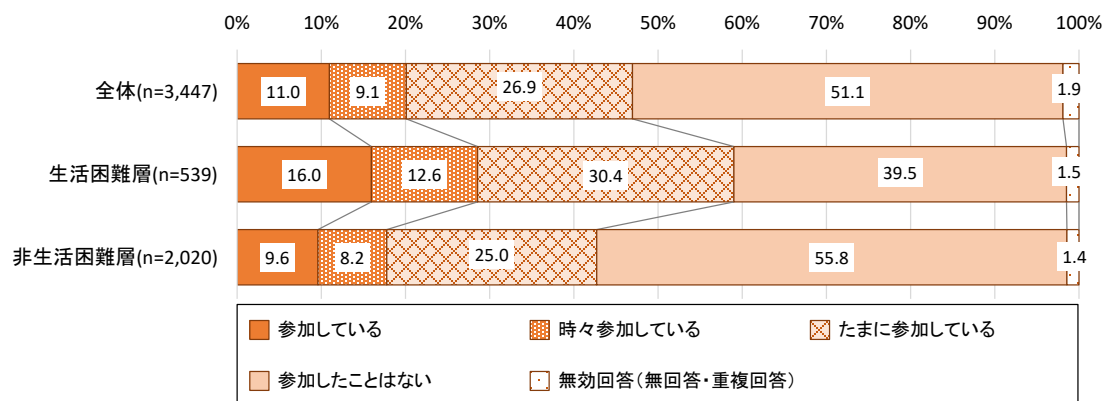
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「参加したことはない」の回答割合が高くなっていった。

設問 26 あなたは、学校での補習に参加していますか。（SA）

図表 1-3-5-23 学校での補習の参加状況



(参考) 前回調査結果



(6) 将来の夢に関すること

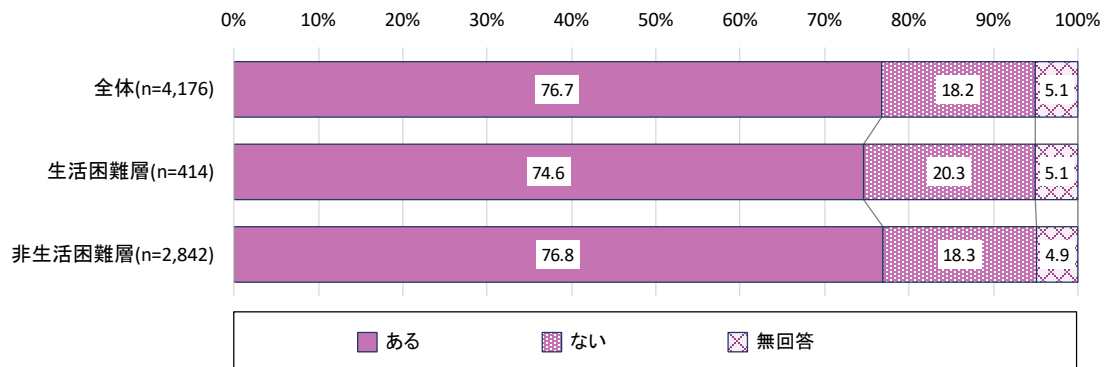
① 将来の夢

「あなたは、将来のゆめがありますか」と尋ねた設問に対して、「ある」と回答した割合は、全体では76.7%であった⁸³。

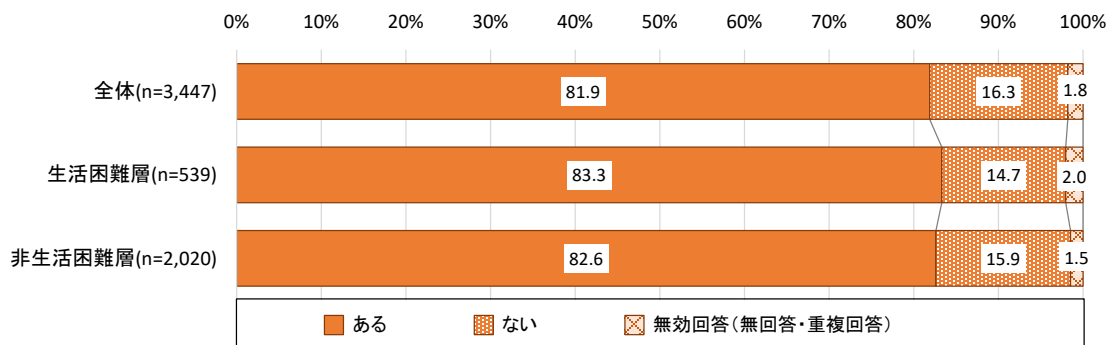
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、将来のゆめが「ある」の回答割合が低くなっていた。

設問 27 あなたは、将来のゆめがありますか。（SA）

図表 1-3-6-1 将来の夢の有無



(参考) 前回調査結果



⁸³ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

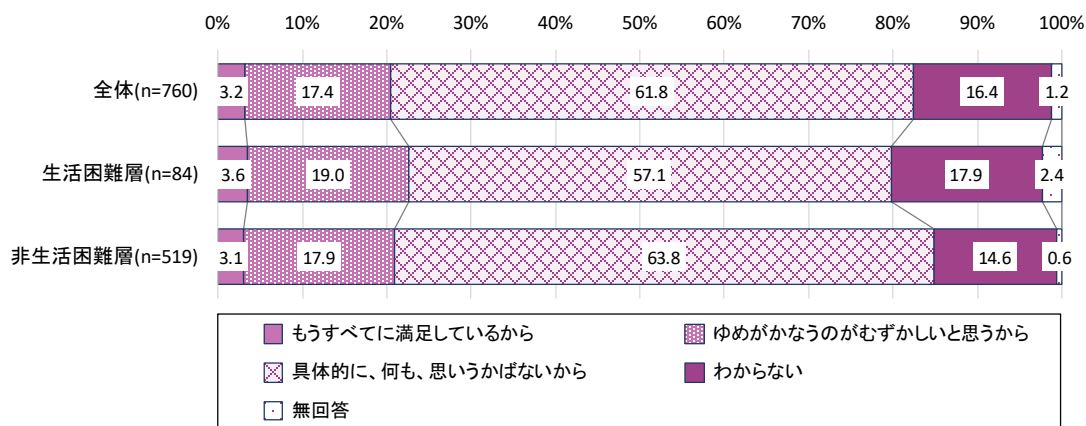
「ゆめがない理由は何ですか」と尋ねた設問に対しては、「具体的に、何も、思いうかばないから」の回答が全体では61.8%であった⁸⁴。

全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「ゆめがかなうのがむずかしいと思うから」の回答割合が高くなっていた。

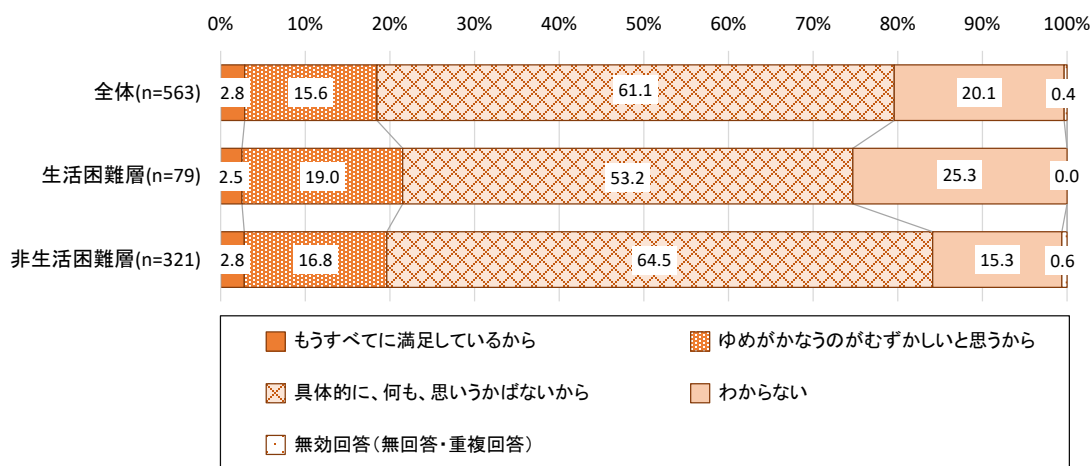
設問 27-1 「あなたは、将来のゆめがありますか」に「ない」と答えた人におききします。

ゆめがない理由は何ですか。（SA）

図表 1-3-6-2 将来のゆめがない理由



（参考） 前回調査結果



⁸⁴ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

(7) 普段考えていること

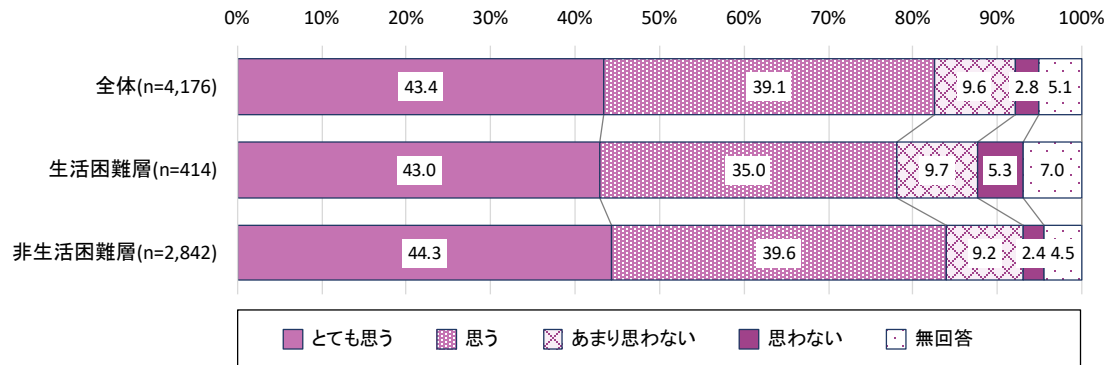
① 自己肯定感

A がんばれば、いつかうまくいく

「がんばれば、いつかうまくいく」と思うかについて尋ねたところ、「あまり思わない」「思わない」と回答した割合は、全体では12.4%、生活困難層では15.0%、非生活困難層では11.6%であった。

設問 28A あなたの思いや気持ちについて、「とても思う」から「思わない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-7-1 がんばれば、いつかうまくいく



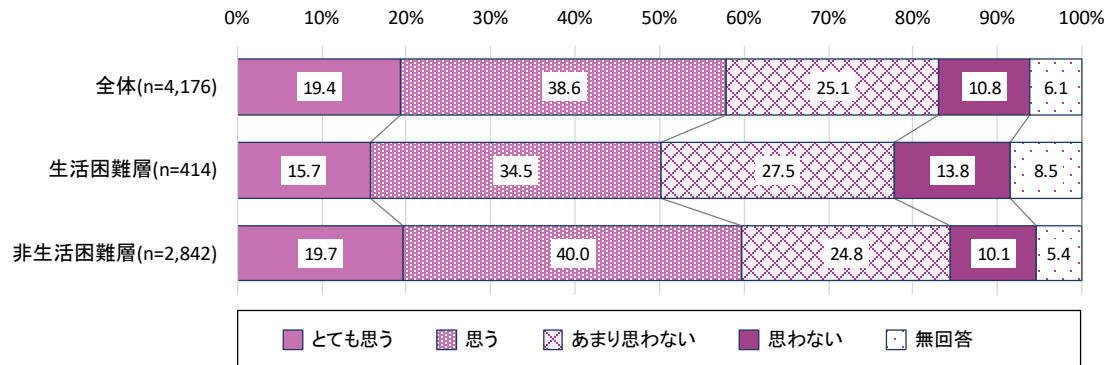
B 自分は価値のある人間だと思う

「自分は価値のある人間だと思う」と思うかについて尋ねたところ、「あまり思わない」「思わない」と回答した割合は、全体では35.9%、生活困難層では41.3%、非生活困難層では34.9%であった。

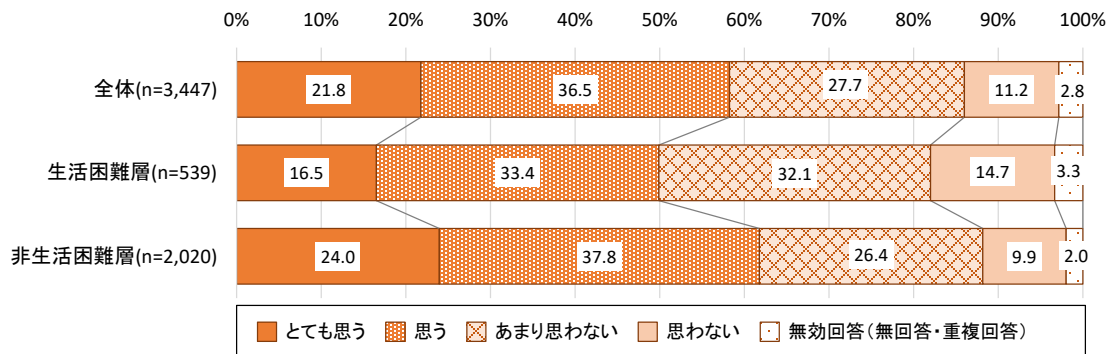
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あまり思わない」「思わない」の回答割合が低くなっていた。

設問 28日 あなたの思いや気持ちについて、「とても思う」から「思わない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-7-2 自分は価値のある人間だと思う



(参考) 前回調査結果



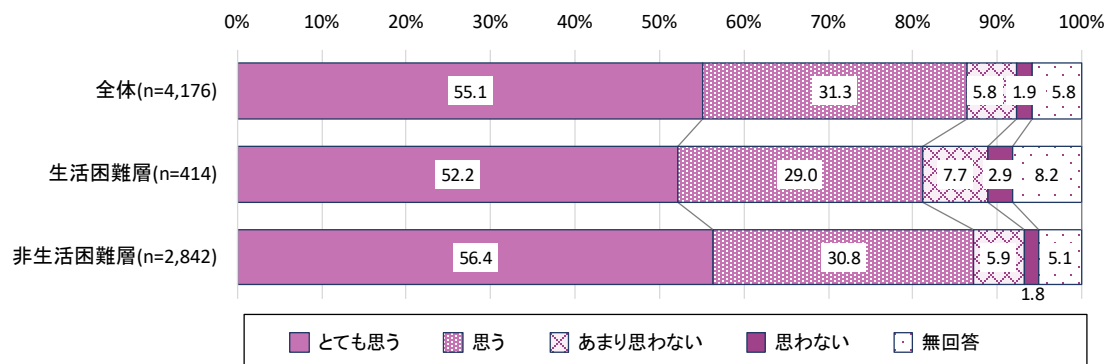
C 自分は家族に大事にされていると思う

「自分は家族に大事にされていると思う」について尋ねたところ、「あまり思わない」「思わない」と回答した割合は、全体で7.7%であった⁸⁵。

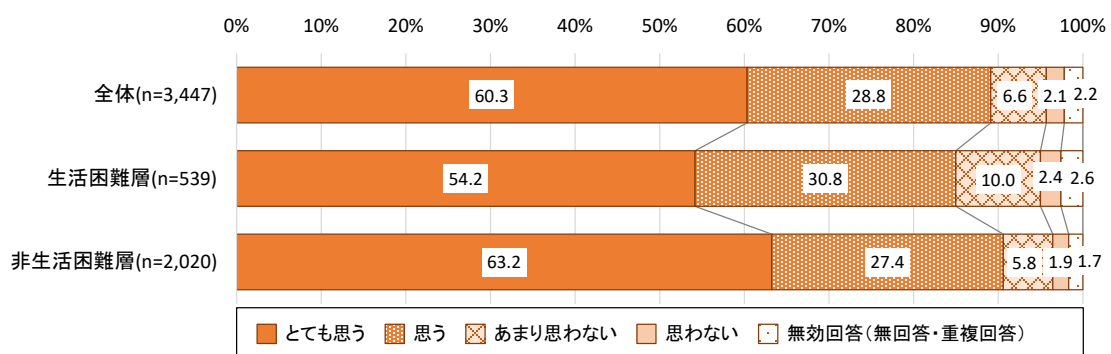
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「あまり思わない」「思わない」の回答割合が低くなっていた。

設問 28C あなたの思いや気持ちについて、「とても思う」から「思わない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-7-3 自分は家族に大事にされていると思う



(参考) 前回調査結果



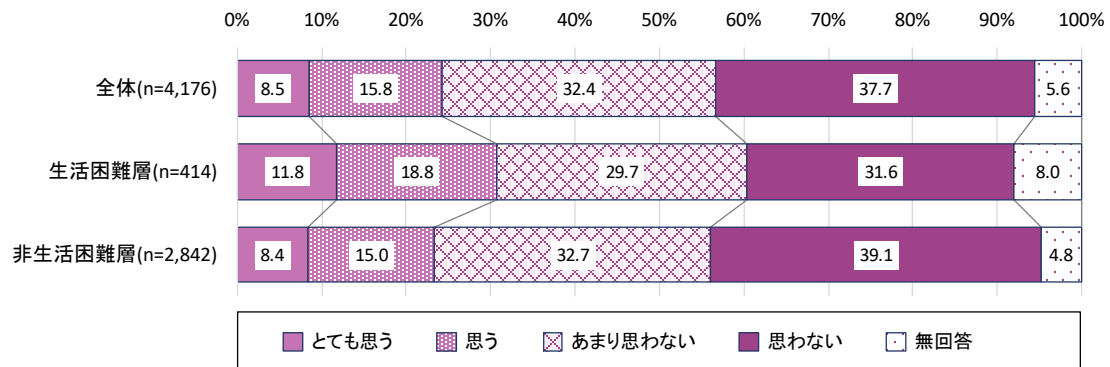
⁸⁵ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

D 心配ごとが多く、いつも不安だ

「心配ごとが多く、いつも不安だ」と思うかについて尋ねたところ、「あまり思わない」「思わない」と回答した割合は、全体で 70.1%であった⁸⁶。

設問 28D あなたの思いや気持ちについて、「とても思う」から「思わない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-7-4 心配ごとが多く、いつも不安だ

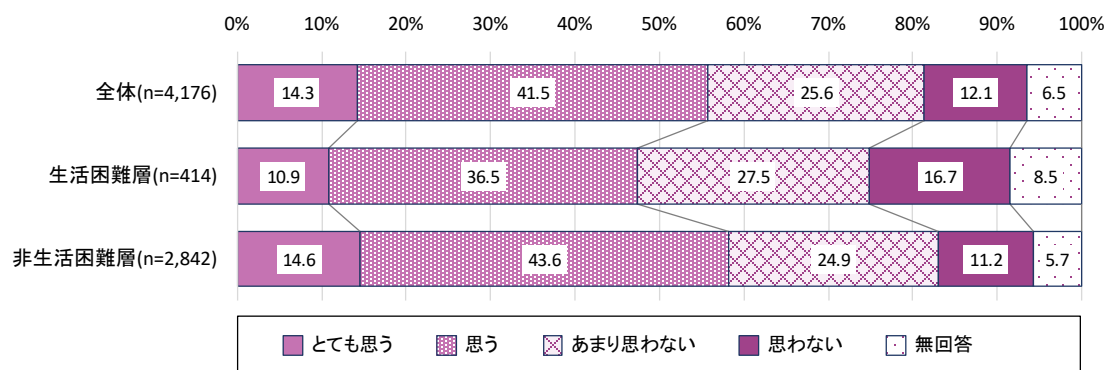


E 自分は同じくらいの年齢の子どもから好かれていると思う

「自分は同じくらいの年齢の子どもから好かれていると思う」かについて尋ねたところ、「あまり思わない」「思わない」と回答した割合は、全体では 37.7%、生活困難層では 44.2%、非生活困難層では 36.1%であった。

設問 28E あなたの思いや気持ちについて、「とても思う」から「思わない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。(SA)

図表 1-3-7-5 自分は同じくらいの年齢の子どもから好かれていると思う



⁸⁶ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

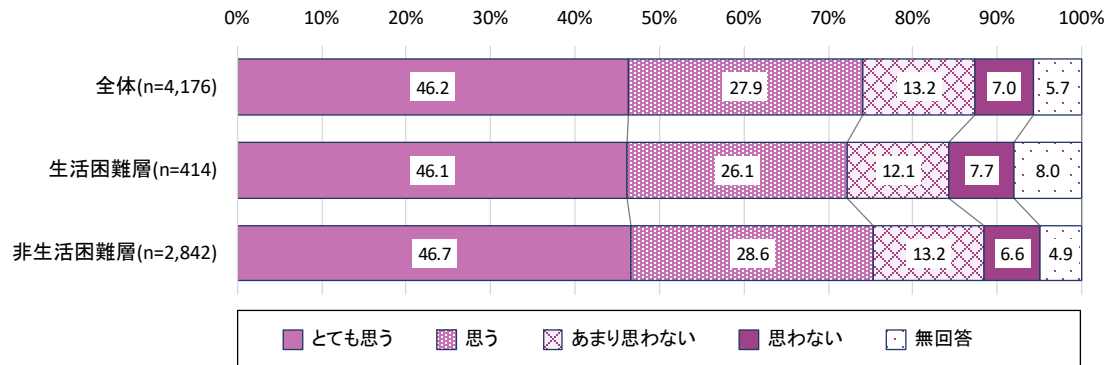
F 自分の将来が楽しみだ

「自分の将来が楽しみだ」と思うかについて尋ねたところ、「あまり思わない」「思わない」と回答した割合は、全体で 20.2%であった⁸⁷。

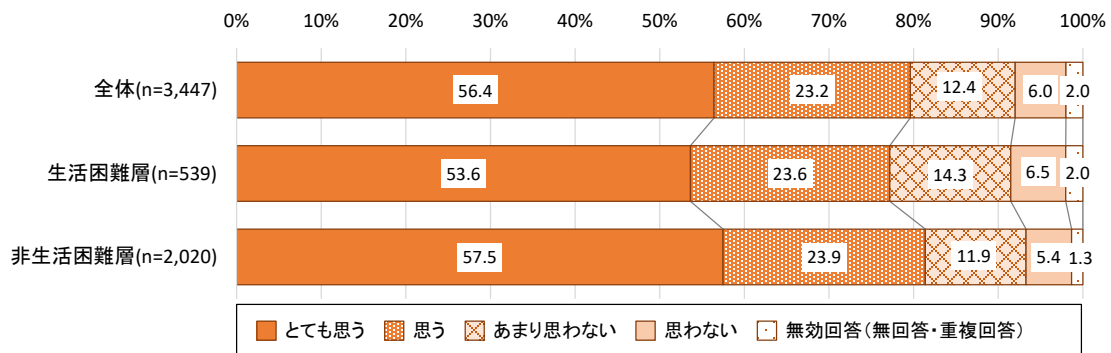
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「とても思う」の回答割合は低く、「あまり思わない」「思わない」の回答割合は高くなっていた。

設問 28F あなたの思いや気持ちについて、「とても思う」から「思わない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。（SA）

図表 1-3-7-6 自分の将来が楽しみだ



(参考) 前回調査結果



⁸⁷ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

②不登校傾向

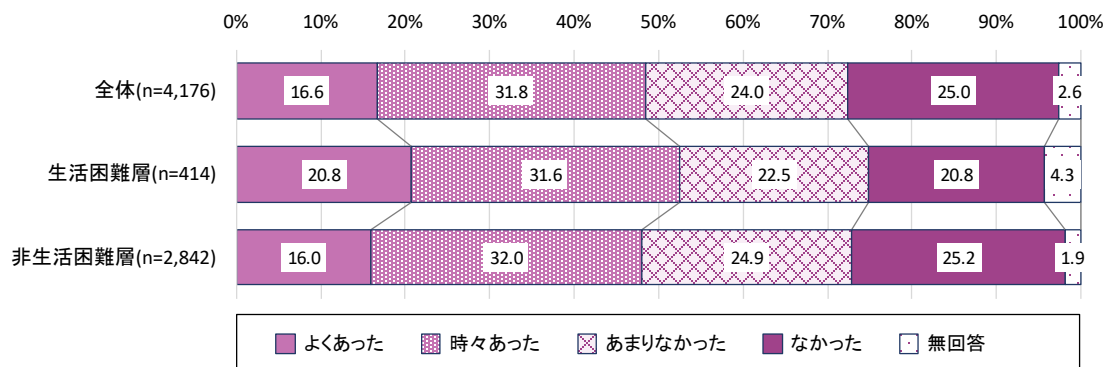
A 学校に行きたくないと思った

これまでに「学校に行きたくないと思った」ことがあるかを尋ねた設問に対して、「よくあった」「時々あった」と回答した割合は、全体で48.4%であった⁸⁸。

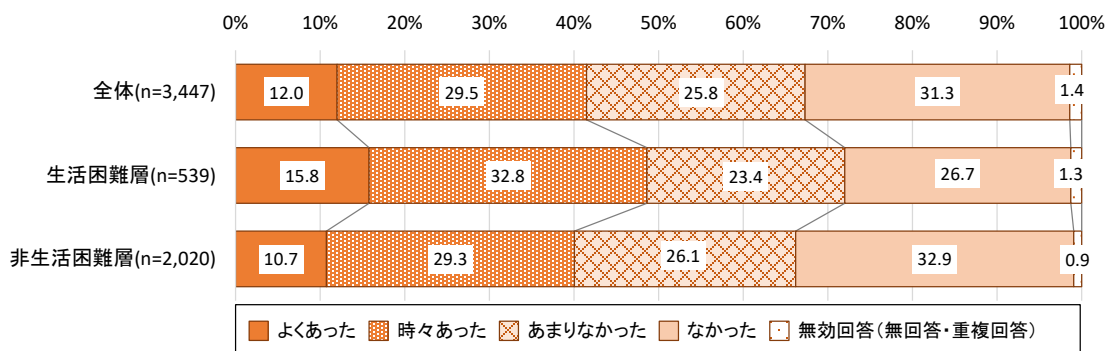
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「よくあった」「時々あった」の回答割合が高くなっていった。

設問 29A あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。（SA）

図表 1-3-7-7 学校に行きたくないと思った



(参考) 前回調査結果



⁸⁸ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

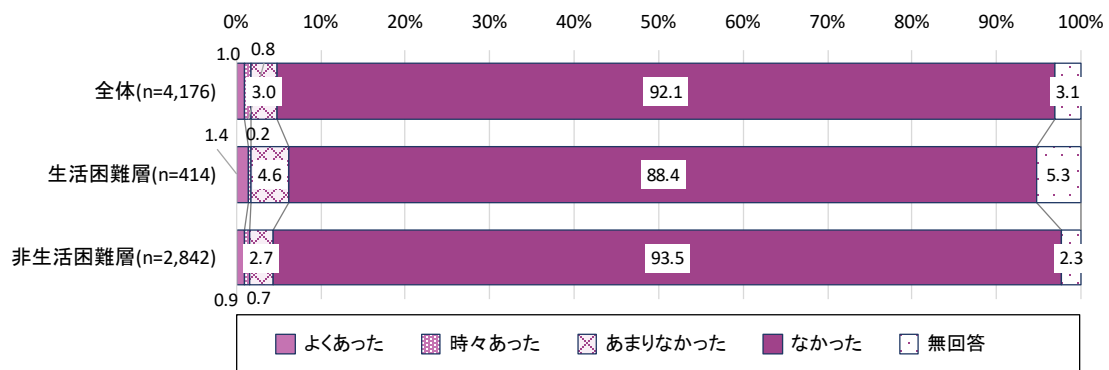
B 1か月以上学校を休んだ（病気の時をのぞく）

これまでに「1ヶ月以上学校を休んだ（病気の時をのぞく）」ことがあるかを尋ねた設問に対して、「よくあった」「時々あった」と回答した割合は、全体で1.8%であった⁸⁹。「なかった」と回答した割合は、全体で92.1%であった。

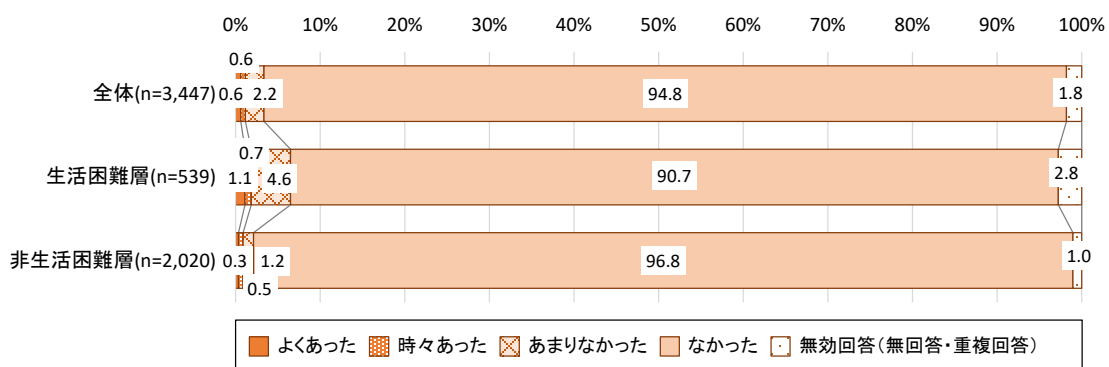
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「なかった」の回答割合が低くなっていた。

設問 29B あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。（SA）

図表 1-3-7-8 1か月以上学校を休んだ（病気の時をのぞく）



(参考) 前回調査結果



⁸⁹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

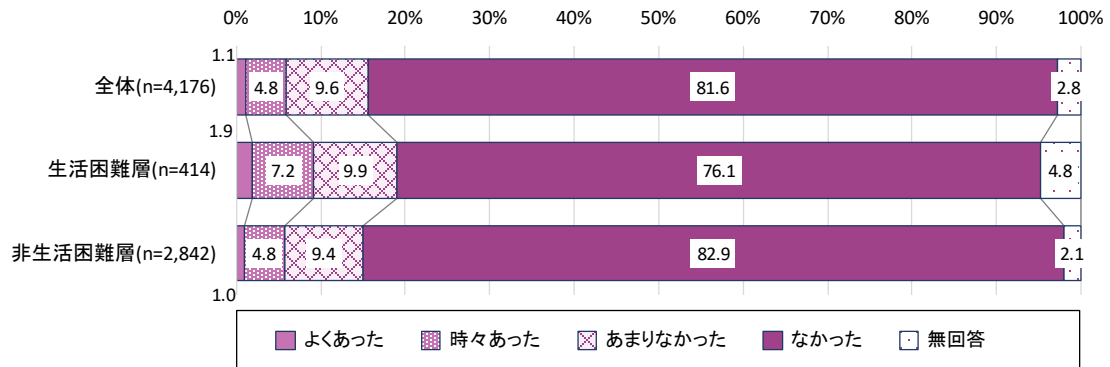
C 夜遅くまで子どもだけで過ごした

これまでに「夜遅くまで子どもだけで過ごした」ことがあるかを尋ねた設問に対して、「よくあった」「時々あった」と回答した割合は、全体で5.9%であった⁹⁰。「なかった」と回答した割合は、全体で81.6%であった。

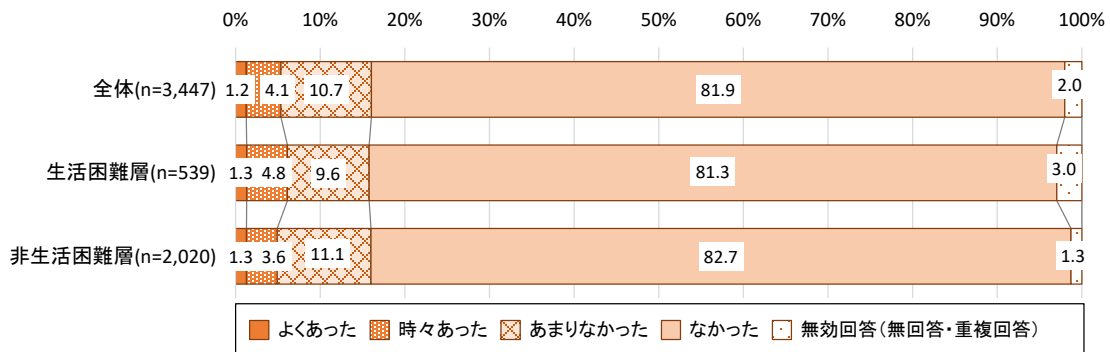
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「時々あった」の回答割合は高く、「あまりなかった」の回答割合は低くなっていた。

設問 29C あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。（SA）

図表 1-3-7-9 夜遅くまで子どもだけで過ごした



(参考) 前回調査結果



⁹⁰ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

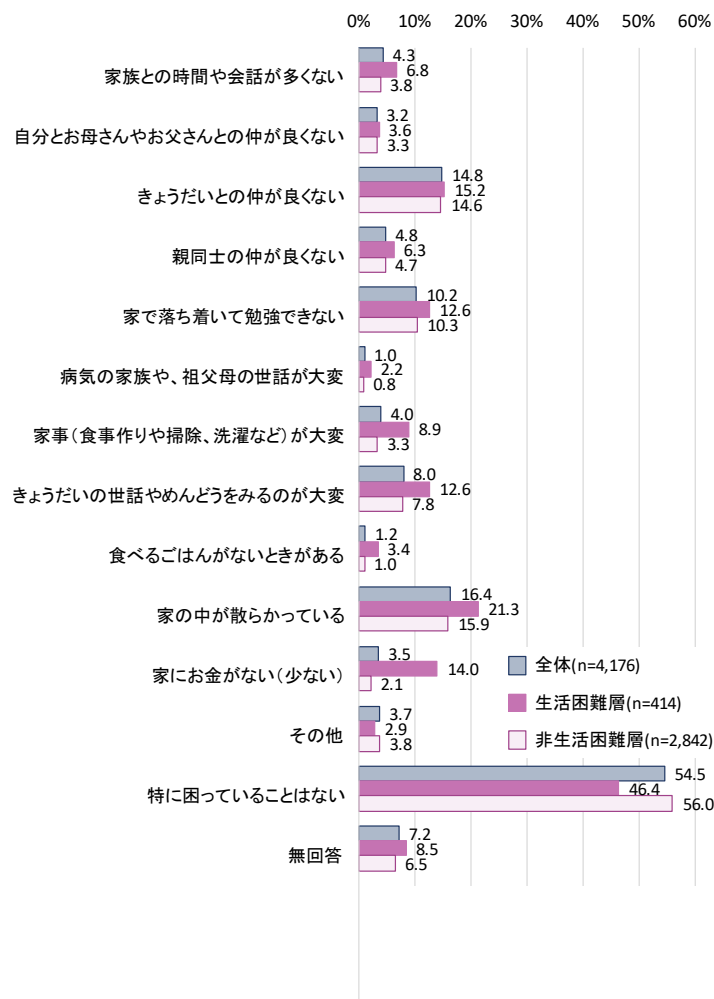
③自分や家族の困りごと

「自分や家族のことなどで、心配なことや困っていることはありますか」という設問に対して、「家の中が散らかっている」の回答は、全体では16.4%、生活困難層では21.3%、非生活困難層では15.9%であった。また、「きょうだいとの仲が良くない」の回答は、全体で14.8%であった。

そのほか、「家事（食事作りや掃除、洗濯など）が大変」の回答は、全体では4.0%、生活困難層では8.9%、非生活困難層では3.3%、「きょうだいの世話やめんどろをみるのが大変」の回答は、全体では8.0%、生活困難層では12.6%、非生活困難層では7.8%であった⁹¹。

設問 30(新設) あなたは、自分や家族のことなどで、心配なことや困っていることはありますか。(MA)

図表 1-3-7-10 自分や家族の困りごと



⁹¹ 「自分とお母さんやお父さんとの仲が良くない」「きょうだいとの仲が良くない」「親同士の仲が良くない」「家で落ち着いて勉強できない」「その他」の回答は、生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

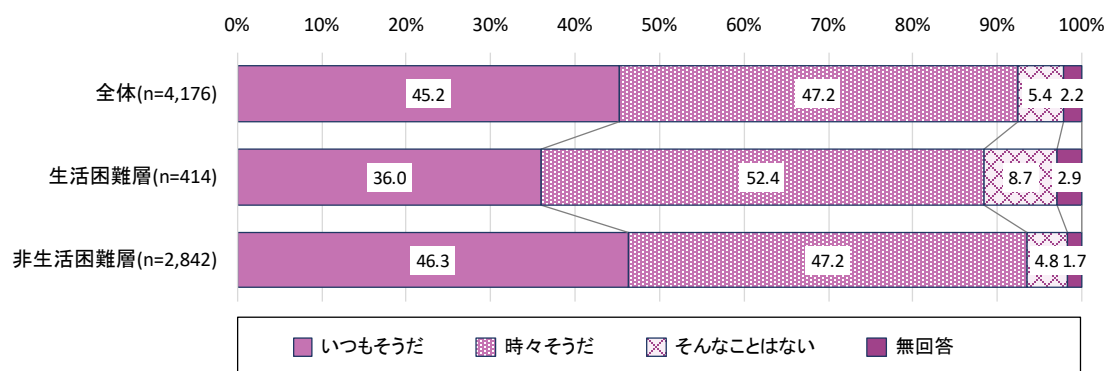
④最近の自分の気持ち

A 楽しみにしていることがたくさんある

最近1週間の気持ちについて「楽しみにしていることがたくさんある」かどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体では92.4%、生活困難層では88.4%、非生活困難層では93.5%であった。

設問 31A (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。(SA)

図表 1-3-7-11 楽しみにしていることがたくさんある

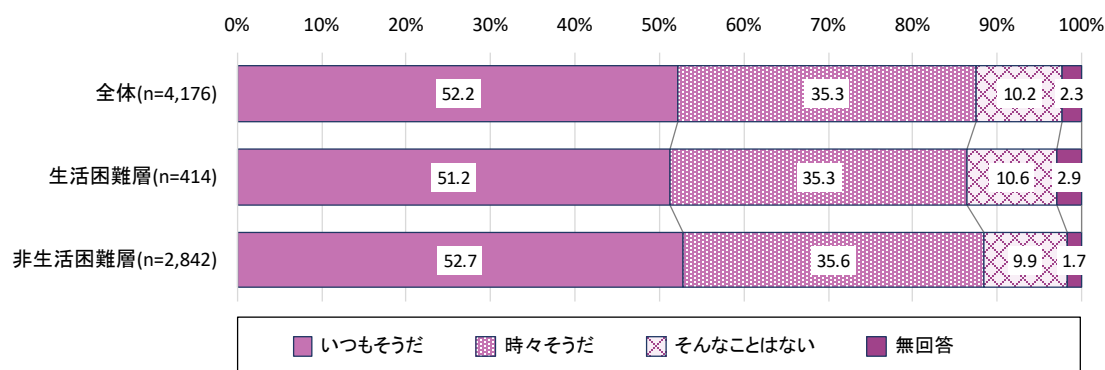


B とても良く眠れる

最近1週間の気持ちについて「とても良く眠れる」かどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で87.5%であった⁹²。

設問 31B (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。(SA)

図表 1-3-7-12 とても良く眠れる



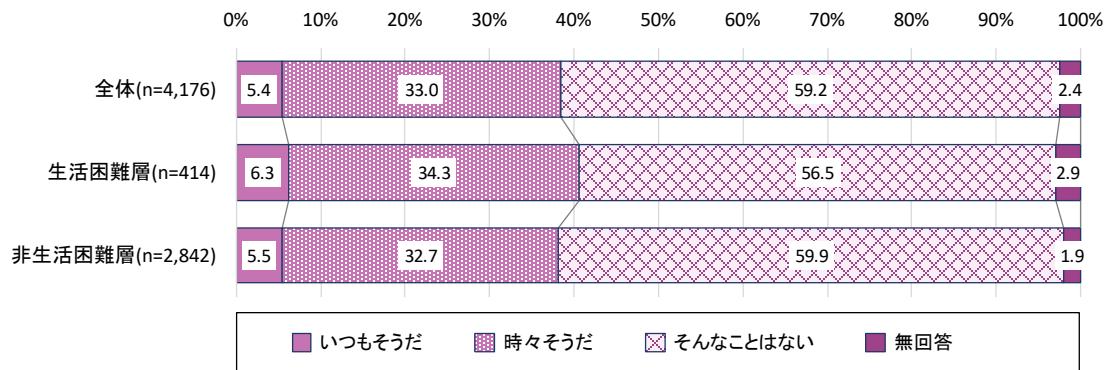
⁹² この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

C 泣きたいような気がする

最近1週間の気持ちについて「泣きたいような気がする」かどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で38.4%であった⁹³。

設問 31C (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-13 泣きたいような気がする

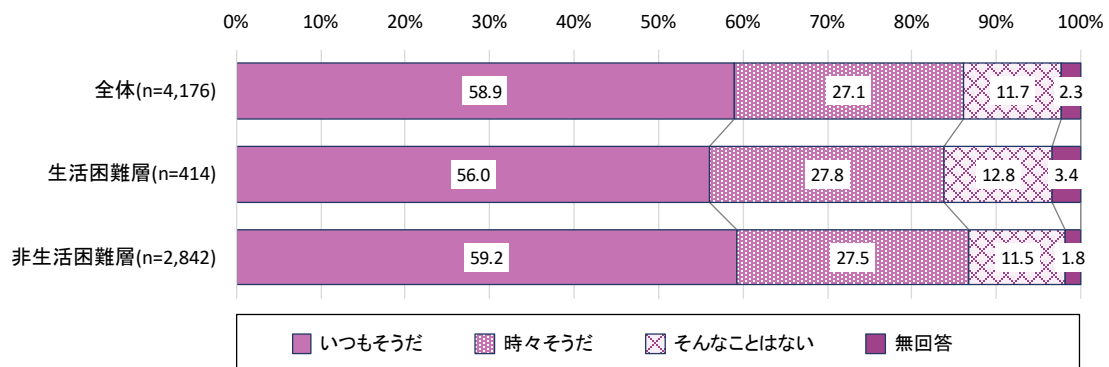


D 遊びに出かけるのが好きだ

最近1週間の気持ちについて「遊びに出かけるのが好きだ」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体では86.0%であった⁹⁴。

設問 31D (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-14 遊びに出かけるのが好きだ



⁹³ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

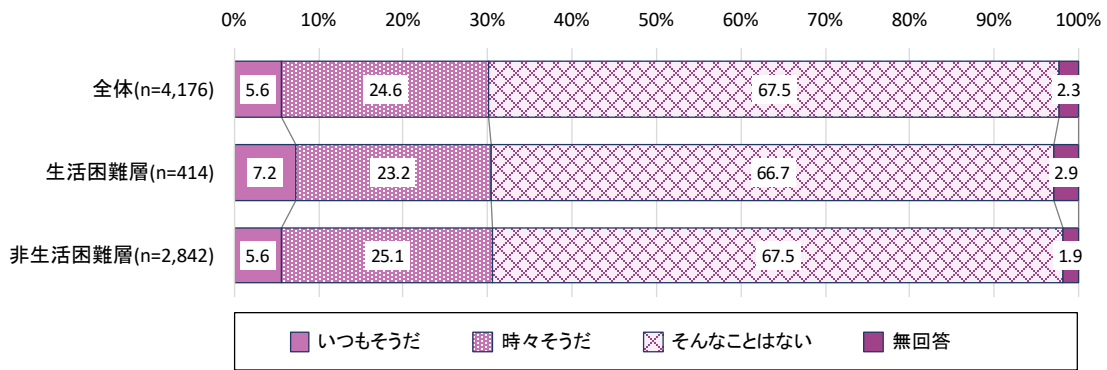
⁹⁴ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

E 逃げ出したいような気がする

最近1週間の気持ちについて「逃げ出したいような気がする」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で30.2%であった⁹⁵。

設問 31 E (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-15 逃げ出したいような気がする

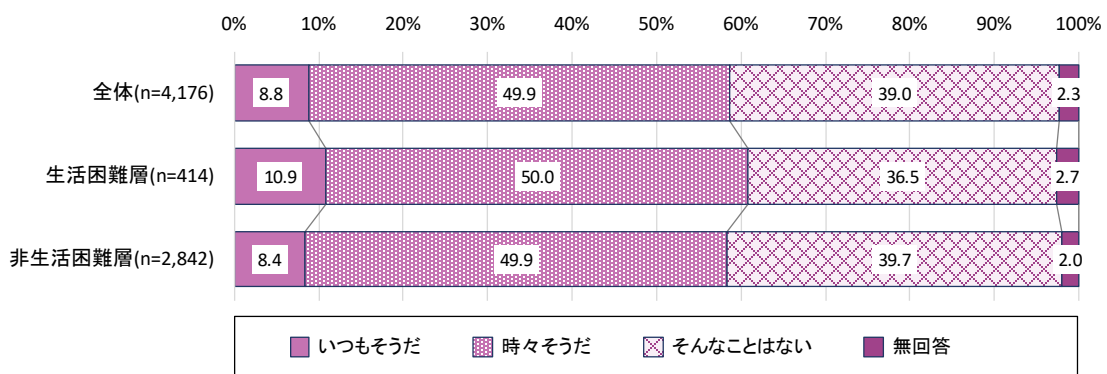


F おなかが痛くなることがある

最近1週間の気持ちについて「おなかが痛くなることがある」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で58.7%であった⁹⁶。

設問 31 F (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-16 おなかが痛くなることがある



⁹⁵ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

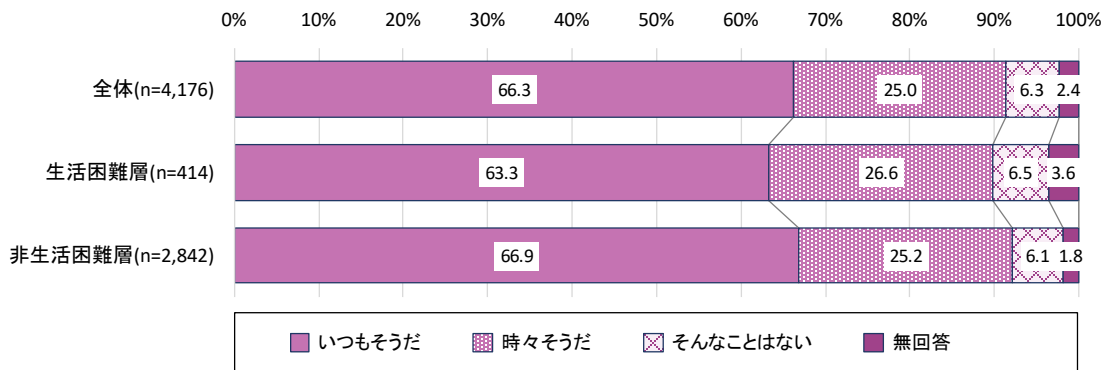
⁹⁶ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

G 元気いっぱいだ

最近1週間の気持ちについて「元気いっぱいだ」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で91.3%であった⁹⁷。

設問 31G (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-17 元気いっぱいだ

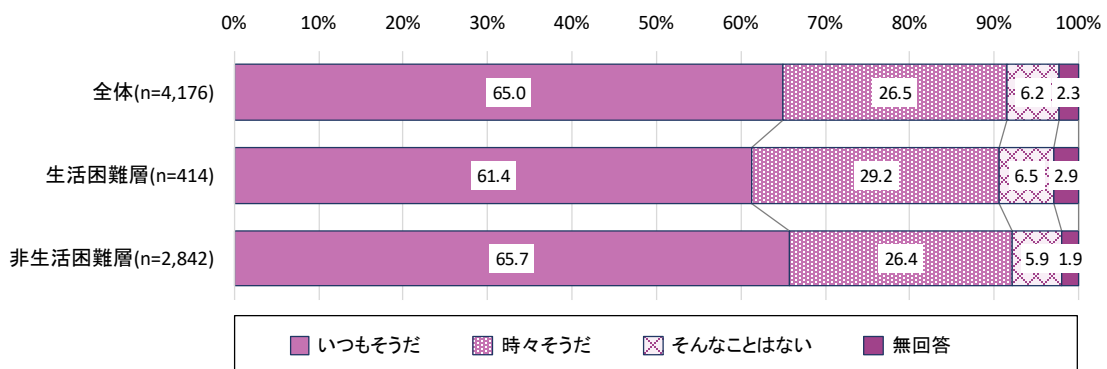


H 食事が楽しい

最近1週間の気持ちについて「食事が楽しい」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で91.5%であった⁹⁸。

設問 31H (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-18 食事が楽しい



⁹⁷ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

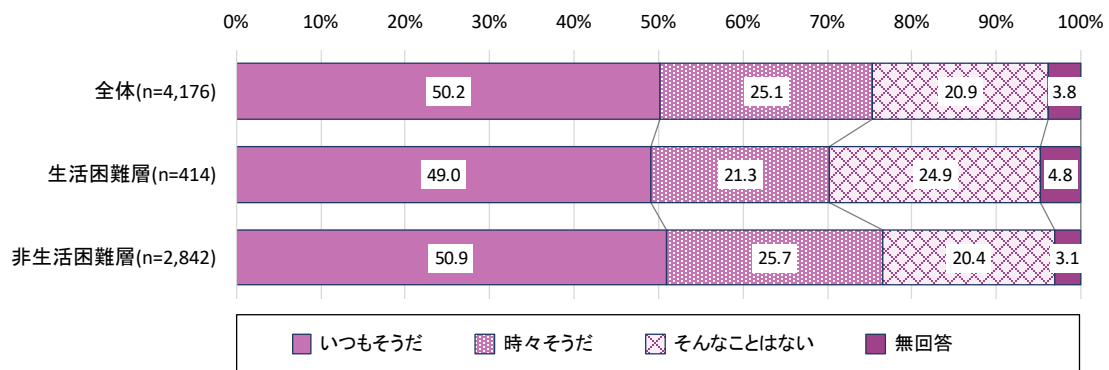
⁹⁸ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

I いじめられても自分で「やめて」と言える

最近1週間の気持ちについて「いじめられても自分で「やめて」と言える」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で75.3%であった⁹⁹。

設問 31 I (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-19 いじめられても自分で「やめて」と言える

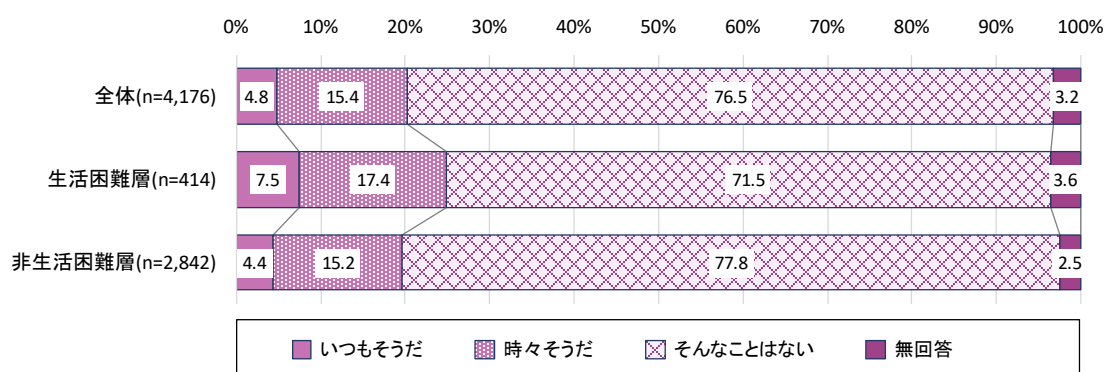


J 生きていても仕方がないと思う

最近1週間の気持ちについて「生きていても仕方がないと思う」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体では20.2%、生活困難層では24.9%、非生活困難層では19.6%であった。

設問 31 J (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-20 生きていても仕方がないと思う



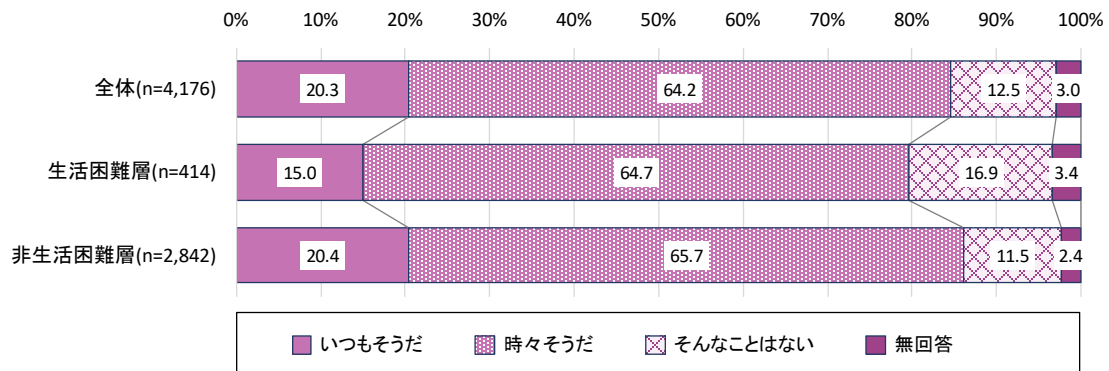
⁹⁹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

K やろうと思ったことがうまくできる

最近1週間の気持ちについて「やろうと思ったことがうまくできる」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体では84.5%、生活困難層では79.7%、非生活困難層では86.1%であった。

設問 31K (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-21 やろうと思ったことがうまくできる

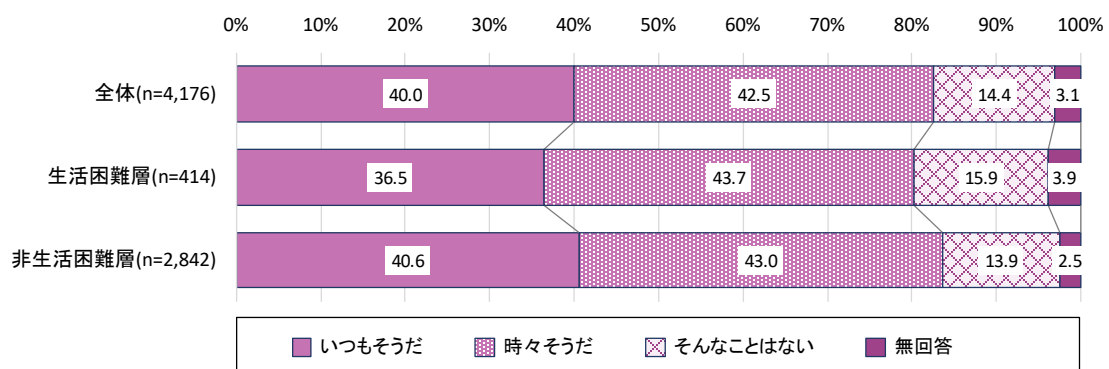


L いつものように何をしても楽しい

最近1週間の気持ちについて「いつものように何をしても楽しい」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で82.5%であった¹⁰⁰。

設問 31L (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-22 いつものように何をしても楽しい



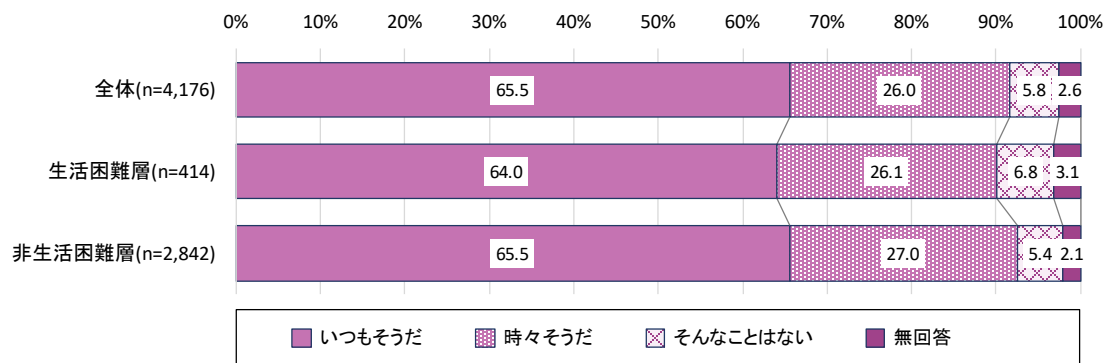
¹⁰⁰ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

M 家族と話すのが好きだ

最近1週間の気持ちについて「家族と話すのが好きだ」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で91.5%であった¹⁰¹。

設問 31M(新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-23 家族と話すのが好きだ

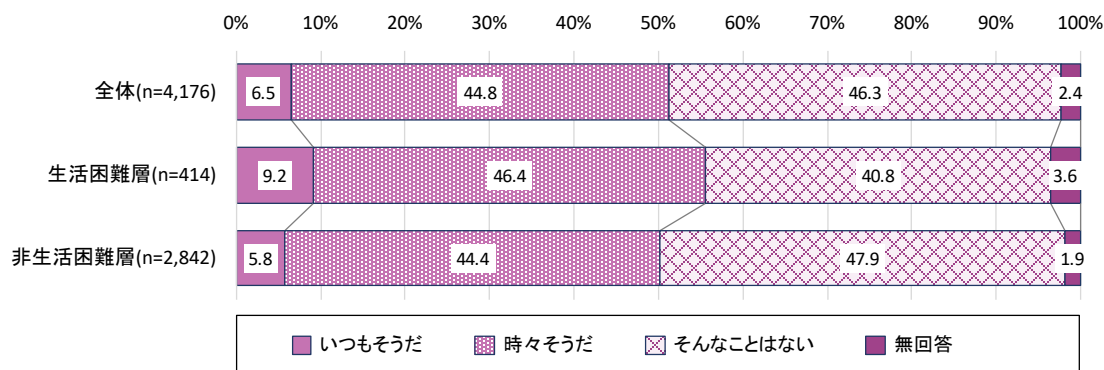


N こわい夢を見る

最近1週間の気持ちについて「こわい夢を見る」かどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体では51.3%、生活困難層では55.6%、非生活困難層では50.2%であった。

設問 31N(新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-24 こわい夢を見る



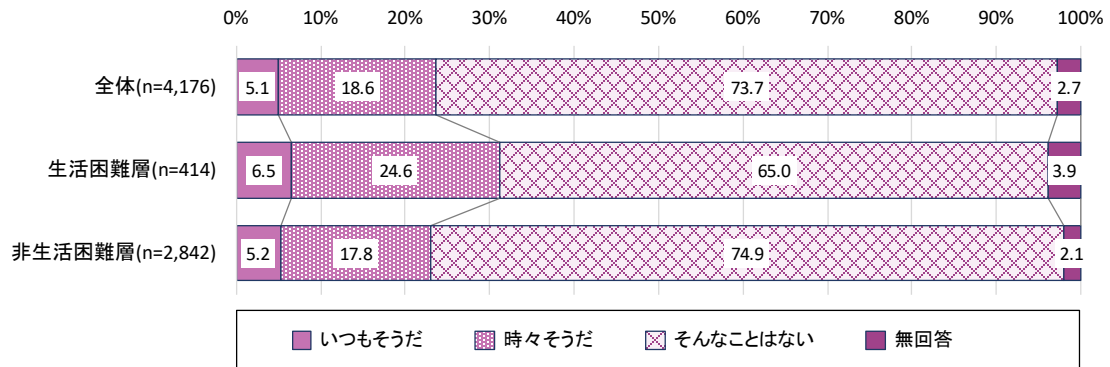
¹⁰¹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

○ ひとりぼっちの気がする

最近1週間の気持ちについて「ひとりぼっちの気がする」と感じたかどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体では23.7%、生活困難層では31.1%、非生活困難層では23.0%であった。

設問 31○ (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-25 ひとりぼっちの気がする

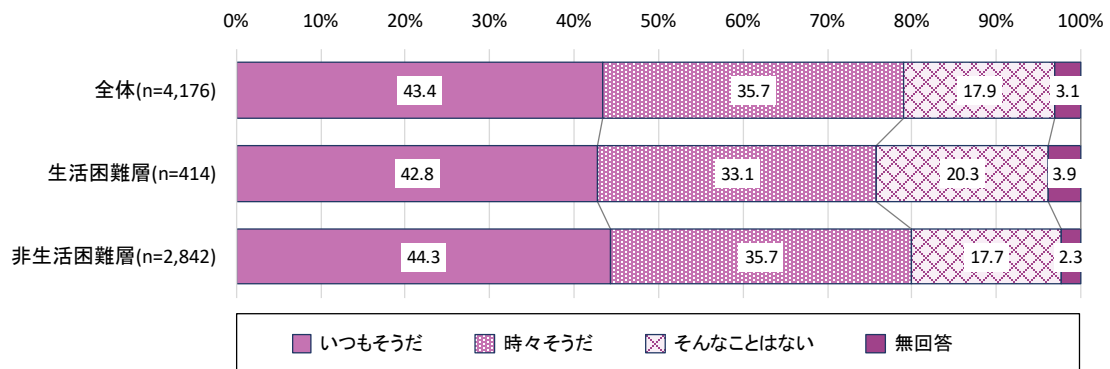


P 落ち込んでいてもすぐに元気になる

最近1週間の気持ちについて「落ち込んでいてもすぐに元気になる」かどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で79.1%であった¹⁰²。

設問 31P (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-26 落ち込んでいてもすぐに元気になる



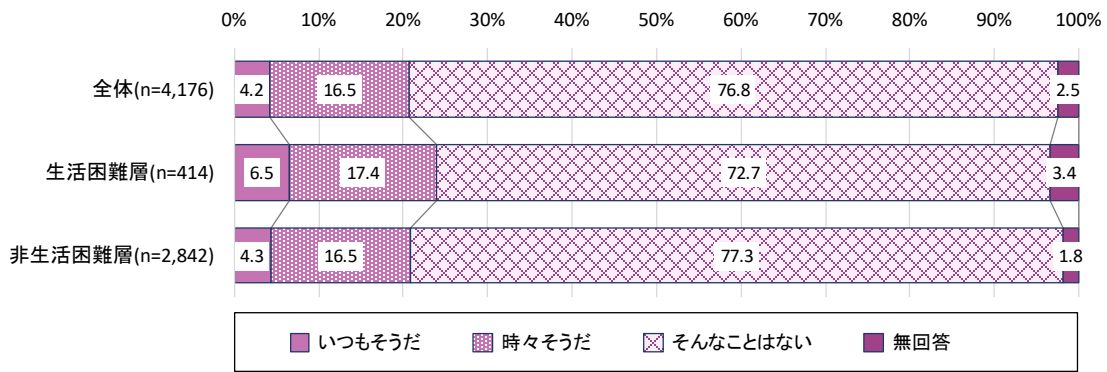
¹⁰² この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

Q とても悲しい気がする

最近1週間の気持ちについて「とても悲しい気がする」かどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体で20.7%であった¹⁰³。

設問 31Q (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

図表 1-3-7-27 とても悲しい気がする

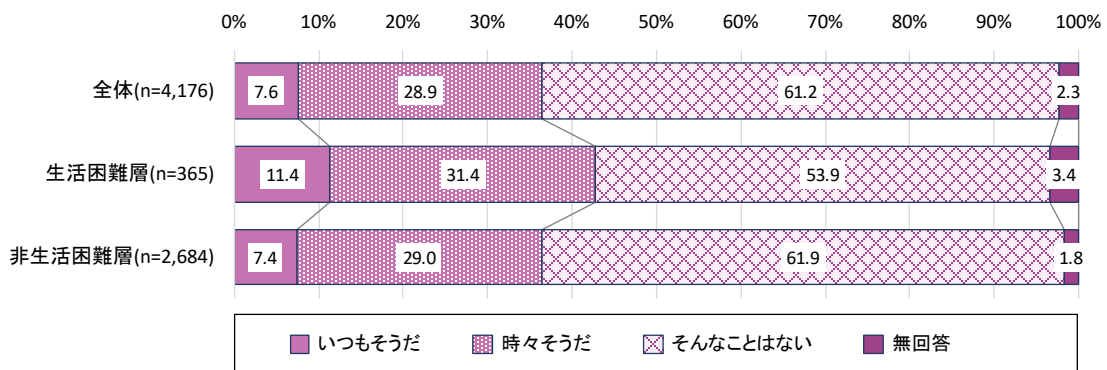


R とても退屈な気がする

最近1週間の気持ちについて「とても退屈な気がする」かどうか尋ねた設問に対して、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を合わせた回答割合は、全体では36.5%、生活困難層では42.8%、非生活困難層では36.4%であった。

設問 31R (新設) あなたはわたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(SA)

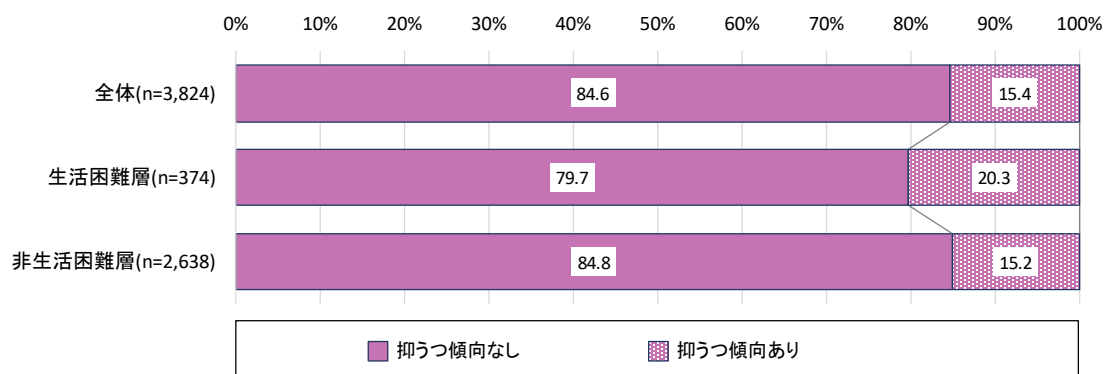
図表 1-3-7-28 とても退屈な気がする



¹⁰³ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

最近1週間の気持ちについて「楽しみにしていることがたくさんある」から「とても退屈な気がする」までの18項目から回答者の抑うつ傾向を測る指標（DSRS-Cバールソン児童用抑うつ性尺度¹⁰⁴）を算出したところ、うつ傾向がある児童の割合は、全体では15.4%であった¹⁰⁵。

図表 1-3-7-29 DSRS-Cバールソン児童用抑うつ性尺度の分布



¹⁰⁴ DSRS-Cバールソン児童用抑うつ性尺度は、「信頼性と妥当性が確認された尺度として国内外で広く用いられている」（東京都健康福祉局（2018）『東京都受託事業「子供の生活実態調査」詳細分析報告書』より）。18項目それぞれについて、「いつもそうだ」から「そんなことはない」の選択肢に対して0～2の点数を割り当てて指標化し、その合計が16点以上だった場合に「抑うつ傾向あり」としている。また、18項目すべてに回答があった票のみを集計している。なお、児童用抑うつ性尺度の作成方法および点数区分については、東京都健康福祉局（2017）『東京都子供の生活実態調査報告書【小中高高校生等調査】』「第5部 子供の健康と自己肯定感」（p. 141）を参照した。

¹⁰⁵ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

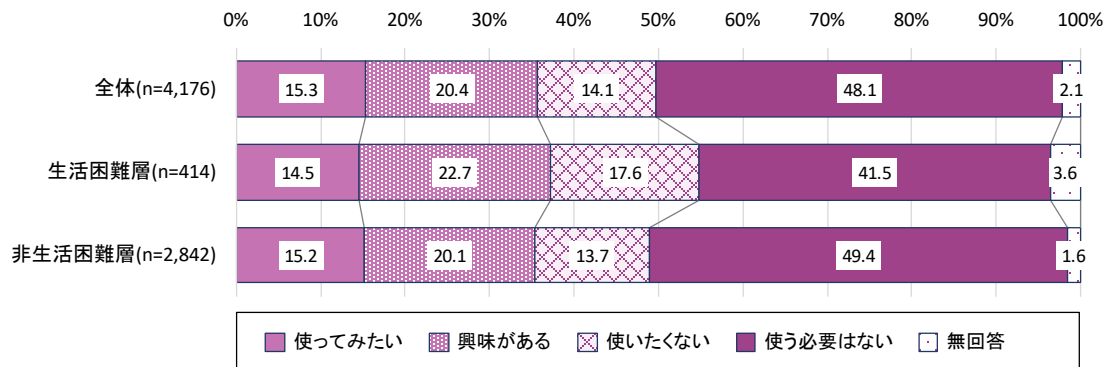
⑤施策・サービスへのニーズ

A (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所

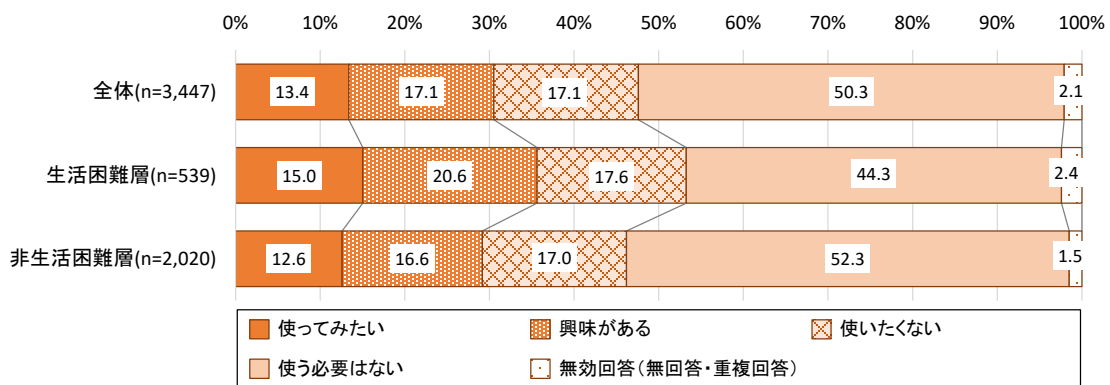
「(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所」があれば使ってみたいかを尋ねた設問に対して、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体で35.7%であった¹⁰⁶。
 全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「使ってみたい」「興味がある」の回答割合が高くなっていた。

設問 32A あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(SA)

図表 1-3-7-30 (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所



(参考) 前回調査結果



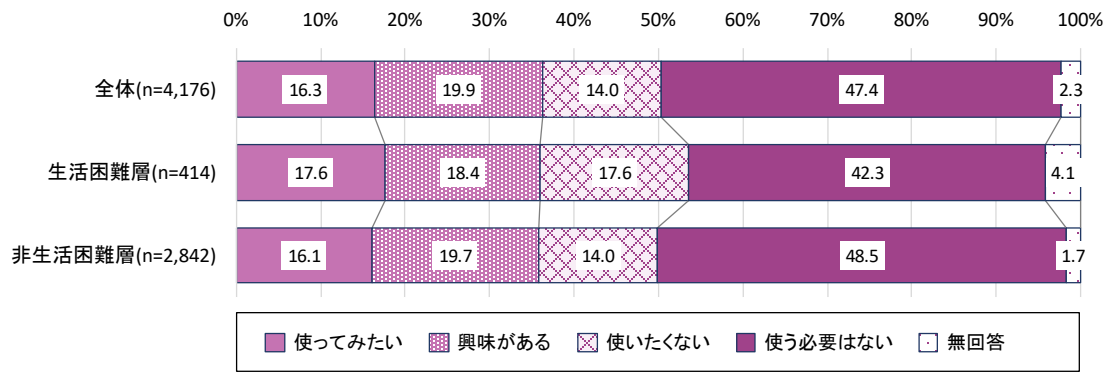
¹⁰⁶ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

B (家以外で) 休日に夜までいることができる場所

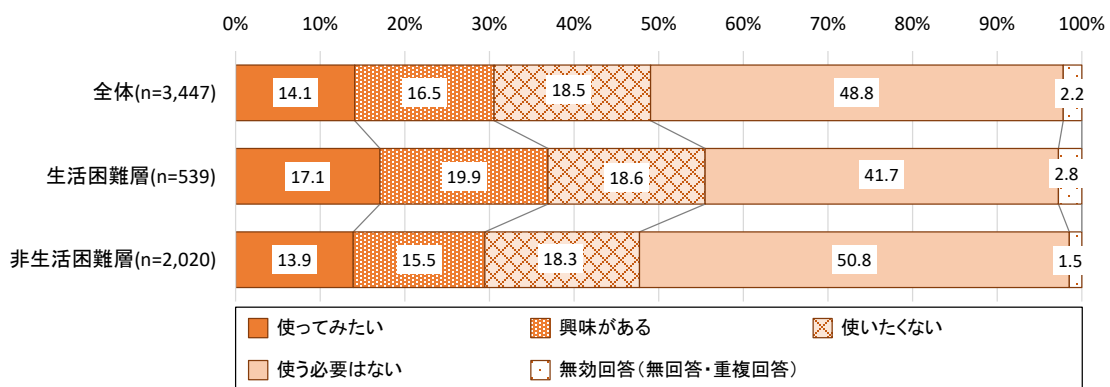
「(家以外で) 休日に夜までいることができる場所」があれば使ってみたいかを尋ねた設問に対して、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体で36.2%であった¹⁰⁷。
 全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「使ってみたい」「興味がある」の回答割合が高くなっていた。

設問 32日 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(SA)

図表 1-3-7-31 (家以外で) 休日に夜までいることができる場所



(参考) 前回調査結果



¹⁰⁷ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

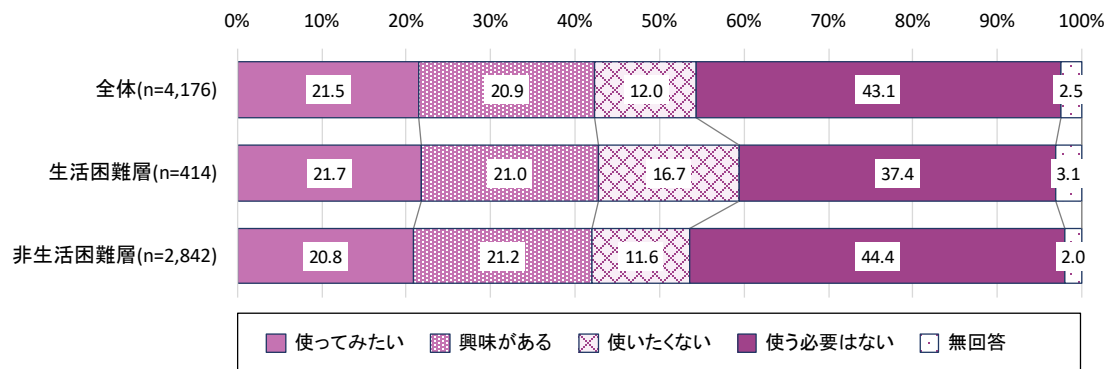
C 家の人がないとき、夕ご飯をみんなで食べることができる場所

「家の人がないとき、夕ご飯をみんなで食べることができる場所」があれば使ってみたいかを尋ねた設問に対して、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体では42.4%、生活困難層では42.7%、非生活困難層では42.0%であった。また、「使いたくない」の回答割合は、全体では12.0%、生活困難層では16.7%、非生活困難層では11.6%であった。

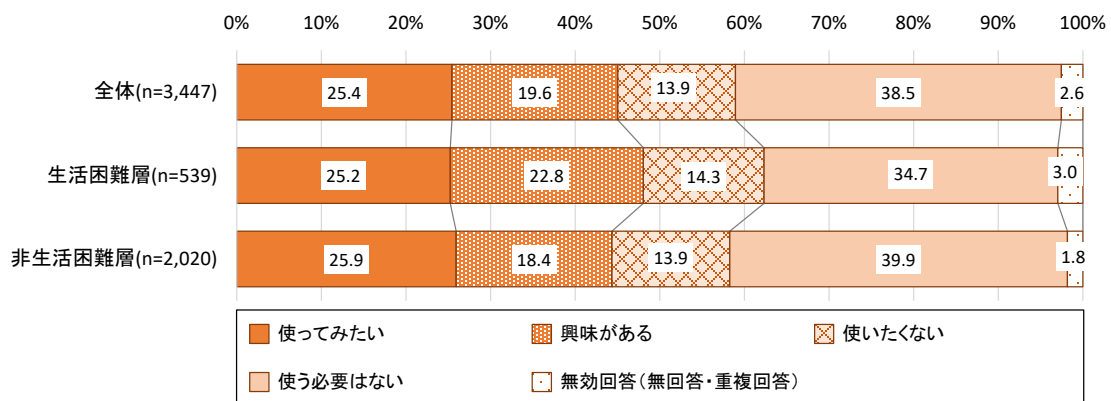
全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「使ってみたい」の回答割合は低く、「興味がある」「使う必要はない」の回答割合は高くなっていった。

設問 32C あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。（SA）

図表 1-3-7-32 家の人がないとき、夕ご飯をみんなで食べることができる場所



(参考) 前回調査結果

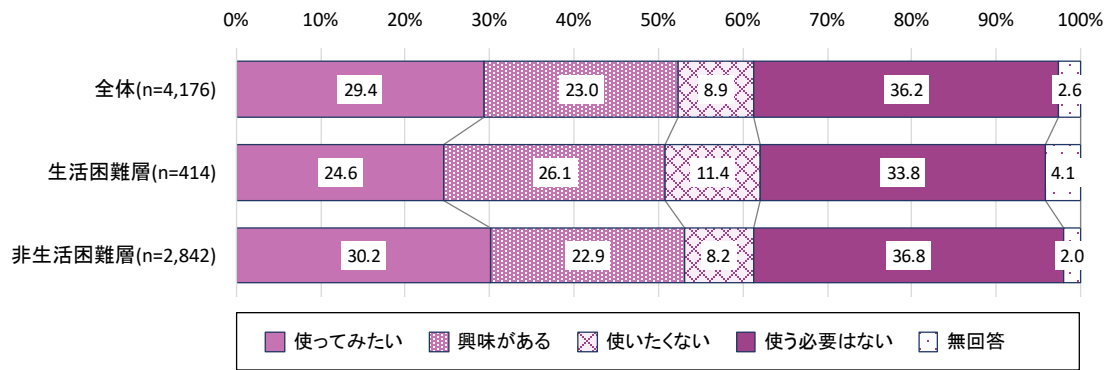


D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所

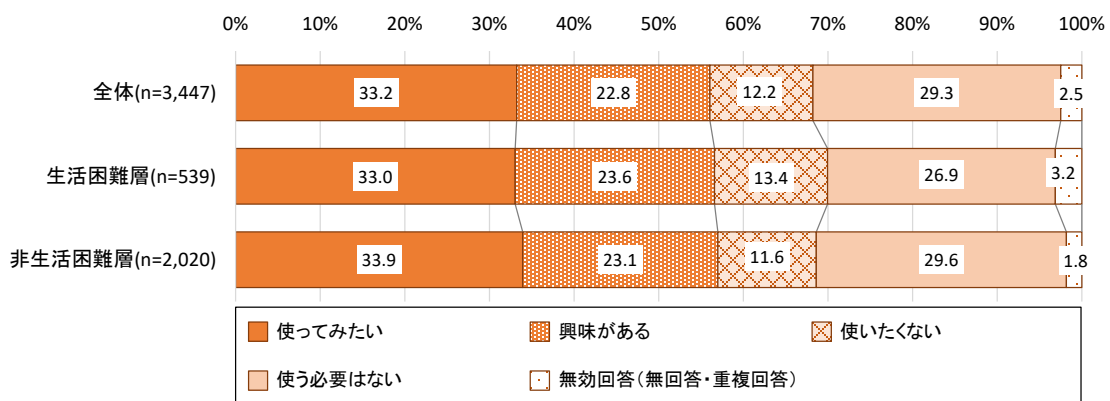
「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」があれば使ってみたいかを尋ねた設問に対して、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体で52.4%であった¹⁰⁸。
 全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「使ってみたい」「使いたくない」の回答割合は低く、「使う必要はない」の回答割合は高くなっていった。

設問 32D あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。（SA）

図表 1-3-7-33 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所



（参考） 前回調査結果



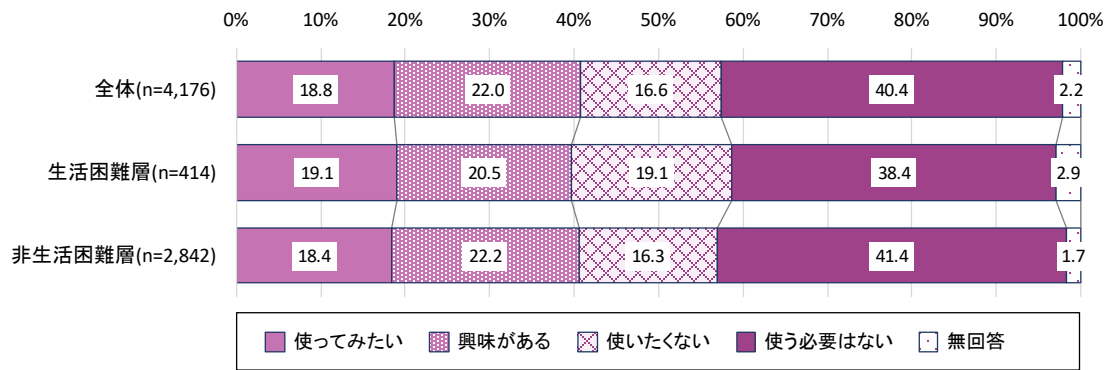
¹⁰⁸ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所

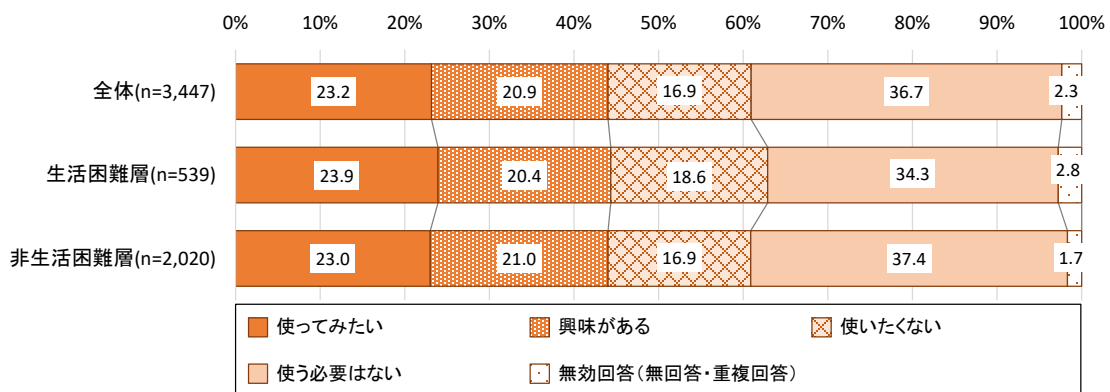
「大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」があれば使ってみたいかを尋ねた設問に対して、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体で40.8%であった¹⁰⁹。全体を前回調査結果（全体）と比較すると、「使ってみたい」の回答割合は低く、「興味がある」「使わない必要はない」の回答割合は高くなっていった。

設問 32 E あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。（SA）

図表 1-3-7-34 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所



(参考) 前回調査結果



¹⁰⁹ この点について生活困難層と非生活困難層とで統計的な有意差は見られなかった。

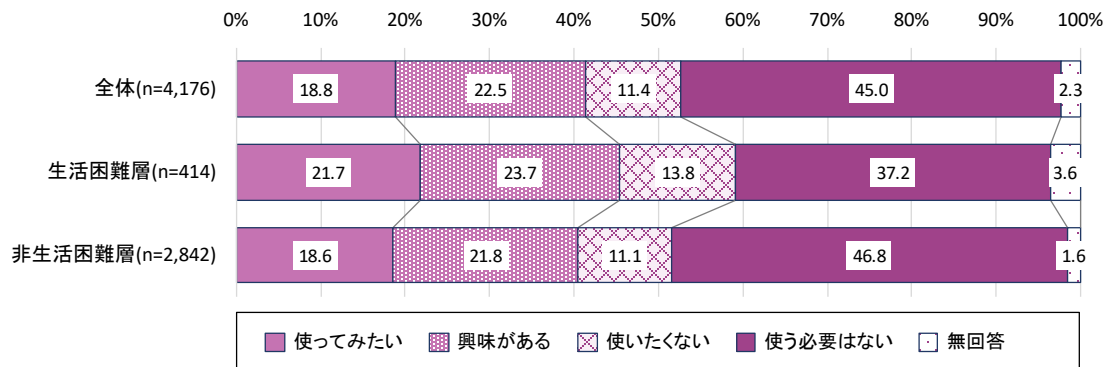
F (学校以外で) なんでも相談できる場所

「(学校以外で) なんでも相談できる場所」があれば使ってみたいかを尋ねた設問に対して、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体では41.3%、生活困難層では45.4%、非生活困難層では40.4%であった。

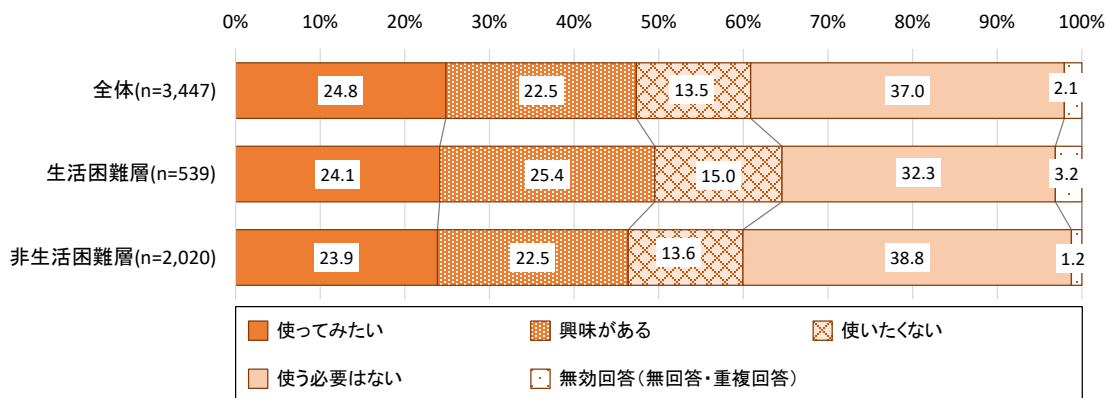
全体を前回調査結果(全体)と比較すると、「使ってみたい」の回答割合は低く、「使う必要はない」の回答割合は高くなっていった。

設問 32 F あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(SA)

図表 1-3-7-35 (学校以外で) なんでも相談できる場所



(参考) 前回調査結果



(8)自由記述について

①アンケートの感想や大人に言いたいこと

アンケートの感想や大人に言いたいことを尋ねたところ、1,520人の小学5年生から合計2,146件の意見が寄せられた。

「アンケートの感想」が最も多く、次いで「新型コロナウイルス感染症」、「勉強・授業・宿題」、「社会問題」に関する意見が多く見られた。

「新型コロナウイルス感染症」に関する意見では、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、子どもたちが我慢し、ストレスを抱えている様子が見受けられた。

「勉強・授業・宿題」に関しては、授業時間や宿題を減らしてほしいという意見の他に、オンライン授業を取り入れて欲しいという意見も見られた。

また、「社会問題」に関しては、環境・動物保護や児童虐待、人種差別、性差別に関する意見が多く見られた。

設問 33(新設) 最後に、このアンケートの感想や、世の中のことで大人に言いたいこと、こうだったらいいなと思うことがあれば、自由に書いてください。(自由記述)

図表 1-3-8-1 アンケートの感想や大人に言いたいこと¹¹⁰

順位	自由記述の分類	件数 (n=1,520)	割合 (%)
1	アンケートの感想	420	27.6%
2	新型コロナウイルス感染症	205	13.5%
3	勉強・授業・宿題	154	10.1%
4	社会問題	124	8.2%
5	子どもへの指導・かかわり方	106	7.0%
6	友達等との関係・いじめ	90	5.9%
7	学校のルール・設備・行事	84	5.5%
8	遊び、自由に関すること	78	5.1%
9	他者・社会・子どもへの配慮	77	5.1%
10	親・家族の関係	72	4.7%
11	平和・協調	70	4.6%
12	自分の持ち物等	68	4.5%
13	社会制度・政治	67	4.4%
14	将来のこと・目標・進路	64	4.2%
15	悩み事や相談先について	57	3.8%
16	犯罪・不正	44	2.9%
16	社会・大人の理不尽さ・不満	44	2.9%

¹¹⁰ 回答内容から子どもの意見を分類し、設問 33 を回答した子どものうち 2%以上が回答した意見（上位 21 項目）を表に掲載した。また、1 人の子どもの回答に複数の意見が記載されている場合、それぞれの意見について分類を行っている。そのため、子どもの回答件数（1,520 件）と意見の合計数（2,146 件）が一致していない。

順位	自由記述の分類	件数 (n=1,520)	割合 (%)
18	学校の先生	41	2.7%
19	居場所	34	2.2%
20	大人への感謝・励まし	33	2.2%
21	公園・遊び場	32	2.1%
—	その他（食・給食、幸福感、健康・体調 他）	182	12.0%
	意見の合計数	2,146	—

上位 21 項目についての代表的な意見 ¹¹¹

(1) アンケートの感想

- このアンケートは自分で自分を見直せるので、すごくよいです。
- このアンケートですごく気持ちがすっきりしました。
- このアンケートで悩みをもっている人が少しでも解決できれば良いと思っている。
- なんでこんなアンケートをしたのか不思議。
- とてもアンケートが長くて大変だった。

(2) 新型コロナウイルス感染症

- コロナウイルスがなくなってほしい。
- コロナのせいでイライラします。
- コロナウイルスの感染をおさえるためにみんなが協力してほしい。
- 今年はコロナで移動教室がない。どこかに行きたかった。
- 子どもが我慢しているのに大人がいろいろな所に出かけているのはずるいと思う。

(3) 勉強・授業・宿題

- 学校の授業時間が短くなったらいいと思う。
- 学校で体を動かす時間をもうちょっと増してほしいです。
- 宿題がなかったらいいな…。
- むずかしい勉強して大変だけど、小学生がおそくまで塾に通わなければいけない環境を変えてほしい。
- 授業をオンラインで受けたい。字幕をつければ日本語が分からない子も日本で勉強できる！！

(4) 社会問題

- 環境問題についてちゃんと考えてほしい（プラゴミなど）。
- 世の中の保護猫や保護犬が毎年たくさん殺処分されているから、その子たちのために施設を作ってほしいと思う。
- 虐待がなければいいな
- 人種差別などない方がいい。

¹¹¹ 代表的な意見を抜粋するにあたって、文意を損なわない程度に、一部文言を修正している意見がある。

- 性別で差別をしない。性別が関係のない世界になるといい。

(5) 子どもへの指導・かかわり方

- もっと優しくしてほしいな。
- 叱らないでなにが悪かったかを考えさせてほしい。
- 人によって態度を変えるのは、やめてほしい。
- 子どもを大切に思っているなら態度で表してもらいたい。
- 学校ではいろんな人に声をかけてほしいし、困っていたら、声をかけてください。子どものことをちゃんと考えてください。
- 大人の方々、子ども達はあなたがたのきつい言い方で心にみえない傷がついています。一つずつこれはいいのかと考えてから言葉にしてください！

(6) 友達等との関係・いじめ

- 友達とずっと仲良くしたい。
- 友達を増やしたい。
- 友だちとの人間関係があまりうまくいってなくて悩んでいる。
- コロナのせいでいじめが多くなった。
- いじめが無くなってほしい。

(7) 学校のルール・設備・行事

- 学校でシャーペンを使わせてほしい。
- ランドセルが重いから、教科書を学校におきたい。
- 体育館にエアコンをつけてほしいです。
- パソコンを一人一台にしてください。もっと子どものIT教育に力を入れてください。
- 学校がもう少し楽しくなってほしいです。

(8) 遊び・自由に関すること

- ゲームをもっとやらせてほしい。
- もっと自由な時間がほしい。
- 大人は世間の価値観に振り回されて子どもに我慢させる時がある。

(9) 他者・社会・子どもへの配慮

- インターネットでの誹謗中傷をやめてください。
- タバコを吸う大人は今すぐやめてほしい。まわりにも被害をあたえているのわかっていないんじゃないかと思う。
- ポイ捨てはダメ！
- 赤信号を無視しないでほしい。
- おじさんが道端でツバをはくのはやめてほしい。こわい。

(10) 親・家族の関係

- 私は家族に大事にされていると思った。
- 妹とすぐケンカしてしまう。妹の気持ちが知りたい。
- 世の中の大人ではないが、親に自分の気持ちをわかってもらいたい。
- 自分の子をストレス解消で叩いたり、殴ったりするのやめてほしい。
- 両親がもっと仲良しだといいな…。
- 上の子ばかり怒らず、下の子も、平等に怒りましょう。

(11) 平和・協調

- この世界がとても平和でみんなが幸せになり、笑顔があふれる世界にしたい。
- 犯罪や戦争がなくなり、皆が平和になれるような未来をつくっていきたい！（がんばろう）
- 子どもと大人がふれあう時間が増えると、世界平和につながると思う。
- 他の国の水さえ飲めない子どもたちを救ってください。

(12) 自分の持ち物等

- 毎月おこづかいがもらえるといいと思いました。
- タブレットが自由に使えたらいいと思う。
- 本をもっと買ってほしいと思う。
- 自分の机がほしい。自分の部屋がほしい。

(13) 社会制度・政治

- 税金を無駄づかいしないで。
- 子どもも選挙に投票できたらいいなと思います。
- 将来、税金を払えるかどうかわからないので、税金がなくなったらいいなあと思いました。ただ、税金を払わなかったら、日本は滅びるので、そこらへんは、悩むところです。
- 子どもの声を聞いてください。

(14) 将来のこと・目標・進路

- 将来が少し不安です。
- ぼくは将来の夢をかなえるようにがんばりたいと思う。
- 将来の夢を考えてみようと思った。
- 自分の未来は自分で決める。
- 将来の自分が心配。

(15) 悩み事や相談先について

- 少し心配なことがあるけれど、選択肢などを見てみると、他にも相談できる人がいると思ったので、安心しました。
- もし誰かがずっと体調不良で嫌だったり、楽しくなかったりしたら相談にのってあげたいなと思いました。

- 自分で悲しいと思うときや淋しいと思うときがあったら、紙に書いてボックスなどに入れて、カウンセラーの人の返事が届くシステムなどがあったら、誰でも安心して正直に言えると思いました。
- 誰でもいいとは言わないけど、信頼でき相談できる人がいたらしたい。
- 今はコロナで色々なことが制限されていてストレスがたまっている子も多いと思います(私も)。だから気軽に相談できる環境を作ってほしい。

(16) 犯罪・不正

- 人を殺したり、いじめをしたりする人がいなくなるとういなと思います。逆に自分のできることを一生懸命やったり、思いやりのある人が増えてほしいです。
- みんなが優しくなり、悪いことが起きない世の中になってほしい。
- 世の中の犯罪を減らしてほしい。それで、心配なく過ごす！！いやなニュース（事故・人に関するこわい事件）を少しでもなくす。
- 大人で立派な人はいっぱいいる。いけないことをしてしまったり、人に嫌がらせをする大人は、もっと気持ちを変えてみてほしいと思った。

(16) 社会・大人の理不尽さ・不満

- 子どもや大人の権利は同じだと思う。みんな同じ立場で、大人だからやっていい訳ではない。
- 理不尽な世界でがんばってください。そして、理不尽な世界を変えてください。
- なぜ大人は間違いを認めないのか聞きたいです。子どもの意見も聞いてほしいです。
- 大人ってみんなえらいんですか。大人だから子どもに命令していいんですか。大人だからって子どもの楽しみを制限していいんですか。

(18) 学生の先生

- 先生といっしょに遊びたいなと思いました。
- 学校の先生には、みんなに平等に接してもらいたい。
- もう少し生徒の話を聞いてほしいです。

(19) 居場所

- 特に(32)のE(大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所)を実施してほしいです。理由は、私は家以外の場所で、家族以外の人といっしょに勉強すると、すごく集中できるからです。C(家の人がいないとき、夕ご飯をみんなで食べることができる場所)も実施してほしいです。親がいないわけではないけど友達などと、いっしょにごはんを食べてみたいからです。
- 私の家は共働きなので、習いごとがない平日に放課後夜までいることができる場所がほしいなと思いました。
- 子どもが子どもに、お互いの悩み事を言える場所があったらうれしいです。
- お兄さんやお姉さんが勉強を無料で教えてくれるなら、とてもやりたいです。

(20) 大人への感謝・励まし

- 大人のみなさん、毎日おつかれさまです。暗いニュースが多いですが、前向きにがんばっていきましょう！
- 大田区大好きです。ありがとうございます。
- お母さんお父さん、いつもごはんをつくってくれたり、ほしいものをたくさん買ってくれたり、いっしょに遊んでくれてありがとう。
- 医療従事者の人達に言いたいです。僕達をコロナから守っていただきありがとうございます。時々休んで下さい。いつもありがとうございます。
- 大人の方々へ。大人のみなさんは世の中をよくしてくれてとてもすごいです。今、学校にかよっていること、勉強ができること、笑顔でいられることなど全てみなさんのおかげです。有り難うございます。
- 農家の人や学校の先生、世の中の役に立っている人に言いたいです。「ありがとうございます」

(21) 公園・遊び場

- ボール遊びができない公園が多いので、もっと遊びができる公園がふえればいいと思います。
- もっと公園を作ってほしいということです。その公園はふつうの公園ではなく、自然がたくさんあって、落ちつけるところです。なぜなら、宿題をやるときに自然を見て楽しみながらやりたいからです。
- 運動ができる場所をもっと増やしてほしいなと思いました。
- 遊ぶ場所が少なく、友達と遊びに出かけても、小さな公園で自分で持ってきた道具で遊んでいる。けれど、遊んでいて話したりしていると、近所のおじさんにしかられる。私達も少ない遊び場で工夫して楽しんでいることを知ってほしい。これ以上遊び場をうばわないでほしい。